

兵庫県立 こども病院 年報 2007 VOL.38



HYOGO PREFECTURAL
KOBE CHILDREN'S HOSPITAL ANNUAL REPORT 07 VOL.38



基本理念

周産期医療および小児医療専門施設として、母と子どもへの総合的、高度専門的な医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成育を目指します。

基本方針

1. 子どもの権利を重視した医療の実践
2. 安心と信頼の医療の遂行
3. 専門的な高度医療の推進
4. 地域医療・保健・福祉機関との連携
5. 親と子の健康啓発活動への貢献
6. 子どもへの愛とまことに満ちた医療人育成





患者権利宣言

1. あなたは、ひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
2. あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
3. あなたとご家族は、医療について同意や拒否の権利があります。
4. あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たち職員がお互いを尊重しあい良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力下さい。

病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせ下さい。
病院のきまりや約束ごとをお守り下さい。



目 次

病 院 概 要

1 兵庫県立こども病院の設立目的	1
2 沿 革	1
3 業 務 図	4
(1) 機構一覧表	4
(2) 担当医師表	5
(3) 外来診療スケジュール表	6
4 職 員	7
(1) 職種別人員表	7
(2) 看護単位別看護職員等配置状況	8
5 各種委員会	9

教育研修活動

1 カンファレンス・勉強会	17
2 看護研修	43
3 研修医・専攻医 指導記録	61

学 術 活 動

1 書 籍	67
2 雑誌発表	70
3 口述発表	77

診 療 統 計	103
---------------	-----

ボランティア部門の動き	177
-------------------	-----

一年のあゆみ	179
--------------	-----

は じ め に

兵庫県立こども病院

病院長 丸 尾 猛

平成20年4月より中村 肇前院長の後任として兵庫県立こども病院長に就任し、平成19年度年報をとりまとめました。

兵庫県立こども病院は、昭和45年に県政100周年記念事業として国立小児病院に次ぐ全国2番目の小児病院として開設され、平成6年にはハイリスク母子の救命を図るために、ハイリスク妊婦と新生児を24時間体制で受け入れ、婦・胎児・新生児を連続的に管理する周産期医療センターが開設され、平成12年には兵庫県での総合周産期母子医療センターの指定を受けました。一方、平成14年以来本館4階の一部に救急医療室を設置し第3次小児救急医療を実施してきましたが、平成19年10月には、新たに小児集中治療室（PICU）や感染症病室を備えた病棟を新築して、「小児救急医療センター」が開設され、「ハイリスク胎児とこども達を守る砦」としての機能が一層充実されました。

このように、本院は周産期・小児医療の高度専門病院としての機能を、一步一步高めてまいりましたが、一方では、本院の医療資源を有効に活用いただけるよう、指導相談・地域医療連携部を中心に、地域の医療機関、保健・福祉機関等との前方・後方連携を促進し、患者さまのご家族ならびに地域社会と一体となって、安心と信頼のチーム医療の実践に職員一同努めています。

本院は許可病床数290床ですが、平成19年10月時点で、18診療科、稼働病床266床、患者紹介率100%で機能しています。本院では常時40～50名の患児が人工呼吸管理下にあり、高度な看護を要するため、病床数当たりの職員数は総合病院に比較して必然的に高くなります。そのため、運営面で厳しい状況にありますが、ハイリスク妊婦、新生児、小児を対象に高度専門医療を提供するためには、専門スタッフの確保・育成が特に重要と考

え、各部門の院内・院外研修を積極的に支援し、医師・看護師等の院内実習を受け入れ、また、優秀な医師確保のため地域医療機関と積極的な人材交流を行っています。

特に、平成20年に兵庫県と米国ワシントン州が友好100周年を迎えるのを契機に、本院とシアトル小児病院との姉妹提携を目指し、平成19年8月には本院から医師、看護師をシアトルに派遣し、12月にはシアトル小児病院から幹部の訪問を受けて、本院でジョイント・ミーティング開催しました。小児医療の最先端をいく海外医療機関との交流を通して、国際協力体制を強化し、若手職員のモチベーション向上と意識改革に努めたいと考えています。

病院は診療部、看護部、各種検査部、事務管理部の多数の職員からなる大きな生きものである、機能する上で最も大切なのは「心」だと思います。病院の運命は職員一人ひとりの「心」しだいで大きく左右されます。職員一人ひとりが新しい生命の誕生と将来を担う子ども達の命に関わる仕事に従事していることを自覚し、常に次元の高い危機感を持って、自分に求められている役割とポジションを見極め、医療者・患者間の情報を共有しあって、透明性の高い病院にしたいと考えています。

少産少子化が進む厳しい環境下ではありますが、本院は「ハイリスク胎児と子ども達を守る砦」であるとの考えのもと、患者さんに信頼され満足される病院であると同時に、職員にも満足される病院となるよう努力しなければならないと考えています。そして、「医療の質」と「経営の質」は車の両輪であることを認識し、病院運営の健全化こそが、本院の診療環境の物的、人的改善を可能にする原動力になることを自覚し、兵庫県立こども病院のさらなる発展に向けて、職員の皆様と共に全力を尽くす所存です。

本年報を通じて、兵庫県立こども病院の活動についてご理解を深めていただき、今後ともより一層のご支援、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

最後に、本年報の編纂にあたり多大なご尽力を頂いた広報委員会の池尻操子委員長、田中亮二郎副委員長ならびに長尾 洋総務部次長をはじめとしたスタッフの方々に深甚なる謝意を表します。

病 院 概 要

1. 兵庫県立こども病院の設立目的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行いうる小児専門病院の設置を望む社会的要請に応えて、県政100年の記念事業の一環として、昭和45年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

- (1) 近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。
- (2) 小児に関する医療相談機関であること。
- (3) 小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。
- (4) 小児医療従事者の育成研修期間であること。

などであります。

平成6年10月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の24時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。

また、平成14年10月より県下の第3次小児救急の拠点として救急医療室を開設し、その後、平成19年10月に、機能を一層充実させた小児救急医療センターを新たにオープンしました。

2. 沿革

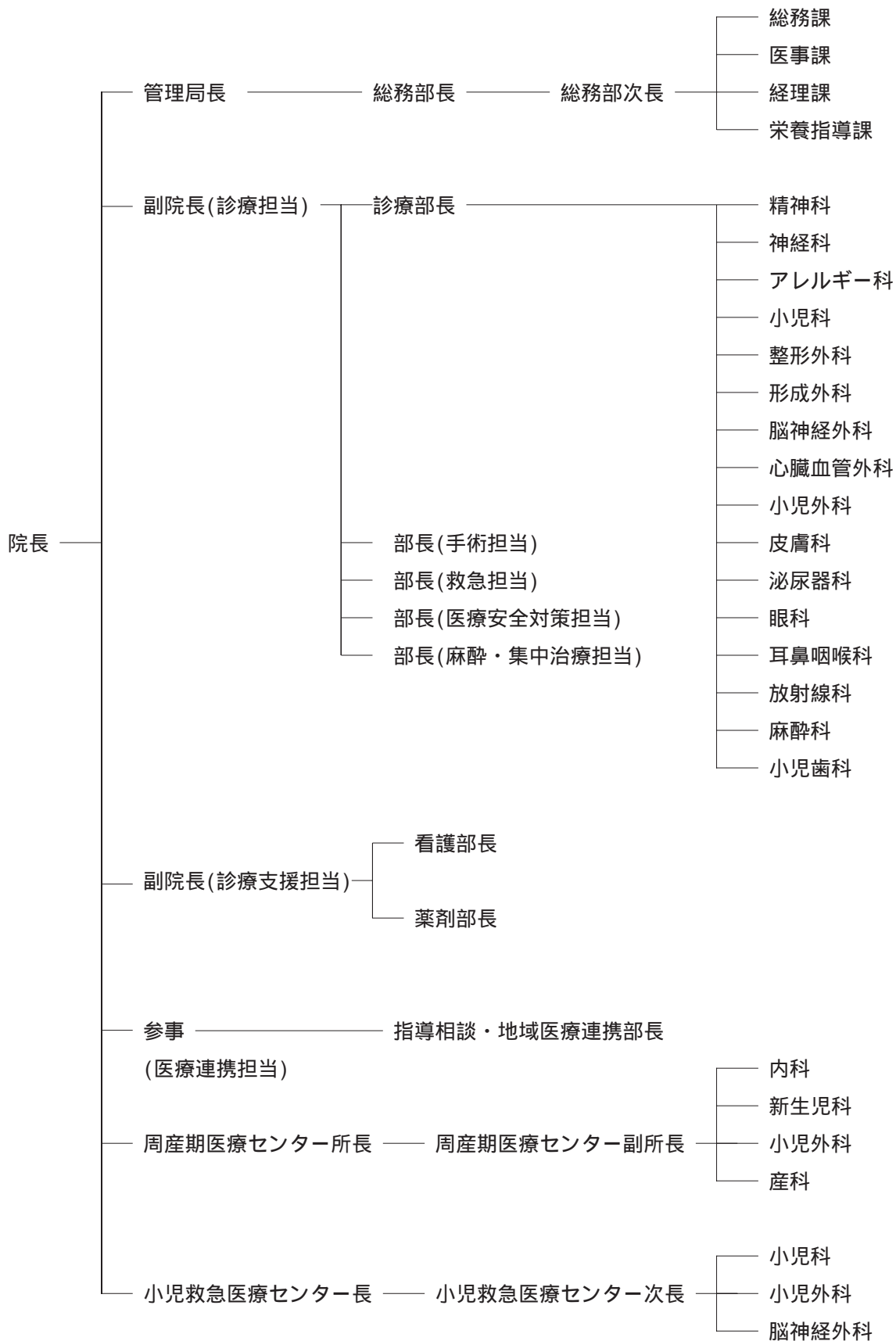
- | | |
|-------------|---|
| (1) 名 称 | 兵庫県立こども病院 |
| (2) 開 設 | 昭和45年4月1日 (現管理者 中村 肇) |
| (3) 所 在 地 | 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1 TEL 078-732-6961 (代表) |
| (4) 診 療 科 目 | 小児科 (一般、脳神経、血液・腫瘍、腎臓、循環器、アレルギー、遺伝、代謝内分泌、未熟児・新生児)、精神科、神経科、小児外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、小児歯科、産科、内科 (母性) |
| (5) 病 床 数 | 一般290床 (稼働260床) |
| (6) 沿 革 | |
| | 昭和45年4月1日 病院開設 (管理者 平田 美穂) |
| | 昭和45年4月30日 病院本館完成 |
| | 昭和45年5月8日 診療開始 |
| | 昭和45年7月23日 基準寝具実施 (寝第295号) |
| | 昭和45年9月17日 基準給食実施 (食第307号) 基準看護実施 (看第130号) |
| | 昭和46年12月28日 母と子の指導教室完成 現在は母と子の教室と呼称 |
| | 昭和47年2月1日 基準看護一般特類変更承認 (険第98号) |
| | 昭和47年12月1日 基準看護精神特類変更承認 (険第219号) |

昭和49年10月1日	基準看護一般特二類変更承認（険第108号）基準看護精神特一類変更承認（険第108号）
昭和50年4月1日	管理者変更受理（管理者 児嶋 喜八郎）
昭和54年3月31日	全館防災設備工事完成
昭和54年8月2日	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和55年4月1日	昭和55年3月26日 兵庫県条例第11号 兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加
昭和56年5月5日	シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携
昭和56年10月7日	日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和56年10月12日	日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される
昭和56年12月6日	日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される
昭和57年4月1日	日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される
昭和58年4月1日	日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される
昭和58年4月11日	日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される
昭和58年10月1日	日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される
昭和60年3月18日	プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携
昭和60年3月28日	日帰り手術棟完成
昭和60年4月3日	日本形成外科学会認定医研修施設として認定される
昭和60年4月15日	日帰り手術棟手術開始
昭和61年3月31日	日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
昭和61年4月1日	管理者変更受理（管理者 玉木 健雄）
昭和61年4月1日	日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される
昭和61年10月1日	日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される
昭和62年1月22日	自家発電設備改良工事完成
平成元年2月1日	外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される
平成3年5月1日	基準看護一般特三類（一部）変更承認（険第220号）
平成4年4月1日	基準看護一般特三類（260床に）変更承認（険第363号）医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始
平成4年5月9日	週40時間制試行
平成4年5月18日	病床数260床に変更承認（精神病棟廃止）
平成4年7月6日	病床数290床に変更承認（兵庫県指令医第1-67号）
平成4年7月29日	周産期医療センター安全祈願祭
平成4年11月7日	週40時間制本格実施
平成5年4月1日	管理者変更受理（管理者 竹峰 久雄）
平成6年7月20日	周産期医療センター定礎式
平成6年9月1日	管理者変更受理（管理者 小川 恭一）
平成6年9月30日	ドクターズカー購入
平成6年9月30日	周産期医療センター完成
平成6年10月1日	行政組織規則の改正（兵庫県規則第66号）により、周産期医療センターを設置

平成6年10月3日	周産期医療センター開設記念式典
平成6年10月4日	周産期医療センター診療開始
平成7年1月17日	阪神・淡路大震災
平成7年9月1日	本館改修工事に着手
平成8年4月1日	日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される
平成10年6月30日	本館改修工事完了
平成11年4月2日	管理者変更受理 (管理者 山本 節)
平成12年3月1日	総合周産期母子総合医療センターとして指定される
平成12年4月24日	慢性疾患児家族宿泊施設 (ファミリーハウス) を開設
平成13年10月10日	駐車場立体化工事に着手
平成14年2月28日	立体駐車場完成
平成14年4月1日	臨床研修病院指定 (厚生労働省発医政第0401006)
平成14年4月1日	地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行
平成14年10月15日	第3次小児救急開設 (稼働病床260床)
平成15年4月2日	管理者変更 (管理者 中村 肇)
平成15年10月30日	臨床研修病院指定 (厚生労働省医政発第1030005号-511,519,526,533)
平成15年11月28日	臨床研修病院指定 (厚生労働省医政発第1128007号-330)
平成16年3月22日	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価認定
平成16年4月1日	アレルギー科追加
平成18年4月1日	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
平成18年4月1日	日本気管食道科学会認定 気管食道科専門医研修施設 (咽喉系)
平成19年10月1日	小児救急医療センターを開設

3. 業 務 図

(1) 機構一覽表 (2007.12.31現在)



(2) 担当医師表 (2007.12.31現在)

- | | |
|-------------|---|
| (1) 総合診療科 | 中村 肇 (院長)、山崎武美 (指導相談・地域医療連携部長)
富永健太 |
| (2) 新生児科 | 中尾秀人、芳本誠司、溝淵雅巳、吉形真由美、上田雅章、坂井仁美
吉田加奈、岸本佳子 |
| (3) 脳神経内科 | 永瀬裕朗 |
| (4) 循環器科 | 城戸佐知子、田中克敏、寺野和宏、藤田秀樹、齋木宏文 |
| (5) 腎臓内科 | 田中亮二郎 |
| (6) 代謝内分泌科 | 郷司克己 |
| (7) 血液・腫瘍科 | 小阪嘉之、川崎圭一郎、竹田洋樹 |
| (8) 緊急集中治療科 | 上谷良行、長谷川大一郎、尾崎佳代、丸山あずさ、藤田晃生
中岸保夫、細川悠紀、佐治洋介 |
| (9) アレルギー科 | 三好麻里、笠井和子 |
| (10) 小児外科 | 西島栄治、佐藤志以樹、高見澤滋、横井暁子、尾藤祐子、中尾真
荒井洋志、岡本竜弥 |
| (11) 心臓血管外科 | 大嶋義博、吉田昌弘、圓尾文子、島津親志、日隈智恵、井上武 |
| (12) 脳神経外科 | 長嶋達也、河村淳史、山元一樹 |
| (13) 形成外科 | 大山知樹、吉村友希 |
| (14) 整形外科 | 薩摩眞一、小林大介、浜村清香 |
| (15) 泌尿器科 | 杉多良文、乃美昌司、高木志寿子、久松栄治 |
| (16) 耳鼻咽喉科 | 大津雅秀 |
| (17) 眼科 | 山本節 (名誉院長)、野村耕治、藤岡美幸 |
| (18) 精神科 | 前田宏章 |
| (19) 小児歯科 | 曾根由美子 |
| (20) 産科 | 大橋正伸、船越徹、石原尚徳、上田敏子、喜吉賢二、齋木美恵
佐本崇 (母性内科)、藁谷深洋子 |
| (21) 放射線科 | 赤坂好宣、山口善道 |
| (22) 麻酔科 | 村田洋、香川哲郎、鈴木毅、高辻小枝子、大西広泰、池島典之
脇坂マリコ、野々村智子、東秀和 |
| (23) 病理 | 吉田牧子 |
| (24) 専攻医 | 青木一憲、秋田大輔、下岡武史、寺岡由恵、林耕平、井手健太郎、
小川禎治、中川拓、岩谷壮太、山本哲也、田中裕也、猪俣慶、澤田杏子、
高野洋一、山本大輔、大崎陽子、永井隆史、上田大介、橋村宏美、
上嶋江利、吉澤佐也、武田敏宏 |

(3) 外来診療スケジュール (平成19年12月1日)

科名	曜日	月		火		水		木		金	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	総合診療	尾崎	澤田	上谷	寺岡	中岸	笠井	山崎	細川	藤田(晃)	1,3週 富永 2,4週 青木
	アレルギー			三好					三好		
	予防接種	三好									
	脳神経	永瀬丸山			丸山			永瀬丸山 児玉			
	循環器	田中(敏)	城戸	田中(敏)		城戸		城戸 田中(敏)	城戸	藤田(秀)	
	腎臓		3週 田中(亮)	田中(亮)		田中(亮)					田中(亮)
	代内分謝泌		1,2,4週 郷司 尾崎			郷司		郷司			
	新生児						中尾 溝渕 吉形	中尾 芳本 上田(雅)			吉形 坂井
	血液		1,3週 川崎 2,4週 長谷川 5週 竹田		小阪					小阪	
外科	一般	佐藤		高見澤		佐藤		西島		横井	
	特殊外来		ストマ		在宅療法						
	心臓		大嶋 島津				吉田 島津				大嶋 吉田 島津
	脳神経	長嶋	山元			長嶋				河村	河村 二脊(長嶋)
	形成			大山 吉村 言語療法				大山 吉村 西本 言語療法			
	整形		薩摩 小林	薩摩 小林	1週 側弯外来	薩摩 小林					
放射線科								1,3週 副島			
眼科	野村 藤岡 永井			野村 藤岡 永井	野村 藤岡 永井			野村 藤岡 永井			
泌尿器科	乃美		杉多 乃美 高木 久松			高木		杉多 乃美 高木 久松	乃美 高木 久松	二分脊椎	
耳鼻咽喉科	大津	1,2週 補聴器		阪本	3,4週 補聴器			大津		阪本	
		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚	
歯科	曾根		曾根				曾根		曾根		
精神科	井出	前田	前田 伊東		前田		白瀧		前田 松川		
卒煙外来						永瀬					
発達行動						永瀬					
産科	大橋 上田(敏)	超音波 検査	船越 石原	超音波 外来	佐本 喜吉	超音波 検査	船越 上田(大)	超音波 外来	大橋 齋木	超音波 検査	

4. 職 員

(1) 職種別人員表 (2007.12.31現在)

職 種 別		現 員 [人]
事 務 職		16
技 能 職	医 師 ・ 歯 科 医 師	75(30)
	薬 劑 師	11
	診 療 放 射 線 技 師	13
	臨 床 検 査 技 師	17(1)
	栄 養 士	2(1)
	看 護 師	411(38)
	視 能 訓 練 士	3
	心 理 判 定 員	2
	精 神 保 健 福 祉 相 談 員	1
	保 育 士	7(6)
	保 健 師	1
	電 気 技 師	1
	歯 科 衛 生 士	1
	言 語 聴 覚 士	1
	臨 床 工 学 技 士	2
	理 学 療 法 士	1
小 計	549(76)	
技 能 労 務 職	電 話 交 換 員	2
	機 関 員	4
	調 理 員	12(1)
	小 計	18(1)
合 計		583(77)

注1 「医師・歯科医師」の現員数は、非常勤医師、研修医師を除く。

2 () 外書きは、臨時的任用職員

(2) 看護單位別看護職員等配置狀況

平成19年12月31日現在

看護單位	產科	NICU	GCU	ICU	HCU	救急	一般外科	循環器 主体A	循環器 主体B	字彙 主体	內外科 混	血液 主体	中央 手術室	外来	看護部	休暇	合計
稼働病床数	32	15	35	8	20	10	24	24	24	24	24	26					266
看護師定数	40	40	32	34	32	40	25	27	27	18	25	27	32	13	3		415
看護師現員数	39	40	31	34	32	40	25	26	27	17	25	27	32	13	3	38	449
内 訊	助産師	1				1					2	1			1		26
	看護師	39	31	34	32	39	25	26	27	17	23	26	32	13	2	38	423
	(男性)			2	3	3	1	1	3		1	1	2				17
合計	39	40	31	34	32	40	25	26	27	17	25	27	32	13	3	38	449
保育士								1	1			2				1	5
看護助手														1	1		2
補助業務 (業者委託)	1	1	1	1	1		1	1		1	1						

5. 各種委員会

(1)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
総括マネージャー	院 長	平日毎日11時	院長室	10	前日のヒヤリハット事例

(2)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
感染対策委員会 第9回	中尾 秀人	平成19年 1月12日	研修室B	17	細菌分離状況(定例) 抗MRSA薬使用状況(定例) ICT活動状況報告(定例) 感染性胃腸炎の発生状況について 感染対策マニュアルの見直しについて
第10回	中尾 秀人	平成19年 2月9日	研修室B	14	定例報告(、、) ICU・HCUスリッパ廃止について 鳥インフルエンザ対策について
第11回	中尾 秀人	平成19年 3月9日	研修室B	17	定例報告(、、) 予定手術者向けの水痘ワクチンパンフレットについて 家族用説明パンフレットの進捗状況 病棟の水痘発生について
第12回	中尾 秀人	平成19年 4月13日	研修室B	12	定例報告(、、) 4月当院配属職員の流行性感染症ワクチン 接種について 感染対策に関わる患者家族用説明リーフレットについて
平成19年度 第1回	中尾 秀人	平成19年 5月11日	研修室B	13	定例報告(、、) 2006年度の細菌検出状況 今年度のICT活動計画 流行性感染症ワクチン接種について 感染対策マニュアルの改訂について
第2回	中尾 秀人	平成19年 6月8日	研修室B	16	定例報告(、、) 感染マニュアル改訂について 臨床・見学実習に関わる流行性感染症調査 のシステム化 35歳未満の職員の麻疹抗体価調査について 4月新規採用医師向け感染研修会
第3回	中尾 秀人	平成19年 7月13日	研修室B	14	定例報告(、、) 抗MRSA薬使用届けの用紙の承認 平成19年度清掃及び補助業務感染対策研修 会について 厚生労働省の院内感染サーベイランスの登録

第4回	中尾 秀人	平成19年 8月10日	研修室 B	14	定例報告（ 、 、 ） ハートメッセージの投書について（職員の手洗いが不十分） 感染対策に関する図書の充実について
第5回	中尾 秀人	平成19年 9月14日	研修室 B	13	定例報告（ 、 、 ） 平成19年度職員感染対策研修会について 結核対応マニュアルの改訂（医療監査結果を受けて）
第6回	中尾 秀人	平成19年 10月12日	研修室 B	16	定例報告（ 、 、 ） 厚生労働省の感染症の届け出方法の変更 入室面会の年齢制限の引き下げについて
第7回	中尾 秀人	平成19年 11月9日	研修室 B	13	定例報告（ 、 、 ） 平成19年度インフルエンザワクチン接種について インフルエンザの注意喚起のポスターの掲示
第8回	中尾 秀人	平成19年 12月14日	研修室 B	15	定例報告（ 、 、 ） 抗インフルエンザ薬使用方法のパンフレット作成 単独の麻疹ワクチンの供給再会について

(3)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
倫 理 委 員 会	中村 肇	2月23日 13:30~	応接室	8	1. 兵庫県内における胆道閉鎖症発生の集簇性の検討 2. 胆道閉鎖診断における腹部超音波検査の有用性の後方視的検討
倫 理 委 員 会	中村 肇	3月9日 13:30~	応接室	8	1. 小児臍帯血移植における至適前処置の開発に関する研究 2. Treatment Protocol of the Second International Hemophagocytic Lympho-Histiocytosis(HLM)Sturdy(HLH-2004) 3. 高リスク神経芽腫に対する標準的集学的治療の後期 相臨床試験 4. 病理解剖に関するご遺族への同意説明文及び承諾書の変更 5. 病理解剖時の膵臓組織の研究使用
倫 理 委 員 会	中村 肇	9月9日 10:00~	応接室	8	肝芽腫に対する生体肝移植後の同一ドナーからの同種造血幹細胞移植
倫 理 委 員 会	中村 肇	11月12日 14:00~	応接室	8	初発小児特発性ネフローゼ症候群患者を対象としたプレドニゾロン国際法（2箇月投与）と長期投与方法（6箇月投与）の有効性と安全性の共同オープンランダム化比較試験について

(4)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
機種選定委員会	管理局長	不定期	会議室	8	200万円以上の医療機械の選定

(5)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
診療材料委員会	西島栄治	年4回 (6、9、 12、2月)	研修室A B	12	1. 新規診療材料採用申請の審議 2. JITSシステムデータを基にした診療材料変更提案の審議

(6)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
診療記録管理委員会 第1回	上谷 良行	平成19年 3月7日	研修室C	13	外来カルテの様式、保管場所
第2回	上谷 良行	平成19年 3月28日	研修室C	10	入院診療計画書様式
第3回	上谷 良行	平成19年 7月5日	研修室A B	12	DPC に伴うカルテの運用
第4回	上谷 良行	平成19年 11月29日	研修室C	10	ICU・PICU での診療支援システム

(7)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
平成19年度 第1回	西島 栄治	平成19年 7月25日	研修室A B	14	1. 保存前白血球除去 新鮮凍結血漿の供給について 2. クロス採血管の変更について 3. 遡及調査用検体確保について 4. 輸血前後の感染症依頼書について 5. 製剤使用状況報告 6. 緊急時の輸血の在り方について 7. サイトメガロウイルスについて
平成19年度 第2回	西島 栄治	平成19年 12月21日	研修室C	13	1. 製剤使用状況報告 2. 副作用報告 3. 緊急時の輸血対応マニュアルの作成について 4. 事例報告 胎児輸血 臍帯血貯血 5. 処方箋の一部変更について

(8)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
薬 事 委 員 会 第 1 回	山崎 武美	3月6日	研修室C	12	1. 採用医薬品 2. 採用中止医薬品 3. 薬剤情報提供
第 2 回	山崎 武美	7月18日	研修室C	13	1. 採用医薬品 2. 採用中止医薬品 3. 薬剤情報提供
第 3 回	山崎 武美	11月15日	研修室C	11	1. 採用医薬品 2. 採用中止医薬品 3. 薬剤情報提供

(9)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	2月22日	応接室	6	1. アトモキセチンの安全性報告 2. MRA の安全性報告
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	4月23日	応接室	7	1. アトモキセチンの安全性報告 2. MRA の安全性報告 3. SM-26000製造販売後臨床試験について
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	6月18日	応接室	6	1. SM-26000の試験実施計画変更 2. MRA の安全性報告及び同意文書の変更 3. アトモキセチンの安全性報告
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	9月19日	応接室	6	1. アトモキセチンの安全性報告、同意文書の変更及び逸脱報告 2. MRA の安全性報告及び治験実施計画の変更 3. プスルフェクスの安全性報告及び試験実施要綱変更
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	10月26日	応接室	5	1. アトモキセチンの安全性報告及び逸脱報告 2. MRA の安全性報告及び治験実施計画の変更 3. プスルフェクスの安全性報告
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	12月4日	応接室	5	1. アトモキセチンの安全性報告及び逸脱報告 2. MRA の安全性報告 3. プスルフェクスの安全性報告、試験実施計画変更及び当院での重篤な有害事象発生報告 4. SM-26000の試験実施計画変更

(10)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
第7回 小児救急センター 運営体制検討委員会	上谷 良行	平成19年 7月6日	研修室C	11	診療体制、各部署の問題点
第8回	上谷 良行	平成19年 7月27日	研修室C	11	診療体制、各部署の問題点
第9回	上谷 良行	平成19年 8月9日	研修室C	11	診療体制、患者の流れ
第10回	上谷 良行	平成19年 8月16日	研修室C	11	連絡体制、患者の流れ
第11回	上谷 良行	平成19年 8月23日	研修室C	11	連絡体制、患者の流れ
第12回	上谷 良行	平成19年 8月30日	研修室C	11	連絡体制、患者の流れ
第13回	上谷 良行	平成19年 9月6日	研修室C	11	連絡体制、患者の流れ
第14回	上谷 良行	平成19年 9月13日	研修室C	11	連絡体制、患者の流れ
第15回	上谷 良行	平成19年 9月20日	研修室C	11	連絡体制、患者の流れ
第16回	上谷 良行	平成19年 9月27日	研修室C	10	連絡体制、患者の流れ
第17回	上谷 良行	平成19年 10月5日	研修室C	13	連絡体制、患者の流れ
第18回	上谷 良行	平成19年 10月12日	研修室C	12	連絡体制、患者の流れ
第19回	上谷 良行	平成19年 10月19日	研修室C	13	連絡体制、患者の実績
第20回	上谷 良行	平成19年 11月2日	研修室C	12	連絡体制、患者の流れ
第21回	上谷 良行	平成19年 11月16日	研修室C	11	連絡体制、患者の実績
第22回	上谷 良行	平成19年 11月30日	研修室C	13	連絡体制、患者の実績
第23回	上谷 良行	平成19年 12月28日	研修室C	13	連絡体制、患者の実績

(11)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
リスクマネジメント部会 平成18年度 第10回	長嶋 達也	1月9日	研修室A B	22	1. 各部署12月ヒヤリハット報告 2. 12月医療事故報告
第11回	長嶋 達也	2月13日	研修室A B	20	1. 各部署1月ヒヤリハット報告 2. 1月医療事故報告
第12回	長嶋 達也	3月13日	研修室A B	21	1. 各部署2月ヒヤリハット報告 2. 平成19年度の医療安全対策の取り組みについて
リスクマネジメント部会 平成19年度 第1回	長嶋 達也	4月10日	研修室A B	22	1. 各部署3月ヒヤリハット報告 2. 医療安全実践検証の実施について
第2回	長嶋 達也	5月8日	研修室A B	20	1. 各部署4月ヒヤリハット報告 2. 平成19年度の重点取り組み項目について
第3回	長嶋 達也	6月12日	応接室	24	1. 各部署5月ヒヤリハット報告
第4回	長嶋 達也	7月10日	研修室A B	20	1. 各部署6月ヒヤリハット報告
第5回	長嶋 達也	9月11日	研修室A B	21	1. 各部署7月・8月ヒヤリハット報告
第6回	長嶋 達也	10月9日	研修室A B	22名	1. 各部署9月ヒヤリハット報告 2. 医療安全研修会開催について
第7回	長嶋 達也	11月15日	研修室A B	23名	1. 各部署10月ヒヤリハット報告
第8回	長嶋 達也	12月11日	研修室A B	19名	1. 各部署11月ヒヤリハット報告 2. 医療安全研修会報告

(12)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
特殊職種職員健康診断 対策委員会	山崎 武美	平成19年 5月18日	事務準備室	8	特殊職種職員HB検診の実施について B型肝炎ワクチンの接種予定について

(13)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
栄養給食委員会 平成18年度 第3回 第5回NSTプロジェクト会議との合同開催	委員長 西島 栄治	平成19年 3月22日	研修室A B	14	1. NSTに関する要綱、組織図、活動マニュアルについて 2. 第5回NST勉強会の開催について 3. その他アルブミン測定法について
栄養給食委員会 平成19年度 第1回 第2回NST部会との 合同会議	委員長 西島 栄治	平成19年 6月28日	研修室A B	10	1. 平成19年度栄養指導課における検討事項について 2. NST実施状況について 3. 平成18年度ひやりはっと集計結果について 4. 乳児用調製粉乳の安全な調乳、保存及び取り扱いに関するガイドラインについて 5. その他

<p>栄養給食委員会 平成19年度 第2回 第7回NST部会との 合同会議</p>	<p>委員長 西島 栄治</p>	<p>平成19年 12月27日</p>	<p>研修室A B</p>	<p>11</p>	<p>1. 平成19年度上半期の給食材料執行状況 について 2. NST実施状況について 3. その他 報告事項 ・クリスマスイベント及び年末年始献立に ついて ・嗜好調査結果について ・その他</p>
---	----------------------	-------------------------	---------------	-----------	---

教育研修活動

1. カンファレンス・勉強会

名 称	主催部署	日 時	場 所	参加人数	テ ー マ	担 当
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/1/4 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	ルーチン：シナジス、デジタル画像、新生児痙攣	瀧淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/1/4 他 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	プロトコール、研究総括	瀧淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/1/9 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	ルーチン：黄疸の管理	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/1/9 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	ルーチン：SpO2の目標値	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/1/11 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	研究：アテトーゼ型CPを呈した単胎VLBW児の検討	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/1/16 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	胎内診断された胆管拡張症の一例	青木
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/1/18 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	研究：副腎不全	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/1/18 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	ルーチン：サーファクタント洗浄	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/1/23 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	無呼吸発作が遷延した双胎の一例	加地
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/1/25 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	thanatophoric dysplasia の3例	高尾
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/1/30 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	胎児水腫の一例	青木
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/1/30 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	ルーチン：SpO2上限の設定	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/2/1 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 10	2006年新生児科統計	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/2/1 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 10	ルーチン：オルブリン、ハンブの投与方法	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/2/6 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 10	PDAの1例	加地
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/2/8 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 10	研究：IGF1/ROP(UGR)	瀧淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/2/8 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 10	プロトコール：重症CLDに対するHDC投与	瀧淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/2/13 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 10	胎便性腹膜炎による胎児水腫の一例	青木
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/2/15 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 10	先天性水腎症の一例	高尾
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/2/15 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 10	在胎35週未満のPROM合併例における臍帯炎の頻度	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/2/20 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 10	大腿骨骨折を合併した帝王切開、骨盤位出生の一例	加地
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/2/22 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 10	脱出腸管の捻転、絞扼をきたした腹壁破裂の一例	谷風
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/2/27 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 10	近畿新生児予演会：アテトーゼCPの多胎児3例	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/2/27 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 10	死亡症例検討：Ebstein 奇形に起因する肺気腫により死亡に至った一例	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/3/1 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	動脈管瘤の一例	高尾
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/3/1 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	未熟児懇話会予演会：胎便性腹膜炎の検討	青木
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/3/6 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	急性硬膜下血腫を合併した超早産児の一例	加地
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/3/6 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	周産期新生児学会抄録：Leaky lung syndrome	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/3/8 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	周産期新生児学会抄録：アテトーゼCPの多胎ELBW	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/3/8 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	近畿小児科学会予演会：超早産双胎の予後	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/3/13 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	周産期新生児学会抄録：超早産児の低血圧に対するHDCの有効性	瀧淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/3/13 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	周産期新生児学会抄録：PDA再開通反復例の検討	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/3/15 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	研究総括：テガダーム、DCH	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/3/20 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	VLBWの入院時低体温予防法についての検討	加地
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/3/22 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	腸回転異常症の一例	高尾
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/3/27 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	新生児科医師 9	痙攣を来した新生児仮死の一例	青木

名 称	主催部署	日 時	場 所	参加人数	テ ー マ	担 当
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/4/3 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	2006年感染症統計	瀧淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/4/3 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	水痘感染対策	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/4/5 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	小児科学会予演会：超早産児の脳室サイズと予後	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/4/10 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	地方会抄録：脳室炎に伴う水頭症を合併した早発型大腸菌髄膜炎	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/4/10 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	地方会抄録：出生前診断された胆道拡張症5・例のまとめ	吾郷
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/4/12 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	小児科学会予演会：NICUで長期人工呼吸管理中の重症仮死児の現況	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/4/12 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	小児科学会予演会：ECMO 離脱にiNO ₃ PGI2の併用が有用であったCDHの一例	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/4/17 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	完全内臓逆位の一例	猪俣
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/4/19 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	重症仮死出生で生後1時間で死亡したCHD児の一例	吉田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/4/24 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	APS 予演会：PCA32wのBNPはCLDを予測する	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/4/24 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	APS 予演会：PCA32wの低 IGF1はGA27-30w児のROPと相関する	瀧淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/4/26 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	出生時より皮疹と高IgM血症を伴った早産児の一例	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/5/1 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	PDA reopen を認めたVLBW児の一例	吾郷
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/5/8 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	terminationの時期が適当であったと考えられた母体PIHのVLBW児の一例	吉田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/5/10 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	地方会予演会：早発型大腸菌性髄膜炎で脳室炎後水頭症を合併した一例	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/5/10 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	地方会予演会：胎内診断された胆道拡張症の5例	吾郷
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/5/15 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	原因不明の重症新生児仮死の一例	猪俣
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/5/17 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	研究総括, PAS 報告	瀧淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/5/22 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	生後経過よりTTTSが疑われたMD 双胎例	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/5/22 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	研究：晚期副腎不全	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/5/24 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	IUGRの一例	吾郷
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/5/29 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	胆汁鬱滞をきたしたIUGRの一例	吉田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/5/29 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	研究：ELBWの黄疸と神経学的予後	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/5/31 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	研究：多胎のIUGR例の検討、多胎と奇形	上田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/6/5 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	PDAに腸穿孔を合併しNECとの鑑別が困難であったELBW例	猪俣
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/6/5 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	死亡症例検討：重症HCMを合併し死亡に至ったNoonan症候群の一例	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/6/7 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	先天性カンジダ感染症の早産児の一例	吾郷
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/6/12 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	生後21時間で片側性痙攣で発症した新生児脳梗塞の一例	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/6/12 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	研究：テガダーム研究	瀧淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/6/14 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	研究：IUGR 目的、対象、方法	吉田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/6/19 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	重篤な後天性CMV感染症をきたしたELBWの一例	猪俣

名 称	主催部署	日 時	場 所	参加人数	テ ー マ	担 当
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/6/19 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	片側IVH2度を合併したELBWの一例	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/6/21 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	周産期新生児学会予演会：NIHFの同胞例	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/6/26 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	GERにて体重増加不良をきたした一例	吾郷
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/6/28 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	周産期新生児学会予演会：ELBWの低血圧に対するHCの有効性	溝渕
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/6/28 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	周産期新生児学会予演会：LLSと管がらわれたELBWの3例	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/6/29 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	周産期新生児学会予演会：多胎のアテトーゼCPのELBW3例	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/7/3 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児学会予演会：PDA 反復再開通例の検討	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/7/3 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	胎盤病理が同一で異なる予後を呈したDD 双胎例	吉田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/7/5 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	研究：双胎のIUGR 例	上田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/7/12 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	当院におけるROPの現況	眼科 野村Dr.
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/7/17 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児抄録：早産IUGR 児の検討	吉田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/7/19 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児抄録：ELBWの黄疸とABRの検討	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/7/24 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	遅発性先天性横隔膜ヘルニアを発症したELBWの一例	山本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/7/24 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	死亡症例検討：脊髄破裂、複雑心奇形を合併した超早産超低出生体重児の一例	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/7/26 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児抄録：テガダーム研究	溝渕
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/7/31 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児抄録：多胎IUGR	上田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/7/31 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児抄録：インダクション予防投与	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/8/2 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児抄録：胸部CT所見と呼吸予後	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/8/2 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児抄録：BNP 研究	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/8/3 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児抄録：ELBWの黄疸とABR	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/8/6 月 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児抄録：早産IUGRの検討	吉田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/8/6 月 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児抄録：CLDの胸部CTスコアと呼吸予後	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/8/6 月 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児抄録：遷発性CDHの超早産例	山本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/8/9 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	日齢3に胃穿孔を来したVLBWの一例	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/8/9 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	死亡症例検討：生直後より強い心機能不全を認めた18トリソミーの一例	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/8/14 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	非典型的なLLSが疑われたELBWの一例	吉田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/8/16 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	死亡症例検討：蘇生に反応を認めなかった胎児水腫の一例	上田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/8/16 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	生後早期に閉塞性黄疸をきたした一例	上田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/8/21 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	ビリルビン研究	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/8/24 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	慢性期に黄疸、無呼吸発作を反復した一例	山本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/8/28 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	死亡症例検討：早発型緑膿菌感染症のELBWの一例	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/8/30 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	死亡症例検討：GA22w.PPHN,NEC 合併した例	吉田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/9/4 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	PDA,VSDを合併したVLBWの一例	山本

名 称	主催部署	日 時	場 所	参加人数	テ ー マ	担 当
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/9/6 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	新生児仮死出生で脳形成異常が疑われた一例	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/9/11 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	研究：aEEG 重症仮死児に対する EEG モニターの有用性	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/9/13 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	研究：シスタチンC	上田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/9/18 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	兵庫県地方会予演会：1児ポッターシーケエンスの早産2例	山本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/9/20 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	研究：晚期副腎不全	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/9/21 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	死亡症例検討：1児1ポッターシーケエンスのDD 双胎	山本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/9/25 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	研究	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/10/2 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	研究：低血圧に対する HC 投与	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/10/2 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	dry lung, PPHN を合併した ELBW 児	吉田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/10/4 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	鎖肛合併の21トリソミーの一例	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/10/9 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	小児科学会抄録：多胎	上田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/10/9 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	小児科学会抄録：IUGR SFD と light for dates	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/10/11 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	小児科学会抄録：脳波モニタリング	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/10/16 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	緑膿菌性髄膜炎の一例	岩谷
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/10/18 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	完全房室ブロックの一例	岸本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/10/23 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	母体前置胎盤による大量出血を伴った早産児の一例	中川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/10/23 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	09周産期シンポジウム抄録：IUGR の INDO 予防投与	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/10/25 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	多血による高ビリルビン血症に対し ET を施行した一例	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/10/25 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	研究：IL6による FIRS の評価	上田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/10/30 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	右側先天性横隔膜ヘルニアの一例	岩谷
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/10/30 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	APS 抄録：CLD の CT スコア	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/11/1 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	不整脈、無呼吸発作をみとめた成熟児の一例	中川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/11/1 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	APS 抄録：23-24週児に対する INDO 予防投与の効果と安全性	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/11/6 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	母体 PIH 合併の severe IUGR 児の一例	岸本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/11/6 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	APS 抄録：超早産児の低血圧に対する HDC の効果	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/11/8 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	胎児尾部奇形腫の一例	吉田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/11/8 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児予演会：ELBW の黄疸と ABR の関係	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/11/13 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児予演会：早産 IUGR 児の短期予後	吉田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/11/13 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児予演会：双胎 IUGR	上田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/11/15 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児予演会：CLD の CT スコアと呼吸予後	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/11/15 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児予演会：BNP と CLD 発症、重症度との関連	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/11/20 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児予演会：チガダーム	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/11/20 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児予演会：INDO 持続予防投与	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/11/22 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	新生児肺出血の一症例	岩谷
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/11/27 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	生後早期より心不全を伴った早産児	中川

名 称	主催部署	日 時	場 所	参加人数	テ ー マ	担 当
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/11/29 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	水腎尿管症をきたした児	岸本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/12/4 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	胎児期より指摘されていた頭蓋内腫瘍の1例	吉田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/12/4 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	近畿小児科学会抄録：TTTS	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/12/6 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	CisAB 型	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/12/6 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	研究総括・2008年研究計画	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/12/11 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	ルーチン：新生児メレナ	岩谷
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/12/11 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	ルーチン：未熟児無呼吸発作の管理	中川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/12/13 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	2008年研究計画	上田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/12/13 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	2008年研究計画	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/12/18 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	2008年研究計画	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/12/18 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	2008年研究計画	吉田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/12/20 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	2008年研究計画	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/12/20 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	2008年研究計画	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/12/25 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	胎内発症の回腸捻転と考えられた早産児	中川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/12/25 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	四肢短縮症の児	岸本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/12/27 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	吸気性喘鳴・嘔声を契機に発見された肺分画症の一例	岩谷
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2007/12/27 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	2008年プロトコール	溝淵

検査放射線部勉強会

部内研修会

主催部署	日時	場所	テーマ	担当
検査・放射線部	9月6日	検査技師室	臨床検査技師による胎児超音波検査の取り組みについて	上田
検査・放射線部	10月25日	検査技師室	求められる臨床検査技師像とは	竹田
検査・放射線部	1月10日	検査技師室	血液ガスの基礎知識	藤中

実習生の受け入れ

学校名	期間	人数
岡山大学医学部保健学科 (4年生)	8月22日～8月24日	1名
常盤短期大学衛生技術科 (3年生)	8月27日～10月26日	1名
神戸大学医学部保健学科 (4年生)	11月6日～11月22日	2名

名称	日時	場所	参加者
産科モーニングカンファレンス	毎朝 8 : 40 ~ 9 : 00	産科病棟詰め所	産科医師、看護師
周産期カンファレンス	毎月 16 : 30 ~ 17 : 00 (月が休日の場合は火)	産科外来指導室	産科・新生児科・小児外科・病理科医師、看護師、検査技師、薬剤部
抄読会	毎金 8 : 20 ~ 8 : 35	産科病棟医師控え室	産科医師
ウィークエンドカンファレンス	毎金 16 : 00 ~ 16 : 30 (金が休日の場合は木)	産科病棟詰め所	産科医師、看護師、検査技師、薬剤部

名 称	主催部署	日 時	場 所	参加人数	テ ー マ
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	1月9日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科5名、放射線科3名、外科4名、病理1名	1) 悪性リンパ腫 (15歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	1月10日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科5名、放射線科3名、外科4名、病理1名	1) 神経芽腫 (4歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理	1月24日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科3名、病理1名	1) 神経膠腫 (13歳、女) 2) 胚細胞性腫瘍 (12歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理	1月25日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科4名、病理1名	1) 大腿部腫瘍 (13歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理	1月31日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科4名、病理1名	1) 悪性リンパ腫 (13歳、男) 2) 神経芽腫 (4歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、外科、病理	2007年2月6日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科3名、脳外科3名、病理1名	1) 奇形腫 (2歳、女) 2) 神経膠腫 (14歳、男) 3) 胚細胞性腫瘍 (1歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、外科、病理	2月20日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科3名、病理1名	1) 上腕部腫瘍 (1M、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、外科、病理	2月21日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科4名、病理1名	1) 仙尾部奇形腫 (0M、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、外科、病理	3月7日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科3名、病理1名	1) 奇形腫 (1歳、男) 2) 胚細胞性腫瘍 (14歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、外科、病理	3月13日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科3名、外科5名、病理1名	1) 上衣腫 (3歳、女) 2) 肝芽腫 (7歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、外科、病理	3月28日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科4名、病理1名	1) 髓芽腫 (4歳、女) 2) 膠芽腫 (13歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、外科、病理	4月18日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科3名、病理1名	1) リンパ腫 (6歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、外科、病理	4月25日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科3名、病理1名	1) 神経芽腫 (1歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、外科、病理	5月1日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科3名、病理1名	1) 胚細胞性腫瘍 (14歳、女) 2) 胚細胞性腫瘍 (10歳、女) 3) 上衣腫 (8歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、外科、病理	5月2日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科3名、病理1名	1) 松果体腫瘍 (12歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、外科、病理	5月9日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科3名、病理1名	1) 髓芽腫 (10歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、外科、病理	5月16日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科3名、外科3名、病理1名	1) 神経芽腫 (1歳、女) 2) 神経線維腫症 (5歳、女) 3) 卵巣腫瘍 (4歳、女) 4) 精巣腫瘍 (1歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、外科、病理	5月31日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科3名、病理1名	1) 神経芽腫 (3歳、女) 2) 上衣腫 (3歳、女) 3) LCH (5歳、女) 4) 血管腫 (0歳、女) 5) 神経芽腫 (2歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、外科、病理	6月13日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科3名、病理1名	1) 血管腫 (0歳、女) 2) 神経芽腫 (2歳、女) 3) 胚細胞性腫瘍 (9歳、男)

名称	主催部署	日時	場所	参加人数	テーマ
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	6月20日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科5名、病理1名	1) 神経芽種 (6M、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理	6月27日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科4名、病理1名	1) 松果体腫瘍 (14歳、男) 2) 胚細胞性腫瘍 (6歳、女) 3) 膠芽種 (4歳、女) 4) 松果体腫瘍 (12歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理	7月11日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科3名、病理1名	1) 脳腫瘍 (0歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	7月18日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科5名、病理1名	1) 精巣腫瘍 (1歳、男) 2) 卵巣腫瘍 (2歳、女) 3) エーイング腫瘍 (1歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	7月20日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科5名、病理1名	1) 粘膜炎腫瘍 (14歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理	7月25日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科3名、外科4名、病理1名	1) 視神経膠腫 (1M、男) 2) 横紋筋肉腫 (4歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	8月1日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科3名、脳外科3名、病理1名	1) 神経芽種 (0歳、女) 2) 頸部腫瘍 (3歳、女) 3) 神経芽種 (3歳、女) 4) 視神経膠腫 (5歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、耳鼻科、病理	8月27日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科5名、耳鼻科2名、病理1名	1) 卵巣腫瘍 (8歳、女) 2) 副鼻腔腫瘍 (0歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	8月29日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科5名、病理1名	1) 神経芽種 (3歳、女) 2) 腎芽種 (3歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理、脳外科	9月5日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科5名、病理1名、脳外科3名	1) 腎芽種 (5歳、男) 2) 血管腫 (0歳、男) 3) 頸部腫瘍 (5歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理	9月13日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科3名、病理1名	1) AT/RT (0歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	9月19日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科3名、病理1名	1) 神経芽種 (3歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理	9月26日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科5名、放射線科3名、脳外科4名、病理1名	1) AT/RT (0歳、女) 2) 上衣腫 (8歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、泌尿器、病理	10月3日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科5名、放射線科3名、脳外科4名、病理1名	1) 上衣腫 (4歳、女) 2) 胚細胞性腫瘍 (10歳、女) 3) 髄芽腫 (14歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	10月17日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科5名、脳外科3名、病理1名	1) 神経膠腫 (15歳、男) 2) 神経芽種 (3歳、女) 3) 横紋筋肉腫 (4歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	10月24日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科4名、病理1名	1) 大腿部腫瘍 (2歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	10月31日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科4名、脳外科4名、病理1名	1) AT/RT (1歳、女) 2) 腎芽腫 (5歳、男) 3) 神経芽種 (0歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	11月7日 16:30~17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科4名、脳外科4名、病理1名	1) AT/RT (1歳、女) 2) 神経芽種 (0歳、女)

名 称	主催部署	日 時	場 所	参加人数	テ ー マ
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 外科、脳外科、病理	11月14日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 外科4名、脳外科4名、病理1名	1) 仙尾部奇形腫 (0歳、女) 2) 横紋筋肉腫 (0歳、男) 3) 神経芽腫 (3歳、女) 4) 上衣腫 (4歳、男) 5) 視神経膠腫 (9歳、女) 6) 腹部腫瘍 (13歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 外科、脳外科、病理	11月21日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 外科4名、脳外科4名、病理1名	1) 横紋筋肉腫 (0歳、男) 2) 横紋筋肉腫 (1歳、男) 3) 神経芽腫 (0歳、男) 4) LCH (0歳、女) 5) 腎芽腫 (5歳、男) 6) AT/RT (0歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 脳外科、眼科、病理	11月28日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 外科4名、眼科3名、病理1名	1) 髓芽腫 (10歳、男) 2) 松果体腫瘍 (10歳、男) 3) 眼窩内腫瘍 (0歳、男) 4) AT/RT (1歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 脳外科、病理	12月3日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 脳外科3名、病理1名	1) 松果体腫瘍 (10歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 外科、脳外科、病理	12月5日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 外科4名、脳外科4名、病理1名	1) 視神経膠腫 (6歳、女) 2) 脳幹部腫瘍 (5歳、男) 3) 胚細胞腫瘍 (10歳、男) 4) 胃腫瘍 (0歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 脳外科、眼科、病理	12月12日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 眼科3名、脳外科3名、病理1名	1) 松果体腫瘍 (15歳、男) 2) 網膜芽細胞腫 (0歳、男) 3) 視神経膠腫 (2歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 外科、脳外科、病理	11月21日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 外科4名、脳外科4名、病理1名	1) 膠芽腫 (13歳、女) 2) 視神経膠腫 (3歳、女) 3) Ewing肉腫 (2歳、女) 4) 腹部腫瘍 (3歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 外科、病理	3月13日 16:30～17:00	カンファレンス室C	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 外科5名、病理1名	1) 前頸部腫瘍 (6歳、女)

名称	主催部署	日時	場所	参加人数	テーマ
麻酔科カンファレンス	麻酔科	通年、毎日午前8時40分から9時	手術室内 麻酔医室	8-12名	毎日の麻酔症例について 検討、情報交換を行う
麻酔科抄読会	麻酔科	隔週月曜、午前8時40分から9時	手術室内 麻酔医室	8-12名	英文雑誌から麻酔関連論 文の紹介
麻酔科・心臓外科合同 カンファレンス	麻酔科・ 心臓外科	通年、毎日午前7時55分から8時 10分	ICU	10名程度	当日の心臓外科症例につ いてのカンファレンス

名 称	主催部署	日 時		場所	参加人数	テーマ
薬剤部勉強会	薬剤部	2月6日	午後5:30~6:30	薬剤部	8	抗生剤勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	2月9日	午後5:30~6:30	薬剤部	8	アブネカット 製品勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	2月13日	午後5:30~6:30	薬剤部	20	アルチバ注 製品勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	2月15日	午後5:30~6:30	薬剤部	9	オノアクト 製品勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	2月20日	午後5:30~6:30	薬剤部	8	イトリゾール注 製品勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	3月7日	午前8:45~9:00	薬剤部	11	部内勉強会 AML プロトコール
薬剤部勉強会	薬剤部	3月8日	午後5:30~6:30	薬剤部	7	ブスルフェックス治験説明会 (治験・血内)
薬剤部勉強会	薬剤部	3月23日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	指導薬剤師研修報告会
薬剤部勉強会	薬剤部	4月23日	午後5:30~6:30	薬剤部	7	ラコール 製品勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	5月14日	午後5:30~6:30	薬剤部	9	アドベイト 製品勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	6月12日	午後5:30~6:30	薬剤部	9	アムビゾーム 製品勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	6月22日	午前8:45~9:00	薬剤部	10	症例報告会 産科
薬剤部勉強会	薬剤部	6月26日	午前8:45~9:00	薬剤部	10	部内勉強会 クリニカルパス
薬剤部勉強会	薬剤部	7月26日	午前8:45~9:00	薬剤部	10	部内勉強会 エラーブルー化
薬剤部勉強会	薬剤部	8月8日	午前8:45~9:00	薬剤部	10	症例報告会 循環器科
薬剤部勉強会	薬剤部	8月28日	午前8:45~9:00	薬剤部	10	部内勉強会 小児薬物療法と off-Label 医薬品
薬剤部勉強会	薬剤部	10月4日	午前8:45~9:00	薬剤部	10	部内勉強会 羊水穿刺
薬剤部勉強会	薬剤部	10月10日	午後5:30~6:30	薬剤部	19	エスラックス静注 製品勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	10月23日	午後5:30~6:30	薬剤部	12	エピベン注射液 製品勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	11月14日	午後5:30~6:30	薬剤部	11	ダイアニール 製品勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	11月28日	午前8:45~9:00	薬剤部	9	部内勉強会 多胎と双胎間輸血症候群

症例検討会

第回	実施日	担当科	担当者	題 名	参加者人数	
					院内	院外
58	2007/1/11	救急集中治療科	笠井 和子	劇症型髄膜炎菌敗血症の1例	12	2
59	2007/1/25	小児外科	連 利博	胆道閉鎖症の早期診断	15	1
60	2007/2/8	放射線科	橋村 宏美	当院における3D-CT (再構成画像の活用法)	49	0
61	2007/2/22	産科	上田 大介	平成17年に当院で管理した一絨毛膜性双胎 “一絨毛膜性双胎は周産期医療センターへ”	16	0
62	2007/3/8	血液腫瘍科	竹田 洋樹	Oncologic emergency (腫瘍性疾患に伴う緊急事態) について	24	2
63	2007/3/22	歯科口腔外科	曽根由美子	摂食嚥下障害～機能獲得不全症例と経管依存症例～	28	1
64	2007/4/12	整形外科	小林 大介	結核性骨髄炎	25	1
65	2007/4/26	精神科	前田 宏章	PTSD (外傷後ストレス障害) の症例と解説	23	2
66	2007/5/10	腎臓内科	田中亮二郎	水電解質異常	20	1
67	2007/5/24	耳鼻咽喉科	大津 雅秀	新生児聴覚スクリーニング	22	2
68	2007/6/14	アレルギー科	中岸 保夫	不明熱・不明発疹鑑別診断の進め方	34	6
69	2007/6/28	形成外科	大山 知樹	小児の熱傷	25	2
70	2007/7/12	脳神経外科	近藤 威	痙性麻痺・ジストニアに対する新しい治療法：薬剤の髄腔内持続注入法	30	5
71	2007/9/27	脳神経内科	丸山あずさ	持続脳波モニタリング下で集中治療を行い比較的予後良好であった急性脳症の1例	16	0
72	2007/10/11	代謝内分泌科	尾崎 佳代 細川 悠紀	思春期早発症	20	5
73	2007/10/25	心臓血管外科	圓尾 文子	心房間交通を伴わない左室低形成症候群の1例	39	0
74	2007/11/8	循環器内科	田中 敏克	心房中隔欠損に対するカテーテル治療の経験	46	1
75	2007/11/22	泌尿器科	久松 英治	遺尿の落とし穴	20	0
参加者合計					464	31

勉強会

名称	主催部署	開催日	時間	場所	参加者人数	テーマ	担当
ラダー 勉強会	NICU	1月22日	18:00～19:00	7F会議室	看護師 14	多い循環器疾患について	循環器チーム
勉強会	NICU	1月31日	17:30～18:30	研修室C	看護師 30	看護記録に関して	記録委員・係
救急蘇生	NICU	2月15日	17:40～18:45	研修室A B	看護師 26	第4回：全体シミュレーション	救急蘇生グループ
1年目勉強会	NICU	3月14日	17:30～19:00	カンファレンスルーム	看護師 17	看護観	プリセプター
1年目勉強会	NICU	5月10日	17:30～19:00	研修室C	看護師 9	摂食について	摂食委員
ラダー 救急蘇生	NICU	6月6日	17:30～19:00	カンファレンスルーム	看護師 13	救急蘇生の基本1	救急蘇生グループ
安全勉強会	NICU	6月13日	17:30～18:10	NICU個室	看護師 21	加温加湿器失敗体験勉強会	安全委員・係
勉強会	NICU	6月21日	17:50～18:50	会議室C	看護師 11	看護師のためのストレスマネジメント	勉強会係
1年目勉強会	NICU	6月27日	17:35～18:35	カンファレンスルーム	看護師 9	栄養管理・ファミリーケア	プリセプター
安全勉強会	NICU	7月11日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 16	背景要因分析	安全委員・係
勉強会	NICU	7月12日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 15	ラダー 対象循環器基礎編	循環器チーム
ラダー 前半勉強会	NICU	7月19日	17:30～18:40	カンファレンスルーム	看護師 9	事例検討	ラダー担当者
ラダー 後半勉強会	NICU	7月24日	17:30～19:00	カンファレンスルーム	看護師 18	事例検討	ラダー担当者
安全勉強会	NICU	7月25日	17:40～18:45	カンファレンスルーム	看護師 18	輸液管理失敗体験勉強会	安全委員・係
ラダー 救急蘇生	NICU	8月7日	17:35～18:35	研修室C	看護師 15	救急蘇生の基本2	救急蘇生グループ
1年目勉強会	NICU	8月22日	17:30～18:40	カンファレンスルーム	看護師 11	入院受け	プリセプター
ラダー 後半勉強会	NICU	8月28日	17:30～19:00	カンファレンスルーム	看護師 16	事例検討	ラダー担当者
勉強会	NICU	9月3日	17:30～19:00	カンファレンスルーム	看護師 13	処置勉強会（臍が、胸腔ドレナージ、尿道が）	勉強会係
ラダー 後半勉強会	NICU	9月26日	17:30～19:00	カンファレンスルーム	看護師 12	事例検討	ラダー担当者
1年目勉強会	NICU	9月27日	17:30～19:00	カンファレンスルーム	看護師 9	呼吸管理	プリセプター
ラダー・救急蘇生	NICU	10月10日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 10	シミュレーション	救急蘇生グループ
勉強会	NICU	10月31日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 15	外科疾患	外科チーム
勉強会	NICU	11月29日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 15	外科疾患（食道閉鎖・胃ろう）	外科チーム
勉強会	NICU	12月19日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 13	循環器シート、DORV	循環器チーム
勉強会	NICU	12月27日	17:40～18:40	カンファレンスルーム	看護師 14	外科疾患（髄膜瘤・腹壁破裂）	
周産期勉強会	NICU・GCU	5月14日	17:30～18:30	研修室A B	看護師 31	Let's Enjoy Neonatal Care!	中尾医師
周産期勉強会	NICU・GCU	6月18日	17:30～18:30	研修室A B	看護師 38	NEC 病態生理について	芳本医師
周産期勉強会	NICU・GCU	7月23日	17:30～18:30	研修室A B	看護師 25	黄疸とは	坂井医師

名称	主催部署	開催日	時間	場所	参加者人数	テーマ	担当
周産期勉強会	NICU・GCU	8月13日	17:30～18:30	研修室A B	25	病原体から体を守る	中内氏
周産期勉強会	NICU・GCU	10月22日	17:30～18:30	研修室A B	38	痙攣コントロールについて	坂井医師
周産期勉強会	NICU・GCU	11月20日	17:30～18:30	研修室A B	26	学会講演	看護師
周産期勉強会	NICU・GCU	2月18日	17:30～18:30	研修室A B	32	新生児実践報告会	看護師
1年目勉強会	GCU	8月6日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	11	沐浴について	看護師
1年目勉強会	GCU	6月20日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	14	救急蘇生	看護師
異動者勉強会	GCU	11月28日	17:30～18:30	研修室C	9	ラダー1対象 救急蘇生	看護師
異動者勉強会	GCU	10月16日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	12	アブニアを起こす児の経口哺乳のすめ方	看護師
異動者勉強会	GCU	12月17日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	13	無呼吸発作を起す児の看護	看護師
異動者勉強会	GCU	2月26日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	11	酸素離脱に向けた患児の看護	看護師
異動者勉強会	GCU	9月14日	17:30～18:30	個室	2	N-CPAP管理	看護師
異動者勉強会	GCU	1月22日	17:30～18:30	個室	4	N-CPAP管理	看護師
2年目勉強会	GCU	6月28日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	10	小腸閉鎖術後の経腸栄養開始時の看護	看護師
2年目勉強会	GCU	10月31日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	13	腹壁破裂の児の看護	看護師
2年目勉強会	GCU	11月30日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	12	髄膜炎患児の看護	看護師
2年目勉強会	GCU	3月26日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	8	18トリソミーの看護	看護師
病棟勉強会	GCU	8月29日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	10	直母指導(基本編)	看護師
病棟勉強会	GCU	11月21日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	14	直母指導(応用編)	看護師
病棟勉強会	GCU	11月14日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	16	救急蘇生	看護師
病棟勉強会	GCU	11月22日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	11	救急蘇生	看護師
病棟勉強会	GCU	10月30日	17:30～18:30	研修室A B	21	ボジヨニングについて	看護師
勉強会	ICU	5月23日(水)	17:45～18:55	研修室C	21	救急蘇生：急変時の受持ちメンバーの役割行動が理解でき、実践できる。	開保津・中村
勉強会	ICU	6月5日(火)	17:30～19:00	研修室C	22	背景要因分析の目的と方法の理解	西村・福島・松田・佐藤
勉強会	ICU	6月21日(木)	17:30～19:00	研修室C	13	開心術オリエンテーション勉強会：心臓カテーテル	尾崎・開保津
勉強会	ICU	6月27日(水)	17:30～18:45	研修室C	19	呼吸器の原理・使用方法が分かる、使用時の注意点・観察方法が分かる	西川・M E 中村
勉強会	ICU	7月5日(木)	17:30～19:00	研修室C	14	開心術オリエンテーション勉強会：体外循環	西川・石本
勉強会	ICU	7月11日(水)	17:30～19:00	研修室C	7	開心術オリエンテーション勉強会：呼吸管理	田路・池澤
勉強会	ICU	7月20日(金)	17:30～19:00	研修室C	7	開心術オリエンテーション勉強会：不整脈・ペースメーカー	村川・中村・
勉強会	ICU	7月25日(水)	17:30～19:15	研修室C	20	事例検討	山本・小原

名 称	主催部署	開 催 日	時 間	場 所	参加者人数	テ ー マ	担 当
勉強会	ICU	8月22日(水)	17:30～19:00	研修室C	23	背景要因分析による事例検討	西村・福島・松田・佐藤
勉強会	ICU	9月5日(水)	17:30～18:30	母と子の教室	22	無輸血術後の管理	講師: 日隈医師
勉強会	ICU	9月26日(水)	17:45～18:45	研修室C	23	救急蘇生:急変時の受持ち・メンバーの役割行動が理解でき、実践できる。	石本・池澤
勉強会	ICU	10月24日(水)	17:30～18:45	研修室C	15	スタンダードプロコーションを理解し、手洗い・手袋・ガウン着用の実践	中村
勉強会	ICU	11月8日(木)	17:30～18:30	研修室C	17	呼吸アセスメント	Cチーム
勉強会	ICU	11月14日(水)	17:30～18:30	母と子の教室	25	新生児期の術後管理	講師: 吉田医師
勉強会	ICU	12月5日(水)	17:30～18:30	研修室C	6	新生児期の術前管理	講師: 城戸医師
勉強会	ICU	12月26日(水)	17:30～18:30	研修室C	20	ヒヤリハット事例からリスクを考える	西村・福島・松田・佐藤
勉強会	ICU	1月24日(木)	17:30～19:30	ICU	24	救急蘇生:急変時の各自の役割行動が理解でき、実践できる	中村・開保津
三尖弁閉鎖症について	HCU	1月19日	17:40～19:00	研修室C	28	三尖弁閉鎖の病態・術後管理について	日隈医師
病棟勉強会	HCU	5月	17:30～18:30	カンファレンスルーム	16	EVD管理について	福井看護師
チーム勉強会	HCU	7月	17:30～18:00	カンファレンスルーム	7	在宅に向けた家族看護	家常看護師
チーム勉強会	HCU	8月	17:30～18:30	カンファレンスルーム	7	在宅に向けた家族指導(気管内吸引)	横田看護師
チーム勉強会	HCU	9月	17:30～18:30	カンファレンスルーム	7	新生児看護	小川看護師
病棟勉強会 (新人対象)	HCU	10月	17:30～18:30	カンファレンスルーム	5	摂食について	森本看護師
チーム勉強会	HCU	11月	17:30～18:30	カンファレンスルーム	8	体温とは(低体温児の看護)	小林看護師
病棟勉強会	HCU	11月	17:30～19:00	第1会議室	15	意識障害について(事例検討)	山口看護師・山本医師
病棟勉強会	HCU	12月	17:30～19:00	カンファレンスルーム	14	肺高血圧・気管狭窄症の患児の看護	佐藤医師
チーム勉強会	HCU	12月26日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	7	浮腫について	鈴木看護師
救急シミュレーション	HCU	7月		病棟	7	緊急時の対応	勉強会係
デモンストレーション	HCU	7月		病棟	録	DCモニターの取り扱い	勉強会係
救急シミュレーション	HCU	8月		病棟	7	緊急時の対応	勉強会係
デモンストレーション	HCU	9月		病棟	6	BCR看護(物品の出し入れ)	BCR係
救急シミュレーション	HCU	12月		病棟	5	緊急時の対応	勉強会係
勉強会	産科病棟	5月23日	17:30～18:30	産科保健指導室	25	クリニカルパス勉強会	

名 称	主催部署	開 催 日	時 間	場 所	参加者人数	テ ー マ	担 当
勉強会	産科病棟	7月11日	17:30～18:30	産科保健指導室	24	背景要因分析によるインシデント報告の検討	看護師
勉強会	産科病棟	9月27日	17:30～18:30	産科保健指導室	26	乳房管理	看護師
勉強会	産科病棟	11月14日	17:30～18:30	産科保健指導室	26	正常新生児の水分管理と栄養	看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	4月11日	17:30～19:00	7 F 会議室	3	血液データの読み方	看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	4月19日	17:30～19:00	7 F 学習室	3	輸血	看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	5月1日	17:30～19:00	7 F 会議室	13	小児のリハビリ	理学療法士・看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	5月24日	17:30～19:00	7 F 学習室	4	化学療法	看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	6月12日	13:00～17:00	7 F 会議室	7	救急蘇生	看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	6月27日	17:30～19:00	7 F 会議室	15	血球貪食症候群	医師
病棟勉強会	血液主体病棟	6月29日	17:30～19:00	7 F 学習室	5	放射線科の看護	看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	7月2日	17:30～19:00	7 F 学習室	10	音楽療法	看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	7月11日	17:30～19:00	7 F 学習室	4	症状マネジメント	看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	8月8日	17:30～19:00	7 F 会議室	10	歯科勉強会	医師・歯科衛生士・看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	9月	17:30～19:00	研修室 C	10	マッサージ	看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	10月1日	17:30～19:00	7 F 学習室	5	移植	看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	10月18日	17:30～19:00	7 F 学習室	9	ペインコントロール	看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	10月30日	13:00～17:00	7 F 会議室	7	救急蘇生	医師・看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	11月9日	17:30～19:00	7 F 会議室	11	脳腫瘍	医師・看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	11月14日	17:30～19:00	7 F 学習室	7	発熱時の看護	看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	11月15日	13:00～17:00	7 F 会議室	7	救急蘇生	医師・看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	11月19日	17:30～19:00	7 F 学習室	9	マッサージ	看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	12月13日	13:00～17:00	7 F 会議室	3	呼吸管理 摂食ケア	看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	12月13日	17:30～19:00	7 F 学習室	7	食事勉強会	栄養士・看護師
病棟勉強会	血液主体病棟	3月18日	17:30～19:00	7 F 学習室	6	グリーフケア	看護師
勉強会	学童主体病棟	2月20日	17:30～18:30	学童病棟食堂	10	大腿骨すべり症と側わん症について	薩摩医師
勉強会	学童主体病棟	2月22日	17:30～18:30	第7会議室	12	蘇生シミュレーション	文字、掛川看護師
勉強会	学童主体病棟	6月20日	18:00～18:30	第7会議室	15	カンファレンスについて	山岡看護師
勉強会	学童主体病棟	6月27日	17:30～18:30	学童病棟食堂	10	背景要因分析	藤原看護師
勉強会	学童主体病棟	7月3日	17:30～18:30	第7会議室	10	蘇生シミュレーション	文字、掛川看護師

名称	主催部署	開催日	時間	場所	参加者人数	テーマ	担当
勉強会	学童主体病棟	7月30日	17:30～18:30	学童病棟食堂	8	背景要因分析	藤原看護師
勉強会	学童主体病棟	8月16日	18:00～18:30	第7会議室	14	病院機能評価について	細川看護長
勉強会	学童主体病棟	9月25日	17:30～19:00	学童病棟食堂	8	背景要因分析	藤原看護師
勉強会	学童主体病棟	11月13日	18:00～19:00	研修室C	11	小児腎疾患について	田中医師
耳鼻科勉強会	混合	5月20日	17:30～18:30	研修室C	17	耳の聞こえ方、難聴について/大津Dr	坂上
形成勉強会	混合	6月15日	17:30～18:20	研修室C	36	口唇口蓋裂について/大山Dr	勉強会
蘇生勉強会	混合	6月19日	17:30～18:50	病棟	16	新人対象、緊急時の初期対応	教育委員
事故防止	混合	6月25日	17:30～18:30	7階会議室	13	場面設定トレーニング（リスクを探そう）	安全係
感性の勉強会	混合	7月12日	17:30～18:45	7階会議室	17	病棟の環境について	森野
ケーススタディ	混合	7月13日	17:30～19:00	7階会議室	17	無呼吸を起こした児の対応/2年目	勉強会係
ケーススタディ	混合	7月20日	17:30～18:30	7階会議室	15	自分の対応を振り返る/1年目	プリセプター
感性勉強会	混合	7月28日	17:30～18:45	7階会議室	15	JITSの物品請求、管理について	森野
ケーススタディ	混合	8月20日	17:30～18:20	7階会議室	10	C Pの児の看護	Bチーム
蘇生勉強会	混合	9月10日	17:30～19:00	病棟	17	挿管の介助	教育委員
手話	混合	9月20日	17:30～18:30	7階会議室	10	難聴児のコミュニケーション	坂上
事故防止	混合	10月14日	17:30～18:30	7階会議室	12	背景要因分析	安全係
接遇	混合	10月24日	17:30～18:15	病棟	10	病棟での接遇について	接遇係
手話	混合	11月5日	17:30～18:30	3階会議室	15	手話で歌をうたおう	坂上
疾患勉強会	混合	11月16日	17:30～18:40	7階会議室	14	C L D、A S D、P Hの勉強会	Aチーム
ケーススタディ	混合	12月5日	17:30～18:30	7階会議室	10	頻脈を起こした児への対応振り返り	Aチーム
接遇	混合	2月20日	17:30～18:30	7階会議室	8	クレーム時の対応	接遇係
ケーススタディ	混合	3月27日	17:30～19:00	7階会議室	15	8時間の自分の対応を振り返る/1年目	プリセプター
倫理	混合	3月31日	17:30～18:30	7階会議室	20	患者倫理について	主任
接遇研修	5 A・5 B	6月22日	17:30～18:45	研修室A B	24	5事例でグループワークとロールプレイ	5 A 主任 堀場・林
虐待について	5 A・5 B	6月28日	14:30～15:00	病棟詰め所	28	退院までの流れと地域でのフォロー体制	長岡 S W
虐待について	5 A・5 B	7月11日	17:30～18:45	母と子の教室	48	虐待疑の患者の入院と看護師の役割	長瀬 D r
看護倫理	5 A プリセプター	8月7日	18:00～19:00	5 A 食堂	7	臨床場面で感じた葛藤と理想の看護	谷・河南・南
蘇生 ()	5 A	8月17日	17:30～18:45	5 A 食堂	10	急変時の対応（デモと意見交換）スキルUP	村上・柏木・松岡
アンブラツァー	外来・5 A B・I C U・救急	9月	17:30～18:45	研修室A B	多数	心房中隔欠損に対するカテーテル治療	田中 D r

名称	主催部署	開催日	時間	場所	参加者人数	テーマ	担当
新生児の看護	5 A プリセプター	9月	17:30～18:30	5 A 食堂	7	新生児看護の学びを循環器看護にいかす	谷・南
摂食発達と援助	5 A・5 B	10月25日	17:30～19:00	研修室 C	18	摂食嚥下障害とは、正しい食べさせ方、トロミ使用など	長尾・濱谷
看護記録	5 A・5 B	11月26,30日	14:30～15:00	病棟詰め所	11	正確な看護記録について考える	古野・岩井
蘇生 ()	5 A・5 B	12月12日	17:30～18:45	研修室 C	20	急変時の対応 (デモと意見交換) スキルUP	鈴木 Dr 川口
心不全について	5 A プリセプター	12月19日	17:30～18:30	5 A 食堂	5	左心不全、右心不全の症状について	松下
呼吸管理	5 A プリセプター	2月	17:30～18:30	5 A 食堂	5	呼吸器ケアが必要な患者の看護を学ぶ	河南
倫理	5 A・5 B	3月25日	17:30～18:30	7 F 会議室	9	事例を通して倫理について考える	東谷
心不全について	5 A プリセプター	12月19日	17:30～18:30	5 A 食堂	6	心不全の看護を事例を通して学ぶ	南
接遇研修	5 A・5 B	6月22日	17:30～18:45	研修室 A B	24	5 事例でグループワークとロールプレイ	5 B 主任工 藤・濱端
虐待について	5 A・5 B	6月28日	14:30～15:00	病棟詰め所	28	退院までの流れと地域でのフォロー体制	長岡 SW
虐待について	5 A・5 B	7月11日	17:30～18:45	母と子の教室	48	虐待疑いの患者の入院と看護師の役割	長瀬 Dr・ 坂田
アンブライツア－	外来・5 A B・ ICU・救急	9月	17:30～18:45	研修室 A B	多数	心房中隔欠損に対するカテーテル治療	田中 Dr
摂食発達と援助	5 A・5 B	10月25日	17:30～19:00	研修室 C	18	摂食嚥下障害とは、正しい食べさせ方、トロミ使用など	下井・藤森
看護記録	5 A・5 B	11月26,30日	14:30～15:00	病棟詰め所	11	正確な看護記録について考える	古野・岩井
蘇生 ()	5 A・5 B	12月12日	17:30～18:45	研修室 C	20	急変時の対応 (デモと意見交換) スキルUP	鈴木 Dr 川口
倫理	5 A・5 B	3月25日	17:30～18:30	7 F 会議室	9	事例を通して倫理について考える	岩井
家族看護	5 B	1月22日	17:30～18:30	研修室 C	17	事例を通して家族看護を考える。	楠本・小林
新生児管理	5 B	3月15日	17:30～18:30	研修室 C	10	おっぱいマッサージについて	長谷川
勉強会	一般外科主体	5月1日	17:30～19:00	研修室 A B	11	泌尿器疾患について	Dr 乃美
勉強会	一般外科主体	5月29日	17:30～19:00	研修室 A B	6	胆道閉鎖について	Dr 岡本竜
勉強会	一般外科主体	7月17日	17:30～18:30	研修室 A B	8	気管軟化症について	Dr 尾藤
勉強会	一般外科主体	7月31日	17:30～18:30	研修室 A B	9	ヒルシユ・鎖肛について	Dr 横井
勉強会	一般外科主体	11月14日	17:30～18:30	病棟面談室		摂食ケアについて	Ns 菅
1年目勉強会	一般外科主体	5月	17:30～18:30	病棟面談室	6	胸腔ドレイン管理について	Ns 中越
1年目勉強会	一般外科主体	6月7日	17:30～18:30	病棟面談室	6	尿道カテーテル固定・胃瘻チューブ固定について	Ns 西口
1年目勉強会	一般外科主体	7月	17:30～18:30	病棟面談室	8	膀胱拡大術をうける患児の看護	Ns 菅
1年目勉強会	一般外科主体	7月	17:30～18:30	病棟面談室	8	呼吸器について	Ns 西口

名称	主催部署	開催日	時間	場所	参加者人数	テーマ	担当
1年目勉強会	一般外科主体	7月14日	17:30～18:30	病棟面談室	看護師 8	救急シミュレーション	Ns, 湯村
1年目勉強会	一般外科主体	9月27日	17:30～18:30	病棟面談室	看護師 5	手術前後の看護	
1年目勉強会	一般外科主体	10月24日	17:30～18:30	病棟面談室	看護師 4	胃瘻造設術後	
1年目勉強会	一般外科主体	11月28日	17:30～18:30	病棟面談室	看護師 8	漏斗胸術後、痛みのある患児の看護	
1年目勉強会	一般外科主体	12月9日	17:30～18:30	病棟面談室	看護師 6	下血のある患児の看護（輸血含む）	
1年目勉強会	一般外科主体	1月26日	17:30～18:30	病棟面談室	看護師 6	肺炎患児の看護（気管切開患児の看護含む）	
勉強会	産科、OP	6月1日	14:00～15:10	OP室	Ns, Dr 6	超緊急帝王切開術のシミュレーション	前谷、 堀坂、 山本
勉強会	OP	8月28日	17:00～18:00	OP室	Ns 16	感染防止のための看護技術	高橋
勉強会	OP	10月5日	17:00～18:10	OP室	Ns 21	緊急時シミュレーション	新谷、 竹田、 山本
勉強会	OP	11月22日	17:15～18:10	OP室	Ns 25	手術室における安全管理	堀坂、 坂本
勉強会	OP	11月30日	17:00～18:00	OP室	Ns, Dr 21, 4	手術室の電気設備について	新谷、 藤尾
勉強会	OP	12月5日	17:00～17:50	OP室	Ns 24	滅菌の基本について	片山、 堀坂
勉強会	OP	12月26日	17:00～17:40	OP室	Ns 17	新生児管理（体温管理、皮膚保護等）	中村、 谷口、 小松
外来勉強会	外来	8月27日	17:30～18:30	研修室C		ストーマケア	講義
WOCケア部会勉強会	WOCケア部会	2月13日	17:30～19:00	研修室A B		スキンケア	講義
WOCケア部会勉強会	WOCケア部会	8月14日	17:30～18:30	研修室A B		院内褥瘡発生状況とリスクアセスメント	講義
WOCケア部会勉強会	WOCケア部会	10月26日	17:30～18:30	研修室A B		褥瘡予防、予防具の体験	講義
WOCケア部会勉強会	WOCケア部会	12月11日	17:30～18:30	研修室A B		スキンケアテープ・創傷被覆剤・軟膏	講義
母子フォロワーアツブ研修	教育委員会	6月29日	17:30～18:30	研修室A B		発達理論	講義
母子フォロワーアツブ研修	教育委員会	8月6日	17:30～18:30	研修室A B		セルフケア理論	講義
母子フォロワーアツブ研修	教育委員会	10月19日	17:30～18:30	研修室A B		家族理論	講義

2. 看護研修

看護部の理念

命を守り、育てることに努力し、真の優しさと逞しさを備えた人間性を養い、安心と満足が得られる看護の提供に努めます

社会の健康ニーズに応えることができる専門的で良質な母子看護を提供します

患者・家族を中心としたチーム医療の調整役として、主体的に行動し、療養環境を整えます

看護部方針

こどもの権利を考慮し、家族の思いを尊重した看護を提供します

母子看護の専門職としての知識・技術を習得し、日常業務を通じた研究的態度を育成するとともに自己研鑽努めます

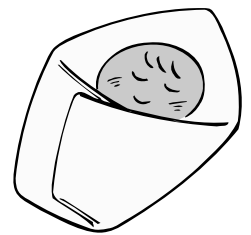
看護の質の向上を目指し、安全と安心に繋がる看護を提供します

組織人としての自覚を持ち、看護部内および他部門との連携を大切にし、適切な医療・看護の提供ができる環境作りをします

限りある医療・社会資源を経済的・効率的に運用し、効果的な看護を実践します

平成19年度看護部目標

1. 安全で確実な看護の提供を行う
 - 1) リスク感性を高め、事象に対し、迅速に組織で取り組みます
 - 2) 母子看護の専門職としてスキルアップを図り、確実な看護を提供します
2. 他部門との連携を図り、チーム医療の一員としての役割を果たします
 - 1) 病院機能評価受審に向けて取り組みます
3. 地域連携を図り、退院に向けての支援に努めます
4. 経営感覚を醸成します
 - 1) DPC 導入を推進します
 - 2) 適切な病床運営を図ります



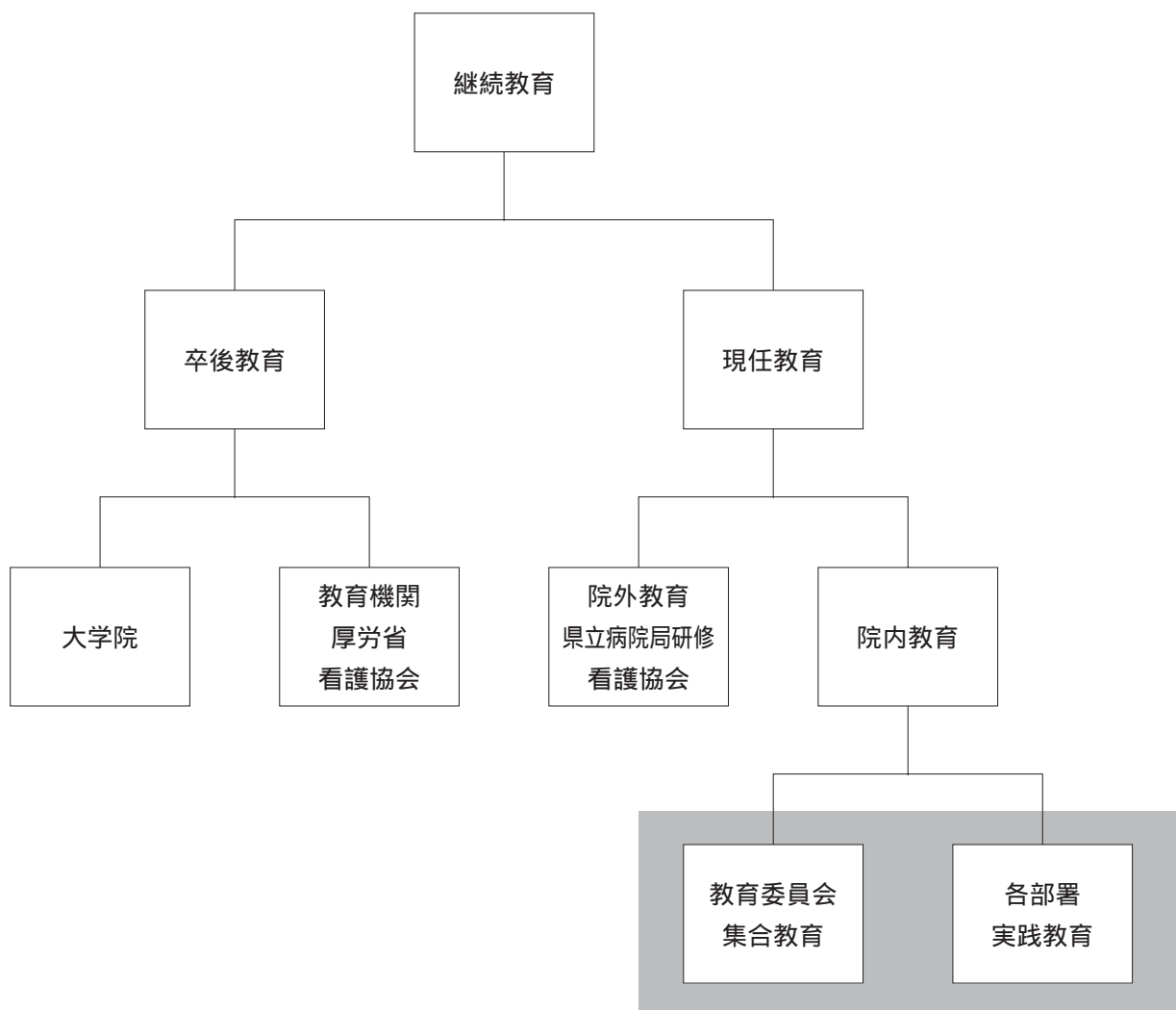
こども病院教育理念

病院・看護部の理念をふまえ、高度専門的医療に対応し質の高い看護が提供できる豊かな人間性を備えた看護師を育成する

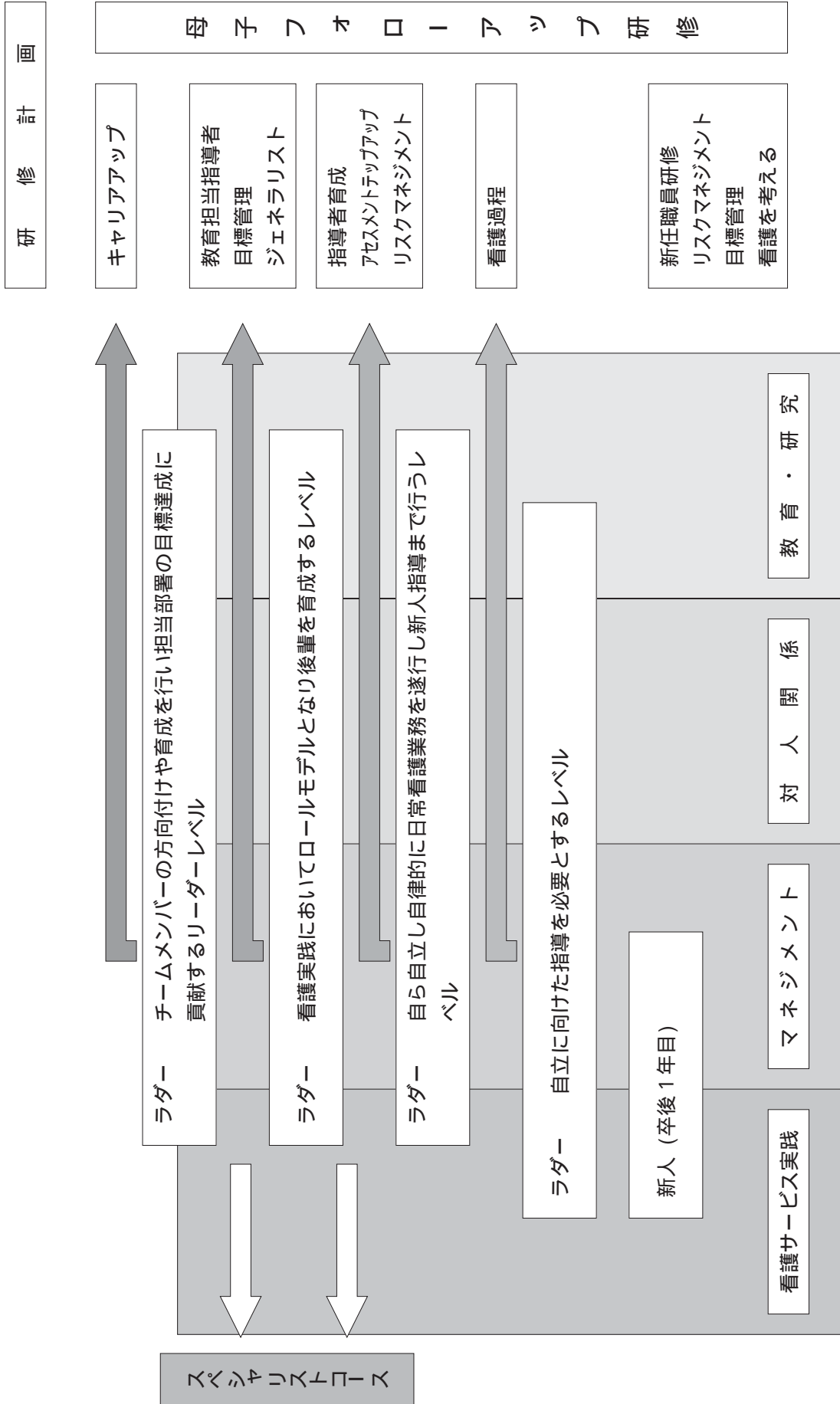
こども病院教育方針

1. 高度専門的な母子看護の知識・技術をもち、エビデンスに基づいた看護実践ができる看護師の育成
2. こどもの権利を守り、患者家族の思いを尊重できる看護師の育成
3. チーム医療の調整役として行動できる看護師の育成
4. 研究的視点で看護実践の改善がはかれる看護師の育成

こども病院継続教育の位置づけ



小児ジェネラリストの実践家として役割を認識し行動できる



平成19年度新規採用者・転入者オリエンテーション実施表

2007. 4. 6

月 日	オリエンテーションの内容	時 間	研修方法	講 師	担当者・備考	場所
4月2日 (月曜日)	挨拶・点呼 オリエンテーションの進め方、資料 配布、夜間タクシーチケットの利用 について、食事カードの配布、辞令 交付にあたっての注意事項等ユニフォー ムの配布、ロッカー案内	9:00～9:10 正規、転入 13:30～ 年間・単年22条 9:10～	講義	看護部次長	看護部	研修室 A・B
4月3日 (火曜日)	オリエンテーション、事務連絡 開講式 新規採用看護職員自己紹介 看護部、看護長紹介	8:30～9:00 9:00～9:05 9:05～10:00 10:00～10:20		幹部職員 各看護長	教育委員1名 (土井)	研修室 A・B 研修生 65名
	こども病院の歴史と理念 小児医療における各部門の役割 放射線科、薬剤部、研究検査部、 総務部(医事課、栄養指導課) 昼休憩 看護部の理念と役割 新人に期待すること 社会人としての自律 こども病院の看護の特徴 看護部の組織と委員会、ラダー、目 標管理、キャリア手帳、看護提供方 式(メンバーシップを含む) 総務部紹介 各種手続きについて、転居届けな ど総務関係の書類の記載 銀行の手続き 互助会保険 病院案内(病棟・外来)	10:25～11:15 11:25～12:00 12:00～12:45 12:45～13:30 13:45～14:30 14:30～15:30 15:25～15:45 15:45～15:55 16:00～17:00	講義 講義 講義 講義 講義 説明 説明 見学	中村院長 箕浦看護部次長 平山看護部長 箕浦看護部次長 松下総務課員 三井住友銀行員 職員互助会職 員看護長 (瓜、納、春 名、菰野、下 雅意)担当教 育委員	教育委員1名 (土井) 箕浦看護部次長 尻看護長	研修室 A・B 研修生 63名
4月4日 (水曜日)	オリエンテーション、事務連絡 こども病院の診療内容の特徴 指導相談部・地域医療連携室との連 携 県職員としての心構え(県立病院の ありかた、こども病院の役割)看護 協会・さつき会・ボランティア紹介 県職員としての追加説明 昼休憩 看護提供方式 看護記録 クリニカルパス、標準看護計画 情報開示、個人情報保護、 記録 看護記録演習 事務連絡	8:30～9:00 9:00～10:00 10:05～10:55 11:00～11:35 11:35～11:55 12:00～12:45 12:45～13:45 13:45～16:20 16:25～16:50 16:50～17:00	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	山崎副院長 片岡総務部長 藤久保看護部次長 橋本看護長 箕浦看護部次長 下雅意看護長 山岡看護師 担当教育委員	教育委員1名 (山岡) 橋本・尻看護長	研修室 A・B 研修生 63名
	組合	17:00～17:35		こども病院分 会長		

月 日	オリエンテーションの内容	時 間	研修方法	講 師	担当者・備考	場所
4月5日 (木曜日)	オリエンテーション、事務連絡 看護師の業務規定と法的責任 子どもの特徴（成長発達を含む） 看護業務と法的責任、個人情報保護 昼休憩 家族看護、子どもの権利と看護倫理、 小児における看護理論 小児におけるプレバレーション	8:30～9:00 9:00～12:00 12:00～12:45 12:45～15:30 15:45～17:00	講義 講義 講義	箕浦看護部次長 濱田小児専門 看護師 清水小児救急 認定看護師	教育委員1名 (辻田) 橋本・凧看護長	研修室 A・B 研修生 63名
4月6日 (金曜日)	オリエンテーション、事務連絡 看護における防犯対策について スタンダードプリコーションと小児 の感染症 昼休憩 看護業務の安全性 医療安全管理体制、医療事故等緊 急連絡体制、ヒヤリハット用紙、 与薬のルール、小児の安全性 所属部署発表 各部署へ挨拶 閉講式、事務連絡	8:30～9:00 9:00～9:45 9:50～11:40 11:45～12:30 12:30～14:30 14:30～15:00 15:00～16:45 16:45～17:00	講義 講義 講義	担当教育委員 主任（西澤、 森田、三宅） 周藤看護長 河野看護長 平山看護部長 各看護長 平山看護部長 箕浦看護部次長 藤久保看護部 次長 足立看護部次長	教育委員1名 (泊) 橋本・凧看護長	研修室 A・B 研修生 63名

平成19年度新規採用オリエンテーションの結果

<研修について>

講師の都合でスケジュールの変更があったが、前日または当日に研修生に伝えることはできた
研修室でインターネット接続ができるパソコンは周産期の1階の診療支援システムでなければならない
ことを知らず、当日のセットアップに時間を要したが講義開始までに準備はできた
資料準備が前日または当日であったために一部講義開始してから資料配布があった
講師と事前に打ち合わせを行ったが、予定時間より30分以上短い講義があったため、次年度は今回の
講義時間を参照にした計画が必要である
期間を5日間としたが、講義主体のオリエンテーションでは日数は妥当であった

<研修生について>

研修生者は65名であったが、こども病院経験の転勤者2名は2日目途中から病棟配属になり、以後63
名となった
身だしなみについて注意を要した（ヘヤースタイル、ピアスなど）
居眠り、頬杖をつくなど態度の悪い人が数名いたために講義と講義の間に注意をした
研修前にトイレにいかず、講義と講義の間にトイレに行く人ために講義開始時間が1～2分遅れた、
研修前に行くように促してからは講義開始に支障をきたさなかった
お弁当持参者が多いたために研修室のCを予約することが必要であった、ゴミの持ち帰りは2日目から
できていた

次年度の課題と対策

今年度はオリエンテーションの期間を5日間としたが、妥当な日程であった。次年度も5日間でき
よと考える。しかし、内容に関しては、現場がイメージできるような講義内容と時間設定の検討が必要
である。また、研修生の人数によるグループワークなどを取り入れ、主体的に研修生がオリエンテ
ーションに参加できる工夫も必要である。

OffJTとOJTをリンクさせるために新人（新卒）は新規採用オリエンテーションと4月・5月・6月
の研修をシリーズとして計画をしたが、この評価は6月の研修会終了後に行う。

進行上の問題として、講義と講義の間に準備時間が短時間必要であり、この時間の活用としてトイレ
休憩を考慮するなどの検討が必要である。

研修コース名	新人	新人	新人	新人	新人
研修会名	1ヶ月フォローアップ・放射線従事者研修	リスクマネジメント・救急蘇生	目標管理	看護を考える	
研修月日	4月24日(火)	5月29日(火)	6月26日(火)	1月22日(火)	
研修時間	13:00~17:00	8:30~17:00	8:30~17:00	13:00~17:00	
研修のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就職後1ヶ月間の思いを共有し今後の看護意欲につなげる 2. 同期入植仲間と思いを共有し、今後の仕事意欲につなげる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 療養環境の安全性・快適性について考えられる 2. 看護チームにおける自分の役割を理解し、メンバーシップについて考えることができる 3. PALSの基本行動が指示の元で行える 4. 職後2ヶ月間の思いを共有し今後の看護意欲につなげる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日々の看護を目標をもって行える 2. 就職後3ヶ月を振り返り、自己の課題を明確にする 	<p>小児専門病院に求められている看護を理解すると共に、看護実践について振り返り、次へのステップの目標を明確にする</p>	
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1ヶ月間の自分自身の頑張りを認め、気づきや不安を共有できる 2. 日常の看護ケアについて根拠をもつて実践することの大切さがわかる 3. 患者・家族・職員間におけるコミュニケーションのとおり方について考えられる 4. 患者の権利を守り個を尊重した看護実践とは何かを経験を通して考えることができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な安全確認行動の必要性がわかり、自分の役割を認識した行動がとれる 2. 療養環境の安全性・快適性についての不備に気づき、報告できる 3. ヒヤリハット報告の必要性がわかり、ミス、事故に気づき、必要な報告ができる 4. 救急蘇生の基本行動ができる 5. 救急時のメンバーシップがわかる 6. 2ヶ月間の自分の成長を認めるところができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目標をもって仕事をすること、楽しく仕事をすること大切がわかる 2. 6ヵ月後になりたい自分の姿を考え、具他の行動が考えられる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就職後に感じたジレンマについて言葉にして話すことができる 2. 6ヶ月間でできたこと、出来なかった事の原因を整理できる 3. 自分の大切にしたい看護を続けるためには如何すればよいかを考えることができる 	
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人・職業人としてのコミュニケーションのとおり方 2. 根拠をもつた看護実践の必要性 3. 今後の自己の課題の明確化 4. チェックリストを使用し、今後の自己の課題を明確にする 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な安全確認行動の必要性 2. メンバーシップの理解 3. 今後の自己の課題の明確化 4. チェックリストを使用し、今後の自己の課題を明確にする 	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリア開発(初級段階)とは 2. 目標設定について 3. 半年後の自己の課題の明確化 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 6ヶ月間の成果発表 2. 実践事例の検討 3. 次年度の目標設定 	
研修方法	GW 事後課題	GW 事後課題	講義 演習 事後課題	事前課題 講義 事後課題	
学習者	新規採用看護職員 38名 放射線従事者研修参加者 22名	新規採用看護職員 37名	新規採用看護職員 38名	新規採用看護職員 37名	
院内外講師	教育委員	教育委員	教育委員	教育委員	
教育委員の職務	<p>教育担当看護次長(箕浦)</p> <p>教育委員長(橋本)、教育副委員長(四)</p> <p>教育委員(土井、中村、河江)</p>	<p>教育担当看護次長(箕浦)</p> <p>教育委員長(橋本)、教育副委員長(四)</p> <p>教育委員(土井、中村、河江)</p>	<p>教育担当看護次長(箕浦)</p> <p>教育委員長(橋本)、教育副委員長(四)</p> <p>教育委員(土井、中村、河江)</p>	<p>教育担当看護次長(箕浦)</p> <p>教育委員長(橋本)、教育副委員長(四)</p> <p>教育委員(土井、中村、河江)</p>	
研修場所	研修室A B	研修室A B	研修室A B	研修室A B	

研修コース名	ラダー1	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2
研修会名	看護過程の展開	アセスメントステップアップ研修	リスクマネジメント研修	指導者育成研修	
研修月日	7月31日(火)	7月17日(火)	9月3日(月)	平成20年2月26日(火)	
研修時間	9:00~17:15	9:00~17:00	9:00~17:00	13:00~17:00	
研修のねらい	看護過程の展開を学び、日々の実践に活かすことができる	1. 根拠に基づいた看護ケアを自立して実践できる能力を養う 2. 問題指向型の思考(クリティカルシンキング)の大切さが分かる	1. 小児看護における安全な環境の提供について考えられることができる	後輩指導の役割やこども病院のプリセプターシップを理解し、主体的に後輩指導に臨める	
研修目標	1. 提示事例の情報収集ができる 2. 指導を受けながら提示事例のアセスメントができ、患者の問題点を挙げるができる	1. 科学的根拠に基づいた看護判断ができる(判断を理論的に説明できる) 2. 問題の優先順位を的確に判断した看護ケアの立案ができる 3. 知識と経験・判断を実践に活かすことができる 4. 個別性を考え状況に応じた看護ケアの展開ができる 5. 看護実践の妥当性を評価し次の看護ケアプランへと発展させる方法がわかる	1. 当院の危機管理システム・看護部事故対策委員会の取り組みの実際を知る 2. 事例検討を通して陥りやすい事故要因について考えることができる 3. 事故発生時の対応方法が分かり実践できる 4. 自己の特性や効果的なコミュニケーション技法についての理解を深め事故防止に活かすことができる 5. 看護師としての自己責任の重さ・果たし方について考えることができる	1. 臨床現場におけるOJTとOffJITについて学ぶ 2. 後輩指導の役割について理解し、日々の業務の中で意識して関与することができる 3. 後輩への教育的関わりの方的な方法について学び実践できる 4. 後輩指導に求められる姿勢について考えられ実践できる 5. プリセプターシップを理解できる	
研修内容	1. 看護過程の展開 2. ヘンダーソンの看護理論の理解 3. 自分が大切にしたい看護の明確化 4. 今後の自己の課題の明確化(ケーススタディー)	1. クリティカルシンキング 2. 日常の看護ケアの科学的視点からの分析	1. ヒヤリハット事例の検討 2. 事故防止と発生時の対処についての理解 3. 看護師として自己の責任の自覚(メンバーシップ)	1. 後輩指導に必要な姿勢とスキル	
研修方法	講義 演習 事後課題 *ケーススタディ発表は自部署で計画	事前課題 講義 演習 GW 事後課題	事前レポート 講義 演習 GW 事後課題	講義 GW 事後課題	
学習者	ラダー 対象者 14名 教育委員 濱田小児専門看護師	ラダー 対象者 29名	ラダー 対象者 31名	ラダー 対象者 30名 (今から後輩指導の役割につくスタッフ)	
院内外講師	教育委員 濱田小児専門看護師	院内講師：箕浦看護部次長	教育委員	院内講師：平山看護部長 濱田小児専門看護師	
教育委員の職務	教育担当看護部次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(岡) 教育委員(土井、中村、河江)	教育担当看護部次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(岡) 教育委員(杉森、粟津、伊丹)	教育担当看護部次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(岡) 教育委員(杉森、粟津、伊丹)	教育担当看護部次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(岡) 教育委員(杉森、粟津、伊丹)	
研修場所	研修室A B	研修室A B	研修室A B	研修室A B	

研修コース名	ラダー3 (全体の計画)	ラダー3 (1回目)	ラダー3 (2回目)
研修会名	小児ジェネラリスト研修	変革理論	リスクマネジメント
研修月日	月1回 第3火曜日の5回	9月10日(月)	10月16日(火)
研修時間	8:30~17:00	8:30~17:00	8:30~17:00
研修のねらい	小児専門看護師として、役割モデルとなり、こども病院の看護の質を高める	1. 小児専門病院の看護師としての役割を理解する 2. 変革理論を理解し、変革推進者の役割行動が理解できる	1. 看護師の法的責任について理解を深め、患者が安心して医療を受ける環境づくりができる 2. リスクマネジメントに関する知識を持ち、自ら問題提起し、解決への提案ができる。
研修目標	1. 患者・家族の権利を尊重した看護実践ができる 2. 小児看護領域の専門性を高め、こども(個)に適した看護方法を創意工夫できる 3. 実践場面でリーダーシップが発揮できる	1. 小児専門病院の看護師としての役割を理解する 2. 小児専門病院看護師として期待される役割がわかり、目標を明らかにすることができる 3. 小児専門病院における役割モデルの概念化ができる 4. 変革理論の概要を理解する 5. 変革の必要性および変革過程を効果的に行う方法について理解できる	1. 看護業務規定・法的責任について理解する 2. 判例事例から、看護師の法的責任について考えられる 3. 所属病棟のマイエララーが明確にできる 4. 科学的裏づけに基づいた事故分析ができ、変革理論に沿って問題化帰結方法が考えられる 5. 看護におけるリスクマネジメントを説明できる
研修内容	毎回テーマに沿ってレポート提出	1. 役割モデルとは。(講義) 2. 効果的なGWについて 3. 変革理論の講義、事例展開	1. 県立病院における医療訴訟の現状について 2. 看護業務規定・法的責任 3. 背景要因分析
研修方法	講義 演習 GW 事前課題 事後課題 成果レポート作成及び発表	講義 演習 GW 事前課題 事後課題	講義 演習 GW 事前課題 事後課題
学習者	ラダー3に該当する看護師 看護長が推薦、且つ、本人の研修出席意志がある臨床経験5年~10年(当院看護師歴1年以上)	ジェネラリスト研修生 15名 一般聴講生 15名	ジェネラリスト研修生 15名 一般聴講生 10名
院内外講師	院内講師(看護次長、看護長、教育委員、小児専門看護師、医師、保健師など) 院外講師(大学講師、病院局職員、地域の医療関係者など)	院内講師: 箕浦看護部次長 橋本看護長	院外講師: 病院局企画課課長補佐兼係長(芳中) 院内講師: 看護部安全対策委員長(河野) 橋本看護長
教育委員の職務	教育担当看護次長、教育委員長、教育副委員長、教育副委員長等	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(瓜) 教育委員(山岡、辻田、小林、菊池)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(瓜) 教育委員(山岡、辻田、小林、菊池)
研修場所	研修室A B	研修室A B	研修室A B

研修コース名	ラダー3 (3回目)	ラダー3 (4回目)	ラダー3 (5回目)
研修会名	チーム医療	継続看護	グループマネージメントとリーダーシップ
研修月日	11月20日 (火)	12月18日 (火)	平成20年1月15日 (火)
研修時間	8:30~17:00	8:30~17:00	8:30~17:00
研修のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児専門病院におけるチーム医療について理解し、看護においてリーダーシップがとれる 2. こどもの権利を理解し、アドボケーターとしての役割について考え、実践できる 3. 小児専門病院看護師として看護のインフォームドコンセントが実践できる 4. チームの一員として患者・家族と共に看護ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 継続看護の重要性を理解し、地域との連携や社会資源を活用した退院指導ができる 2. 在宅支援へ移行するための家族支援ができる 	グループマネージメントがわかり、リーダーシップの発揮方法がわかる
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会におけるこども環境を知る 2. 小児専門病院のチーム医療の実際について理解する 3. チーム医療における看護師の役割について述べる 4. こどもの権利を理解し、家族が機能を果たすことができるように看護実践においてよき支援者になれる 5. アドボケーターとしての役割について考えられる 6. 小児看護における患者の意思決定の選択肢と予測される結果を明確にできる 7. 患者・家族の意思決定を支えることができる 8. 家族もチームの一員として考えることができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 継続看護の必要性について説明できる 2. 在宅支援の実際を理解する 3. 地域との連携の実際と社会資源の活用方法を理解する 4. 在宅支援のための家族看護が実践できる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. リーダーとしての自分の強み・弱みがわかり、自己を否定する影響を取り除くことができる。 2. 自己の個性を最大限に活用した、リーダー像をイメージし、そのための課題を考えられる。 3. グループマネージメントが理解できる。 4. グループダイナミクスについて理解し、グループダイナミクスを活用するための自身の役割を理解できる
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療 2. こどもの権利と倫理原則 3. アドボケーターの役割 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅支援の実際 2. 地域連携室の役割、公的支援 3. 退院指導計画書の作成 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己分析 2. 集団理解とグループマネージメントスキル 3. チームの成長とリーダーシップ
研修方法	講義 演習 GW 事前課題 事後課題	講義 演習 GW 事前課題 事後課題	講義 演習 GW 事前課題 事後課題
学習者	ジェネラリスト研修生 15名 一般聴講生	ジェネラリスト研修生 15名 一般聴講生 0名	ジェネラリスト研修生 15名
院内外講師	院内講師：箕浦看護部次長 濱田小児専門看護師	院外講師：小林保健師 (塚口訪問看護ステーション) 院内講師：凧看護長 濱田小児専門看護師	院内講師：平山看護部長 濱田小児専門看護師
教育委員の職務	教育担当看護部次長 (箕浦) 教育委員長 (橋本)、教育副委員長 (凧) 教育委員 (山岡、辻田、小林、菊池)	教育担当看護部次長 (箕浦) 教育委員長 (橋本)、教育副委員長 (凧) 教育委員 (山岡、辻田、小林、菊池)	教育担当看護部次長 (箕浦) 教育委員長 (橋本)、教育副委員長 (凧) 教育委員 (山岡、辻田、小林、菊池)
研修場所	研修室 A B	研修室 A B	研修室 A B

研修コース名	ラダー3 (6回目)	ラダー4・3	ラダー4・3	ラダー4・3
研修会名	看護研究	ファシリテーター養成研修会	ファシリテーター養成研修会	キャリアアップ研修
研修月日	平成20年2月19日(火)	6月19日(火)	12月4日(火)	8月28日(火)
研修時間	8:30~17:00	13:00~17:00	13:00~17:00	8:30~17:00
研修のねい	<ol style="list-style-type: none"> 臨床実践の質を上げるための研究に率先して取り組むことができる 小児専門病院看護師として、看護の質を高めるために自己の果たすべき役割について行動計画が立案できる 	<ol style="list-style-type: none"> 看護師のアセスメント能力が向上する ファシリテーター養成研修会 	<ol style="list-style-type: none"> 看護師のアセスメント能力が向上する ファシリテーター養成研修会 	<ol style="list-style-type: none"> 経験豊富な看護師として自己啓発やセルフコントロールを学び、自分自身のキャリアアップを図るきっかけにする
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 日々の実践を研究の視点から検証できる 看護研究の方法について理解する 研究のまとめ方やデータ分析について理解する 半年間の自己の学びについて発表する 自己の課題をふまえて行動計画が立案できる 	<ol style="list-style-type: none"> 事例に関する問題解決法を習得できる ファシリテーションについて理解し、事例検討における自己の役割を考えて行動できる 	<ol style="list-style-type: none"> 職場での事例検討状況を報告し、自己の役割に関する問題点の共有及び対策を見出すことができる 所属での事例検討を浸透させる 	<ol style="list-style-type: none"> 各部署における自分の役割を認識できる 自己の傾向を知り、役割遂行のための方策を考えることができる 自分のキャリア開発のための動機づけができる
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> 看護研究 研究計画書の書き方 研究論文の書き方 	<ol style="list-style-type: none"> 事例検討の進め方 ファシリテーターの役割について、ロールプレイ 	<ol style="list-style-type: none"> 職場の現状報告 問題点の抽出及び対策の検討 	<ol style="list-style-type: none"> 看護職のキャリア開発とは 生涯学習論 自己啓発 自己評価 セルフコントロール
研修方法	講義 演習 GW 事前課題 事後課題	講義 GW	講義 GW	事前レポート 講義 GW
学習者	ジェネラリスト研修生 一般聴講生	ラダー 対象者 23名	ラダー 対象者 21名	ラダー 対象者 15名
院内外講師	院内講師：箕浦看護部次長 濱田小児専門看護師	院内講師：濱田小児専門看護師	院内講師：濱田小児専門看護師	院内講師：箕浦看護部次長
教育委員の職務	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(皿) 教育委員(山岡、辻田、小林、菊池)	濱田 CNS 教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(皿) 教育委員(瀨川、泊、深江)	濱田 CNS 教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(皿) 教育委員(瀨川、泊、深江)	濱田 CNS 教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(皿) 教育委員(瀨川、泊、深江)
研修場所	研修室A B	研修室A B	研修室A B	研修室A B

研修コース名	ラダー3	ラダー3
研修会名	目標管理 成果発表会	目標管理とキャリア開発
研修月日	平成20年1月29日(火)	平成20年1月29日(火)
研修時間	13:00～17:00	8:30～12:30
研修のねらい	マイプランの成果を自己の成長につなげることができ る。	1. 目標管理について理解し、自分自身が組織にとっ て大切な人材であることが確認できる 2. 生涯教育とキャリアアップの重要性について理 解し、自己の能力評価およびキャリア開発計画を 立案できる
研修目標	1. マイプランの成果を発表することで、達成感や 組織のプラスの変化を感じることができる。 2. 取り組みの成果を共有できる。	1. 目標管理の目的と方法が理解できる 2. 自己の能力評価を行い小児専門病院の看護師と してのキャリア開発(能力・行動目標の設定)が できる 3. 自己の個性を最大限に活用する方法を知る 4. 変革理論について理解し質の高い看護を実践す るための組織変革の方法を考え実践できる (* 変革理論についてはジェネラリスト研修を受講し ておくことが望ましい)
研修内容	マイプラン発表	目標管理とキャリア発達 変革理論
研修方法	発表会	講義 GW
学習者	ラダー 対象者 13名 聴講者(ラダー 目標管理研修者 20名)	ラダー 対象者 20名
院内外講師	教育委員	院内講師：箕浦看護次長
教育委員の職務	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(皿) 教育委員(瀬川、泊、深江)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(皿) 教育委員(瀬川、泊、深江)
研修場所	研修室A B	研修室A B

母子フォローアップ研修

目 的：主要な理論を理解して活用することで、対象理解やアセスメント能力が向上し、こどもや家族に適したよりよいケアを提供できることにつながる

目 標： 理論の概要が理解できる

理論をどのように理解すればよいかを理解できる

理論の活用を推進できる（ラダー 以上）

学習者：全スタッフ、関心のある人

開 催：4回/年 1時間/回（17：30～18：30）

研 修 日	研 修 名	参加者	講 師	担 当 者	場 所
6月	発達理論	104名	濱田小児専門看護師 鎌田皮膚排泄ケア認定看護師	教育委員 (土井・泊)	研修室A B
8月	セルフケア理論（小児用）	85名	濱田小児専門看護師 鎌田皮膚排泄ケア認定看護師	教育委員 (杉森・瀬川・中村)	研修室A B
10月	家族理論「家族エンパワメントモデル」	99名	濱田小児専門看護師 鎌田皮膚排泄ケア認定看護師	教育委員 (山岡・河江)	研修室A B
12月	ストレスコーピング理論・危機理論	80名	清水小児救急看護認定看護師	教育委員 (小林)	研修室A B

平成19年度看護実践報告会

【目 的】日常の看護実践を科学的に分析し、結果を意味づけ、成果として発表する。

看護実践の成果を共有することにより小児専門病院としての看護の質の向上を図る。

日 時：平成20年2月16日（土）13：00～17：00

運営担当：谷本江利子 三宅典子 杉友ユリ

所 属 名	研 究 テ ー マ	研究メンバー
血液主体病棟	マッサージを用いた症状緩和・リラクゼーションの取り組み ～患者・家族向けリーフレットの作成を行って～	坂本 秩枝 杉山真由美 馬場 明美 川崎 紀子 森田 昌子 周藤 育子
学童病棟	眼科入院における集団術前オリエンテーションの実施 ～看護師業務の効率化を考える～	吉矢 智子 松山 美穂 松中 陽子 細川 員巳
内科外科混合病棟	プリパレーション導入への取り組み	浦上 和美 井上 裕子 橋口ゆかり 前原 由紀 岩崎 真弓 檜田 隆子
循環器A病棟	心臓外科手術後の児の生活を家族と共に考える	柏木 朋子 南 聡子 渡辺裕美子 辻 愛美 長尾真裕美 荒井 奈央 今井 澄子
循環器B病棟	呼吸機能低下を認めた患者に対する効果的な呼吸療法を実施して	赤木 玉奈 中村 純子 下井由美子 平井 重世 小坂明日香 吉武 慎治 今田 麻美 河野 恵
一般外科病棟	入院生活における児のQOLを考えた看護師の役割 ～経鼻挿管しながら、経口摂取を行った患児の看護を振り返って～	西口 愛美 佐々木 愛 横山 経子
救急病棟	小児救急医療センター開設にむけたチームの取り組み	牧野久美子 清水 称喜 橋本ひとみ
HCU	在宅療法中の患者、家族の受け入れをスムーズにするデータベースの作成 ～ケア引き継ぎと連携の試み～	山口 智子 山下 美希 東 知宏 武田 志乃 大中 清文 足立久美子
ICU	継続した呼吸アプローチをおこなうための情報収集 ～聴診に焦点を当てた現状調査～	尾崎 由衣 鈴木 朝子 開保津直美 樫木 郁江 井上裕美子 松田 邦子 蜂谷 雅子 松岡 富子 下雅意つるえ
NICU	育児内科外来における育児相談システムの確立	大元 涼子 五十嵐 良 小泉 仁美 山本 栄 坂田 佳子 藤定 睦子 菰野 朱美
GCU	直母指導の統一に向けての取り組み ～勉強会の開催・パンフレットの作成～	熊本 裕美 要 登志美 長谷 明美 木下 貴子 神田 麻衣 中津 礼子 後藤 瑠美 西村 佳子 三宅 典子 凧 真貴子
産科病棟	ハイリスク妊婦の入院によるストレスについて	西野 英子 赤尾真理子 岸野 早希 中西亜希子 杉友 ユリ 納 栄子
中央手術室	器械関連ヒヤリ・ハット件数減少への取り組み	片山 恵理 堀坂 由美 菊池真由美 坂本 郁子 藤澤 由 時吉あけみ
外来	外来化学療法を受ける子どもと家族の看護への取り組み（途中経過報告）	濱田 米紀 北條佳代子 糸島美砂子 大脇 京子 小澤 一美 山田 純子 泊 菊子 大西 美樹 春名真巳子

委 員 会 名	テ ー マ	発 表 者
業務手順委員	看護部業務手順委員会 看護手順監査結果報告第1報 ～看護の質の保証に関する調査～	開保津直美

平成19年度 看護協会主催等研修会等参加者

研 修 会	開催地	開催月日	救急	産科	NICU	GPU	HCU	ICU	手術室	血液腫瘍	混合	学童	循環A	循環B	一般外科	外来	看護部	ME
新人ナースの感染予防	神戸	8月30日		赤尾真理子	門野理奈		山下美希											
コミュニケーションと対人関係	神戸	12月12日～13日		西野英子	南條佐江	今村香織		染矢陽子										
生き生きとした職場活性のためのコーチング	神戸	7月4日							片山恵理		橋口ゆかり							
これからの看護記録	神戸	10月2日 10月3日		末広真由美	桐畑梨穂		横田理永	鈴木朝子				松山美穂			大西布美江			
災害看護の基本と看護師の役割	神戸	9月21日	平田一希	瀬尾真菜	陸本真理							吉矢智子						
臨地実習指導	神戸	7月23～24日 12月5～6日			平井詠子		大村典子											
看護職のトレスマネジメント	神戸	11月5日		前田愛	大元涼子					松野由子								
実践事例から考える家族看護	神戸	9月28～29日			長谷部陽子						井上裕子					下井由美子		
今日から始める感染防止	神戸	7月13日 1月18日	藤原健太	中根亨子			米谷直美			松山真由美	中文子							
退院計画調整における看護師の役割(基礎編)	神戸	12月18日			橋本真紀子		小川直美											
スタッフナースとして取り組む医療安全	神戸	11月27日			植山真紀						馬道優子							
がん化学療法法の基礎知識	神戸	8月23日				高澤道子												
法によるセルフリスクマネジメント	神戸	11月16日		三谷真美	嶋津由佳	高木のぶ子	藤田雅子	松浦せつ	坂本郁子				渡辺裕美子	小林久美子				
看護管理の基本的スキル	神戸	2月5日		大納 綾	土井真弓	武田志乃					前島郁			中村純子				
専門職としての継続教育	神戸	10月19日			松本京子	後藤理美	深江登志子	伊丹照美			栗津智美							
がん化学療法の実践	神戸	11月8日					森本葉子			江崎公代 森田昌子								
キャリアアップ研修	神戸	6月19日	森野エミ															
退院計画調整における看護師の役割(システム管理編)	神戸	1月16日			日々恵美子	山内明					坂上朋子			大原美代子 長谷川陽子				
看護における医療安全と質の管理	神戸	9月7日			西村佳子	大中清文		谷本江利子										
目標面接に活かすコーチング	神戸	7月5日			藤定睦子					川崎紀子	前原由紀							
これからの病院経営と看護の経済的評価	神戸	11月15日					竹井明子		藤田真理子									
看護管理ファーストレベル	神戸	7月17～8月27日													斉藤富美代			
看護管理ファーストレベル	神戸	11月12～12月19日																
看護管理セカンドレベル	神戸	9月10～10月26日									檜田隆子							
看護サービスと看護必要度	神戸	1月24～25日																
医療安全事例分析研修	神戸	10月29日～30日			荻野朱美													
周産期医療における生命倫理	東京	7月26日～28日	本多綾子		熊本裕美													
周産期医療研修会	東京	11月26日～30日		中村文	奈須瞳													
自治体病院看護管理者研修	広島	11月28日～30日		中西亜希子					坂本郁子									
全国自治体病院協議会 看護必要度研修	東京	11月10日													斉藤富美代			藤久保真季
合計			4	10	13	8	13	6	4	5	9	2	1	6	3			1

平成19年度 学会等参加者

研 修 会	開催地	開催月日	救急	産科	NICU	GCU	HCU	ICU	手術室	血液腫瘍	混合	学童	循環A	循環B	一般外科	外来	看護部	ME
日本小児救急医学会	鹿児島	6月15日～16日													清水称喜 圓尾阴子			
日本小児泌尿器科学会	神戸	7月13日～15日														鎌田直子		
日本母性衛生学会	茨城	10月11日～12日		杉友コリ														
日本臨床工学会	名古屋	5月12日～13日																中村智裕
日本小児ストーム・排泄管理学会	東京	4月28日			小泉仁美											鎌田直子		
日本看護協会看護教育分科会	千葉	8月9日～10日				後藤理美												
日本小児がん研究会	仙台	12月14～15日								川崎紀子						濱田米紀		
日本新生児学会	愛媛	11月24日～25日			柳川瀬涼子	西村佳子												
日本体外循環技術医学大会	長崎	11月23日～24日																中村智裕
日本環境感染症学会	長崎	2月22日～23日			鳴滝由佳													
合計				1	3	2				1					2	3		2

看護部

看護学生

看護学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習病棟
兵庫県立看護大学	総合看護 (4年生)	15名	6月4日～6月29日	血液主体、HCU、循環器A、 循環器B、混合、学童
兵庫県立看護大学	生涯健康看護実習 (3年生)	20名	7月9日～7月27日	HCU、血液主体、循環器A、 循環器B、混合、学童
	生涯健康看護実習	20名	10月1日～10月19日	血液主体、HCU、循環器A、 循環器B、混合、血液
兵庫県立看護大学	インパクト実習 (1年生)	16名	7月30日～8月3日	血液主体、混合、循環器B、学童
兵庫県立看護大学	出会い実習 (2年生)	21名	1月28日～2月8日	血液主体、HCU、循環器A、 循環器B、混合、学童
兵庫県立看護大学	総合看護技術実習 (4年生)	20名	6月5日～6月9日	血液主体、HCU、循環器A、 循環器B、混合、血液
兵庫県立 総合衛生学院 看護学科1部	小児看護実習	13名	5月15日～5月25日	学童、混合、循環器A、循環器 B、血液
		6名	6月5日～6月15日	循環器A、循環器B
		6名	6月19日～6月29日	循環器A、循環器B
		13名	8月28日～9月7日	学童、混合、循環器A、循環器 B、血液
兵庫県立 総合衛生学院 看護学科2部	産科看護実習	6名×4G 4名×2G 計38名	5月17日・18日 5月31日・6月1日 7月12日・13日 8月30日・31日 9月6日・7日 10月10日・11日	産科病棟
兵庫県立 総合衛生学院 助産学科	新生児看護実習	4名	9月26日～9月28日	GCU病棟
		4名	10月3日～10月5日	
		4名	1月9日～1月11日	
		4名	1月23日～1月25日	

看護部ボランティア

活動実績

ボランティアグループ	活動内容	活動時間
協会ボランティア (神戸生活指導研究会病院ボランティア)	カルテのセット組・お絞りタオル作成・ 外来患者の案内・玩具の片付け外来・病棟での患者の遊び相手	毎週月・金曜日10:30～15:00 活動者数：25名
病院ボランティア (こども病院で募集)	外来・病棟での患者の遊び相手・玩具の片付け・外来患者の案内縫製作業 など	月～金曜日 1～3回/週 活動者数：15名

ボランティアグループ	内容	開催日	担当者
協会ボランティア (神戸生活指導研究会病院ボランティア)	インフルエンザ予防接種	11月26・27・28日	藤久保 真季 周藤 育子 今井 澄子 下雅意つるえ 凧 真貴子
病院ボランティア	インフルエンザ予防接種	11月26・27・28日	
	ボランティア募集・受付	6月～8月	
	* 10月より新ボランティアの方 5名 活動開始		
健康診断担当医師：大橋 周産期センター長			

ボランティアグループ	内容	開催日	開催場所
神戸女子大学キッズリーダー部	ペープサートパネルシアター	2月21日 15:00～16:00	研修室A B
フィーリングアーツ研究会	フィーリングアーツ (光と音の芸術)	6月29日 13:30～16:00 2回公演	研修室A B
神戸大学児童文化研究会	人形劇	9月29日 15:00～15:45	研修室A B
こうべママ	人形劇・切り絵遊び	11月15日 15:00～16:00	6階・7階 プレイルーム
神戸ハーバーライオンズクラブ	クリスマス会	12月18日 15:00～16:00	周産期センター ロビー

看護部委員会活動

<p>2007年 主任会 <活動回数：7回></p>
<p><活動目的></p> <p>1. 患者様やご家族が安心と満足を得られるよう主任としての役割を遂行し、看護の質の向上を図る</p> <p><目標></p> <p>1. 病院としての課題達成（機能評価受審等）に向けての取り組みを率先して実行できる</p> <p>2. 受け持ち看護師として責任ある行動が主体的に取れるようスタッフ教育を行う</p> <p><活動内容></p> <p>1) 昨年度の固定チームナースング実践評価結果を踏まえ、課題達成に向け取り組む受け持ち看護師の決定についての取り決めを成分化する 患者家族と共に立案する看護計画の指針案を作成する 「受け持ち看護師の役割と業務」と「日々の受け持ち看護師の役割と業務」の成分化をする 日々のカンファレンスの指針の作成をする 固定チームナースング実践ガイドの改正をする</p> <p>2) 各部署及び全体の年間固定チームナースング実践評価を行う</p> <p>3) 病院機能評価に向けての現状の問題点を抽出する</p> <p>4) 看護部が企画している活動を運営する DPC導入にむけての啓蒙活動 ふれあい看護体験の企画運営（平成19年7月24日） 看護実践報告会の企画運営（平成20年2月16日）</p>
<p>2007年度 教育委員会 <活動回数：12回></p>
<p><活動目的></p> <p>1. さまざまな教育背景を持つ看護職員に対して、当院で看護を行っていくために必要な知識・技術の修得や態度を育成し、より質の高い看護ケアを提供できるように看護師個々を支援する。</p> <p>2. 看護部の理念や目標を達成するために、看護師継続看護について企画・運営・評価を通して看護師個々の成長を図ることができるよう活動する。</p> <p>3. 看護部における集合教育は、現場における日々の教育支援につながることや動機付けが主たるねらいであるから、現場における教育との関連性・継続性を図ることができるよう運営する。</p>

< 目標 >

1. アセスメント、実践能力向上に向けて集合教育とOJTとの連動性・継続性をはかる
2. より質の高い看護ケアを提供できるように看護師個々を支援する
3. こども病院におけるジェネラリスト育成を検討する

< 活動内容 >

1. 新規採用者オリエンテーションの企画・運営（平成20年4月4月1日～7日）
2. 集合教育の企画・運営
 - 1) 新人 : 4回/年
 - 2) ラダー : 1回/年
 - 3) ラダー : 3回/年
 - 4) ラダー : 3回/年
 - 5) ラダー : 回/2年
 - 6) ジェネラリスト研修:ラダー 対象 6回/年
 - 7) 母子フォローアップ研修（4回）全看護師対象 時間外研修
家族看護

19年度 安全対策委員会 < 活動回数：11回 >

< 活動目的 >

1. 看護事故防止対策の立案と監査システムの確立、定期的な監査の実施、指導を行う
2. ヒヤリハット、事故事例の分析、評価を行い安全策を検討する
3. 必要なら業務手順委員会と連携を図り、看護部基準・手順を検討する
4. 年間のデータ分析とまとめ

< 目標 >

1. 誤薬防止：指示受けミス、思いこみ、確認不足による与薬忘れの減少を図る
2. 転倒・転落防止：家族への安全指導の充実と安全チェック表の使用と評価を行う
発生時のマニュアルを作成する
3. ライントラブル防止：チューブトラブル、クレンメ、三方活栓操作ミス減少を図る
4. 広報活動：安全ニュースを通して、情報共有、安全意識の向上を図る

< 活動内容 >

1. 誤薬状況の内容調査分析を行い部署へフィードバックし、注意喚起と対策を実施した
2. 転倒・転落について家族指導対策を立案し、指導状況の調査と評価を行った
発生時マニュアルを作成した
3. ライントラブルの現状調査と対策を実施した
4. ニュースを通して委員会活動報告や部署の安全への取り組み取材を行い、毎月新聞発行し、重大事象発生時はタイムリーに広報活動を行った。

業務・手順委員会 <活動回数：11回>

<活動目的>

- (1) 日常業務を見直し、業務改善・スリム化、効率化を図り看護ケアの質向上をはかる。
- (2) (1)で見直したものは必ず看護基準・手順として成文化しておき、評価できるようにしておく。

<目標>

- (1) 看護手順の基本となるものに沿って、手順の修正及び新規作成を行う。
- (2) 在宅マニュアルの整備。
- (3) 看護手順の監査を実施し、現状の把握と今後の対策を講じる。

<活動内容>

- (1) 手順についての考えを基に、倫理面、リスク面、感染面、エビデンスを重点において修正した。
- (2) 前年度繰越になった11項目の見直しと診療介助の11項目の見直しをした。
- (3) 在宅マニュアル体系図に沿ってPDマニュアルを完成した。
- (4) 経管栄養と胃ろう栄養を在宅マニュアル体系に沿って修正した。
- (5) 看護手順の監査【清拭】を2回/年実施した。(8月と1月)
- (6) 監査結果から患者の権利や安全の視点をいれた手順に修正した。

感染対策委員会 <活動回数：11回>

<活動目的>

- (1) 院内感染対策委員会と連携し、感染防止を推進する
- (2) 院内感染防止対策の見直しと監査システムの確立、定期的な監査の実施と指導を行う

<目標>

- (1) 機能評価受審にむけて整え、ICTと連携して血流サーベイランスを実施する
- (2) 病院環境を改善するため、環境監査をシステム化する
- (3) 感染リンクナースの育成する

<活動内容>

- (1) リンクナースは各部署の感染状況をICTメンバーと協議し感染防止対策を実施した
- (2) 血流サーベイランスを2回実施、感染率を出し、結果を部署にフィードバックし注意喚起した
- (3) 環境感染監査を2回実施し結果を部署にフィードバックし、環境改善を行った
- (4) 職員対象の感染対策研修会の看護部門担当を企画、実施した
- (5) 環境感染の監査について「第23回日本環境感染学会」に発表した
- (6) 教育のための「リンクナースファイル」を作成した

看護部記録委員会 <活動回数；11回>

<活動目標>

1. 質的監査と勉強会を効果的に実施し、日常的に看護ケアの質的評価を定着させる。
2. 看護記録と計画を連動させ、看護の経過が見える記録にする。
3. 看護計画と連動したクリニカルパスの試作とフォーマットの作成を行う。
4. クリニカルパス監査ツールの作成、監査を行なう。
5. 看護記録記載要綱・クリニカルパス・監査ツールの保存方法の検討を行う。

<活動内容>

1. 記録についての勉強会、質的監査の事例検討を行ない、質的監査を7月・12月に施行した。監査を記録の質向上の教育の一つとして、ラダー4以外の看護師も行なえるよう監査方法を変更した。
2. 7月の監査結果から看護計画との連動について共通の問題点を挙げ、改善点を各病棟で取り組み12月監査を行なう。各病棟での監査は実施できたが、質的監査の結果集計方法が各病棟で違い、評価方法を統一した。
3. 心カテ・斜視の看護計画と連動したクリニカルパスを試作した。そのフォーマットに順じて帝王切開のパス、手術室による日帰り手術パスが作成できた。
4. クリニカルパス監査ツールの作成を行なった。10月に監査を行ない、記載要綱、監査ツールの不備が見られ、看護計画に連動したパスにも対応できるよう検討・修正し、12月に監査を行なった。
5. MOでの保存として、記載要綱の変更、新規パス、パスの変更・修正、などの手順を明確にし、各部署での管理を決定する。
6. DPC開始に伴い、情報の漏れを防止するため、看護記録1号用紙の見直しを行い用紙の変更をする。

臨床指導者会 <活動回数：6回>

<活動目的>

1. 臨床指導者の育成を図り、看護教育の質の向上を図る
2. 看護教育について理解を深め、実習指導に必要な知識、技術を習得し効果的な実習指導ができる
3. 看護学校との連携を図るために、連絡会議を持つ

<目標>

1. 患者様を優先した安全で有効な実習を行える環境が提供できる
2. 学生指導を通して指導スキルの向上、自己成長ができる
3. 各部署全体で指導スキルの向上ができるような教育的かわりができる

< 活動内容 >

1. 実習の打ち合わせ、実習終了後の評価を教員と委員間で行った。
2. 実習新聞を作成し、実習や学生についての情報を掲載することで、学生理解につなげることができた。
3. 実習を通して出た問題に対して、検討を行い指導スキルの向上につなげた。
4. 委員とスタッフ間の連携をはかるシステムとして、連絡用紙の評価・修正を行った。
5. 臨床実習指導指針の見直しを行った。

WOCケア部会 < 活動回数：11回 >

< 活動内容 >

1) 事例検討

各部署のWOCケアに関する事例検討を定期的に行った。各委員のアセスメント能力や対処方法、新しい製品の知識などを得ることができ、各部署への還元も徐々に進んだ。WOC委員用知識・技術チェックリストは、委員の能力の向上に効果があった。

2) 院内勉強会の開催

「院内褥瘡発生状況とリスクアセスメント」、「褥瘡予防、予防具の体験」、「スキンケア：創傷治癒、軟膏とドレッシング材の使用法」、「ストーマケア：新人対象」について開催し約30～50名の出席があった。

3) その他の活動内容

留置針の圧迫による褥瘡予防としてマイクロフォームを導入した。

摂食部会 < 活動回数：11回 >

< 活動内容 >

1) 事例検討

各部署の摂食問題を抱える患者の検討会を継続して行い、再入院や転棟時にも継続した関わりができるようにした。今年から開始となったNST部会・リンクナースとも連携し、摂食・栄養問題のある患者へのチーム医療としてのアプローチも可能になってきている。

2) データーベースの構築

過去の事例及び検討内容から、「摂食アルゴリズム」を作成した。

呼吸ケア部会 < 活動回数：11回 >

< 活動内容 >

1) 在宅療法指導マニュアルの作成（気管切開療法について）

2) 呼吸療法マニュアルの修正、呼吸ケアに関する看護手順の修正・作成

3) 病棟訪問活動の継続（3回実施）：呼吸ケア関連事故の予防と啓蒙

4) 院内MEとの連携：呼吸器や呼吸ケア関連物品の管理について部会時間内で話し合い、下記5) 6)において連携した

5) 勉強会開催：各種呼吸器の管理などをテーマに6回実施。

MEや各業者と連携して行った。平均参加人数44名。

6) 呼吸ケア関連物品の種類や管理方法の検討（ディスポ回路、吸入器、アンビュー加湿びんの管理など）

7) 研修や各病棟での救急蘇生や呼吸ケアに関する勉強会支援

3. 研修医・専攻医 指導記録

専攻医：吉村 依里子

研修科：麻酔科

研修期間：2005.10.1～2007.10.31

指導医：香川 哲郎

麻酔件数	699件
------	------

専攻医：岩淵 いさな

研修科：麻酔科

研修期間：2006.4.1～2007.3.31

指導医：香川 哲郎

麻酔件数	383件
------	------

専攻医：横井 信哉

研修科：麻酔科

研修期間：2006.10.1～2007.3.31

指導医：香川 哲郎

麻酔件数	204件
------	------

専攻医：永井 翼

研修科：麻酔科

研修期間：2007.4.1～2007.10.31

指導医：香川 哲郎

麻酔件数	251件
------	------

専攻医：鷓山 淳（平成15年）

研修科：脳神経外科

研修期間：2007.4.1～2007.9.30

指導医：長嶋 達也、河村 淳史、山元 一樹

症例	手術経験数
脳腫瘍	10
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか	2
開頭脳内血腫	1
バイパス手術	9
急性硬膜外血腫	1
急性硬膜下血腫	2
硬膜下血腫・水腫	5
頭蓋・脳奇形	4
脊椎・脊髄奇形	12
水頭症脳室シャント	24
脊椎・脊髄腫瘍	4
脊髄空洞症	0
その他	8
計	82

専攻医：山本 大輔（平成16年）

研修科：脳神経外科

研修期間：2007.10.1～2008.3.31

指導医：長嶋 達也、河村 淳史、山元 一樹

症例	手術経験数
脳腫瘍	3
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか	
開頭脳内血腫	2
バイパス手術	3
急性硬膜外血腫	2
急性硬膜下血腫	4
硬膜下血腫・水腫	3
頭蓋・脳奇形	2
脊椎・脊髄奇形	8
水頭症脳室シャント	19
脊椎・脊髄腫瘍	4
脊髄空洞症	2
その他	9
計	61

研修医：井上 結香子

研修科：眼科

研修期間：2006.7.1～2007.6.30

指導医：野村 耕治、西崎 雅也

症 例	症例数	
	執刀	助手
斜視	96	174
内反症	14	25
眼瞼下垂	0	3
霰粒腫	6	5
白内障	0	26
緑内障	0	10
硝子体	0	3
眼球摘出	0	0
眼瞼腫瘍	0	0
その他	0	22

研 修 医：大崎 陽子

研 修 科：形成外科

研修期間：2007.1.1～2007.12.31

指 導 医：大山 知樹

症 例	症例数 350	
	執刀 177	助手 173
良性腫瘍・母斑	75	36
悪性腫瘍	0	0
頭蓋・顔面骨切り	0	3
顔面骨骨折	0	1
耳介形成	2	6
副耳・耳瘻孔	34	16
術前顎矯正	0	4
口唇裂	3	12
口蓋裂	2	20
唇裂二次修正	1	11
顎裂骨移植	0	14
口蓋瘻孔	0	3
咽頭弁	0	0
舌小帯・上唇小帯	4	6
手の先天奇形	20	6
足の先天奇形	14	2
手足の骨延長	0	3
臍ヘルニア	6	0
外傷	1	2
その他	8	29

研 修 医：浜村 清香

研 修 科：整形外科

研修期間：2007.4.1～2008.3.31

指 導 医：薩摩 真一、小林 大介

主な症例	執刀	助手
ソルター骨盤骨きり術	1	3
先天股脱観血的整復術	0	3
大腿骨骨きり術	0	5
骨延長術	0	10
アキレス腱切腱術	10	2
足部矯正	2	3
距骨下関節全周解離術	0	2
側湾症	4	11
多(合)指、多(合)趾症	14	2
骨折	10	5
抜釘など	20	2
剛直母指	17	2
骨頭すべり	3	0

研 修 医：堂垣佳宏

研 修 科：整形外科

研修期間；2006.10.1～2007.3.31

報道

テーマ	所属科	発表者名	報道媒体	報道年月日
心房中隔欠損症の新治療法 ～県内初実施へ～こども病院	循環器科	田中敏克	神戸新聞	2007年11月30日

学 術 活 動

1. 書籍

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
総排泄腔外反症、膀胱外反症、尿道上裂、総排泄腔遺残症	泌尿器科	杉多良文	共著	田中秀子、溝上祐子	失禁ケアガイドランス	87	99	日本看護協会出版会	2007年9月
視能訓練士試験問題	眼科	山本 節	編集	山本 節	視能訓練士（スペシャリストへの道）	0	231	メデイカル 葵出版	2007.10.31
視野測定の実際と留意点・小児の視野測定	眼科	野村耕治	共著	根木 昭	眼科診療プラクティス. 15 視野	309	311	文光堂	2007/5/24
緑内障	眼科	野村耕治	共著	野村耕治	子どもの目の病気とケア	79	87	メデイカ出版	2007/6/25
眼圧検査	眼科	野村耕治	共著	野村耕治	子どもの目の病気とケア	170	176	メデイカ出版	2007/6/25
視能訓練士試験問題	眼科	野村耕治	共著	山本 節	視能訓練士 スペシャリストへの道(5)	161	171	メデイカル 葵出版	2007/10/31
母斑症	眼科	野村耕治	共著	田野保雄、桶田哲夫	今日の眼疾患治療指針 第2版	299	301	医学書院	2007/10/15
眼振	眼科	野村耕治	共著	田野保雄、桶田哲夫	今日の眼疾患治療指針 第2版	493	496	医学書院	2007/10/15
微小斜視	眼科	野村耕治	共著	田野保雄、桶田哲夫	今日の眼疾患治療指針 第2版	486	487	医学書院	2007/10/15
微小斜視弱視	眼科	野村耕治	共著	田野保雄、桶田哲夫	今日の眼疾患治療指針 第2版	493	493	医学書院	2007/10/15
ホモシステン尿症	眼科	野村耕治	共著	田野保雄、桶田哲夫	今日の眼疾患治療指針 第2版	521	522	医学書院	2007/10/15
Marfan 症候群	眼科	野村耕治	共著	田野保雄、桶田哲夫	今日の眼疾患治療指針 第2版	522	523	医学書院	2007/10/15

テ - マ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Weill-Marchesani 症候群	眼科	野村耕治	共著	田野保雄、桶田哲夫	今日の眼疾患治療指針 第2版	523	523	医学書院	2007/10/15
外来でよくみる病気・斜視	眼科	野村耕治		河野陽一	保護者に伝えたいこどもの病気・検査のポイント100	20	22	中外医学社	2007/9/1
こどもと形成外科	形成外科	西本 聡	共著	兵庫県医師会乳幼児保険委員会	乳幼児健診時に必要な境界領域の最近の進歩	35	62	兵庫県医師会乳幼児保険委員会	2005.12
O脚・X脚	整形外科	薩摩真一		小児科診療増刊号	症候からみた小児の診断学	268	271	診断と治療社	2007
分娩骨折（鎖骨骨折）	整形外科	薩摩真一		岩本幸英	スタンダード OS NOW (Instruction)	2	10	メジカルビュー社	2007
中間肢異形成症	整形外科	薩摩真一		越智隆弘	整形外科大系・骨系統疾患、代謝性疾患21	111	113	中山書店	2007
X連鎖性遷移性脊椎・骨端異形成症	整形外科	小林大介、薩摩真一		越智隆弘	整形外科大系・骨系統疾患、代謝性疾患21	74	77	中山書店	2007
踵骨骨髄炎	整形外科	薩摩真一		越智隆弘	整形外科大系・下腿・足関節・足部 18	309	312	中山書店	2007
Larsen synd.	整形外科	薩摩真一		日本整形外科学会 小児整形外科学委員会	骨系統疾患マニュアル (改2)	42	43	南江堂	2007
先天性股関節脱臼	整形外科	薩摩真一		五十嵐隆	My Med BETA website			スロージョーリング	2007
呼吸・循環を整える技術	看護部	濱田米紀	共著	中野綾美	ナーシング・グラフィカ29 小児看護技術	118	134	メデイカ出版	2007年1月
ハイリスク児の管理 未熟児無呼吸発作	指導相談・地域医療連携部	山崎武美	共著	新生児医療連絡会	NICU マニュアル 第4版	138	141	金原出版	2006.12
臨床検査	循環器科	寺野和宏	単著	中澤 誠	周生期循環異常	134	150	メジカルビュー社、東京	2007年9月10日

テ ー マ	所 属 科	発 表 者 名	単 著、 共 著 の 別	編 者 名	書 籍 名	開 始 頁	終 了 頁	発 行 元	発 行 年 月
診 断 後 ど う 対 応 す る か ？ 新 生 児	循 環 器 科	寺 野 和 宏	単 著	中 澤 誠	周 生 期 循 環 異 常	182	190	メ ジ カ ル ヒ ュ ー 社、 東 京	2007 年 9 月 10 日

2. 雑誌発表表

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第巻	第号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
未熟児動脈管開存症	新生児科	芳本誠司	Neonatal Care	20	8	39	46	メデイカ出版	2007.8.
脱水	新生児科	溝淵雅巳	周産期医学	37	増刊号	496	498	東京医学社	2007.11.30
先天性心疾患を合併した極低出生体重児60例の予後	新生児科	芳本誠司	日本小児科学会雑誌	111	4	562	567	日本小児科学会	2007.4.1
1児のみアトピー型脳性麻痺を呈した多胎児の3例	新生児科	坂井仁美	近畿新生児研究会雑誌		16	13	19	近畿新生児研究会	2007.11
ロタウイルス腸炎罹患中に両側尿管結石による急性腎不全を呈した1幼児例	腎臓内科	藤田晃生、千田麻里子、田中亮二郎、高木志寿子、相野谷慶子、乃美昌司、杉多田良文	日本小児腎不全学会誌	27		43	45		2007
OCRL1 mutations in patients with Dent disease phenotype	Department of Nephrology	Sekine T, Nozu K, Iyengar R, Fu XJ, Matsuo M, Tanaka R, Iijima K, Matsui E, Harita Y, Inatomi J, Igarashi T	Pediatric Nephrol	22		975	980		2007
Prognosis and pathological characteristics of five children with non-Shiga toxin-mediated hemolytic uremic syndrome.	Department of Nephrology	Kamioka I, Nozu K, Fujita T, Kaito H, Tanaka R, Yoshiya K, Iijima K, Nakamishi K, Yoshikawa N, Matsuo M	Pediatr Int	49		196	201		2007
Long-term follow up of juvenile acute nonproliferative glomerulitis (JANG)	Department of Nephrology	Fujita T, Nozu K, Iijima K, Kamioka I, Kaito H, Tanaka R, Nakamishi K, Matsuo M, Yoshikawa N	Pediatric Nephrol	22		1957	1961		2007
小児泌尿器科 Up-to-date	泌尿器科	乃美昌司、久松 英治、高木志寿子、杉多良文	兵庫県小児科医学会報	48		2	6	兵庫県小児科医学会	2007年8月
精巣腫瘍	泌尿器科	杉多良文、乃美昌司、高木志寿子、久松英治	小児外科	39	8	984	988	東京医学社	2007年8月
小児における尿路変向の動向	泌尿器科	杉多良文、乃美昌司、高木志寿子	Urology View	5	3	58	63	メジカルビュー	2007年6月
停留精巣に対する“オーダーメイド”手術	泌尿器科	杉多良文、乃美昌司、高木志寿子、久松英治	泌尿器科紀要	53	7	509	512	泌尿器科紀要刊行会	2007年7月

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第巻号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
日帰り手術における精巣固定術	泌尿器科、 あいち小児 保健医療総 合センター 泌尿器科*	相野谷慶子、高木志寿子、 乃美昌司、杉多良文、藤 本浩明*、吉野薫*、谷風 三郎*	Audio-Visual Journal of JUA	13	3		日本泌尿器科学会	2007年7月
妊婦のGBS (B群溶血性連鎖球菌) の管理	産科	船越 徹	産婦人科治療	95	1	26	永井書店	2007年7月
カルテ Q&A 妊娠と栄養	産科	船越 徹	神戸新聞	11月14日朝刊				2007年
小児眼内レンズ挿入症例の遠隔成績、 IOL&RS	眼科	稲富 誠、甲良由紀子、 山本 節、馬嶋慶直	IOL & RS	21	1	76		2007
乳幼児における角膜厚と眼圧について	眼科	山本 節、西崎雅也	日眼会誌	111	9	751		2007
視野測定の実際と留意点・小児の視野測定	眼科	野村耕治	眼科診療ブライクテイ 入	15		309	文光堂	2007/5/24
ムンプス感染症を契機に発症した小児視神経 炎の1例	眼科・脳神 経内科	井上結香子、西崎雅也、 野村耕治、丸山あずさ、 永瀬裕朗	眼科臨床医報	101	12	1184	眼科臨床医報会	2007/12/1
Alveolar bone regeneration utilizing b-TCP and platelet-rich plasma (PRP) derived from bone marrow aspirate.	形成外科	Oyama T, Nishimoto S, Takeda M.	Ann Plast Surg.	54	2	222		2005. 2
Prevention of mirror fogging by using suction to take clear photographs of the palate during general anesthesia for children.	形成外科	Takeda M, Nishimoto S, Oyama T.	Plast Reconstr Surg.	115	5	1438		2005. 4
【形成外科領域における症候群】 頭蓋・顔 面の異常を主徴とする症候群 顔面裂を伴う 症候群	形成外科	西本 聡	形成外科	48	4	367		2005. 4
母子相乗り自転車転倒2症例	形成外科	戸田直歩、武田匡弘、大山 知樹、西本 聡	保育と保健	11	2	27		2005. 6
独自に考案した装置による両側完全唇顎口蓋 裂における術前顎矯正	形成外科	大山知樹、吉村友希、大 崎陽子、石井信行	日本形成外科学会誌	127	2	127		2007
多発性翼状片症候群を合併し、気管切開を要 した軟口蓋裂の一例	形成外科 麻酔科	大崎陽子、大山知樹、吉 村友希、吉村依里子、香 川哲朗	日本頭蓋顎顔面外科 学会誌	123	4	305		2007
小児急性リンパ性白血病治療における中枢神 経系合併症 JACLS ALL-02研究	血液腫瘍科	梅田雄嗣、長谷川大一郎、 他	Rinsho Ketsueki.	48	3	204		2007

テ - マ	所属科	発表者名	書籍名	第 卷 号	開始頁	終了頁	発 行 元	発行年月
Outcome of Non-T-Cell-Depleted HLA-Haploidentical Hematopoietic Stem Cell Transplantation from Family Donors in Children and Adolescents.	血液腫瘍科	Yoshihara T, Hasegawa D, et al.	International journal of Hematology	85	3	246	255	2007
Prophylactic fresh frozen plasma may prevent development of hepatic VOD after stem cell transplantation via ADAMTS13-mediated restoration of von Willebrand factor plasma levels.	血液腫瘍科	Matsumoto M, Kosaka Y, et al.	Bone marrow transplantation	40	3	251	259	2007
Spontaneous improvement of hematologic abnormalities in patients having juvenile myelomonocytic leukemia with specific RAS mutations.	血液腫瘍科	Matsuda K, Kawasaki K, et al.	Blood	109	12	5477	5480	2007
Outcome of risk-based therapy for infant acute lymphoblastic leukemia with or without an MLL gene rearrangement, with emphasis on late effects: a final report of two consecutive studies, MLL96 and MLL98, of the Japan Infant Leukemia Study Group.	血液腫瘍科	Tomizawa D, Kosaka Y, et al.	Leukemia	21	11	2258	2263	2007
Prospective multicenter trial comparing repeated immunosuppressive therapy with stem cell transplantation from an alternative donor as second-line treatment for children with severe and very severe aplastic anemia.	血液腫瘍科	Kosaka Y, et al.	Blood	111	3	1054	1059	2007
Successful treatment of chronic granulomatous disease with fludarabine-based reduced-intensity conditioning and unrelated bone marrow transplantation.	血液腫瘍科	Hasegawa D, Takeda H, Kawasaki K, Kosaka Y, et al.	International journal of Hematology	in press				2007
Antithymocyte globulin and cyclosporine for treatment of 44 children with hepatitis associated aplastic anemia.	血液腫瘍科	Osugi Y, Kosaka Y, et al.	Haematologica	92	12	1687	1690	2007
The first confirmed case with C3 deficiency caused by compound heterozygous mutations in the C3 gene; a new aspect of pathogenesis for C3 deficiency.	血液腫瘍科	Kida M, Kosaka Y, Hayashi K, et al.	Blood Cells Mol Dis	40	3	410	413	2008
再生不良性貧血における免疫抑制療法のEBMは？	血液腫瘍科	小阪嘉之	EBM 小児疾患の治療			438	443	2007

テ-マ	所属科	発表者名	書籍名	第 巻 号	開始頁	終了頁	発 行 元	発行年月
小児 chiasma-hypothalamic glioma に対する治療戦略	血液腫瘍科	秋山英之、中溝聡、河村淳史、長嶋達也、竹田洋樹、長谷川大一郎、小坂嘉之、吉田牧子	No Shinkei Geka	35 11	1079	1085		2007
動くとき足を痛がるのですか?	整形外科	薩摩真一	小児外科	39 2	469	470		2007年
四肢短縮をきたす疾患	整形外科	薩摩真一	骨粗鬆症治療	6 3	18	22		2007年
小児科疾患に伴う膝関節障害に対する保存療法	整形外科	小林大介、薩摩真一	Orthopaedics	20 5	7	12		2007年
大腿骨頭すべり症の治療	整形外科	薩摩真一、佐藤雅人	日本小児整形外科学会雑誌	16 16	232	232		2007年
当院における二分脊椎症患者の整形外科的問題点	整形外科	小林大介、薩摩真一	日本小児整形外科学会雑誌	16 16	208	211		2007年
小児専門病院における服薬コンプライアンス向上への取り組み - 血液腫瘍科病棟にて -	薬剤部	上田 里恵	医薬ジャーナル	43巻 第12号	159	165	医薬ジャーナル社	平成19年 12月1日
健康かわら版：耳鼻科の咳	耳鼻咽喉科	阪本浩一	JA 共済情報：ふれ愛					2007
【新生児・乳児の診断・治療マニュアル】 気管切開の実施と管理	耳鼻咽喉科	阪本浩一、佐藤志以樹	JOHNS	23 (9)	1233	1236		2007
【子どもの健康管理「みみ はな のど」】 子どもの耳の病気	耳鼻咽喉科	大津雅秀	小児歯科臨床	12 (2)	12	19		2007
【子どもの健康管理「みみ はな のど」】 子どもの『のど』の病気 扁桃、アデノイド 疾患と小児睡眠時無呼吸症候群	耳鼻咽喉科	阪本浩一	小児歯科臨床	12 (2)	26	32		2007
【母親から外来でときに聞かれること】 耳だれが出るのですか?	耳鼻咽喉科	阪本浩一	小児外科	39 (4)	385	387		2007
【ここが知りたい他科知識】 画像診断について知っておきたいこと-PET から得られる頭頸部領域の情報は?	耳鼻咽喉科	河邊讓治、阪本浩一、塩見進	JOHNS	23 (3)	328	330		2007
免疫療法における小児科医との病診連携の試み	耳鼻咽喉科	阪本浩一	鼻アレルギーフロンティア	7 (3)	50	52		2007
カルテ Q&A- 感音難聴	耳鼻咽喉科	阪本浩一	神戸新聞	11月28日				2007

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第巻号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
TCPC 術後洞機能不全の検討-発生頻度と発生原因の考察-	心臓血管外科	吉田昌弘、大嶋義博、島津親志、松久弘典、日隈智憲、井上武、鄭男*、城戸佐知子*、田中敏克*、藤田秀樹*、齋木宏文*、井手健太郎	日本小児循環器学会雑誌	23	6	521	メデイカルトリビューン	2007.11
A novel mutation in the accessory DNA-binding domain of human steroidogenic factor 1 causes XY gonadal dysgenesis without adrenal insufficiency	代謝内分泌科	Anne L Reuter, Katsumi Goji, Nathan C Bingham, Masafumi Matsuo and Keith L Parker	European Journal of Endocrinology	2	157	233	European Society of Endocrinology	2007年8月
小児 chiasmatic-hypothalamic glioma に対する治療戦略-9小児例の治療経験-	脳神経外科	秋山英之、長嶋達也、河村淳史	脳神経外科	35	2	1079	医学書院	2007年
Clinical investigations of Syringomyelia	脳神経外科	Nagashima T	British J of Neurosurgery	21		464		2007年
虐待による頭部外傷に対する包括的アプローチ-2歳未満児の検討	脳神経外科	長嶋達也、河村淳史、山元一樹、鶴山淳、上谷良行、永瀬裕朗、中村肇	小児の脳神経	32		430		2007年
神経鞘腫	脳神経外科	甲村英二、藤田敦史、長嶋達也	小児内科、増刊号	39		445		2007年
Shaken baby syndrome の診断・治療に関する臨床的研究 2006年度報告	脳神経外科	長嶋達也	厚生労働省 精神・神経疾患研究委託費(18指-4) 発達期に発生する外因性脳障害の診断・治療予防のための実証的研究とガイドライン作成 研究報告書				厚生労働省	2007年
Evaluation of the management of arachnoid cyst of the posterior fossa in pediatric population: experience over 27 years.	脳神経外科	Marin-Sanabria E.A, Yamamoto H, Nagashima T, Kohmura E.	Child Nervous System	23	5	535		2007年
小児の脳神経外科救急	脳神経外科	長嶋達也	小児神経外科セミナーテキスト				日本小児神経学会	2007年
気道確保：小児用カフ付き気管チューブとその他の気道確保デバイス	麻酔科	香川哲郎	麻酔	56巻	5号	534	541	2007年5月
品胎妊娠経過中に痔核が悪化し仙骨硬膜外ブロックで疼痛管理を行った1症例	麻酔科	魚川礼子、鈴木毅、香川哲郎	麻酔	56巻	5号	579	581	2007年5月
恐怖感と痛みの強い処置を受ける患児に対する病棟麻酔サービス	麻酔科	村田洋	日本小児麻酔学会誌	13巻	1号	177	179	2007年8月

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第 巻 号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
毛髪・肝・腸症候群患者の麻酔経験	麻酔科	吉村 依里子、鈴木 毅、香川哲郎	麻酔	56巻 12号	1417	1418	克誠堂出版	2007年12月
スライド式気管形成術を行った気管狭窄児の呼吸ケアを振り返って	HCU	東 知宏	呼吸器ケア	第5巻 9号	50	55	メデイカ出版	2007年9月
終末期に移行した脳腫瘍の子どもと家族への看護	血液主体病棟	中平裕記子	小児看護	30 12	1738	1744	へるす出版	2007.11.15
特集：事例に基づく ベットサイド・コミュニケーション入門 各論：コミュニケーションからスタートする小児看護	看護部	工藤 好子	看護実践の科学	32 12	33	37		2007年11月
小児専門病院での専門看護師の活動	看護部	濱田米紀	看護	59 4	135	137	日本看護協会出版会	2007年3月
小児看護専門看護師による院内教育活動の実際	看護部	濱田米紀	小児看護	30 8	1179	1185	へるす出版	2007年7月
終末期の子どもと家族への看護	看護部	濱田米紀	小児看護	30 12	1718	1723	へるす出版	2007年11月
小児救急の現場から「突如の処置で子どもに何を伝えますか」	看護（小児救急医療センター）	清水 称喜	看護実践の科学	第32巻 第2号	P90	P91	看護の科学者	2007年2月
小児救急の現場から「子どもの急変に備える」	看護（小児救急医療センター）	清水 称喜	看護実践の科学	第32巻 第6号	P90	P91	看護の科学者	2007年6月
気管支狭窄症を合併した bronchopulmonary foregut malformation (BPFM) 外科的治療の問題点と予後を決定する因子	外科	津川二郎、和田英見、横井暁子、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治、津川力、赤坂好宣、金川公夫	小児外科	39 3	256	261	東京医学社	2007年3月
イレウスの診断と治療の原則 小児術後イレウスに対するイレウス管による保存的治療の適応とその限界	外科	津川二郎、連利博、高見澤滋、佐藤志以樹、西島栄治、赤坂好宣	小児外科	39 5	571	574	東京医学社	2007年5月
当院における腸重積症の治療戦略	外科	山下方俊、西島栄治、連利博、佐藤志以樹、高見澤滋、津川二郎、横井暁子、和田英見、畑田智子、金川公夫、赤坂好宣、上谷良行	日本腹部救急医学会雑誌	27 5	711	713	日本腹部救急医学会	2007年7月
ドレナージできない緊張性気胸	外科	津川二郎、和田英見、横井暁子、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治、出口英一	小児外科	39 7	853	856	東京医学社	2007年7月

テ - マ	所属科	発表者名	書籍名	第 卷 号	開始頁	終了頁	発 行 元	発行年月
Can biliary atresia be diagnosed by ultrasonography alone?	外科	Takamizawa S, Zaima A, Muraji T, Kanegawa K, Akasaka Y, Satoh S, Nishijima E	Journal of Pediatric Surgery	42	2093	2096	ELSEVIER	2007年12月
Insignificant seasonal and geographical variation in incidence of biliary atresia in Japan; a regional survey of over 20 years	外科	Wada H, Muraji T, Yokoi A, Okamoto T, Sato S, Takamizawa S, Tsugawa J, Nishijima E	Journal of Pediatric Surgery	42	2090	2092	ELSEVIER	2007年12月
M CRA of an anastomotic stenosis after esophagoesophagostomy for long gap esophageal atresia: a case report	外科	Takamizawa S, Yamanouchi E, Muraji T, Nishijima E, Satoh S, Tsugawa J	Journal of Pediatric Surgery	42	769	772	ELSEVIER	2007年 5 月
小児在宅ケアにおける医療と地域保健との連携 - 保健師の立場から -	指導相談・地域医療連携部	行 祥子	小児看護	第30巻 第5号	573	577	へるす出版	2007/ 5 / 1
年齢別にみた超低出生体重児の中・長期予後	総合診療科	上谷良行	周産期医学	37	421	425	東京医学社	2007年 4 月
吐血 症候からみた小児の診断学	総合診療科	佐治洋介	小児科診療	70	62	64	診断と治療社	2007年 1 月
全国調査からみた妊娠22～23週出生児の予後の推移	総合診療科	上谷良行	日本周産期・新生児医学会雑誌	43	877	879	日本周産期・新生児医学会	2007年12月
虐待による頭部外傷に対する包括的アプローチ - 2 歳未満児の検討	脳神経内科	長嶋達也、河村淳史、山元一樹、鶴山淳、丸山あずさ、永瀬裕朗、上谷良行、中村肇	小児の脳神経	32	430	437		

3. 口 述 発 表 表

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
1 児のみアテトーゼ型脳性麻痺を呈した多胎児の 3 例	新生児科	坂井仁美	第16回	第16回近畿新生児研究会	大阪	2007. 3. 10
超早産児における側脳室サイズと神経学的予後との関係についての検討	新生児科	吉形真由美	第110回	日本小児科学会	京都	2007. 4. 20
ECMO 離脱に NO 吸入、エボプロステノール併用が有用であった先天性横隔膜ヘルニアの 1 例	新生児科	芳本誠司	第110回	日本小児科学会	京都	2007. 4. 20
NICU で長期人工呼吸管理中の重症仮死児の現況	新生児科	坂井仁美	第110回	日本小児科学会	京都	2007. 4. 22
新生児側からみた PROM の分娩のタイミング	新生児科	中尾秀人	第34回	阪神周産期勉強会	西宮	2007. 4. 26
Brain Natriuretic Peptide Is a Predictor of Chronic Lung Disease in Preterm Infants.	新生児科	吉形真由美	2007	PAS annual meeting	Tronto, Canada	2007. 5. 7
Insulin-Like Growth Factor-1 Levels May Predict the Development of Retinopathy or Prematurity.	新生児科	溝淵雅巳	2007	PAS annual meeting	Tronto, Canada	2007. 5. 8
胎児期に診断された先天性胆道拡張症の 5 症例	新生児科	吾郷邦彦	第242回	日本小児科学会兵庫県地方会	神戸	2007. 5. 19
早発型大腸菌性髄膜炎で脳室炎後水頭症をきたした 1 例	新生児科	秋田大輔	第242回	日本小児科学会兵庫県地方会	神戸	2007. 5. 19
動脈管再開通を 2 回以上反復した超早産児の管理	新生児科	芳本誠司	第43回	日本周産期新生児医学会	東京	2007. 7. 9
多胎で 1 児のみアテトーゼ型脳性麻痺を呈した超低出生体重児の 3 例	新生児科	坂井仁美	第43回	日本周産期新生児医学会	東京	2007. 7. 9
Leaky Lung Syndrome と考えられた超早産児 3 例についての臨床的検討	新生児科	吉形真由美	第43回	日本周産期新生児医学会	東京	2007. 7. 9
超早産児の低血圧に対するハイドロコルチゾン投与：有効性に関する検討	新生児科	溝淵雅巳	第43回	日本周産期新生児医学会	東京	2007. 7. 10
電撃性紫斑病様の経過をとった非免疫性胎児水腫の同胞例	新生児科	秋田大輔	第43回	日本周産期新生児医学会	東京	2007. 7. 10
1 児のみ Potter's Sequence を認めた早産双胎2例の臨床的検討	新生児科	山本哲也	第243回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路	2007. 9. 22
慢性肺疾患における胸部 CT 所見と呼吸予後についての検討	新生児科	坂井仁美	第52回	日本未熟児新生児学会	高松	2007. 11. 24
在胎23, 24週の動脈管に対する予防的インドメサシン少量持続投与効果	新生児科	芳本誠司	第52回	日本未熟児新生児学会	高松	2007. 11. 25

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
在胎24週以下の超早産児に対するテガダーム皮膚貼付は高ナトリウム血症を減少させる	新生児科	溝淵雅巳	第52回	日本未熟児新生児学会	高松	2007.11.25
双胎における IUGR 児の検討	新生児科	上田雅章	第52回	日本未熟児新生児学会	高松	2007.11.25
早産 IUGR 児の短期予後に関連する因子の検討	新生児科	吉田加奈	第52回	日本未熟児新生児学会	高松	2007.11.25
血漿 BNP 値と CLD 発症・重症度との相関性についての検討	新生児科	吉形真由美	第52回	日本未熟児新生児学会	高松	2007.11.26
超低出生体重児における黄疸と term 相当での ABR との関連	新生児科	秋田大輔	第52回	日本未熟児新生児学会	高松	2007.11.26
小児の血管造影検査における被ばく線量分析 - I.I.・X線管球交換による被ばく線量の変化 -	放射線部	関尾直士	平成19年度	県立病院 技師研修会	神戸市	2007/7/21
小児の血管造影検査における I.I.交換が与える被ばく低減効果の検討	放射線部	関尾直士	第5回	県立病院学会	神戸市	2007/9/8
小児心大血管造影において I.I.交換がもたらす被ばく低減効果の検討	放射線部	関尾直士	第35回	日本放射線技術学会秋季学術学会	名古屋	2007/10/25
Shaken baby syndrome : 診断における問題	脳神経外科	長嶋達也、河村淳史、山英之、岡村有佑	第30回	日本神経外傷学会 シンポジウム	仙台	2007/3/17
多発性血管腫に伴う小脳 capillary hemangioma の一例	脳神経外科	中溝 聡、河村淳史、山英之、長嶋達也	第53回	近畿脳腫瘍研究会、脳神経外科学会近畿地方会	大阪	2007/4/7
虐待による2歳未満児の頭部外傷に対する包括的アプローチ	脳神経外科	長嶋達也、河村淳史、山元一樹、鶴山 淳	第35回	日本小児神経外科学会 シンポジウム	千葉	2007/5/31
多房生小脳毛細血管腫の一例	脳神経外科	鶴山 淳、河村淳史、山元一樹、長嶋達也、中溝 聡、秋山英之	第37回	兵庫県脳神経外科懇話会	神戸	2007/7/7
化学療法中にシヤント機能不全を繰り返した上衣腫の一例	脳神経外科	河村淳史、中溝 聡、山英之、長嶋達也	第35回	日本小児神経外科学会	千葉	2007/5/31
診断・治療時期に苦渋した胚細胞腫瘍6例	脳神経外科	河村淳史、鶴山 淳、山元一樹、長嶋達也	第6回	小児脳腫瘍治療研究会	大阪	2007/6/30
小児の脳腫瘍 なぜ手術が難しいのかしいの	脳神経外科	長嶋達也	第25回	小児脳腫瘍フォーラム 教育講演	大阪	2007/6/17
Tenozolomide および放射線治療が効果を示した小児神経膠芽腫の	脳神経外科	河村淳史、山本大輔、山元一樹、長嶋達也	第25回	日本脳腫瘍学会	東京	

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
頭蓋縫合早期癒合症に対する乳児期の骨延長法による前頭骨・眼窩上縁前進術	脳神経外科	鶴山 淳、河村淳史、山元一樹、長嶋達也		日本脳神経外科学会総会	東京	2007/10/3-5
小児胚細胞腫瘍に対する外科的治療のタイミングについての検討	脳神経外科	河村淳史、鶴山 淳、山元一樹、長嶋達也	第66回	日本脳神経外科学会総会	東京	2007/10/3-5
胎内診断された中枢神経奇形の検討	脳神経外科	山元一樹、鶴山 淳、河村淳史、長嶋達也	第66回	日本脳神経外科学会総会	東京	2007/10/3-5
診断が困難であった乳児脳室内腫瘍の1例	脳神経外科	河村淳史、鶴山 淳、山元一樹、長嶋達也	第4回	神戸脳腫瘍症例検討会	神戸	2007/9/19
側彎にて発症した syringomyelia を伴う lateral meningocele の1例	脳神経外科	山元一樹、鶴山 淳、河村淳史、長嶋達也	第56回	近畿脊髄外科研究会	大阪	2007/9/29
Clinical investigations of Syringomyelia	脳神経外科	長嶋達也、河村淳史、山元一樹	第2回	International Symposium of Syringomyelia, Syringomyelia 2007	イギリス、ラグビー	2007/10/23-25
Treatment of brain tumors in newborns and infants	脳神経外科	長嶋達也、河村淳史、山元一樹		アジア脳神経外科コンgres ACNS、イブニングセミナー	名古屋	2007/11/20
Shaken baby syndrome の診断・治療に関する臨床的研究	脳神経外科	長嶋達也、河村淳史、山元一樹		厚生労働省精神・神経疾患委託研究・報告会	東京	2007/11/21
兵庫県立こども病院におけるシャント手術	脳神経外科	山元一樹、長嶋達也、河村淳史、山本大輔	第25回	日本こども病院神経外科医会	東京	2007/11/23
小児の脳神経外科救急	脳神経外科	長嶋達也、河村淳史、山元一樹	第37回	日本小児神経学会・小児神経学セミナー	大阪	2007/11/24
兵庫県立こども病院における脳室内腫瘍2例の経験	脳神経外科	山本大輔、河村淳史、山元一樹、長嶋達也	平成19年度	神戸大学同門学会学術講演会	神戸	2007/11/9
大脳半球間裂に発生した小児脳腫瘍1例の診断	脳神経外科	河村淳史、山本大輔、山元一樹、長嶋達也	第5回	神戸脳腫瘍症例検討会	神戸	2008/3/12
日帰り手術棟における精巢固定術	泌尿器科	相野谷慶子、高木志寿子、乃美昌司、杉多良文	1	Kobe Urological Research Forum	神戸	2007.1.13
Quadruplication of the ureter	泌尿器科	Shizuko Takagi, Masashi Nomi, Yoshifumi Sugita	7	The 7th meeting of the Korean and Japanese Society of Pediatric Urologists	Busan	2007.2.24

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
小児泌尿器科 Up-to-date	泌尿器科	乃美昌司、久松 英治、高木志寿子、杉多良文	47	小児医学講座	神戸	2007. 3. 17
非触知精巣に対する腹腔鏡検査と精巣固定術	泌尿器科	乃美昌司、高木志寿子、杉多良文	95	日本泌尿器科学会総会	神戸	2007. 4. 14-17
出生前診断された水腎尿管症37例の臨床的検討	泌尿器科	高木志寿子、乃美昌司、杉多良文	95	日本泌尿器科学会総会	神戸	2007. 4. 14-17
腹壁導尿管路作成術	泌尿器科	杉多良文、乃美昌司、高木志寿子	95	日本泌尿器科学会総会	神戸	2007. 4. 14-17
Prognostic factor analysis in patients with primary vesicoureteral reflux	泌尿器科	Masashi Nomi, Sizuko Takagi, Yoshifumi Sugita		American Urological Association 2007 annual meeting	Anaheim	2007. 5. 19-24
経腰的手術が行われた異所性尿管瘤の臨床的検討	泌尿器科	乃美昌司、高木志寿子、杉多良文	16	日本小児泌尿器科学会総会	神戸	2007. 7. 13-15
埋没陰茎に対する包皮形成術	泌尿器科	高木志寿子、乃美昌司、杉多良文	16	日本小児泌尿器科学会総会	神戸	2007. 7. 13-15
腎盂形成術後に上部尿路トレナージは必要か	泌尿器科	杉多良文、乃美昌司、高木志寿子、久松 英治	16	日本小児泌尿器科学会総会	神戸	2007. 7. 13-15
小児泌尿器科における腹腔鏡手術と開放手術の位置づけ VUR：腹腔鏡手術と開放手術	泌尿器科	杉多良文、乃美昌司、高木志寿子、久松 英治	16	日本小児泌尿器科学会総会	神戸	2007. 7. 13-15
Cohen 法における尿管口形成の意義についての検討	泌尿器科	高木志寿子、久松 英治、乃美昌司、杉多良文	57	日本泌尿器科学会中部総会	奈良	2007. 11. 7 - 9
「おいしいおこめができるまで、おむすびまん おこめしゅぎよつたび」 ~こども病院における食の安心安全心（地産地消）と食育への取組について~	栄養指導課	城 裕恵、谷口章子、上村倫世、石川美幸、下浦佳之	第 5 回	兵庫県立病院学院学会	神戸市	2007. 9. 8
兵庫県における周産期医療システムの課題	産科	大橋正伸	平成18年度	滋賀県母性衛生学会	大津市	2007年2月8日
妊娠26週で Beckwith-Wiedemann 症候群と出生前診断された胎児臍帯ヘルニアの一例	産科	齋木美恵、船越 徹、上田大介、喜吉賢二、石原尚徳、佐本 崇、大橋正伸	第59回	日本産科婦人科学会学術集会	京都市	2007年4月13-17日
当院入院時に妊娠22週・23週であった前期破水症例32例の検討	産科	上田大介、石原尚徳、齋木美恵、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹、大橋正伸	第59回	日本産科婦人科学会学術集会	京都市	2007年4月13-17日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
緑膿菌による劇症型絨毛羊膜炎の1症例	産科	喜吉賢二、佐本崇、石原大介、齋木美恵、大橋正尚徳、船越徹、大橋正伸	第59回	日本産科婦人科学会学術集会	京都市	2007年4月13-17日
特別講演 切迫早産に対する硫酸マグネシウム療法の12年間の経験から 石橋を叩いてマグセントを使う	産科	大橋正伸	第113回	日本産科婦人科学会 関東連合地方会 部会	東京都	2007年6月3日
胎児水腫を認めた妊婦梅毒に対して AMPC 投与を施行した1症例	産科	上田大介、石原尚徳、齋木美恵、喜吉賢二、大橋正崇、船越徹、大橋正伸	第116回	近畿産科婦人科学会学術集会	大津市	2007年6月16-17日
産科医療にもっと光を 県潜在助産師就業支援事業について	産科	大橋正伸	第19回	兵庫県母性衛生学会	神戸市	2007年6月30日
当科における超緊急帝王切開 最近14例の検討	産科	齋木美恵、佐本崇、石原大介、齋谷深洋子、喜吉賢二、上田敏子、石原尚徳、船越徹、大橋正伸	第81回	兵庫県産科婦人科学会学術集会	神戸市	2007年7月1日
出生前診断され胎心不全徴候を認めた巨大胎盤血管腫の1例	産科	喜吉賢二、船越徹、石原大介、齋木美恵、大橋正尚徳、佐本崇、船越徹、大橋正伸	第43回	日本周産期・新生児医学会学術集会	東京都	2007年7月8-10日
胎児水腫を合併した妊婦梅毒に対して AMPC 投与が奏効した自験例	産科	上田大介、石原尚徳、齋木美恵、喜吉賢二、大橋正崇、船越徹、大橋正伸	第43回	日本周産期・新生児医学会学術集会	東京都	2007年7月8-10日
出生前診断された総排泄腔遺残の一例	産科	齋木美恵、船越徹、石原大介、石原尚徳、喜吉賢二、佐本崇、船越徹、大橋正伸	第43回	日本周産期・新生児医学会学術集会	東京都	2007年7月8-10日
示説 癒着胎盤	産科	船越 徹	平成19年	位育会臨床セミナー	神戸市	2007年8月5日
双胎間輸血症候群 (TTTS) に対して胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固 (FLP) を行った4症例	産科	齋谷深洋子、船越徹、上田大介、齋木美恵、喜吉賢二、上田敏子、石原尚徳、佐本崇、船越徹、大橋正伸	第117回	近畿産科婦人科学会学術集会	大阪市	2007年11月11日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
妊娠中よりCAOS (Chronic abruption-oligohydramnios sequence) を疑ったDD 双胎妊娠の周産期管理について	産科	喜吉賢二、上田大介、藪谷深洋子、齋木美恵、佐本敏子、石原尚徳、佐本崇、船越徹、大橋正伸	第117回	近畿産科婦人科学会学術集会	大阪市	2007年11月11日
四肢の疼痛・腫脹、歩行困難を主訴に受診した患者の検討	アレルギー科	笠井和子	第241回	日本小児科学会兵庫県地方会	尼崎市	2007. 2. 3
川崎病と全身型JIAの鑑別に苦慮した5例	アレルギー科	中川拓	第8回	近畿小児リウマチ・膠原病研究会	大阪市	2007. 4. 14
全身型若年性特発性関節炎に対するトシリズマブの第III相臨床試験	アレルギー科	横田俊平	第51回	日本リウマチ学会総会・学術集会	横浜市	2007. 4. 26
多関節型若年性特発性関節炎に対するトシリズマブの効果	アレルギー科	中岸保夫	第51回	日本リウマチ学会総会・学術集会	横浜市	2007. 4. 26
DNA マイクロアレイとバイオインフォマティクスを用いた若年性特発性関節炎の機能異常の解析	アレルギー科	石川悟	第51回	日本リウマチ学会総会・学術集会	横浜市	2007. 4. 26
川崎病と全身型JIAの鑑別に苦慮した5例	アレルギー科	中川拓	第242回	日本小児科学会兵庫県地方会	神戸市	2007. 5. 19
食物アレルギー一児に対する食物負荷試験1088例のまとめ	アレルギー科	三好麻里	第242回	日本小児科学会兵庫県地方会	神戸市	2007. 5. 19
呼吸不全で集中治療を要した気管支喘息児3例の検討	アレルギー科	三好麻里	第19回	日本アレルギー学会春季臨床大会	横浜市	2007. 6. 11
全身型若年性特発性関節炎の経過中にマクロロファージ活性化症候群になり蛋白漏出性胃腸症をきたした1例	アレルギー科	中川拓	第243回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路市	2007. 9. 22
全身型若年性特発性関節炎の経過中にマクロロファージ活性化症候群になり蛋白漏出性胃腸症をきたした1例	アレルギー科	中岸保夫	第17回	日本小児リウマチ学会総会・学術集会	横浜市	2007. 9. 29
全前回の当研究会で相談させていただいた不明熱の14歳女児の診断結果報告	アレルギー科	笠井和子	第9回	近畿小児リウマチ・膠原病研究会	大阪市	2007. 10. 27
食物摂取で症状が出現し再負荷試験で耐性獲得を確認したアトピー性皮膚炎児の検討	アレルギー科	三好麻里	第57回	日本アレルギー学会秋季学術大会	横浜市	2007. 11. 2
若年性特発性関節炎 (JIA) の初期病態一自験例29例の検討一	整形外科	浜村清香	第18回	日本小児整形形成外科学会学術集会	神戸市	2007. 11. 3
当院における食物負荷試験結果の報告	神鋼加古川病院小児科	谷中好子	第44回	日本小児アレルギー学会	名古屋	2007. 12. 9

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
小児 Inflammatory myofibroblastic tumor of the urinary bladder の一例	兵庫立こども病院 検査・放射線部病 理室1、血液腫瘍科2、 泌尿器科3、放射線科 4	吉田牧子1、川崎圭一郎2、 秋田大輔2、竹田洋樹2、 長谷川大一郎2、小阪嘉之 高、乃美昌司3、杉田良文3、 高木志津子3、赤坂好宣4、 橋村宏美4、山口善道4	第96回	日本病理学会総会	大阪市	平成19年3月15日
縦隔腫瘍	1)兵庫立こども病 院 検査・放射線部 病理室、2)同放射線 科、3)神戸市立市民 療センター中央市民 病院 病理、4)茨城 県立こども病院 外 科	吉田牧子1)、今井幸弘3)、 連利博4)、赤坂好宣2)、 山口善道2)、橋村宏美2)	2007年	小児腫瘍組織分類 委員会症例検討会	東京都、国 立成育医療 センター	2007年9月7日
呼吸器疾患を呈した4番染色体部分欠失児の1剖検例	1)兵庫立こども病 院 検査・放射線部 病理室、2)兵庫県 立こども病院 新生 児科	吉田牧子1)、芳本誠司2)、 中尾秀人2)	第27回	日本小児病理研究 会	東京都、国 立成育医療 センター	2007年9月8日
先天性右腎臓腫瘍の1例	兵庫立こども病院 検査・放射線部病 理室1、小児外科2)、 血液腫瘍科3)、放射 線科4)、西神戸医療 センター 病理科5)	吉田牧子1)、橋本公夫5)、 横井暁子2)、和田英貞2)、 津川二郎2)、高見沢滋2)、 佐藤志以樹2)、連利博2)、 西島栄治2)、長谷川大 一郎3)、川崎圭一郎3)、小 阪嘉之3)、赤坂好宣4)	第57回	関西小児病理研究 会	大阪市	平成19年1月13日
慢性肉芽腫症の一例	兵庫立こども病院 検査・放射線部病 理室1)、救急科2)	吉田牧子1)、尾崎佳代2)、 黒澤奈茶2)、上谷良行2)	第58回	関西小児病理研究 会	大阪市	平成19年6月23日
教育セミナー 小児白内障手術の術後管理	眼科	山本 節、東 範行、磯 部真理子、初川嘉一	第30回	日本眼科手術学会	京都	1月26日
小児眼科における救急疾患	眼科	山本 節、井上結香子、 西崎雅也、野村耕治	第22回	須磨医師会学術集 談会	神戸	3月24日
乳幼児における角膜厚と眼圧について	眼科	山本 節、西崎雅也	第32回	日本小児眼科学会	名古屋	6月15日
兵庫県下におけるターゲット別病院開発	眼科	渡邊和善、石原香織、吉 谷麻衣、片上千加子、山 本 節	第6回	日本組織移植学会	大阪	8月4、5日

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
兵庫アイバンクにおける過去5年間のドナー動向	眼科	石原香織、渡邊和誉、声谷麻衣、山本 節	第6回	日本組織移植学会	大阪	8月4, 5日
インストラクションコンコース 小児眼内レンズの問題点	眼科	山本 節、黒坂大次郎、矢ヶ崎悌司、仁科幸子	第61回	日本臨床眼科学会	京都	10月13日
目の健康	眼科	山本 節		神戸市市民健康大学講座	神戸	10月18日
小児緑内障の診断と手術治療	眼科	野村耕治	第37回	大阪眼科手術の会	大阪市	2007/5/12
シンポジウム：未熟児網膜症に対する私の考え方 視機能予後からみた未熟児網膜症治療	眼科	野村耕治	第32回	日本小児眼科学会 総会	大阪市	2007/6/15
専門別研究会 屈折調節 小児白内障と屈折異常	眼科	野村耕治	第61回	日本臨床眼科学会 総会	京都市	2007/10/11
間欠性外斜視に対する両外直筋後転術の手術成績	眼科	西崎雅也	第63回	日本弱視斜視学会 総会	名古屋	2007/6/15
当院における未熟児網膜症の治療状況	眼科	井上結香子	第32回	日本小児眼科学会 総会	名古屋市	2007/6/15
ハイドロキシアパタイトペーストを用いた唇裂鼻における鼻翼基部の修正	形成外科	大山知樹、吉村友希、大崎陽子	第50回	日本形成外科学会 総会学術集会	東京都	2007/4/13
当科における口笛様変形に対する修正術の変遷	形成外科	大崎陽子、大山知樹、吉村友希	第50回	日本形成外科学会 総会学術集会	東京都	2007/4/13
先天性頭皮頭蓋骨欠損症の一例	形成外科	吉村友希、大山知樹、大崎陽子	第38回	日本形成外科学会 関西支部学術集会	岸和田市	2007/6/23
片側唇顎口蓋裂用の nasal stent 付術前顎矯正装置	形成外科	大山知樹、吉村友希、大崎陽子	第25回	日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会	東京都	2007/11/8
出血性疾患にて当科を受診した2例	形成外科	大崎陽子、大山知樹、吉村友希	第86回	日本形成外科学会 関西支部学術集会	大阪市	2007/12/1
inflammatory rhabdomyofibrosis の一例	血液腫瘍科	川崎圭一郎、竹田洋樹、長谷川大一郎、小阪嘉之	平成18年度	日本横紋筋肉腫スライドグループ	東京	平成19年1月20日
慢性肉芽腫症に対する同種骨髄移植	血液腫瘍科	長谷川大一郎、竹田洋樹、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成18年度	兵庫県がん・細胞療法研究会	神戸	平成19年1月20日
末梢血幹細胞移植救済大量化学療法を施行した stage IV MRTK の一例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、竹田洋樹、川崎圭一郎、小阪嘉之、高見澤滋、佐藤志以樹、運利博、西島栄治、赤坂好宣、副島俊秀、吉田牧子	第4回	日本ウイルス腫瘍学研究会	東京	平成19年2月3日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
本邦2家系の解析から推測した遺伝性C3欠損症の分子病態	血液腫瘍科	大倉有加、依田弥奈子、 小阪嘉之、有賀正	平成19年度	日本小児科学会	京都	平成19年4月20日- 22日
骨髄非破壊的前処置により非血縁者間同種骨髄移植を行なった慢性肉芽腫症の一例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、福島雅子、 細川悠紀、竹田洋樹、川 崎圭一郎、小阪嘉之、水 上智之、布井博幸、落合 央、森尾友宏	平成18年度	日本造血細胞移植 学会	福岡	平成19年2月16- 17日
重粒子線治療を施行したstage IV MRTKの一例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、竹田洋樹、 川崎圭一郎、小阪嘉之、 高見澤滋、佐藤志以樹、 連利博、西島栄治、赤坂 好宣、副島俊典、吉田牧 子	平成18年度	近畿小児がん研究 会	大阪	平成19年3月3日
初発時、腫瘍による気管圧迫のため人工呼吸管理を要したT細胞型リンパ芽球性リンパ腫の一例	血液腫瘍科	寺岡由江、竹田洋樹、長 谷川大一郎、川崎圭一郎、 小阪嘉之、赤坂好宣、香 川、高見澤滋、佐藤志以 樹、連利博、西島栄治、 吉田牧子	平成18年度	神戸血液病研究会	神戸	平成19年3月17日
初発時、腫瘍による気管圧迫のため人工呼吸管理を要したT細胞型リンパ芽球性リンパ腫の一例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、寺岡由江、 竹田洋樹、川崎圭一郎、 小阪嘉之、赤坂好宣、香 川、高見澤滋、佐藤志以 樹、連利博、西島栄治、 吉田牧子	平成18年度	小児がんカンファ レンス	大阪	平成19年3月24日
剖検の結果、特殊心筋の変性と高度の血管炎所見を認めた慢性活動性EBV感染症の一例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、加地倫子、 竹田洋樹、川崎圭一郎、 小阪嘉之	平成19年度	EBV感染症研究会	東京	平成19年5月26日
小児後腹膜に発生し特異な進展形式を示したrhabdomyosarcomaの一例	血液腫瘍科	岩間祐基、藤井正彦、杉 村和朗、今西宏之、川崎 圭一郎、竹島泰弘	平成19年度	日本放射線学会	横浜	平成19年4月13日- 15日
肝芽腫からの腹腔内大量出血にて Abdominal compartment syndrome をきたした1例	血液腫瘍科	林耕平、竹田洋樹、長谷 川大一郎、川崎圭一郎、 小阪嘉之、上谷良行	平成19年度	日本小児救急医学 会	鹿児島	平成19年7月14日- 15日
mucosal cast を認めた造血幹細胞移植3例	血液腫瘍科	林耕平、長谷川大一郎、 竹田洋樹、川崎圭一郎、 小阪嘉之	平成19年度	VOD 研究会	大阪	平成19年7月26日
剖検の結果、特殊心筋の変性と高度の血管炎所見を認めた慢性活動性EBV感染症の一例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、加地倫子、 竹田洋樹、川崎圭一郎、 小阪嘉之	平成19年度	神戸血液病研究会	神戸	平成19年9月15日

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
同種骨髄移植後非寛解期に異なるドナーから再移植を行い初めて分子生物学的寛解を得たAML(M2)の一例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、林耕平、竹田洋樹、川崎圭一郎、小阪嘉之、中町裕司、河野誠司	平成19年度	臨床血液学会	横浜	平成19年10月11日-13日
後天性再生不良性貧血に対する免疫抑制療法後の再発症例の検討	血液腫瘍科	小原明、小阪嘉之、他	平成19年度	臨床血液学会	横浜	平成19年10月11日-13日
乳児期から類白血病反応を伴う易感染性を呈しMDSに進展した10歳女児例	血液腫瘍科	林耕平、竹田洋樹、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成19年度	兵庫県小児血液疾患懇話会	神戸	平成19年11月16日
臍帯血移植を施行したstage IVA 神経芽腫の1例	血液腫瘍科	岩谷壮太、林耕平、竹田洋樹、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成19年度	小児がんカンファレンス	大阪	平成19年11月17日
HLA一致同胞よりRIST(FM-05)を施行したAML with multilineage dysplasiaの女児例	血液腫瘍科	竹田洋樹、林耕平、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成19年度	日本小児血液学会	仙台	平成19年12月14日-16日
第一寛解中のMRDの上昇に対してGemtuzumab ozogamicin投与が奏効した急性骨髄性白血病(M2)の一例	血液腫瘍科	岩谷壮太、林耕平、竹田洋樹、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成19年度	日本小児血液学会	仙台	平成19年12月14日-16日
非血縁者間同種骨髄移植を施行したt(6;9)を有する急性骨髄性白血病の一例	血液腫瘍科	川崎圭一郎、林耕平、竹田洋樹、長谷川大一郎、小阪嘉之	平成19年度	日本小児血液学会	仙台	平成19年12月14日-16日
Flu, L-PAM, ATGの前処置中に突然死を来たし、剖検にて特殊心筋の変性と高度の血管炎所見を認めた慢性活動性EBV感染症の一例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、加地倫子、竹田洋樹、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成19年度	日本小児血液学会	仙台	平成19年12月14日-16日
腹腔出血を契機に発見された肝芽腫の3例	血液腫瘍科	竹田洋樹、林耕平、長谷川大一郎、川崎圭一郎、岡吉田牧子、赤坂好直、高見本竜弥、横井暁子、高見沢滋、佐藤志以樹、西島栄治、小阪嘉之	平成19年度	日本小児がん学会	仙台	平成19年12月14日-16日
小児胸腺腫の1例	血液腫瘍科	岡本竜弥、横井暁子、連利博、高野洋一、荒井洋志、尾藤祐子、高見沢滋、佐藤志以樹、西島栄治、吉田牧子、長谷川大一郎、小阪嘉之	平成19年度	日本小児がん学会	仙台	平成19年12月14日-16日
小児整形外科疾患の実際と今後の動向	整形外科	薩摩真一	2	須磨区整形外科医会	神戸	2007. 2. 24

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
二分脊椎症患者の歩行能力	整形外科	小林大介、薩摩真一、浜村清香	24	二分脊椎研究会	千葉	2007. 6. 30
Interference screw を使用した腱移行術	整形外科	薩摩真一、小林大介、浜村清香	24	二分脊椎研究会	千葉	2007. 6. 30
化膿性仙腸関節炎の2症例	整形外科	堂垣佳宏、小林大介、薩摩真一	39	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2007. 2. 3
臼蓋形成不全 片側性脱臼の健側を利用した研究	整形外科	小林大介、薩摩真一、浜村清香	46	日本小児股関節研究会	仙台	2007. 8 - 9
先天股脱治療後に発生したペルテス様変化に対するソルター手術の有用性	整形外科	薩摩真一、小林大介、浜村清香	46	日本小児股関節研究会	仙台	2007. 8 - 9
乳児期に発症した JIA の 2 症例	整形外科	浜村清香、薩摩真一、小林大介、三好麻里	40	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2007. 8. 4
診断と治療に難渋している股関節病変の 1 例	整形外科	薩摩真一、小林大介、浜村清香	40	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2007. 8. 4
下肢痛を主訴とした白血病患者	整形外科	小林大介、薩摩真一、浜村清香	18	日本小児整形外科学会	神戸	2007. 11. 3 - 4
JIA の初期病態	整形外科	浜村清香、薩摩真一、小林大介、三好麻里	18	日本小児整形外科学会	神戸	2007. 11. 3 - 4
当院における DDH の疫学調査	整形外科	薩摩真一、小林大介、浜村清香	18	日本小児整形外科学会	神戸	2007. 11. 3 - 4
Walking age で治療した DDH の 1 症例	整形外科	薩摩真一	1	大阪小児整形外科講演会	大阪	2007. 11. 4
小児整形外科疾患のマネージメント	整形外科	薩摩真一	77	三田地区整形外科症例検討会	三田	2007. 11. 30
	整形外科	Satsuma Shinichi, Kobayashi Daisuke	26	Annual meeting of European Pediatric Orthopaedic Society	Italy	2007. 4. 11-14
	整形外科	Kobayashi Daisuke, Satsuma Shinichi	15	Asia Pacific Orthopaedic Association	Korea	2007. 9. 9 - 13
耳鼻咽喉科におけるアレルギー疾患に対する漢方治療 鼻炎・咳・咽喉頭異常感に対する有用性	耳鼻咽喉科	阪本浩一	10	東播臨床漢方研究会	明石	2007/ 2 / 17
アレルギー性鼻炎の後鼻漏と咳	耳鼻咽喉科	阪本浩一		喉頭アレルギーフォーラム2007	名古屋	2007/ 4 / 14

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
乳幼児に対するアレルギー性鼻炎の診断	耳鼻咽喉科	阪本浩一	5	東播耳鼻科研究会	加古川	2007/10/11
耳のしくみと小児難聴	耳鼻咽喉科	大津雅秀		神戸市中央区医師会 校医養護教諭懇談会	神戸	2007/11/8
補聴器の種類と機能、フィッティングのための調整手段	耳鼻咽喉科	阪本浩一		補聴器相談医のための講習会	神戸	2007/11/25
聴覚検査と補聴器	耳鼻咽喉科	大津雅秀		補聴器相談医のための講習会	神戸	2007/11/25
Symposium III: Value of early intervention in hearing loss: Present state of universal newborn hearing screening in Japan with special reference of Hyogo prefectural Kobe Children's hospital	耳鼻咽喉科	Hirokazu Sakamoto, Masahide Otsu, Yoshiaki Nakai	11	Asia-Oceania ORL head & neck congress	Pattaya, Thailand	2007/11/22
咽喉頭異常感を主訴とした好酸球増多性鼻炎の2症例	耳鼻咽喉科	阪本浩一、吉田尚史	19	喉頭科学会総会	神戸	2007/3/8
乳幼児アレルギー性鼻炎診断の現況（鼻汁好酸球検査とRAST検査）	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	155	日耳鼻兵庫県地方部会	姫路	2007/3/25
急性脳炎後に言語障害を伴う高次脳機能障害を来した小児例	耳鼻咽喉科	柴切圭子、阪本浩一、大津雅秀	155	日耳鼻兵庫県地方部会	姫路	2007/3/25
乳幼児アレルギー性鼻炎の診断における鼻汁好酸球検査	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	98	日本耳鼻咽喉科学会総会	金沢	2007/5/18
当院における小児機能性難聴の現況（ASSRの診断への利用と心理検査よりみた患児像）	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀、柴切圭子	2	小児耳鼻咽喉科学会総会	仙台	2007/6/24
兵庫県立こども病院における新生児聴覚スクリーニング後精密聴力検査の現況	耳鼻咽喉科	大津雅秀、阪本浩一、柴切圭子	156	日耳鼻兵庫県地方部会	神戸	2007/7/7
小児難聴診断においてASSRはABRに替わることができるか？	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀、柴切圭子	156	日耳鼻兵庫県地方部会	神戸	2007/7/7
乳幼児における骨導ASSRを用いた伝音難聴診断の有用性と問題点	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	2	第2回ERA・OAE研究会	東京	2007/7/8
こども病院耳鼻科における言語聴覚士の役割・常勤化1年の業務と課題	耳鼻咽喉科	柴切圭子、阪本浩一、大津雅秀	5	県立病院学会	神戸	2007/9/8
ASSRにて聴力検査をおこなった乳児の聴力経過	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀、柴切圭子	52	日本聴覚医学会総会	名古屋	2007/10/5
耳鼻咽喉科外来における言語聴覚士の役割 県立こども病院言語外来の現況	耳鼻咽喉科	柴切圭子、阪本浩一、大津雅秀	157	日耳鼻兵庫県地方部会	西宮	2007/12/2

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
構音障害を呈した舌小帯短縮症の2例	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀、柴切圭子	157	日耳鼻兵庫県地方部会	西宮	2007/12/2
矯正用 -Ti ワイヤーを用いた片側性唇顎口蓋裂に対する術前顎矯正シンポジウム「術前顎矯正の評価、有効性」	小児歯科	石井信行	第31回	日本口蓋裂学会	群馬・草津	平成19年5月24日
摂食・嚥下指導の早期介入の意義を考えるー当科での症例を通してー	小児歯科	曾根由美子、石井信行	第26回	日本小児歯科学会・近畿地方会	尼崎	平成19年10月21日
「心臓手術その3」心臓手術のことをもって知りたいー新生児期に必要な心内修復術ー	心臓血管外科	大嶋義博	47回	神戸市難病連 医療・生活・教育に関する無料相談会	神戸	2007年6月17日
美容的アプローチによる開心術と漏斗胸の同時手術ー後側方切開での心房中隔欠損閉鎖術と Nuss 法ー	心臓血管外科	大嶋義博、日隈智恵、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、高橋宏明	21	心臓血管外科ウイインターセミナー	富山	2007. 1. 27~28
異型鎖骨下動脈再建を行った小児開心術症例3例の経験	心臓血管外科	井上武、大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、日隈智恵	21	心臓血管外科ウイインターセミナー	富山	2007. 1. 27~28
最近経験した左心低形成症候群とその類縁疾患5例に対する手術	心臓血管外科	日隈智恵、大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、高橋宏明	241	日本小児科学会兵庫県地方会	尼崎	2007. 2. 3
CAVC, DORV 術後遠隔期の大動脈弁下狭窄および上行大動脈瘤に対する1手術例	心臓血管外科	吉田昌弘、大嶋義博、島津親志、松久弘典、日隈智恵、井上武、鄭輝男、城戸佐知子、田中敬克、藤田秀樹、斎木宏文	21	日本小児循環器学会近畿・中四国地方会	大阪	2007. 2. 4
CAVC、DORV、PVO を呈した TAPVR を伴う体重 1600g の right isomerism 症例に対する手術経験	心臓血管外科	日隈智恵、大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、高橋宏明	21	日本小児循環器学会近畿・中四国地方会	大阪	2007. 2. 4
小児の僧帽弁形成ー乳頭筋または腱索短縮法と人工腱索移植法の中期遠隔成績	心臓血管外科	大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、日隈智恵、山口真弘	37	日本心臓血管外科学会総会	東京	2007. 2. 21
心室ー大血管の再建術 9 例 座長	心臓血管外科	大嶋義博	37	日本心臓血管外科学会総会	東京	2007. 2. 21
PA-IVS に対する二心室修復後の右室流出路再建法による差異の検討	心臓血管外科	島津親志、大嶋義博、吉田昌弘、松久弘典、日隈智恵、高橋宏明	37	日本心臓血管外科学会学術総会	東京	2007. 2. 21 ~ 2. 23
房室中隔欠損症根治術後における僧帽弁閉鎖不全 術前因子と左側房室弁形態からの検討	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、日隈智恵、井上武	37	日本心臓血管外科学会学術総会	東京	2007. 2. 21 ~ 2. 23

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
フアロー一四徴症根治術後の長期遠隔期成績の検討	心臓血管外科	日隈智憲、大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、高橋宏明	37	日本心臓血管外科学会学術総会	東京	2007. 2. 21 ~ 2. 23
無脾症候群に伴うTAPVRに対する手術手技の工夫 structureless techniqueのprimary repairへの応用	心臓血管外科	日隈智憲、大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、井上武	44	神戸心臓外科研究会(KCCS)	神戸	2007. 6. 6
乳児期早期の両方向性グレン手術症例の周術期管理	心臓血管外科	吉田昌弘、大嶋義博、島津親志、松久弘典、日隈智憲、井上武	50	関西胸部外科学会学術集会	大阪	2007. 6. 21 ~ 6. 22
Glenn後のTR・ARに対し、TVP・AVRを行ったHLHSの1例	心臓血管外科	島津親志、大嶋義博、吉田昌弘、松久弘典、日隈智憲、井上武	50	関西胸部外科学会学術集会	大阪	2007. 6. 21 ~ 6. 22
開心術と漏斗胸の同時手術 後側方切開での心房中隔欠損閉鎖術とNuss法	心臓血管外科	日隈智憲、大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、井上武	50	関西胸部外科学会学術集会	大阪	2007. 6. 21 ~ 6. 22
異型鎖骨下動脈再建を行った小児開心術症例4例の経験	心臓血管外科	井上武、大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、日隈智憲	59	関西胸部外科学会学術集会	大阪	2007. 6. 21 ~ 6. 22
AVSDに対するmodified single patch technique パネル	心臓血管外科	大嶋義博	7	小児心臓手術手技研究会	東京	2007. 7. 04
一般口演 [先天性弁膜症] 座長	心臓血管外科	大嶋義博	43	日本小児循環器学会総会	東京	2007. 7. 05
Damus-Kaye-Stansel 吻合術後の弁逆流についての検討	心臓血管外科	島津親志、大嶋義博、吉田昌弘、松久弘典、日隈智憲、井上武	43	日本小児循環器学会総会・学術集会	東京	2007. 7. 4 ~ 7. 6
二心室修復を施行したleft atrial isomerism症例の遠隔期成績	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、井上武	43	日本小児循環器学会総会・学術集会	東京	2007. 7. 4 ~ 7. 6
当院におけるright isomerismのPVOおよび房室弁逆流に対する手術成績の検討	心臓血管外科	日隈智憲、大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、井上武	43	日本小児循環器学会総会・学術集会	東京	2007. 7. 4 ~ 7. 6
胃食道逆流症を合併した先天性心疾患症例の検討	心臓血管外科	井上武、大嶋義博、吉田昌弘、圓尾文子、島津親志、日隈智憲	43	日本小児循環器学会	東京	2007. 7. 4 ~ 7. 6
Modified Warden's method for repair of partial anomalous pulmonary venous connection	心臓血管外科	Yoshida M, Oshima Y, Shimazu C, Matsuhisa H, Higuma T, Inoue T, Okita Y	17	The Congress of World Society of Cardio-Thoracic Surgeons	京都	2007. 7. 12 ~ 7. 13

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
ロタウイルス腸炎後に腎後性腎不全となった4症例	高知大学小児思春期学教室 大阪医科大学小児科 金沢大学大学院医学系研究科小児科 兵庫県立こども病院腎臓内科	森田拓、藤枝幹也、脇口宏 芦田明、玉井浩 太田和秀、清水正樹 藤田晃生、田中亮二郎	第110回	日本小児科学会学術集会	京都	平成19年4月20~22日
血管性紫斑病における腎炎発症とintercellular adhesion molecule-1(ICAM-1)遺伝子多型K469Eの関与	和歌山県立医科大学小児科 神戸大学小児科 兵庫県立こども病院腎臓内科 国立成育医療センター腎臓科	中西浩一、崎山美知代、島友子、戸川寛子、尾鼻美奈、吉川徳茂 野津寛大 田中亮二郎 飯島一誠	第50回	日本腎臓学会学術総会	浜松	平成19年5月25~27日
A rare case of rapidly progressive glomerulonephritis in a young male with Alport Syndrome	Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital Division of Pediatric Nephrology	Teraoka Yoshie, Teruo Fujita, Ryojiro Tanaka	The 5th	Japan-Korea Pediatric Nephrology Seminar	大阪	平成19年6月2日
尿路疾患に伴う偽性低アルドステロン症の検討	兵庫県立こども病院腎臓内科	藤田晃生、寺岡由恵、田中亮二郎	第42回	日本小児腎臓病学会	横浜	平成19年6月28日~30日
ロタウイルス腸炎後に腎後性腎不全となった4症例	高知大学小児思春期学教室 大阪医科大学小児科 金沢大学大学院医学系研究科小児科 兵庫県立こども病院腎臓内科	森田拓、藤枝幹也、脇口宏 芦田明、玉井浩 太田和秀、清水正樹 藤田晃生、田中亮二郎	第42回	日本小児腎臓病学会	横浜	平成19年6月28日~30日
急速進行性糸球体腎炎を合併したアルポート症候群の1症例	Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital Division of Pediatric Nephrology	寺岡由恵、藤田晃生、田中亮二郎	第42回	日本小児腎臓病学会	横浜	平成19年6月28日~30日
ペロ毒素産生型腸管出血性大腸菌性溶血性尿毒症症候群におけるMDR1遺伝子多型の関与	和歌山県立医科大学小児科 神戸大学大学院医学系研究科成育医学講座 小児科学 兵庫県立こども病院腎臓内科 国立成育医療センター腎臓科	戸川寛子、中西浩一、島友子、尾鼻美奈 野津寛大 田中亮二郎 飯島一誠	第42回	日本小児腎臓病学会	横浜	平成19年6月28日~30日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
難治性膜性増殖性糸球体腎炎に対するミゾリピン高容量療法	兵庫県立こども病院腎臓内科	寺岡由恵、藤田晃生、田中亮二郎	第11回	兵庫県腎疾患治療研究会	神戸	平成19年7月20日
A rare case of rapidly progressive glomerulonephritis in a young male with Alport syndrome	Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital Division of Pediatric Nephrology	Teraoka Yoshie, Teruo Fujita, Ryojiro Tanaka	14th	Congress of the International Pediatric Nephrology Association	Budapest	31 August-4 September, 2007
初発のネフローゼ症候群の治療経過中に心筋肥厚が増強し、閉塞性肥大型心筋症(HOCM)の合併が判明した1例	公立豊岡病院小児科	加地倫子、林麻衣子、吾郷耕彦、田口和裕、港敏則、吉田真策、寺野和宏、城戸佐知子	第243回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路	平成19年9月22日
腹膜透析中にみられた二次性副甲状腺機能亢進症の管理に難渋している先天性ネフローゼ症候群の1例	兵庫県立こども病院腎臓内科	藤田晃生、寺岡由恵、田中亮二郎	第21回	小児PD研究会	松江	平成19年9月26日
生体腎移植後、MRSAにより結核性膀胱炎を発症した1症例	兵庫県立こども病院腎臓内科 兵庫県立こども病院泌尿器科 国立成育医療センター腎臓科	寺岡由恵、藤田晃生、田中亮二郎 中亮二郎 久松英治、高木志寿子、乃美昌司、杉田良文、中山真紀子、亀井宏一、飯島一誠	第29回	日本小児腎不全学会	松江	平成19年9月27~28日
末期腎不全に至り腎移植を行った小児ネフローゼ症候群4例の検討	神戸大学大学院医学系研究科内科学講座小児科学 兵庫県立こども病院腎臓内科 原泌尿器科病院腎臓科 国立成育医療センター腎臓科 愛仁会千舟病院人工透析科 和歌山県立医科大学小児科 神戸大学大学院医学系研究科外科系講座腎泌尿器科学	貝藤裕史、野津寛大、神田杏子、松尾雅文 田中亮二郎 吉矢邦彦 飯島一誠 金鐘一 吉川徳茂 兵頭洋二、石村武志、石田雅、藤沢正人	第29回	日本小児腎不全学会	松江	平成19年9月27~28日
ネフローゼ症候群の初回治療中に心筋肥厚に伴う左室流出路狭窄を認めた1例	兵庫県立こども病院腎臓内科 兵庫県立こども病院泌尿器科 公立豊岡病院小児科	下岡武史、寺岡由恵、田晃生、田中亮二郎、寺野和宏、城戸佐知子、港敏則	第35回	近畿小児腎臓病研究会	大阪	平成19年11月24日

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
兵庫県立こども病院代謝内分泌科における早発乳房の検討	代謝内分泌科	細川悠紀、尾崎佳代、郷司克己	第242回	日本小児科学会兵庫地方会	神戸	2007/5/19
先天性腎性尿崩症の成長障害に関する検討	代謝内分泌科	細川悠紀、尾崎佳代、郷司克己、酒井國安、松尾雅文	第80回	日本内分泌学会総会	東京	2007/6/16
腎石灰化症の男児に認めた SLC34A3 遺伝子変異	代謝内分泌科	郷司克己、尾崎佳代、細川悠紀、松尾雅文	第41回	日本小児内分泌学会学術集会	横浜	2007/11/8
新生児マススクリーニングを契機に診断に至った甲状腺ホルモン不応症の 1 家系	代謝内分泌科	細川悠紀、尾崎佳代、郷司克己、松尾雅文	第41回	日本小児内分泌学会学術集会	横浜	2007/11/8
性腺機能障害	代謝内分泌科	郷司克己	第3回	小児内分泌入門セミナー	大阪	2007/8/19
アデノイド切除術後に急速に多臓器不全が進行し救命できなかった 2 歳児症例	麻酔科	香川哲郎、鈴木毅、三浦泰、大西広泰	第54回	日本麻酔科学会	札幌	2007年5月31日
小児開心術で手術室抜管症例に対して行ったフェンタニル持続静注による術後鎮痛の検討	麻酔科	池島典之、吉村依里子、川崎一良、熊代江利、三浦泰、香川哲郎	第54回	日本麻酔科学会	札幌	2007年6月1日
胃食道逆流防止術を受けた重症心身障害児に対するフェンタニル持続静注による術後鎮痛法の検討	麻酔科	吉村依里子、池島典之、岩淵いさな、横井信哉、高辻小枝子、香川哲郎	第54回	日本麻酔科学会	札幌	2007年5月31日
小児患者の OOL 向上の為に ~ 病棟麻酔の推進 ~	麻酔科	村田 洋	第54回	日本麻酔科学会	札幌	2007年6月1日
漏斗胸に対する Nuss 手術と右後側方開胸による心房中隔欠損閉鎖術との同時施行例に対する麻酔経験	麻酔科	池島典之、熊代江利、大西広泰、鈴木毅、香川哲郎	第13回	日本小児麻酔学会	沖縄	2007年11月23日
気管形成術後に壊死性気管炎により蘇生となった症例	麻酔科	鈴木毅、永井翼、香川哲郎	第13回	日本小児麻酔学会	沖縄	2007年11月23日
日帰り手術22年間・20000余例の分析	麻酔科	村田 洋	第13回	日本小児麻酔学会	沖縄	2007年11月23日
小児におけるレミフェンタニルの使用経験	麻酔科	脇坂マリコ、吉澤佐也、大西広泰、香川哲郎	第13回	日本小児麻酔学会	沖縄	2007年11月24日
挿管困難な多発性翼状片症候群の児に対し気管切開を行い軟口蓋裂手術を行った一症例	麻酔科	吉村依里子、熊代江利、池島典之、鈴木毅、香川哲郎	第13回	日本小児麻酔学会	沖縄	2007年11月24日
小児の日帰り手術の麻酔 ~ 方法、利点、問題点 ~	麻酔科	村田 洋	第27回	日本臨床麻酔学会	東京	2007年10月25日
小児の術後鎮痛	麻酔科	香川哲郎	第27回	日本臨床麻酔学会	東京	2007年10月27日

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
仮想失敗体験でリスク感性を高める - 輸液管理 勉強会の実施 -	N I C U	柳川瀬 涼子	第17回	日本新生児看護学 会	名古屋	2007.11.25
育児支援としての外出・外泊の効果	G C U	西村佳子	第17回	日本新生児看護学 会	高松市	2007.11.24・25
化学療法を体験したこども達の食事について考える	血液主体病棟	光本 望	第30回	近畿小児がん研究 会	和歌山市	H20. 3. 8
ライ脳症により人工呼吸器装着となった児の在宅療養 に向けての援助 ～ 気管切開から退院までの関わりを通して～	看護部	山口美由起	第 5 回	兵庫県立病院学会	神戸市	平成19年 9 月 8 日
血友病の子どもをもつ母親が在宅補充療法を開始する 医師決定因子について	外来	小澤 一美	2007年度	小児がん学会	仙台	2007.12. 8
抗 MRSA 薬長期投与の減少への ICT とリンクナースの 連携	看護、OP	高橋 紫	第22回	日本環境感染学会	横浜	2007/ 2 /23,24
シンポジウム 「子どもの育ちを支える - 看護師の立場 から」	看護部	濱田米紀	第24回	兵庫県小児保健協 会総会	神戸	2007年 8 月 4 日
示説 「がんをもつ子どもに対するマッサージの効果」	看護部	濱田米紀	第5回	日本小児がん看護 研究会	仙台	2007年12月15日
二分脊椎症児の排便管理	看護部	鎌田 直子	18年度	滋賀県立小児医療 センター二分脊椎 勉強会	守山市	2 月 2 日
間欠的自己導尿のケア	看護部	鎌田 直子	19年度	日本小児ストーム・ 排泄管理セミナー	東京都	4月27日
二分脊椎症児の排便管理～排便管理を中心に	看護部	鎌田 直子	19年度	二分脊椎症協会 島根県支部 講演 会	島根県	5 月 26 日
WOC 概論	看護部	鎌田 直子	19年度	兵庫県看護協会 WOC 看護認定看護 師研修	神戸市	6 月 6 日
小児ストーマケア	看護部	鎌田 直子	19年度	京都橋大学 WOC 看 護認定看護師教育 課程	京都市	7 月 17 日
小児ストーマケア	看護部	鎌田 直子	19年度	白鳳女子大学 WOC 看護認定看護師教 育課程	奈良市	7 月 27 日
小児ストーマケア	看護部	鎌田 直子	19年度	兵庫県看護協会 WOC 看護認定看護 師研修	神戸市	8 月 2 日

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
小児ストーマの管理と実際	看護部	鎌田 直子	19年度	関西ストーマケア講習会	大阪市	8月19日
失禁ケア	看護部	鎌田 直子	19年度	兵庫県看護協会 WOC 看護認定看護師研修	神戸市	9月5日
褥瘡予防	看護部	鎌田 直子	19年度	県立病院認定看護師会「レベルアップ研修」	神戸市	10月10日
二分脊椎症児の排便管理	看護部	鎌田 直子	19年度	二分脊椎症協会医療講演会	東京都	11月11日
排泄障害児のライフステージにおける問題	看護部	鎌田 直子	第21回	日本小児ストーマ・排泄管理研究会	東京都	4月28日
総排泄腔外反症患児の導尿路ストーマ位置の検討	看護部	鎌田 直子	第16回	日本小児泌尿器科学会	神戸市	7月13日
「当院救急医療室における救命困難な児への対応 その2 - 家族の意思決定とそのサポート」	看護 (小児救急医療センター)	清水 称喜	第21回	日本小児救急医学会	鹿児島市	2007. 6. 15.
「Effects of pictures of the patients on the mentality of nurses in pediatric ICU」	看護 (小児救急医療センター)	清水 称喜	第5回	世界小児集中治療医学会	ジュネーブ	2007. 6. 26.
「救急医療センター開設にむけた OJT - モーニングカンファレンスを活用したアセスメント能力向上のための取り組み」	看護 (小児救急医療センター)	清水 称喜	2007年	兵庫県病院学会	神戸	2007. 9. 8. .
「テーマセッション：小児の家族看護と地域連携」	看護 (小児救急医療センター)	清水 称喜	第14回	日本家族看護学会 学術集会	青森市	2007. 9. 8. 1. .
「小児救急におけるブレパレーション」	看護 (小児救急医療センター)	清水 称喜	2007年度	尼崎小児科医会勉強会	尼崎市	2007. 4. 18.
「子どもと家族を救う小児救急看護」	看護 (小児救急医療センター)	清水 称喜	2007年度	日本看護協会 小児救急研修	神戸市	2007. 5. 26.
「小児救急におけるブレパレーション」	看護 (小児救急医療センター)	清水 称喜	2007年度	久留米大学医学部看護学科研修	久留米市	2007. 5. 29.
「救急外来における発達に応じたコミュニケーション技術」	看護 (小児救急医療センター)	清水 称喜	2007年度	日本看護協会看護研修学校講義	清瀬市 (東京)	2007. 7. 24.

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
「小児救急におけるブレパレシヨナー救急場面における小児への関わり方」	看護 (小児救急医療センター)	清水 称喜	2007年度	塚口病院研修会	尼崎市	2007.10.25.
「小児看護」	看護 (小児救急医療センター)	清水 称喜	2007年度	京都府看護協会ヘルプアップ研修	京都府	2007.12.4.
「小児看護における観察ポイント」	看護 (小児救急医療センター)	清水 称喜	2007年度	広島県看護協会研修	広島市	2007.12.6.
先天性横隔膜ヘルニアに対する ECMO の有用性の検討	外科	横井暁子、高野洋一、岡本竜弥、尾藤祐子、中尾真、堀内淳、高見澤滋、佐藤志以樹、西島栄治	第21回	日本小児人工臓器研究会	宇都宮	2007年11月9日
葛西術後より利胆不良であった長期生存の一例	外科	横井暁子、高野洋一、岡本竜弥、荒井洋志、尾藤祐子、高見澤滋、佐藤志以樹、西島栄治	第34回	胆道閉鎖研究会	名古屋	2007年9月8日
The Swenson procedure in Hirschsprung's disease	外科	横井暁子、野崎奈穂子、川在間梓、岡本竜弥、津川二郎、和田英見、高見澤滋、佐藤志以樹、西島栄治、連利博	第44回	日本小児外科学会総会	東京	2007年5月31日
Impact of chest deformity extended to the level of carina on choosing the modified Ravitch procedure and the Nuss procedure in pectus excavatum	外科	横井暁子、津川二郎、和田英見、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治、津川力	第40回	Pacific Association of Pediatric Surgeons Annual Meeting	Queenstown NZ	2007年4月14日
当科における胃食道逆流症に対する噴門形成術の効果	外科	尾藤祐子、西島栄治、佐藤志以樹、高見澤滋、横井暁子、荒井洋志、岡本竜弥、高野洋一	第43回	日本小児外科学会近畿地方会	大阪	2007年8月25日
自然気胸に対する胸腔鏡下ブラ切除時に人工膜を使用した小児の一例	外科	尾藤祐子、西島栄治、佐藤志以樹、高見澤滋、横井暁子、荒井洋志、岡本竜弥、高野洋一	第20回	日本内視鏡外科学会総会	仙台	2007年11月21日
心臓脱の一例	外科・心臓血管外科	尾藤祐子、西島栄治、佐藤志以樹、高見澤滋、横井暁子、荒井洋志、岡本竜弥、高野洋一、大嶋義博、井上武	第27回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	宇都宮	2007年11月8日

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
当科にて経験した Hypoganglionsis の2症例について	外科	岡本竜弥、野崎奈穂子、在間梓、和田英見、横井暁子、津川二郎、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治	第44回	日本小児外科学会 総会	東京	2007年5月31日
術前CTにて門脈内ガス像を伴った絞扼性イレウスの1救命例	外科	岡本竜弥、高野洋一、荒井洋志、尾藤祐子、横井暁子、高見澤滋、佐藤志以樹、西島栄治	第43回	日本小児外科学会 近畿地方会	大阪	2007年8月25日
隣接臓器浸潤を合併切除した左腎芽腫の1例	外科	岡本竜弥、連利博、野崎奈穂子、在間梓、和田英見、横井暁子、津川二郎、高見澤滋、佐藤志以樹、西島栄治	第29回	近畿小児がん学会	大阪	2007年3月3日
小児胸腺腫の1例	外科・血液腫瘍科	岡本竜弥、横井暁子、連利博、高野洋一、荒井洋志、尾藤祐子、高見澤滋、佐藤志以樹、西島栄治、吉田牧子、長谷川大一郎、小阪嘉之	第23回	日本小児がん学会 総会	仙台	2007年12月14日
噴門形成術中に胸膜損傷をきたした1例	外科	佐藤志以樹、尾藤祐子、横井洋志、高野洋一、横井暁子、高見沢滋、岡本竜弥、中尾真、西島栄治	第20回	日本内視鏡外科学 会総会	仙台	2007年11月20日
頻回の開腹既往のある17歳 long segment aganglionsis 女性の激しい下腹部痛と嚢胞性病変	外科	和田英見、野崎奈穂子、岡本竜弥、在間梓、津川二郎、横井暁子、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治	第56回	小児外科わからん 会	大阪	2007年3月10日
当科での胃食道逆流症に対する噴門形成術～suspension suture による食道裂孔部の展開～	外科	荒井洋志、西島栄治、佐藤志以樹、堀内淳、高見澤滋、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、岡本竜弥、高野洋一	第20回	日本内視鏡外科学 会総会	仙台	2007年11月20日
当科で経験した先天性嚢胞性肺疾患 (CCAM・肺分画症) の手術適応、手術時期についての検討	外科	高見澤滋、西島栄治、高野洋一、岡本竜弥、荒井洋志、尾藤祐子、横井暁子、堀内淳、佐藤志以樹	第18回	日本小児呼吸器外 科研究会	大阪	2007年11月17日
腹腔内精巣原発の奇形腫を合併した半陰陽の一例	外科	荒井洋志、西島栄治、佐藤志以樹、高見澤滋、横井暁子、尾藤祐子、岡本竜弥、高野洋一、岡本光正	第43回	日本小児外科学会 近畿地方会	大阪	2007年8月25日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
胆道閉鎖症診断における腹部超音波検査の有用性 超音波検査で胆道閉鎖症はどこまで正確に診断できるか？	外科・放射線科	高見澤滋、連利博、金川公夫、赤坂好宣、津川二郎、和田英見、横井暁子、佐藤志以樹、西島栄治	第44回	日本小児外科学会 総会	東京	2007年5月31日
磁石圧迫吻合部狭窄解除術を行い狭窄を解除したA型食道閉鎖症吻合部狭窄の一例	外科	高見澤滋、山内栄五郎、連利博、西島栄治、佐藤志以樹、津川二郎、横井暁子、和田英見	第44回	日本小児外科学会 総会	東京	2007年5月31日
胆道閉鎖症の新しい知見 胆道閉鎖症における胆管上皮のGlucocorticoid receptorの発現と葛西術後の必要ステロイド投与量の予測	外科・病理	連利博、楯川幸弘、吉田牧子、津川二郎、高見澤滋、横井暁子、和田英見、岡本竜弥、佐藤志以樹、西島栄治	第44回	日本小児外科学会 総会	東京	2007年5月31日
直腸肛門奇形・Cloaca anomalyの治療戦略 成人期に達した女児総排泄腔異常症の3例 女児生殖器再建の問題点	外科	津川二郎、野崎奈穂子、岡本竜弥、在間梓、和田英見、横井暁子、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治	第44回	日本小児外科学会 総会	東京	2007年5月31日
小児脳低温療法症例における頭蓋内圧及び脳還流圧の経時的変化に関する検討	救急医療室	佐治洋介、澤田杏子、丸山あずさ、永瀬裕朗、三好麻里、上谷良行	第21回	日本小児救急医学会	鹿児島	2007年6月15日
当院救急医療室における救命不可能であった児への対応 その1 中枢神経機能評価と治療適応に関する現状	救急医療室	澤田杏子、佐治洋介、永瀬裕朗、三好麻里、上谷良行	第21回	日本小児救急医学会	鹿児島	2007年6月15日
HHV-6感染により片麻痺後、片側性痙攣をきたした1症例	救急医療室	寺岡由恵、佐治洋介、丸山あずさ、永瀬裕朗、上谷良行	第20回	近畿小児科学会	和歌山	2007年3月18日
多発性肝腫瘍を呈した猫ひっかき病の1例	救急医療室	青木一憲、細川悠紀、尾崎佳代、三好麻里、上谷良行	第20回	近畿小児科学会	和歌山	2007年3月18日
乳幼児頭部外傷の虐待判断指標作成の試み：入院した乳幼児41例の検討	救急医療室	青木一憲、相馬収、丸山あずさ、永瀬裕朗、上谷良行、中村肇	第110回	日本小児科学会	京都	2007年4月20-22日
兵庫県立こども病院における小児脳低温療法の現況	救急医療室	佐治洋介、丸山あずさ、永瀬裕朗、三好麻里、上谷良行	第110回	日本小児科学会	京都	2007年4月20-22日
全国調査から見た妊娠22-23週出生児の予後の推移	総合診療科	上谷良行	第43回	日本周産期・新生児医学会	東京	2007年7月8-10日
総合周産期母子医療センター 新生児部門の実態調査	総合診療科	藤村正哲、楠田聡、三科潤、上谷良行	第52回	日本未熟児新生児学会	高松	2007年11月24-26日

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
頭蓋内圧モニタリングを併用し脳低温療法を施行したCPA 蘇生後の一症例	救急医療室	青木一憲、佐治洋介、丸山あずさ、永瀬裕朗、三好麻里、上谷良行、立石 径、狐塚善樹	第242回	日本小児科学会兵庫県地方会	神戸	2007年5月19日
小児救急におけるクレーム調査	救急医療室	橋本寛、上谷良行、大橋玉基	第243回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路	2007年9月22日
麻疹風疹(MR)混合ワクチン接種後に急性脳炎をきたした一例	総合診療科	青木一憲、佐治洋介、三好麻里、上谷良行	第39回	日本小児感染症学会学術集会	東京	2007年11月11日
脳低温療法	総合診療科	佐治洋介	第15回	第15回小児集中治療ワークショップ	千葉	2007年11月17日
当院救急医療室における外傷診療の現状	総合診療科	黒澤茶茶、田中亮二郎、三好麻里、上谷良行	第22回	須磨区医師会学術集会	神戸	2007年2月24日
小児脳低温療法における頭蓋内圧センサー挿入症例の検討	総合診療科	佐治洋介、青木一憲、丸山あずさ、永瀬裕朗、長嶋達也、上谷良行	第35回	日本救急医学会総会・学術集会	大阪	2007年10月18日
小児脳低温療法における頭蓋内圧センサー挿入症例の検討	総合診療科	佐治洋介、青木一憲、丸山あずさ、永瀬裕朗、長嶋達也、上谷良行	第10回	脳低温療法学会学術集会	下関	2007年7月6日
兵庫県立こども病院における小児脳低温療法の現況	総合診療科	佐治洋介	第34回	日本集中治療医学会学術集会	神戸	2007年3月2日
Pediatric Induced-hypothermia : Therapy for presumed encephalitis	総合診療科	佐治洋介、永瀬裕朗	第1回	兵庫県立こども病院 & シアトル小児病院 学術交流会	神戸	2007年12月13日
痙攣重積について	総合診療科	青木一憲	平成19年度	近畿プロック医療技術研修会	神戸	2007年12月1日
虐待の診断と対応	総合診療科	佐治洋介、永瀬裕朗	平成19年度	近畿プロック医療技術研修会	神戸	2007年12月1日
小児救急医療の落とし穴	総合診療科	上谷良行	平成19年度	近畿プロック医療技術研修会	神戸	2007年12月1日
迅速な心肺機能評価	総合診療科	上谷良行	平成19年度	小児救急アドバンス研修会	神戸	2007年10月28日
肺高血圧を伴った成人の動脈管開存に対するAmplatzer Septal Occluder を用いた閉鎖術の経験	循環器科	田中敏克	第18回	日本小児インターベンション研究会	福岡	2007年1月19-20日
肺動脈にmigrationしたAmplatzer membranous VSD occluder を Tyshak カテーテルを併用し回収しえた1例	循環器科	田中敏克	第18回	日本小児インターベンション研究会	福岡	2007年1月19-20日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
乳児期早期発症の重症大動脈弁狭窄に対する経皮的な大動脈弁形成術～弁形態から～	循環器科	齋木宏文、鄭輝男、城戸佐知子、田中敏克、秀樹、井手健太郎	第18回	日本小児インターベンション研究会	福岡	2007年1月19-20日
慢性肺疾患を合併した心房中隔欠損症に伴う肺高血圧症～負荷試験への反応～	循環器科	齋木宏文、鄭輝男、城戸佐知子、田中敏克、秀樹	第13回	日本小児肺循環研究会	東京	2003年2月2日
新生児遷延性肺高血圧症 (PPHN) を合併したアノーゼ性心疾患の治療方針	循環器科	齋木宏文、鄭輝男、城戸佐知子、藤田秀樹、田中敏克	第21回	日本小児循環器学会 近畿中四国地方会	大阪	2003年2月3日
高度肺動脈弁狭窄および主要体肺側副動脈 (MAPCA) を伴ったアノーゼ徴症 (TOF) の低出生体重児に対してバルーン弁形成術を施行した1例	循環器科	下岡武史、城戸佐知子、田中敏克、寺野和宏、藤田秀樹、齋木宏文、井手健太郎、富永健太	第243回	日本小児科学会兵庫庫真地方会	姫路	2003年9月21日
PA/VSD, MAPCAs に対して施行した在宅酸素療法	循環器科	齋木宏文、鄭輝男、城戸佐知子、田中敏克、秀樹	第24回	西日本小児循環器HOT研究会	大阪	2003年6月22日
フォンタン型手術症例における酸素負荷試験と在宅酸素療法	循環器科	井手健太郎、城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、齋木宏文、寺野和宏、富永健太、下岡武史	第24回	西日本小児循環器HOT研究会	大阪	2003年6月22日
小児期僧帽弁閉鎖不全の経過に関する検討	循環器科	齋木宏文、鄭輝男、城戸佐知子、田中敏克、秀樹、井手健太郎	第43回	日本小児循環器学会学術集会	東京	2007年7月4-6日
新生児期、乳児期に施行した高度肺動脈弁狭窄に対するバルーン肺動脈弁形成	循環器科	齋木宏文、鄭輝男、城戸佐知子、田中敏克、秀樹、井手健太郎	第43回	日本小児循環器学会学術集会	東京	2007年7月4-6日
心房中隔欠損の診断における径食道心工コーの有用性	循環器科	田中敏克、井手健太郎、下岡武史、富永健太、齋木宏文、藤田秀樹、寺野和宏、城戸佐知子	第243回	日本小児科学会兵庫庫真地方会	姫路	2003年9月21日
左心低形成症候群における両側肺動脈絞扼術後アノーゼ増強に対するピトレッシン投与	循環器科	齋木宏文、小川禎治、城戸佐知子、田中敏克、寺野和宏、藤田秀樹、井手健太郎	第27回	日本小児循環動態研究会	大阪	2003年10月19日
兵庫県立こども病院における小児脳低温療法の現況	脳神経内科	佐治洋介、永瀬裕朗、三好麻里、上谷良行	34	日本集中治療医学会学術集会	神戸	2007年3月
乳幼児頭部外傷の虐待判断指標作成の試み 入院した乳幼児41例の検討	脳神経内科	青木一憲、永瀬裕朗、丸山あすさ、相馬収、上谷良行、中村肇	110	日本小児科学会学術集会	京都	2007年7月

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
兵庫県立こども病院における小児脳低温療法の現況	脳神経内科	佐治洋介、丸山あずさ、永瀬裕朗、三好麻里、上谷良行	110	日本小児科学会学術集会	京都	2007年7月
Traumatic Brain Injury in Children Younger Than 2 Years of Age in Japan.	脳神経内科	Hiroaki Nagase, Kazunori Aoki, Azusa Maruyama, Osamu Soma, Hajime Nakamura. (Sponsored by David K. Stevenson).	2007	Pediatric Academic Societies' 2007 Annual Meeting	Tronto	2007年5月
頭蓋内圧モニタリングを併用し脳低温療法を施行したCPA 蘇生後の1症例	脳神経内科	青木一憲、佐治洋介、丸山あずさ、永瀬裕朗、三好麻里、上谷良行、立石径、狐塚善樹	242	日本小児科学会兵庫県地方会・総会	兵庫	2007年5月
小児脳低温療法症例における頭蓋内圧および脳還流圧の経時的変化に関する検討	脳神経内科	佐治洋介、澤田杏子、丸山あずさ、永瀬裕朗、三好麻里、上谷良行	21	日本小児救急医学会	鹿児島	2007年6月
当院救急医療室における救命不可能であった児への対応（その1）中枢神経機能評価と治療適応に関する現状	脳神経内科	澤田杏子、佐治洋介、永瀬裕朗、三好麻里、上谷良行	21	日本小児救急医学会	鹿児島	2007年6月
Shaken baby syndrome(SBS)との鑑別を要したHemorrhagic shock and encephalopathy syndrome(HSES)の1男児例	脳神経内科	丸山あずさ、佐治洋介、永瀬裕朗、上谷良行	49	日本小児神経学会総会	大阪	2007年7月
小児脳低温療法における頭蓋内圧センサー挿入症例の検討	脳神経内科	佐治洋介、青木一憲、丸山あずさ、永瀬裕朗、長嶋達也、上谷良行	10	日本脳低温療法学会	山口	2007年7月
小児脳低温療法における頭蓋内圧センサー挿入症例の検討	脳神経内科	佐治洋介、青木一憲、丸山あずさ、永瀬裕朗、三好麻里、長嶋達也、上谷良行	35	日本救急医学会総会・学術集会	大阪	2007年10月
持続脳波モニタリング下での集中管理により予後良好であった「特異な脳炎・脳症後てんかんの一群」の男児例	脳神経内科	丸山あずさ、永瀬裕朗	41	日本てんかん学会	福岡	2007年11月

診 療 統 計

1. 外来患者数

(1) 年齢別・診療科別患者数

平成19年1月～12月分

診療科	区 分		乳 児		幼 児		学 童		思春期	その他	新規患者		再診患者		
	未熟児	新生児	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			患者数	科別構成比(%)	患者数	科別構成比(%)	
小児科	総合診療科	0	20	129	121	297	205	119	93	64	28	1,076	10.6	2,210	2.9
	新生児内科	389	305	44	3	5	1	1	0	0	0	748	7.4	3,179	4.2
	脳神経内科	0	0	12	27	47	41	36	28	30	5	226	2.2	2,223	2.9
	循環器内科	0	49	179	46	69	67	56	25	29	10	530	5.2	7,290	9.7
	腎臓内科	0	1	4	1	5	42	32	20	37	22	164	1.6	2,335	3.1
	代謝内分泌科	0	16	25	9	46	35	32	34	33	33	263	2.6	4,618	6.1
	血液内科	0	2	5	8	22	22	16	7	13	13	108	1.1	2,964	3.9
	卒 煙	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0.0	0	0
	発達行動	0	0	0	1	14	22	15	6	3	4	65	0.6	142	0.2
	救急科	0	6	32	33	93	72	46	24	27	12	345	3.4	330	0.4
アレルギー内科	0	0	14	33	36	35	19	14	9	2	162	1.6	2,442	3.2	
小計	389	399	444	282	634	542	372	251	248	129	3,690	36.3	27,733	36.6	
外科	一般外科	0	26	202	76	189	247	110	53	26	21	950	9.4	5,351	7.1
	心臓血管外科	0	0	4	2	3	2	3	0	2	0	16	0.2	1,653	2.2
	脳神経外科	0	12	56	36	55	41	32	26	18	4	280	2.8	2,882	3.8
	形成外科	0	34	246	96	139	88	59	23	14	11	710	7.0	3,652	4.8
	整形外科	0	38	201	64	212	164	98	78	85	27	967	9.5	4,399	5.8
小計	0	110	709	274	598	542	302	180	145	63	2,923	28.8	17,937	23.7	
その他	眼 科	0	12	67	61	172	289	138	65	14	11	829	8.2	10,062	13.3
	精神科	0	0	1	5	12	53	54	48	53	18	244	2.4	3,253	4.3
	皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0
	泌尿器科	0	23	144	97	218	195	111	85	44	7	924	9.1	4,901	6.5
	耳鼻咽喉科	0	17	94	57	115	179	101	38	22	4	627	6.2	4,036	5.4
	産 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	768	7.6	3,888	5.2	
	放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	10	0
	麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	998	1.3
小計	0	52	306	220	517	716	404	236	133	808	3,392	33.5	27,148	36.0	
歯 科	0	2	6	3	42	45	28	15	0	6	147	1.4	2,797	3.7	
合計患者数	389	563	1,465	779	1,791	1,845	1,106	682	526	1,006	10,152	100.0	75,615	100.0	
区分別構成比	3.8	5.5	14.4	7.7	17.6	18.2	10.9	6.7	5.2	9.9	99.9				

(2) 地域別新規患者数

区 分	患者数	構成比(%)
神戸市	5,103	50.3
阪神南	779	42.7
阪神北	548	
東播磨	1,282	
北播磨	480	
中播磨	383	
西播磨	218	
但馬	184	
丹波	181	
淡路	282	7.0
近畿	319	
県外他	393	
合計	10,152	100.0

(3) 費用別新規患者数

区 分	件数	割合(%)
保 険	2,936	28.9
諸 法	445	4.4
自 費	454	4.5
そ の 他	6,317	62.2
合 計	10,152	100.0

(注)保険と公費併用の場合、各々公費欄に計上した。

2. 退院患者数

(2) 地域別退院診療録数 (19年1月～12月)

地域	患者数	%
東灘区	193	
灘区	109	
中央区	81	
北区	243	
兵庫区	99	
長田区	133	
須磨区	432	
垂水区	468	
西区	525	
(小計)	2,283	45.1%
阪神南	384	
阪神北	270	
東播磨	694	
北播磨	256	
中播磨	257	
西播磨	102	
但馬	106	
丹波	87	
淡路	140	
(小計)	2,296	45.4%
大阪	164	
他近畿	92	
県外	226	
(小計)	482	9.5%
合計	5,061	100%

(1) 診療科別退院診療録数 (19年1月～12月)

区分	退院総数		在院日数			転				帰			解剖		
	男	女	計	延	平均	治療	軽快	不変	事故	48時間 死	その他	精率%	粗率%	体数	%
総合診療科	254	193	447	3,581	8		432	1		6	8	1.8%	3.1%		
新生児科	405	326	731	20,482	28		705	2		11	13	1.8%	3.3%	(3)	12.5%
脳神経内科	34	68	102	3,056	30		98	3			1	1.0%	1.0%		
循環器科	207	161	368	20,234	55		335	28			5	1.4%	1.4%		
腎臓内科	44	53	97	1,741	18		93	4							
代謝内分泌科	24	35	59	628	11		57	2							
血液腫瘍科	258	198	456	8,839	19		444	8			4	0.9%	0.9%	(1)	25.0%
アレルギー内科	40	36	76	884	12		72	4							
遺伝内科			0		0										
(内科小計)	(1,266)	(1,070)	(2,336)	(59,445)	(25)	(0)	(2,236)	(52)	(0)	(17)	(31)	(1.3%)	(2.1%)	(4)	(8.3%)
一般外科	337	290	627	7,154	11		616	9			2	0.3%	0.3%	(1)	50.0%
心臓血管外科	98	59	157	6,312	40		147	4			6	3.8%	3.8%		
脳神経外科	86	93	179	2,800	16		172	6			1	0.6%	0.6%		
形成外科	119	122	241	1,985	8		241								
眼科	205	220	425	1,857	4		421	4							
整形外科	107	83	190	2,536	13		181	9							
泌尿器科	183	48	231	1,254	5		230	1							
耳鼻咽喉科	38	12	50	419	8		49	1							
皮膚科			0		0										
精神神経科			0		0										
歯科	1	1	2	5	3		2								
産科		623	623	11,016	18		547	76							
合計	2,440	2,621	5,061	94,783	19	0	4,842	162	0	17	40	0.8%	1.1%	(5)	8.8%

剖検 7名 (そのうち胎内死亡で剖検 2名)

3. 死亡病名一覧

病名	新患計	未熟児	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	その他
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
溺水、心肺停止	2					1	1				
大動脈弓断症	1				1						
致死性不整脈	9	4	3	1		1					
多臓器不全	1				1						
慢性肺気腫	1					1					
急性肺炎	2					1		1			
超早産児、肺低形成	4	4									
急性腎不全	1							1			
巨大仙尾部奇形腫	1		1								
消化管出血	1					1					
低酸素性虚血脳症	3		1			2					
高アンモニア血症	1				1						
脳性マヒ	1						1				
慢性活動性EBウイルス感染	1						1				
重傷新生児仮死	1		1								
うっ血性心不全	1		1								
縦隔腫瘍	1									1	
大後頭孔ヘルニア	1					1					
OP後敗血症	1					1					
心室中隔欠損症	1					1					
多嚢胞腎	1										1
痙攣重積、脳浮腫	1					1					
急性骨髄性白血病	1						1				
敗血症ショック	1	1									
先天性胆道閉鎖、肝不全	1										1
超未熟児、壊死性腸炎	1	1									
18トリソミー、心肺停止	1					1					
低酸素性脳症(首つり自殺)	1									1	
低酸素血症、肺炎	1						1				
低酸素血症、左心低形成	1		1								
神経芽細胞腫	1					1					
低酸素血症、先天性心疾患	1				1						
総肺静脈還流異常	1				1						
肺動脈狭窄	1					1					
若年性骨髄単球性白血病	1				1						
肺出血、先天性気管狭窄	1				1						
胎児水腫、呼吸不全	1	1									
急性硬膜下血腫(出血ショック)	1				1						
全前脳胞症、致死性不整脈	1		1								
くも膜下出血、先天性心疾患	1							1			
低出産児、肺高血症	1				1						
左心低形成、急性肝不全	1				1						
合 計	57	11	9	9	3	13	5	3	0	2	2

4. 総合診療科

これまでこども病院に求められてきた各診療科に細分化された高度専門医療に対して、一方ではこども全体を見る総合診療科の重要性が高まってきた。専門医療を縦系とすると総合診療科は横系となって各診療科の間を結びつけて一人の人間として、全体を把握できるような役割と考えている。従来より総合診療科は「よくある病気を中心とした全人的医療」と言われるが、総合診療科の外来を担当していると、まさによくある病気の応用編というような一筋縄ではいかない症例が本当に多く紹介され、各診療科の協力を得ながらその対応に追われている。

当初5名の専任スタッフが配置され、救急医療室の運営にあたってきたが、小児救急医療センターの開設に伴って救急担当は救急集中治療科として新たに配置されたために、主として本館における業務に限定されることになった。従って、担当スタッフも2名になっている。各専門科における診療になじまない紹介患者への対応、院内各科からの相談、セカンドオピニオンの相談に応じることなどを行っている。また、研修医や専攻医の研修の受け皿となり、研修計画の立案や実際の研修を担当し、コーディネートすることも大きな役割である。

入院患者は救急センターからの転科症例を主に担当している。多くが基礎疾患を持った児の合併症、特に感染症である。

今後は総合診療科として独自のアイデンティティーをもって診療に当たられるようになることを目指したいと考えている。

外来担当スタッフ：山崎武美、上谷良行、三好麻里、田中亮二郎、藤田晃生

小児救急医療センター開設後は救急センター退院患者のフォローを午後の総合診療科外来で実施し、主として専攻医が担当している。

5. 救急医療室

1) 診療活動

平成14年10月に県下における小児3次救急の拠点として救急医療室が設置されて以来5年が経過した本年10月1日より待望の小児救急医療センターが開設された。PICU 4床、一般病床6床に外来機能も付加した我が国でも数少ない小児救急医療専用の施設である。医師スタッフも専任医師9名と増員され、兼任医師6名で対応しているが、3ヶ月ずつローテートする小児科専攻医も救急診療に参画し、研修を行っている。当院は管理型の初期研修施設ではないものの、協力型研修施設として各県立病院をはじめ市内の病院から初期研修医を受け入れている関係上、若い医師が入れ替わり立ち替わり救急医療センターで研鑽を積んでいる。

本年は救急医の取扱患者数が年間約2700人で昨年より200人程度増加している。最重症に分類したいわゆる救命救急に相当する患者数は昨年の155件から183件とさらに増加し、入院患者数としても昨年より約80名増加した上、外来帰宅患者数も約20名増加したことを考えると、重症の患者を数多く受け入れていることが伺える。月別の患者数の動きを見ると、救急センター開設の10月以降患者数が大きく増加しているが、これはこれまで各診療科が時間外に診ていた救急患者を救急医が担当するようになったことにも起因するが、その増加数を差し引いても救急センターの開設により全体の患者数は増加している。また、入院中に重症化し、当該病棟での管理が困難な症例も昨年度と同様の約50例を受け入れており、内科的ICUとしての機能も定着してきた。

2005年に救急蘇生プログラムがガイドライン2005となり、小児における救命処置の世界標準プロトコールである Pediatric Advanced Life Support (PALS) も新しい version になっている。当院でも院内で月に2回ずつ救急医療室スタッフが中心になって PALS 勉強会を開催している。院外からも研修医やナース、スタッフドクターの参加があり、関心の深さが伺える。4月には主に専攻医を対象として院内で PALS の模擬コースを1日かけて実施し、当院における救急医療の実践に役立っている。また、小児救急医療センターのオープンにあわせて、外傷患者の搬入の増加も予測されたために、外傷診療の基本プロトコールである JPTEC の勉強会を県立災害医療センターのスタッフに御願いし、多くの受講者を集めて開催できた。災害医療センターとは普段からドクターカーでの搬送などで密な連携を心がけているが、お互いの協力関係が重要であり、このような機会は大切にしたい。

新たに開設した小児救急医療センターが小児三次救急医療を着実に実施できるためには、これまで以上に院内各科、各部署の協力と連携が必要である。今後とも一段階飛躍した救急医療を提供できるように努力したい。

2) スタッフ

救急集中治療科：上谷良行

長谷川大一郎

尾崎佳代

丸山あずさ

藤田晃生

中岸保夫

富永健太

佐治洋介

細川悠紀

兼任：三好麻里（部長・免疫アレルギー科）

田中亮二郎（腎臓内科）

永瀬裕朗（脳神経内科）

川崎圭一郎（血液腫瘍科）

竹田洋樹（血液腫瘍科）

笠井和子（免疫アレルギー科）

専攻医：澤田杏子（平成19年1月～3月、10月～）

青木一憲（平成19年4月～）

寺岡由恵（平成19年4月～）

中川 拓（平成19年4月～6月）

岩谷壮太（平成19年4月～6月）

田中裕也（平成19年7月～9月）

猪俣 慶（平成19年10月～12月）

小川禎治（平成19年7月～9月）

林 耕平（平成19年1月～3月）

研修医：岩崎寿光（平成19年5月～7月）兵庫県立成人病センター研修医

鈴木琢真（平成19年4月～6月）兵庫県立成人病センター研修医

大類隼人（平成19年11月～1月）兵庫県立成人病センター研修医

多根健太（平成19年12月～2月）兵庫県立成人病センター研修医

西井琢磨（平成19年10月～12月）兵庫県立成人病センター研修医

田内祐也（平成19年6月～8月）兵庫県立姫路循環器病センター研修医

志村政幸（平成19年3月1日～14日）鐘紡記念病院研修医

高橋昭裕（平成19年5月1日～14日）鐘紡記念病院研修医

桑山明子（平成19年7月1日～14日）鐘紡記念病院研修医

井上 実（平成19年10月1日～14日）鐘紡記念病院研修医

中川 拓（平成19年1月～3月）神戸赤十字病院研修医

原 正彦（平成19年1月）神戸赤十字病院研修医

石川 亘（平成19年3月）神戸赤十字病院研修医

横山祐二（平成19年5月）神戸赤十字病院研修医

奥宮雅代（平成19年7月）神戸赤十字病院研修医

上嶋英介（平成19年9月）神戸赤十字病院研修医

松森響子（平成19年11月）神戸赤十字病院研修医

小児外科は22時まで1名居残り、以後 on call で、脳神経外科、整形外科、形成外科など外科系各科は on call で back up 体制をとっている。

3) 診療統計

兵庫県立こども病院 救急医療室担当症例統計 2007年1月～12月

1) 連絡方法別診療内容 全体

2007年	診療内容				計	%
	入院		帰宅**	電話相談のみ*		
	最重症	重症				
患者から	13	169	617	907	1706	63.5
医師から	106	191	84	69	450	16.7
救急隊から	25	108	129	70	332	12.4
直接来院	1	5	80	0	86	3.2
院内外来より	5	28	26	0	59	
院内他病棟より転棟***	33	21	0	0	54	2.0
計	183	522	936	1046	2687	
%	6.8	19.4	34.8	38.9	100	

2006年	入院		帰宅**	電話相談のみ*	計
	最重症	重症			
計	155	473	914	929	2471
%	6.3	19.1	37.0	37.6	100

* 医師から・救急隊から 電話相談のみ；満床のため依頼を断った件数をふくむ

** 診察の結果入院が必要であったが満床のため等で他院を紹介した件数をふくむ

***院内他病棟から転棟 入院患者が重症化し該当病棟での管理が困難となり救急医療室に転棟となった件数

2) 来院患者1641名の統計

重症度

来院患者	計	%	
	入院最重症	183	11.2
	入院重症	522	31.8
	外来帰宅	936	57.0
計	1641	100	

事故・疾病別割合

来院患者	事故	%	疾病	%	計	%	
	入院最重症	30	16.4	153	83.6	183	100
	入院重症	103	19.7	419	80.3	522	100
	外来帰宅	272	29.1	664	70.9	936	100
計	405	24.7	1236	75.3	1641	100	

来院方法別割合

来院患者	小計		計	%
	自家用車・タクシー・徒歩		1097	66.8
	救急車	公共	469	29.7
		Dr car	3	
		当院	9	
		災害医療 中央市民 その他	5 1	
	ヘリ		3	0.2
	転棟		54	3.3
計		1641	100	

緊急協力科 (含 重複)

一般外科	124	泌尿器科	12
脳外科	104	放射線科	29
麻酔科	31	耳鼻科	9
形成外科	17	眼科	3
整形外科	20	精神科	3
心外循環器	30	歯科	3
		新生児科	2

特記すべき疾患

1. 頭部打撲 228名

(経過観察 179名、頭蓋骨骨折 14名、頭蓋内出血 22名、裂傷13名)

2. 被虐待児疑い 20名

(心肺停止 4名、頭部外傷 9名、熱傷 1名、四肢骨折 1名、裂傷 4名、転落 1名)

3. 交通外傷 21名 (うち多発外傷 8名)

4. 熱傷 9名 (うち入院 4名)

5. 腫瘍性疾患例 25名

(血液腫瘍 15名、腹部腫瘍 4名、脳腫瘍 3名、縦隔腫瘍 3名)

3) 最重症例 183名の内訳

1. 死亡例 22例の詳細

	年齢	病態	基礎疾患他	初再	剖検	来院方法
1	2歳	心肺停止	溺水(風呂)	再	なし	医療機関
2	6歳	心肺停止	溺水(プール)	初	司法	医療機関
3	11歳	心肺停止	縊頸	初	司法	医療機関
4	5歳	心肺停止	脳性麻痺 被虐待?	再	なし	救急隊
5	12歳	心肺停止	脳性麻痺 被虐待?	初	なし	救急隊
6	2歳	心肺停止	脳性麻痺	再	なし	直接来院
7	3歳	心肺停止	脳性麻痺	再	行政	救急隊
8	1ヶ月	心肺停止	高アンモニア血症	初	行政	救急隊
9	1歳	心肺停止	腸疾患?	初	なし	医療機関
10	1歳	心肺停止	気管切開後	再	なし	災害 Dr Car
11	7歳	心肺停止	胸部腹部刺創	初	司法	災害 Dr Car
12	5歳	心肺停止	一酸化炭素中毒	初	司法	救急隊
13	7歳	心肺停止	一酸化炭素中毒	初	司法	救急隊
14	3歳	出血性ショック	血球貪食症候群	再	病理	転棟
15	19歳	敗血症性ショック	胆道閉鎖術後	再	なし	転棟
16	9ヶ月	多臓器不全	染色体異常	再	なし	医療機関
17	13歳	胸部腫瘍	神経線維腫症	再	なし	転棟
18	6歳	肺炎	不明	初	なし	医療機関
19	2歳	急性脳症	頭蓋早期縫合	再	なし	医療機関
20	16歳	呼吸不全	脳性麻痺	再	なし	医療機関
21	6ヶ月	敗血症性ショック	臍帯血移植後	再	なし	転棟
22	1歳	急性硬膜下血腫	虐待疑い	初	なし	医療機関

2. 最重症例治療内容 (含重複)

	2005年	2006年	2007年
死亡	20	11	22
手術症例			
緊急	46	47	76
待期	25	26	32
人工呼吸 管理	60	67	89
脳低体温・常温療法	12	13	21
透析療法	5	6	1
術後管理目的転棟	0	0	2

緊急手術症例 76例 詳細 (含重複)

2007年							2006年	
一般外科	34	腸重積 7 臍損傷 1	虫垂炎 6 気胸 1	絞扼性イレウス 5 気管支鏡 9	腹部腫瘍 2	ソケイヘルニア 2	腸回転異常 1	24
脳外科	37	硬膜下血腫 6 脳圧モニター (のみ) 19	頭蓋内出血 3	脳腫瘍 3	硬膜下水腫 3	シャント不全 2	脊髄膿瘍 1	18
形成外科	1	頭皮裂傷 1						2
泌尿器科	1	腎後性腎不全 1						1
心臓外科	1	リード線断裂 1						0
整形外科	2	大腿骨骨折 2						1
耳鼻科	0							1

待期手術症例 32例 詳細 (含重複)

2007年							2006年	
一般外科	20	虫垂炎 3 腹腔内膿瘍 1	膿胸 3 ヒルシュ 1	幽門狭窄 2 腹部腫瘍 1	臍仮性嚢胞 2 腸重積 1	縦隔腫瘍 1 ソケイヘルニア 1	イレウス 3 胆道閉鎖症 1	9
脳外科	9	硬膜下血腫 3	頭蓋内出血 3	硬膜下水腫 2	水頭症 1			12
整形外科	1	大腿骨骨折 1						3
心臓外科	1	大動脈弓離断 1						0
泌尿器科	1	腎後性腎不全 1						1
形成外科	0							1

人工呼吸管理 89例 詳細

心肺停止蘇生後	22	硬膜下血腫	4	多臓器不全	1	絞扼性イレウス	1
脳性麻痺・呼吸不全	10	気管狭窄症	3	気道熱傷	1	腭損傷	1
痙攣重積	9	熱中症	2	出血性ショック	1	劇症肝炎	1
急性脳炎・脳症	8	縦隔腫瘍	2	急性喉頭蓋炎	1	膿胸	1
肺炎	5	細気管支炎	2	肝腫瘍	1	腎不全	1
頭蓋内出血	4	脳挫傷	1	気道異物	1	肺動脈絞扼術後	1
敗血症性ショック	4	肺高血圧	1	細菌性髄膜炎	1	胸部血管損傷	1

脳低体温・常温療法21例 詳細

	年齢	臨床診断	原因その他	低・常	予後
1	2歳	心肺停止蘇生後	溺水(風呂)	低温	死亡
2	1歳	急性硬膜下血腫	被虐待?	低温	死亡
3	4歳	脳挫傷	木より転落	低温	軽快
4	10ヶ月	心肺停止蘇生後	溺水(風呂)	低温	軽快
5	6ヶ月	心肺停止蘇生後	縦隔腫瘍	低温	後遺症
6	2ヶ月	心肺停止蘇生後	被虐待?	低温	後遺症
7	2歳	心肺停止蘇生後	脳性麻痺	常温	死亡
8	5歳	心肺停止蘇生後	脳性麻痺 被虐待?	常温	死亡
9	4ヶ月	細菌性髄膜炎	インフルエンザ桿菌	常温	後遺症
10	11歳	心肺停止蘇生後	縊頸	常温	後遺症
11	10ヶ月	心肺停止蘇生後	RS肺炎	常温	後遺症
12	2歳	急性脳症	不明	常温	軽快
13	4歳	急性脳症	不明	常温	軽快
14	12歳	熱中症	サッカー練習中	常温	軽快
15	1歳	急性硬膜下血腫	被虐待?	常温	軽快
16	3歳	急性硬膜下血腫	頭部打撲	常温	軽快
17	2歳	急性脳症	不明	常温	軽快
18	13歳	急性脳炎	不明	常温	軽快
19	5歳	急性脳炎	インフルエンザA	常温	軽快
20	1歳	急性脳炎	インフルエンザA	常温	軽快
21	6歳	急性脳症	不明	常温	軽快

透析療法 1例 詳細

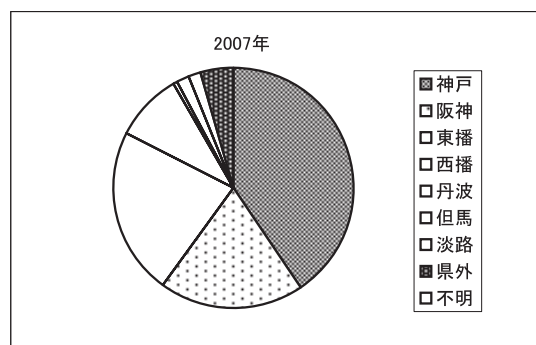
	年齢	基礎疾患	方法	予後
1	19歳	敗血症性ショック	血液浄化	死亡

術後管理目的転棟 2名 詳細

	年齢	病名	手術科	予後
1	1ヶ月	三尖弁閉鎖症	心臓外科	軽快
2	3ヶ月	舌根部甲状腺腫	耳鼻科	軽快

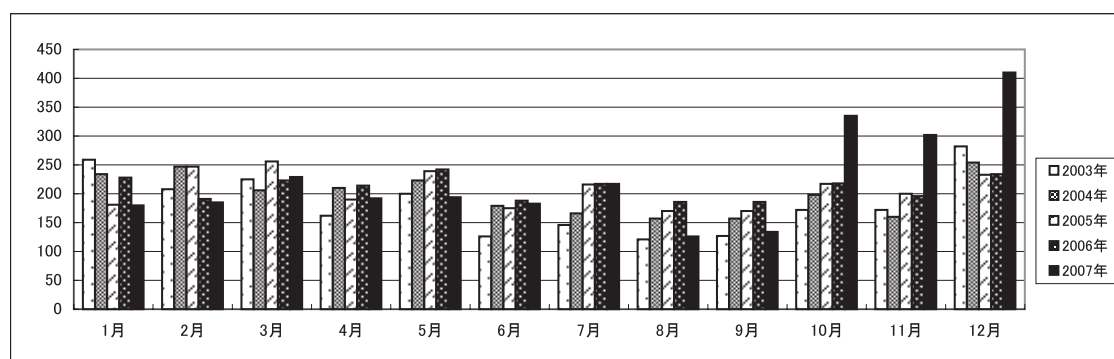
最重症患者の住所

	2005年		2006年		2007年	
	数	%	数	%	数	%
神戸	58	42.3	48	31	74	40.4
阪神	20	14.6	40	25.8	36	19.7
東播	26	19	34	21.9	41	22.4
西播	9	6.6	5	3.2	17	9.3
丹波	6	4.4	4	2.6	1	0.5
但馬	4	2.9	3	1.9	3	1.6
淡路	2	1.4	3	1.9	3	1.6
県外	6	4.4	13	8.5	8	4.4
不明	6	4.4	5	3.2	0	0.0
計	137	100	155	100	183	100.0

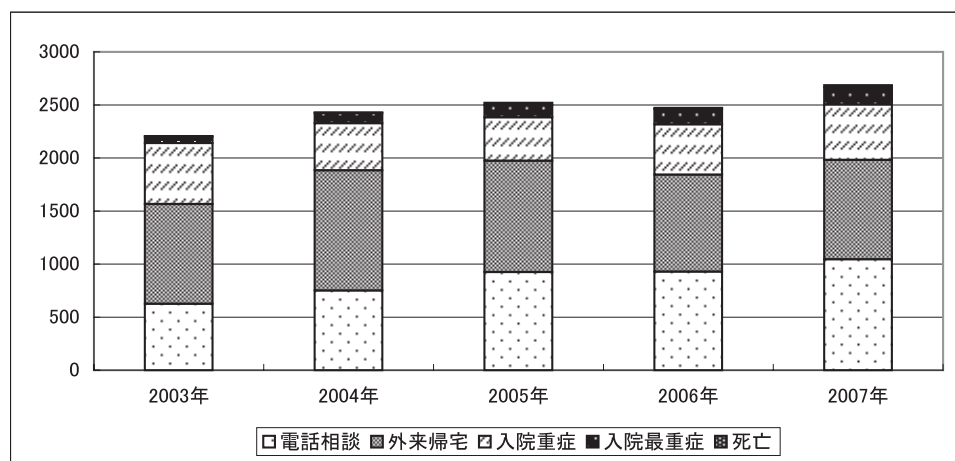


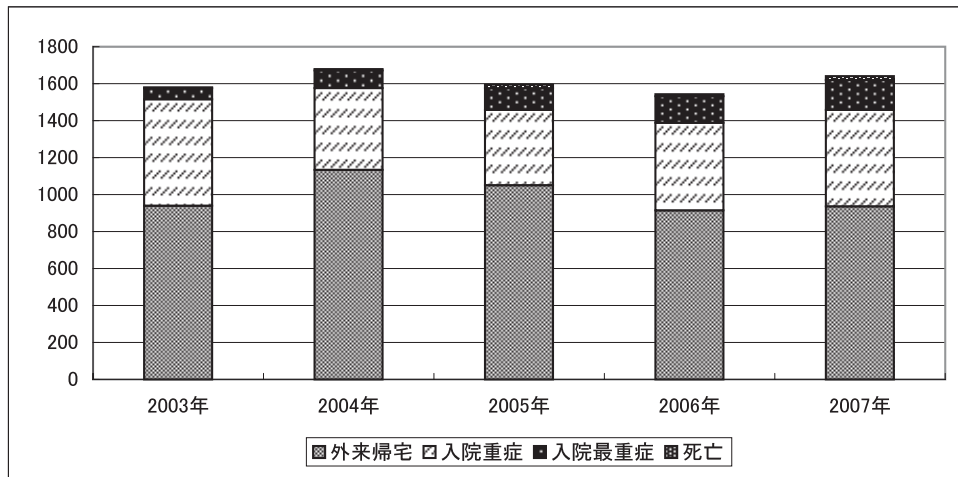
4) 患者数の推移

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2003年	259	208	225	162	200	126	146	121	127	172	172	282
2004年	234	247	206	210	223	179	166	157	157	198	160	254
2005年	181	247	256	190	239	175	216	170	170	217	200	233
2006年	228	191	223	214	242	188	217	186	186	218	196	234
2007年	180	185	229	192	194	183	217	126	134	335	302	410



	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
電話相談	626	751	925	929	1046
外来帰宅	939	1133	1050	914	936
入院重症	576	443	408	474	522
入院最重症	60	95	117	144	161
死亡	5	8	20	11	22





5) 救急医療室入院患者 512名の内訳

重症度

	計	%
入院最重症	179	35.0
入院重症	333	65.0
計	512	100

転帰

死亡	18 (3.5%)		
軽快退院	171 (33.4%)		
転科	318 (62.1%)	内科系 219	総診科 132 脳内科 28 血内科 23 アレルギー 12 腎内科 9 循環器 9 代内科 1 育内科 5
		外科系 99	一般外科 50 脳外科 33 形成外科 8 整形外科 3 耳鼻科 2
転院	5 (1.0%)		
計	512 (100.0%)		

6. 代謝内分泌科

郷司克己 2007年度

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟にかかわる疾患を主として担当している。疾患としては、低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。また、当科では新生児マススクリーニング対象疾患である先天代謝異常、クレチン症および先天性副腎過形成も担当している。

近年、分子生物学の分野における技術的な進歩はめざましく、各種疾患における病態も分子レベルで理解されるようになった。当科では、遺伝子工学的手法を駆使して診療にあたることこそが社会的要請に合致することと考え分子生物学的技術の確立に努めている。本年度は、先天性副腎過形成および甲状腺ホルモン不応症における遺伝子解析の面で、臨床に直結する成果が得られた。今後も、神戸大学小児科および環境応答医学講座とも協力しながら、分子生物学的手法をもちいた解析、研究を臨床の場に役立てたいと考えている。

代謝内分泌科 2007年度

外来患者 (新患)

	患者数
低身長症	92
甲状腺疾患	15
性腺疾患	39
副腎	5
糖代謝異常	11
肥満	10
マススクリーニング クレチン症	32
先天代謝異常症	4
先天性副腎過形成	1
その他	31
計	240

入院患者

	患者数
低身長症	21
糖代謝異常	10
性腺疾患	4
甲状腺疾患	2
副腎疾患	3
その他	17
計	57

7. アレルギー科

アレルギー科は部長の三好、医長の中岸、笠井の3人のチームで診療を行った。
2007年は外来初診186名、入院66名であった。

【診療活動】

アレルギー科の対象疾患としては、

- 1) アレルギー疾患；気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー 等
- 3) 膠原病・リウマチ性疾患；若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎、自己炎症性疾患 等

である。

アトピー性皮膚炎については、ドクターショッピングやアトピービジネス、民間療法などの果てに受診される患者さんも多く、スタンダードな治療の普及に努めた。食物アレルギーの確定診断および不必要な食事制限を解除するための食物負荷試験を行っているのも特徴のひとつで、2007年は延べ436名に実施した。気管支喘息については、乳児喘息の早期診断と長期管理薬による発作予防療法、思春期喘息の治療管理に力を尽くした。

膠原病・リウマチ性疾患の患者数も徐々に蓄積され、現在治療中の症例が約150名に達している。JIAに対する生物学的製剤の診療実績も積み重ねられてきており、地域の中心的病院としての役割を果たすよう努力を続けている。

1) 外来初診患者数 186

1. アレルギー疾患 143

気管支喘息	29
アトピー性皮膚炎	40
好酸球性胃腸症	8
食物アレルギー	60
じんましん	6
その他のアレルギー疾患	0

3. 予防接種 5

2) 入院患者数 66

1. アレルギー疾患 26

アトピー性皮膚炎	8
気管支喘息	7
好酸球性胃腸症	8
食物アレルギー	3

2. リウマチ性疾患 38

若年性特発性関節炎	25
その他のリウマチ性疾患	13

2. リウマチ性疾患 40

若年性特発性関節炎	29
その他のリウマチ性疾患	11

8. 脳神経内科

【診療活動】

診療活動は、脳神経内科外来初診274名・外来延べ総数2,443人、発達行動小児科外来初診患者は70人・外来延べ人数208人であった。また入院患者数は2,068人であった。

【動 向】

これまで神経内科の診療範囲は、神経疾患・発達障害・心身症であったが、米国の小児医療体制では、発達障害・心身症に関しては、主として発達行動小児科医が診療にあたり、今後日本の小児病院・大学病院でも専門外来が開設されつつある。当科では平成17年7月に発達行動小児科外来を開設したが、初診患者の受診待ちが平均2ヶ月程度となっている。

在宅医療が進む中、神経内科領域でも在宅人工呼吸・在宅酸素・在宅中心静脈栄養などを要する患児が増加しつつある。現在、一般外科にて、在宅外来が行われているが、関係他科とも協力した、専門外来が必要である。

その他小児神経疾患にも、集中治療を要する急性脳炎などの病態から、まれな先天性代謝異常の診断まで幅の広い疾患が含まれる。

一般的な診療は可能であるにしても、小児専門病院としてのより専門的な医療を満たすには外来スペース、人員の不足であり他の小児専門病院と比べても圧倒的に不足している。

また兵庫県では小児神経疾患の中核施設が存在せず、その医師の育成も困難である。当院が小児神経領域に対してどこまでの役割を担うのかというグランドデザインと、それに向けた対策が課題である。

初期外来初診患者

けいれん性疾患

てんかん	96
熱性けいれん	25
その他のけいれん疾患	13
その他の発作性疾患	13

発達障害

精神遅滞	17
広汎性発達障害	6
その他の発達障害	12

感染性・炎症性疾患

急性脳炎・脳症	13
---------	----

心身症

摂食障害	9
その他の心身症	7

その他

頭痛	12
低酸素性脳障害	10
歩行障害・運動失調	6
血管障害	4
その他の脳外科疾患	4
染色体異常・奇形症候群	4
チック	3
睡眠障害	3
脱随疾患	3
神経皮膚症候群	2
その他	14

発達行動小児科外来初診患者

発達障害

広汎性発達障害	22
精神遅滞	11
注意欠陥多動性障害	6
その他の発達障害	11

心身症・神経症 5

その他 16

9. 血液腫瘍科

【人事異動】

吾郷 耕彦	専攻医	H19. 1. 1 ~ 3. 31	新生児科へ転出
寺岡 由恵	専攻医	H19. 1. 1 ~ 3. 31	総合診療部へ転出
田中 裕也	専攻医	H19. 4. 1 ~ 6. 30	新生児科へ転出
林 耕平	専攻医	H19. 4. 1 ~	
山本 哲也	専攻医	H19. 4. 1 ~ 6. 30	新生児科へ転出
安部 信吾	研修医	H19. 4. 1 ~ 6. 30	高槻病院へ転出
丸茂智恵子	研修医	H19. 6. 1 ~ 6. 30	塚口病院へ転出
岩谷 壮太	専攻医	H19. 7. 1 ~ 9. 30	新生児科へ転出
中川 拓	専攻医	H19. 7. 1 ~ 9. 30	新生児科へ転出
上田 陽子	研修医	H19. 7. 1 ~ 9. 30	高槻病院へ転出
小川 禎治	専攻医	H19. 10. 1 ~ 12. 31	循環器科へ転出
早島 禎幸	専攻医	H19. 10. 1 ~ 12. 31	高槻病院へ転出

【この1年の動向】

スタッフは部長（小阪嘉之）、医長3名（川崎圭一郎、長谷川大一郎、竹田洋樹）の他、4月以降は血液腫瘍科専属の専攻医（林耕平）を得ることができた。他にローテートの専攻医、研修医が2～3名という状況（上記参照）で、人数的には昨年より増加したものの、それに呼応するように、表1に示す通り、患者数が激増してきている。理由のひとつは救急部発足以降、休日や夜間に悪性腫瘍および血液疾患患者が紹介入院するケースも稀ではないことなどがあげられる。診断がつき化学療法が開始されるまでは、救急部にお世話になることもしばしばである。ようやく充実しつつある小児がん登録のデータでは、県下発症の2/3程度を当院で治療しているという現況である。

当院の特徴は、集学的治療の実践が徹底されていることである。たとえば最近症例数が増加している脳腫瘍では、脳神経外科、放射線科、病理と密にカンファレンスを行ない、患者に対して最良と思われる医療を提供できるよう心がけている。これは他の固形悪性腫瘍患者すべてに言えることで、別項に示すとおり毎週水曜日に各関連外科系と腫瘍カンファレンスを開き、治療方針を決定している。造血器腫瘍に関しては、JPLSG（小児白血病リンパ腫研究グループ）の参加施設として、基本的には同グループの定める治療法に従って治療を行なっている。固形腫瘍（自家移植が多い）、造血器腫瘍（同種移植）ともに難治例では積極的に表2に示す通り、造血幹細胞移植を施行している。

しかし全例治癒に導くことは未だ不可能で、なかには不幸な転記を辿るケースもあり、昨年の死亡例は表3に示す通り（自宅で死亡も含む）で、全部で8例であった。しかし表1からも分かるように、悪性腫瘍の新患だけでも約60例を数える当科の現状では、このデータだけでも治癒率の向上が伺える。ところで最近いわゆるターミナルケアに移らざるを得ないケースでは、御家族が在宅でのフォローアップを望まれるケースが増加してきており、今後は地域における、小児の悪性腫瘍患者に対する在宅ケアの充実が大切となることが予想される。

これからも、難治悪性腫瘍、および血液疾患に対して後遺症無き治癒を目指してスタッフ一同精進していく所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

表1 新患一覧

疾患名	人数	備考
急性リンパ性白血病	12	Ph1 1 MLL 1
急性骨髄性白血病	4	
骨髄異形性症候群	2	RCMD 2
若年性骨髄単球性白血病	1	
非ホジキンリンパ腫	3	
神経芽細胞腫	7	
脳腫瘍	21	胚細胞腫瘍7 神経膠腫7 髄芽腫2 上衣腫2 その他3
卵黄のう瘍	3	
横紋筋肉腫	3	
血球貪食組織球症	2	FEL 1
ランゲルハンス組織球症	2	
骨肉腫	1	
慢性活動性EBウィルス感染症	1	
ウィルス関連血球貪食症候群	1	
肝芽腫	1	
ウィルムス腫瘍	1	
網膜芽細胞腫	1	
成熟奇形腫	4	
血管腫	3	
脂肪芽腫	2	
耳下腺良性腫瘍	1	
巨細胞腫	1	
リンパ管腫	1	
繊維腫	1	
非特異的リンパ節炎	17	
特発性血小板減少性紫斑病	11	
好中球減少症	5	すべて免疫性
白血球増多症	3	すべて正常
血小板増多症	1	正常
亜急性壊死性リンパ節炎	2	
鉄欠乏性貧血	3	
遺伝性球状赤血球症	4	
その他の貧血	2	
血友病A	2	
出血傾向精査	3	すべて正常
易感染性精査	3	すべて正常
再生不良性貧血	1	
遺伝性疾患の同胞精査	5	すべて正常
胸腺腫大精査	1	正常
脾腫精査	1	
原発性免疫不全症	2	CVID 2
骨髄移植ドナー	2	
骨髄移植ドナー候補	*16	*すべて自費診療
計	163	

表2 造血幹細胞移植症例一覧

疾患名	年齢/性	病期	移植法	転帰	備考
急性骨髄性白血病	4/M	第3再発	RBMT	腫瘍死	2回目移植
急性リンパ性白血病(Ph1)	13/M	第1寛解期	UBMT	無病生存	
神経芽細胞腫	2/F	寛解導入不能	APBSCT	担癌生存	
ユーイング肉腫	1/F	第1寛解期	APBSCT	再発生存	
急性骨髄性白血病	13/M	第1寛解期	UBMT	無病生存	
頭蓋内胚細胞腫瘍	13/M	寛解導入遷延	APBSCT	無病生存	
急性骨髄性白血病	14/F	第1寛解期	RBMT	無病生存	
神経芽細胞腫	2/F	寛解導入不能	CBSCT	担癌生存	5と同一症例、2回目移植
急性リンパ性白血病	7/F	第2寛解期	UBMT	無病生存	
神経芽細胞腫	2/F	寛解導入不能	APBSCT	感染症死	
若年性骨髄単球性白血病	0/M	寛解導入不能	UCBSAT	感染症死	
急性リンパ性白血病(MLL)	1/F	第1寛解期	UBMT	無病生存	

表3 死亡例一覧

疾患名	年齢/性	死因	備考
脳腫瘍(神経膠芽腫)	13/M	原病	
腎悪性横紋様腫瘍	3/M	原病	在宅
慢性活動性EBウイルス感染症	3/F	原病	
乳児ALL(MLL+)	1/M	原病	
AML(M2)	4/M	原病	
脳腫瘍(退形成性星細胞腫)	3/F	原病	在宅
神経芽細胞腫	2/M	感染症(担癌)	
若年性骨髄単球性白血病	0/M	感染症(担癌)	

10. 循環器科

【スタッフ・人事異動】

鄭 輝男 (平成19年4月退職、開業)
城戸佐知子
田中 敏克
寺野 和宏 (平成19年4月から、東京慈恵会医大より)
藤田 秀樹
齋木 宏文
下岡 武史 (専攻医、平成19年1月から12月まで、院内移動)
井手健太郎 (専攻医、平成19年12月、院内移動)
富永 健太 (専攻医、平成19年9月、院内異動)

スタッフは5名、他に専攻医数名(ローテートの専攻医が循環器に興味を示して、その後の研修で1年など比較的長期に在籍してくれるようになっている)。小児科としての3年制の専攻医枠により、他にも常時1-2名の専攻医(およそ3ヶ月交代)と共に医療に従事している。鄭医師の開業に伴い、スタッフは東京慈恵会医大より寺野医師(平成6年卒)が着任。

【診療活動】

- (1)外来：月曜日から金曜日まで週5日。外来総患者数は7820名(前年8678名)、新規患者数は584名(うち469名に心疾患)であった。総数は外来予約枠を設けたことによりやや減少しているが、待ち時間の短縮はいまだに課題のひとつである(ただし、当院は検査・診察を同じ日に行っているため、ある程度の待ち時間ができてしまうことになる)。カテーテル治療相談外来(木曜午前、担当：田中医師)や運動機能検査外来(木曜午後)、成人外来(月曜午後、担当：城戸)を多少の役割分担のもとで行っている。紹介患者では、県内の開業医院からの紹介も増加している。
- (2)入院：総入院患者数は398名(前年463名)。入院患者減少の背景には、カテーテル検査件数の減少(カテーテル検査目的の入院は190名)、重症新生児の増加による在院期間の長期化などが挙げられる。新生児や救急患者の入院は、前年27例に対して51名と増加しており、平成19年は特に広義の左心低形成症候群(Norwood手術を必要とする疾患群)の新生児の入院が続いた。循環器科での死亡例は5例：多発奇形(感染症を契機に電解質異常?)、高度肺高血圧(感染症併発)、エプスタイン奇形(心不全)、大血管転位術後(心筋梗塞疑い)、Norwood手術後患者(低酸素血症)。
- (3)生理検査：総心電図件数4934件、Master 負荷心電図件数2298件、は昨年と大きく変わらないが、Holter心電図は164件(前年121件)、トレッドミル負荷心電図は101件(88件)と増加傾向である。心エコーは総件数5139件(前年5276件、本年統計はICUでのエコー件数を除いている)。胎児心エコーは164件(前年144件)と増加傾向(担当：齋木医師)。経食道心エコーは58件(カテーテル検査室・手術室の施行を併せて)であった。
- (4)カテーテル検査：総件数277件(前年320件)。昨年に引き続き、患者負担減少を目的に、合併症のない軽症心疾患のカテーテル検査を大幅に減らしている。心エコーのみで手術へ、また術後の評価も、可能な疾患では造影CT検査(93件)を中心に行っている。また平成20年よりMRIが新規に稼働し始めたため、一部の心疾患ではMRIを活用することになりそうである。一方でカテーテル治療の件数は微増し、平成19年

は86件（前年81件）であった。心房中隔欠損のカテーテル治療も開始し、平成19年に予定の3例を施行、平成20年には5 - 7名が待機している。

【その他の活動】

(1)カンファレンス：月曜日に心臓外科との合同カンファレンス、木曜日にカテーテル検査および心エコー検討会、木曜日朝隔週で抄読会を行い、討議の時間をもっている。

(2)学会参加：小児循環器病学会、JPIC 研究会、胎児循環器学会、成人先天性心疾患研究会、HOT 研究会、川崎病研究会などへの参加。

【新規患者内訳】		川崎病	22
1. 新患総数	584名 (469名に心疾患)	不整脈	49
A 新生児期 (47) / 救急新患 (4)	51	心筋症	1
大動脈縮窄複合	1	腎性高血圧	2
心室中隔欠損・心内膜症欠損	4	その他	65
大血管転位	3	機能性心雑音	64
肺動脈閉鎖・ファロー四徴症	8		
両大血管右室起始	5	【カテーテル検査・治療内訳(総数277件)】	
純型肺動脈閉鎖・重症肺動脈弁狭窄	2	4. 臓カテーテル検査	241
三尖弁閉鎖	1	心室中隔欠損 (合併奇形・肺高血圧を伴う)	15
単心室・臓器錯位症候群	3	心房中隔欠損	28
左心低形成症候群	12	心内膜床欠損	7
(大動脈弁狭窄・大動脈低形成を主体とする疾患を含む)		ファロー四徴症 / 肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	44
僧帽弁閉鎖・肺動脈閉鎖	1	両大血管右室起始	15
大動脈肺動脈窓・大動脈弓離断	1	大血管転位	13
修正大血管転位・肺動脈狭窄/閉鎖	2	大動脈縮窄・離断	5
エプスタイン奇形	1	純型肺動脈閉鎖	2
不整脈	3	いわゆるフォンタン適応症例	78
川崎病・巨大瘤	1	肺動脈弁狭窄 (治療例は除く)	3
原発性肺高血圧	1	大動脈弁狭窄	3
心筋緻密化障害・心筋症	2	総肺動脈還流異常	4
		大動脈縮窄 (合併奇形あり)	5
B 乳児期以後 (外来紹介の新生児含む)	533	腎血管性肺高血圧	7
心室中隔欠損	141	川崎病	12
心房中隔欠損	94	(治療を兼ねて行っている症例含む)	
動脈管開存	17		
心内膜床欠損	5	5. カテーテル治療	86
肺動脈弁狭窄	43	弁形成	16
大動脈弁狭窄・閉鎖不全	13	血管形成	25
ファロー四徴症	6	ステント留置術	3
両大血管右室起始	1	コイル塞栓術 (動脈管開存)	6
大血管転位	1	コイル塞栓術 (側副血管)	27
総肺静脈還流異常	1	バルーン心房中隔裂開術	6
僧帽弁閉鎖不全	5	心房中隔欠損閉鎖術	3
大動脈縮窄 (軽度)	3		

11. 腎臓内科

外来診療については、田中亮二郎医師が、入院診療については、専攻医と藤田晃生医師と田中亮二郎医師が担当した。また2007年度の外来初診患者数は166名、入院患者数は77名であった。

活動状況

ネフローゼ症候群、急性腎炎、IgA 腎症、紫斑病性腎炎、遺伝性腎炎、その他慢性腎炎、全身性エリテマト-デス、溶血性尿毒症症候群などの急性腎不全、慢性腎不全、高血圧、尿路感染症、先天性尿路奇形、腎臓移植後のフォロー等を対象としている。本年度はネフローゼ症候群や腎炎などに対して36例の腎生検を施行した。また PICU において肝不全の2名の患者さんに血漿交換を含む血液浄化を施行した。また両側低形成腎による慢性腎不全の患児に対して腹膜透析を導入した。現在5名の慢性腎不全患児が外来維持腹膜透析を受けている。腎移植に関しては他院にお願いし、2例施行していただき現在計4名の患者さんが外来にてフォロー中である。今後急性腎不全に対する血液浄化や慢性腎不全に対する在宅腹膜透析例は増加すると思われる。平成19年には最新の持続血液透析濾過器が常備され、急性腎不全に対する透析や他の血液浄化療法に対して迅速に対応可能となった。一方平成15年度より厚生労働科学研究「小児難治性腎疾患に対する薬物療法ガイドライン作成のための多施設協同研究」に参加し、巣状メサンギウム増殖を示す小児 IgA 腎症、頻回再発型ネフローゼ症候群、ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を対象とした多施設協同非盲検ランダム化比較試験を行っている。また2007年度から小児ネフローゼ症候群に対する初期治療確立を目指した多施設共同臨床研究と拡大臨床試験体制整備事業にも参加し、新しいエビデンス構築に向けて貢献している。院内活動としては、週1回英文抄読会を行い、最新の情報の収集に努めている。さらに平成18年度より日本腎臓学会の研修教育施設にも指定されている。

平成19年度入院患者

ネフローゼ症候群	25
IgA 腎症	10
膜性増殖性糸球体腎炎	1
メサンジウム増殖性腎炎	3
巣状分節性糸球体硬化症	1
膜性腎症	1
急性腎炎	2
ループス腎炎	8
紫斑病性腎炎	1
溶血性尿毒症症候群	2
アルポート症候群	2
皮膚筋炎	1
Wegener 肉芽腫	1
Carpal Tarsal Osteolysis	1
腎血管性高血圧	2
慢性腎不全	8
保存期腎不全	4
腎臓移植後	4
その他	17
計	77名

12. 精神神経科

2007年度のスタッフは、常勤医1名（前田宏章）と、非常勤医4名（伊東恵子、井出浩、白瀧貞昭、松川悦之）であった。

昨年度と比較して、新患数が40名ほど減少している。これは再診の患者数増加に伴い新患枠を制限した影響が大きいと考えられる。新患数は児童精神科医師数の影響を強く受けるが、児童精神科医不足は相変わらず続いている。

新患統計には表れていないが、不登校、ひきこもり、こども虐待、自傷、自殺、育児不安など、子どもの心や発達にかかわる問題は多岐にわたり存在している。それぞれのニーズに対応できるように今後も尽力していきたい。

新患分布

疾 患	年 齢		乳児	幼児 前期	幼児 後期	学童 前期	学童 後期	中学 高校	18歳 以上	計
	男	女								
精神遅滞	19	7	0	3	11	3	3	4	2	26
学習障害	10	4	0	2	6	5	1	0	0	14
自閉症圏	44	10	0	5	21	13	5	10	0	54
多動性障害	20	4	0	1	7	6	6	4	0	24
行為障害	2	1	1	0	0	0	1	2	0	3
不安障害	13	9	0	0	1	7	3	10	1	22
強迫性障害	2	5	0	0	0	2	3	2	0	7
ストレス障害、適応障害	23	14	0	0	6	2	10	19	0	37
解離性障害	4	21	0	0	0	10	9	6	0	25
身体表現性障害	2	3	0	0	1	1	2	1	0	5
選択性緘黙	2	3	0	0	1	1	2	1	0	5
愛着障害	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
チック障害	7	2	0	0	1	4	3	1	0	9
遺尿症、遺糞症	2	0	0	0	1	0	1	0	0	2
哺育障害、異食症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
吃音	0	2	0	1	1	0	0	0	0	2
器質性精神障害	1	1	0	0	0	0	0	2	0	2
統合失調症圏	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1
気分障害	1	2	0	0	0	0	1	0	2	3
摂食障害	1	6	0	0	0	0	3	4	0	7
睡眠障害	1	2	0	0	2	0	0	1	0	3
抜毛症	0	2	0	0	0	0	2	0	0	2
てんかん	2	0	0	0	0	0	1	1	0	2
その他	4	2	1	0	1	0	1	3	0	6
計	158	100	1	12	62	53	55	69	6	258

13. 小児外科

小児外科スタッフ

連 利博 (昭和50年卒、1月～3月)
西島 栄治 (昭和53年卒)
佐藤志以樹 (昭和62年卒)
横井 暁子 (平成2年卒)
高見澤 滋 (平成3年卒)
中尾 真 (平成3年卒、9月～)
尾藤 祐子 (平成5年卒、4月～)
荒井 洋志 (平成7年卒、4月～)
和田 英見 (平成10年卒 1月～3月)
津川 二郎 (平成11年卒 1月～3月)

小児外科専攻医

岡本 竜弥 (平成13年卒)
在間 梓 (平成13年卒)
高野 洋一 (平成15年卒 4月～)
岡本 光正 (平成15年卒 4月～6月)
野崎奈穂子 (平成16年卒 1月～3月)

診療活動

入院患者数793名 (前年度700名)、日帰り手術患者数387名 (前年度460名)、全手術件数1023名 (前年度1042名)、新生児患者数52名 (前年度33名)、手術件数は減少したが新生児患者数は増加した。

手術待ち時間は入院手術で2週～1ヶ月、日帰り手術で約5～6週間であった。

教育活動

神戸大学と熊本大学の5 - 6年生を臨床実習生として受け入れた。今年度の外国人研修医の受け入れはなかった。

学会活動

日本小児外科学会、太平洋小児外科学会、英国小児外科学会、カナダ小児外科学会、胆道閉鎖症研究会、日本小児呼吸器外科研究会、日本小児消化管機能研究会、日本小児内視鏡研究会等で発表した。発表論文は邦文4編、英文3編、計7編であった。

小児外科統計 2007年

(1) 入院患者数	793
(2) 日帰り手術患者数	387
(3) 手術件数	851
(4) 内視鏡検査治療件数	239
総 数	
入 院 手術件数	467
内視鏡検査治療件数	227
日帰り 手術件数	384
内視鏡検査治療件数	12

(5) 入院手術内訳

2007

顔面 頸部	腫瘍生 / 切除	1	
	その他	6	
胸部	気道	気管切開術	19
		気管形成術	1
		胸腔ドレナージ	4
		喉頭気管分離術	6
		気管食道隔壁形成術	1
		その他	2
		肺	肺葉切除術
	ブラ切除術		1
	分画肺切除術		2
	その他		1
	横隔膜	横隔膜ヘルニア閉鎖術	8
		横隔膜縫縮術	2
	食道	食道吻合術	1
		胸壁食道延長術	2
		食道内磁石挿入/抜去	3
		漏斗胸手術 Ravitch 変法	8
		その他	9
	胸壁	Nuss 法	9
Nuss bar 抜去		10	
その他		3	
腹部	消化管	噴門形成術	26
		胃瘻造設術	20
		肥厚性幽門狭窄症手術	13
		十二指腸閉鎖、狭窄手術	2
		空腸・回腸閉鎖症手術	6
		腸回転異常症手術	1
		Meckel 憩室切除術	4
		腸重積症手術	11
		イレウス手術	12
		穿孔性腹膜炎	10
		虫垂切除術	20
		ヒルシュスブルグ病根治術	4
		鎖肛根治術	4
		直腸生検	9
		人工肛門造設術	5
		人工肛門閉鎖術	9
		消化管重複症手術	2
		痔瘻・痔核	5
		その他	12
		肝胆膵脾	胆道閉鎖症手術
	胆道拡張症手術		7
	肝生検		3
	胆嚢摘出術		1
	脾摘出術		1
	その他		3
	腹壁	腹壁破裂手術	2
		腹壁形成術	1
		臍帯ヘルニア手術	1
		臍ヘルニア手術	7
		尿管管・臍腸管切除術	4
		その他	1
		腫瘍	2
	腫瘍	卵巣腫瘍切除術	2
		奇形腫群腫瘍摘出術	4
		腎腫瘍摘出術・腎摘出術	3
		肝腫瘍摘出・肝切除術	2
		悪性腫瘍開胸、開腹生検	2
		神経芽細胞腫切除術	4
		その他	11
	鼠径部	鼠径ヘルニア手術	106
		精巣固定術	8
	その他	中心静脈カテーテル挿入	19
テンコフカテーテル挿入		3	
その他		3	

(6) 内視鏡検査・治療内訳

気管支鏡	気管支鏡のみ	86
	気管内異物摘出術	6
	気管バルーン拡張術	3
	KTP レーザ肉芽焼灼術	24
	肉芽切除術	1
	T-tube 挿入	3
	レティナ挿入	3
	Y型・I型ステント挿入	12
食道胃内視鏡	内視鏡のみ	20
	内視鏡的食道静脈瘤硬化療法	10
	食道バルーン拡張術	41
	胃食道異物摘出術	2
ERCP	ERCP	4
大腸内視鏡	内視鏡のみ	7
	大腸ポリープ切除術	3
	結腸バルーン拡張術	2

(7) 日帰り手術内訳

鼠径ヘルニア手術	312	
臍ヘルニア手術	44	
精巣固定術	3	
リンパ管腫ビシバニール注入	1	
皮膚皮下良性腫瘍摘出術	8	
直腸ポリープ切除術	2	
肛門拡張術	7	
直腸脱手術	2	
内視鏡	食道胃内視鏡	9
	食道バルーン拡張術	1
	気管支鏡	2
その他	5	

(8) 新生児外科症例

59

病名	患者数
横隔膜ヘルニア	7
先天性食道閉鎖症	1
胃破裂	1
肥厚性幽門狭窄症	9
十二指腸閉鎖・狭窄症	2
空腸・回腸閉鎖症	6
腸回転異常症	1
腸管重複症	2
小腸捻転	2
穿孔性腹膜炎	2
ヒルシュスブルグ病	1
鎖肛	5
臍帯ヘルニア	1
腹壁破裂	3
尿管管遺残症	1
腫瘍	5
喉頭嚢胞	1
心臓脱	1
合計	51

14. 心臓血管外科

スタッフ紹介

部長 大嶋 義博 (昭和57年卒)、心臓血管外科専門医、胸部外科指導医
吉田 昌弘 (平成5年卒)、心臓血管外科専門医
圓尾 文子 (平成7年卒)、心臓血管外科専門医
島津 親志 (平成9年卒)
日隈 智憲 (平成12年卒)
井上 武 (平成12年卒)

2007年度の人事異動は、松久 弘典 (平成11年卒) が富山大学に転勤、また6月に姫路循環器病センターより圓尾 文子をスタッフに迎えた。

診療体制

外来：月、水、金の午後2診

手術：月～金 (開心術)、水または金 (非開心術)

軽症例の減少、重症例の頻度が増加し、全体の手術件数は前年度を下回った。2007年の体外循環を用いた手術は184例 (新生児20例)、体外循環非使用の心臓手術は41例 (新生児12例)、その他29例で、手術死亡は5例 (2.0%) であった。新生児の開心術症例が増加、特に重症例の左心低形成症候群の割合が多かった。胎児診断の症例が増えており、産科・新生児科・循環器科との連携を深め、さらに成績向上に努めている。

学会活動：英文、邦文論文が掲載あるいは投稿中で、胸部外科学会、心臓血管外科学会、小児循環器学会、その他、多数の学会、研究会にて発表した。

体外循環使用症例

疾患(術式)	新生児	死亡	乳児前期	死亡	乳児後期	死亡	幼児前期	死亡	幼児後期	死亡	学童以上	死亡	計	死亡
心房中隔欠損症	0		0		0		6		2		2		10	
・+肺動脈狭窄	0		0		1		0		0		0		1	
・+Unroofed coronary sinus	0		0		0		0		0		1		1	
・+血管輪、肺動脈スリング、気管狭窄	0		0		1		0		0		0		1	
・+部分肺静脈還流異常症	0		1		1		1		0		1		4	
心室中隔欠損症	0		15		4		7		1		2		29	
・+右室二腔症	0		1		0		0		0		0		1	
・+肺動脈狭窄(右室流出路狭窄)	0		2		3		0		0		0		5	
・+僧帽弁形成術	0		0		0		0		0		1		1	
・+僧帽弁形成術、右室二腔症	0		1		0		0		0		0		1	
・+部分肺静脈還流異常、肺動脈狭窄	0		1		0		0		0		0		1	
・+肺動脈絞扼解除、ペースメーカー	0		0		1		0		0		0		1	
多発性心室中隔欠損症	0		3		0		1		0		0		4	
・+肺動脈絞扼解除、血管輪解除	0		0		0		1		0		0		1	
心内膜症欠損症	0		3		0		1		0		0		4	
・+肺動脈絞扼解除	0		0		0		2		1		0		3	
・+三心房心	0		1		0		0		0		0		1	
ファロー四徴症	0		0		3		7		0		0		10	
・+肺動脈スリング	0		0		0		1		0		0		1	
・+心内膜床欠損症	0		0		0		0		0		1		1	
・+先天性気管狭窄	0		0		1		0		0		0		1	
肺動脈閉鎖兼心室中隔欠損症	0		0		0		1		0		0		1	
・+統合的肺動脈形成術(MAPCA)	0		0		0		1		0		0		1	
・+総肺静脈還流異常症	0		0		0		1		0		0		1	
右室流出路再建術(再手術)	0		0		0		1		0		1		2	
・+三尖弁形成術	0		1		0		1		1		0		3	
・+三尖弁置換術	0		0		0		0		0		1		1	
両大血管右室起始症	0		0		0		2		0		0		2	
・+完全大血管転位、大動脈縮窄	2		0		0		0		0		0		2	
純型肺動脈閉塞症(二心室修復)	1		0		0		0		0		0		1	
肺動脈狭窄症	0		0		0		0		1		0		1	
完全大血管転位症(動脈スイッチ手術)	3		0		0		0		0		0		3	
(ラステリ型手術)	0		0		0		0		0		0		0	
総肺静脈還流異常症	1		0		0		0		0		0		1	
・+肺動脈絞扼術	0		1		0		0		0		0		1	
肺静脈狭窄解除	0		3		1		0		0		0		4	
・+両側肺動脈絞扼術	1		0		0		0		0		0		1	
・+右室流出路狭窄解除	0		0		0		0		0		0		0	
左心低形成症候群(ノーウッド型手術)	4	1	3	1	0		0		0		0		7	
・+三心房心	1	1	0	0	0		0		0		0		1	
両方向性グレン手術	0		3		0		2		0		0		5	
・+房室弁形成術	0		1		0		0		0		0		1	
・+DKS 吻合	0		0		1		0		0		0		1	
・+DKS 吻合、拡大大動脈弓再建	0		0		1		0		0		0		1	
・+肺動脈形成術	0		0		1		1		0		0		2	
・+右室流出路形成、房室弁形成術	0		0		0		0		0		1		1	
・+ノーウッド型手術	0		1		0		0		0		0		1	
フォンタン型手術(TCPC)	0		0		0		9		0		0		9	
・+Cryoablation	0		0		0		0		0		1		1	
・+肺動脈形成術	0		0		0		6		0		0		6	
・+房室弁形成術	0		0		0		1		0		1		2	
fenestration 閉鎖	0		0		0		0		1		0		1	
口ス手術およびNikaido手術	0		0		0		1		1		1		3	
大動脈弁下狭窄解除	0		0		0		1		0		0		1	
僧帽弁形成術	0		1		0		2		0		0		3	
僧帽弁(共通房室弁)置換術	0		1		0		0		0		1		2	
三尖弁形成術	0		1		1		0		0		0		2	
大動脈縮窄(ECC使用)	0		0		0		0		0		3		3	
・+心室中隔欠損	2		4		0		0		0		0		6	
大動脈弓離断	0		0		0		0		0		0		0	
・+心室中隔欠損	1		0		0		0		0		0		1	
・+心室中隔欠損、大動脈弁狭窄	1		0		0		0		0		0		1	
・+大動脈肺動脈中隔欠損症	1		0		0		0		0		0		1	
大動脈肺動脈中隔欠損症	0		0		0		1		0		0		1	
体肺動脈短絡術(ECC使用)	2		2		0		0		0		0		4	
+肺動脈形成術	0		3		0		0		0		0		3	
先天性気管狭窄(ECMO補助)	0		1	1	0		2		0		0		3	
心室瘤切除	0		0		0		2		0		0		2	
感染性心内膜炎	0		0		0		1	1	0		0		1	
ECMO補助(心筋炎等)	0		1		0		0		0		0		1	
計	20		55		20		63		8		18		184	
(30日以内の死亡)		2		2		0		1		0		0		5

体外循環非使用

疾患	新生児(N)	乳児前期(N)	乳児後期(N)	幼児前期(N)	幼児後(N)	学童以上(N)	計
動脈管開存症	7	3	0	1	0	0	11
体肺動脈短絡手術	0	9	0	2	0	0	11
統合的肺動脈形成術+体肺動脈短絡手術	0	1	0	0	0	0	1
肺動脈絞扼術	0	3	0	0	0	0	3
+ペースメーカー	0	0	0	0	0	1	1
左心低形成症候群(両側肺動脈絞扼術)	3	0	0	0	0	0	3
心臓脱	1	0	0	0	0	0	1
心臓腫瘍	1	0	0	0	0	0	1
腎動脈バイパス	0	0	0	0	0	1	1
ペースメーカー移植、電池交換など	0	1	0	2	0	5	8
計	12	17	0	5	0	7	41
(術後30日以内の死亡)	0	0	0	0	0	0	0

その他

手術	計
心嚢ドレナージ	4
胸腔ドレナージ	3
横隔膜縫縮術	1
試験開胸、洗浄	3
閉創	3
デブリードメン	8
conduit clipping	1
胸骨閉鎖	3
腹膜修復	1
大網充填	1
臍帯ヘルニア	1
計	29

15. 脳神経外科

2007年度の脳神経外科スタッフは秋山英之（医長）、中溝 聡（専攻医）が3月31日に転出、4月1日より新たに山元一樹（医長）、鷗山 淳（専攻医）を迎えた。更に10月1日には鷗山に代わり山本大輔（専攻医）が着任し、長嶋達也（部長）、河村淳史（医長）山元一樹（医長）、山本大輔（専攻医）の4人体制で脳神経外科診療、救急医療に携わっている。

診療活動では兵庫県下のみならず他府県からの紹介例、セカンドオピニオン例が増加しており、更に2007年10月に開設した小児救急医療センター（三次救急施設）に搬送される救急患者の3割に携わり頭部外傷例が増加傾向にある。本施設の特徴としてはこども病院複数科との連携による特殊医療チームがある。脳神経外科・血液腫瘍内科・放射線科・臨床病理部による集学的治療を必要とする脳腫瘍症例、脳神経外科・整形外科・泌尿器科による治療および管理が必要な二分脊椎症例、脳神経外科・形成外科による合同外科的治療を要する頭蓋顔面奇形症例、脳神経外科・救急部・脳神経内科をはじめ多数科の関与が必要な頭部外傷・多発外傷症例などの紹介・搬送例が増加し、発達など将来を見据えた集学的なアプローチを要する分野の手術数が増えている。過去5年間で手術件数は増加傾向にあり平均年間手術数は170例以上、手術前も後も小児医療各方面と密な連携を保ち神経外科治療を推進し長期の追跡を行っている。来年度も神経奇形、頭部外傷、脳腫瘍を中心に国際的な水準を維持する治療成績を積み重ねていきたい。

医療安全の面では、長嶋はこども病院の医療安全対策部長および兵庫県立病院全体の医療安全会議の委員長を、河村はこども病院リスクマネジャーおよび兵庫県立病院職域別リスク管理委員会・診療部委員を兼務しており、脳神経外科医全員が高い安全意識に基づいて診療に取り組んでいる。

学術活動としては、定期的な学会発表、執筆活動を継続、当施設の治療成績などを中心に海外での発表も行っている。厚生労働省精神神経疾患委託研究「発達期に発生する外因性脳障害の診断・治療予防のための実証的研究とガイドライン作成」の分担研究者として虐待による乳幼児頭部外傷の診断・予防の研究に取り組んでいる。また、2007年10月に英国で開催された「脊髄空洞症国際シンポジウム Syringomyelia 2007」の組織委員と招待講演者を務めた。

教育活動としては、長嶋が神戸大学医学部臨床教授を兼務し、医学部5年生のBSL講義を担当するとともに医学部6年生1名の学外実習を受け入れた。神戸大学脳神経外科研修中のバングラデシュ脳神経外科医 Dr. Talha の小児脳神経外科に関する見学実習を受け入れた（厚生労働省認定外国人医師臨床修練指導医：長嶋）。

患者会への支援として、大阪二分脊椎協会および小児脳腫瘍フォーラムにおいて教育講演を行った。毎年、依頼を受けて各地の患者会活動における講演を行い、正しい医療知識の普及に努めている。

分類（日本脳神経外科学会）	数
脳腫瘍摘出術	19
開頭生検術	1
バイパス手術	11
破裂脳動脈瘤手術	1
脳動静脈奇形	2
開頭脳内血腫除去	2
急性硬膜外血腫	4
急性硬膜下血腫	6
慢性硬膜下血腫	7
頭蓋・脳奇形	11
脊椎・脊髄奇形	15
水頭症脳室シャント	41
水頭症内視鏡的手術	1
脊椎・脊髄腫瘍	12
脊髄空洞症	2
その他	42
計	177

16. 形成外科

2007年中は大山知樹、吉村友希、大崎陽子の3人体制であった。頭蓋奇形領域に関しては兵庫医大西本聡の専門外来を毎週木曜日に設置している。大きな変化としては、血管腫（赤あざ）用レーザー導入以降、新患者、照射患者が増加し（年間290例）あらためて潜在患者の多さを認識した。当科のメイン診療である口唇口蓋裂治療については、長期結果に関して内外論文掲載される成績となってきた。今後の課題として、約3ヶ月待ちの日帰り手術枠、多数受診していただきながら他院を紹介せざるをえない青あざ、茶あざ用レーザーの導入、言語訓練枠ならびに言語訓練室の増設などがあげられる。

	入院手術	外来手術	計
新鮮熱傷	1		1
顔面骨骨折	1		1
口唇裂	46	10	56
口蓋裂	39		39
手足の先天異常	51	9	60
頭蓋顔面骨異常	8		8
その他の先天異常	37	47	84
母斑・血管腫・良性腫瘍	28	57	85
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	4	6	10
その他		17	17
	215	146	361

		入院 全麻	外来		小計	計
			全麻	局麻		
新鮮熱傷	全身				0	2
	局所のみ	2			2	
顔面骨骨折	顔面骨骨折	1			1	12
	顔面軟部組織損傷	1	1	10	12	
口唇裂		53	3	1	57	31
口蓋裂		31			31	
手足	先天異常	55	4		59	0
	外傷			0	0	
その他の先天異常		40	56	4	100	154
母斑・血管腫・良性腫瘍		40	106	8	154	1
悪性腫瘍、再建		1			1	12
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド		9		3	12	2
褥創、難治性潰瘍		2			2	0
美容外科					0	333
その他		8	35	290	333	764
計		243	205	316	764	計

含外来処置室
含他科関連

17. 整形外科

2007年4月から堂垣医師が加西市民病院に転出し代わりに浜村清香医師を迎えた。手術件数は昨年に比較して微増の227件であった。内訳では徐々に骨折の件数が増加している。2008年3月末をもってのじぎく療育センターが廃止となるため術後の患者のリハビリ、転院に支障をきたす可能性がある。このことは今後の大きな課題と考えられる。

手 術

	病 名	術 式	手術数
頸 椎	環 軸 椎 脱 臼	ハロ-装着	1
	環 軸 椎 脱 臼	頭蓋、頸椎固定術	0
	前 湾	固定術	0
	後 湾 症	固定術	0
	転 移 性 骨 腫 瘍	後方固定術	0
体 幹	斜 頸	切腱術	5
	側 弯 症	矯正術	3
		グローイングロッド挿入	4
		ロッド延長	3
		イリザロフ	0
股 関 節	先天性股関節脱臼	Ludloff	1
		前方進入	0
		全周解離	0
		SA+OR+VO	1
		SA+OR	0
		内反骨きり術	1
	臼 蓋 形 成 不 全	トリプル骨切り術	0
	股 遺 残 垂 脱 臼	ソルター	4
		ソルター + OR	0
	大 転 子 高 位	大転子下降術	0
	ペ ル テ ス 病	大腿骨内反骨きり術	4
	P F F D	大腿骨外反骨きり術	0
	内 反 股	大腿骨外反骨きり術	0
	化膿性関節炎後遺症	大腿骨転子下内反骨切り	0
	骨 頭 す べ り	大腿骨屈曲骨切り術	0
	骨 頭 す べ り	ピンニング	3
	麻痺性股関節脱臼	大腿骨頭切除術	0
		大腿骨内反骨きり+骨盤骨きり+観血的整復術	0
		観血的整復術(内側)	0
		大腿骨内反骨切り術	0
観血的整復術(前方)		0	
骨盤骨切り		0	
膝 関 節	習慣性膝蓋骨脱臼	観血整復	0
	J R A	鏡視下滑膜切除	0
足 部	先天性内反足	後方解離	4
		アキレス腱切腱(Ponseti)	19
		距骨下関節全周解離	2
		腱移行術(TAを外側)	2
		Evans	1
		PMR, PMR Evans	2
		後方解離	2
	麻痺性変形(奇形性)	ATL	5
		PMLR	4
		後内方解離	6
		PMR, TA外側移行	1
		足根骨矯正骨切り術	1
		距骨摘出術	1
		下腿変形	0
		腱移行(TPを外側に)	3
		腱移行(TAを踵骨に)	0
		(踵 足)	

	病 名	術 式	手術数	
	垂 直 距 骨	距骨下関節全周解離	0	
		距舟関節ピンニング、アキレス腱切腱	0	
	足 趾 変 形	矯正術	0	
		後方解離術	0	
	脛 骨 列 形 成 不 全	足関節形成術	0	
		脛骨、腓骨癒合術	2	
	外 反 母 趾	矯正術	0	
先天性外反母趾		0		
上 肢	先天性橈骨頭脱臼	観血的整復術	0	
	上 腕 短 縮	上腕骨延長術	0	
	裂 手 , 裂 足	形成術	4	
	橈 側 列 形 成 不 全	矯正・延長	1	
	足 根 骨 癒 合 症	癒合部切除	1	
	膝 蓋 骨 脱 臼	整復術	0	
	絞 扼 輪 症 候 群	形成術	0	
下 肢	先 天 性 偽 関 節	bone transport (イリザロフ)	0	
		骨移植	0	
		髓内釘	0	
	脚 長 差	脚延長 (イリザロフ(含む Taylor Frame))	6	
		骨移植	0	
		脚延長 (EBI)	4	
	膝 関 節 脱 臼	観血的整復術	2	
	変 形	矯正骨切り術	0	
	変 形 (内 捻)	下腿回旋骨きり術	2	
		軟部組織解離術	1	
		イリザロフ	0	
	過 剰 肢	過剰肢切除	0	
	絞 扼 輪 症 候 群	形成術	0	
外 傷	上 腕 骨 外 顆 骨 折	整復固定術	2	
	上 腕 骨 内 顆 骨 折	整復固定術	0	
	上 腕 骨 顆 上 骨 折	整復固定術	8	
	陳旧性モンテジア	尺骨骨切り術、橈骨頭整復術	0	
	肘 関 節 脱 臼	徒手整復	0	
	大 腿 骨 骨 折	観血的整復術	0	
	肘 頭 骨 折	骨接合術	0	
	関 節 脱 臼	徒手整復ギプス固定	0	
	骨 折 後 偽 関 節	骨接合術	1	
	骨 折	鋼線牽引	4	
	内 反 肘	矯正骨切り術	0	
	その他骨折(徒手整復、観血的整復術)	整復固定術	8	
	腱 断 裂	腱縫合	0	
	化 膿 性 関 節 炎	穿刺術	0	
	炎 症	化 膿 性 関 節 炎	病巣搔爬	0
			関節内洗浄	0
		関 節 炎	滑膜切除	0
骨髓炎、LCH、病態不明		生検術	7	
腫 瘍	腫 瘍	骨	6	
		軟部	4	
そ の 他	多・合指(趾)症	余剩指(趾)切除	11	
		指(趾)間形成	5	
	手 指 変 形	矯正骨切り術	0	
	癭 痕 拘 縮	形成術	3	
	剛 直 母 指	腱鞘切開	22	
	抜釘(内反足術後も)		27	
そ の 他		13		
年間手術件数			227	

検 査

	部 位	方 法	検査数
	股 関 節	アルト口	29
	そ の 他	アルト口	2

18. 眼科

4月に医長の西崎雅也医師が社会保険神戸中央病院に異動、交代で小西貴之医師が専攻医として着任。7月、井上結香子専攻医が市立加古川病院に異動、交代で棕野美代子医師が医長として着任。10月、小西専攻医が予定された任期の途中で退職となり、交代で神戸大学より藤岡美幸医師が着任。11月、棕野医長がやはり任期途中で退職し、交代で永井隆史医師が専攻医として着任。12月には藤岡医師が病気療養休暇となり、この間、神戸大学より辰巳康子医師の派遣を受けた。この様に本年は科長以外のスタッフの異動が相次いだ。この事態が外来診察、手術に影響することがない様、科長の負担増で何とか乗り切った感がある。しかし、本来、高度医療を担う病院に対する患者、家族の期待に応えるためには、医師各人が専門分野について十分な診療経験を積む必要があると考えており、今後さらにスタッフの教育にも力を注ぎたい。

(1) 新患者数

病名	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	合計
	1ヶ月未満	1ヶ月～	6ヶ月～	1～3歳	4～6歳	7～9歳	10～12歳	13歳	
屈折異常		2	7	152	175	88	26	25	475
斜視及び疑い		7	19	157	109	49	87	2	430
未熟眼底		2							2
未熟児網膜症	2	24	2	5					33
眼瞼疾患		7	11	63	62	28	12		183
涙器疾患	4	18	12	18	1	1		1	55
結膜疾患		1	4	15	4	5	2	2	33
角膜・強膜疾患	2	3	1	7	2	4		3	22
ブドウ膜疾患		10	4	5	2	1	6		28
網膜・硝子体疾患		14	5	9	8	3	2	3	44
水晶体疾患	3	11	5	15	8	3		1	46
眼窩疾患	1	1		1	1				4
遺伝性疾患	1	1		2		2	2		8
視神経及び視路の障害 (眼振他)		4	2	26	8	13	13	7	73
緑内障	2	4		4	3	6	2	6	27
外傷		1	1	6	4	1		1	14
症候群		2		2	3		2	1	10
心因性視力障害					1	5	4		10
腫瘍		1		5	6	1	1	1	15
その他	4	3	1	8	6	4	3		29
合計	19	116	74	500	403	214	162	53	1541

(2) 入院手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
斜視	0	1	1	45	65	97	47	26	282
内反症	0	0	0	5	25	12	7	0	49
眼瞼下垂	0	0	0	2	0	0	0	0	2
眼瞼・眼窩疾患	0	0	0	5	1	3	1	0	10
結膜疾患（腫瘍）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
角膜疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0
網膜疾患（腫瘍）	0	0	1	0	0	0	0	0	1
硝子体	0	0	0	3	0	0	0	0	3
鼻涙管閉鎖及び異常	0	0	1	4	2	0	0	1	8
眼瞼形成	0	0	0	2	0	0	0	0	2
緑内障	1	6	3	5	1	3	0	2	21
白内障	0	5	0	5	7	4	6	2	29
未熟児網膜症	0	4	0	0	0	0	0	0	4
眼球振盪症	0	0	0	0	0	0	1	0	1
外傷・検査・その他	0	0	3	5	6	3	3	0	20
合計	1	16	9	81	107	122	65	31	432

(3) 日帰り手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
内反症	0	0	0	4	19	11	4	0	38
霰粒腫	0	1	1	15	8	4	1	0	30
斜視	0	0	0	1	3	0	1	0	5
その他	0	0	0	2	3	1	0	0	6
合計	0	1	1	22	33	16	6	0	79

(4) 訓練・特別検査患者数

弱視・P A T・矯正他の訓練、検査	91
視野検査	150
合計	241

2007年度実習生受け入れ状況

学 校 名	人 数	期 間	実習場所
神戸総合医療専門学校	5名	5月1日～5月31日	外来及び手術室 (見学)
大阪滋慶学園大阪医療福祉専門学校	2名	5月14日～6月18日	
九州保健福祉大学視機能療法学科	2名	6月4日～6月22日	
大阪総合医療専門学校(見学)	1名	3月5日～3月9日	
大阪医療福祉専門学校(見学)	2名	6月18日・19日(1名) 6月20日・22日(1名)	

19. 耳鼻咽喉科

人事と概要

2007年は引き続き常勤医師1名、兼任医師1名（火曜、金曜日）、常勤言語聴覚士1名の体制で外来診察、聴力検査、手術等を担当した。

手術日の水曜日を除く週4日外来を開く体制が軌道に乗ったため、外来初診予約待ちが解消されつつあり、現在は1週間前後に減少している。

手術は火曜日の日帰り手術を中心に、徐々に水曜日の入院全身麻酔手術も増えてきており、一旦待機が減少していたが、現在2～3ヶ月待ちの状態である。

言語聴覚士の常勤化により、週5日の乳幼児聴力検査・言語外来および週1回の補聴器外来を担当した。

診療内容充実への取り組み

1. 外来診療

新患の内訳としては、例年同様、滲出性中耳炎、反復性中耳炎、扁桃・アデノイド肥大、慢性扁桃炎などが多い。他の医療施設で検査の難しい、いびきや睡眠時無呼吸の症例は引き続き増加傾向である。新生児聴覚スクリーニングによる精密聴力検査の依頼は、スクリーニングを行う施設の増加により2006年までに比べて倍以上の53例に及んだ。難聴や精神発達遅滞、自閉症を背景とした言葉の遅れが多いのも従来と同様である。

新規患者数は別表に示すとおり2004年までの年間500人前後から毎年15%前後増加してきて2007年は779名となった。これは常勤医、常勤言語聴覚士の着任に伴い手術や検査待ちが解消され、地域の医療機関からの新患紹介が2004年までの年間200人前後から、400人へとほぼ倍増してきているためである。

言語指導の経験豊富な言語聴覚士の常勤化により言語発達遅滞、構音障害症例に対してより密度の濃い診療が可能となった。補聴器外来を週1日行っているが、対象患者増により予約が取りにくい状況になっていた。来年度は新患を中心とした補聴器外来へ徐々に方針を変更し、再診については聾学校、難聴児通園施設など他の補聴器調整の可能な施設での受け入れへ進めていきたい。もちろん医療機関としての定期的な聴力の経過観察はこれからも引き続き行っていく。

2. 手術

現在、日帰り手術では滲出性中耳炎・反復性中耳炎に対する鼓膜チューブ挿入術が最も多く、口唇粘液貯留嚢胞摘出、舌小帯形成術などである。手術待機が3ヶ月以上となっている関係上、先天性耳瘻孔などの外表奇形は形成外科へお願いしている状況である。

入院手術は、年少児の重症睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出、アデノイド切除術が中心で、先天性嚢胞性疾患、鼓膜形成術などが続く。特に前者は周術期の呼吸管理が重要であり、麻酔科各医師とHCU看護スタッフの多大の協力で支えられている。他科の手術枠を融通していただき手術症例数は増加している。多数紹介のある、いびきのみで症状が軽度の単純性の扁桃肥大は手術予定が入りにくい状況である。

最近4年間の予定手術申込件数は、2004年82件、2005年111件、2006年157件、2007年220件、2008年3月末までですでに80件と、年々2～3割増加している状況である。引き続き入院、日帰りとも手術枠の増加を要望していきたい。

手術統計以外に、入院治療として突発性難聴、顔面神経麻痺、頸部リンパ節炎に対する点滴治療があった。

3. 診療内容充実への取り組み、地域連携への取り組み

ASSR（聴性定常反応）装置は、ABR とともに乳幼児他覚的聴力検査として引き続き頻用（合計507件）され、聴力閾値の推定に活用された。また補聴器特性測定装置は週1回の補聴器外来で活用され年間約230件の補聴器適合検査を行った。

睡眠時無呼吸に対する携帯式アプノモニターは検査約6ヶ月間待ちの状況であったが、2007年1月から予約貸出制の検査とすることにした。また4月から1台が増設され、これらにより検査待ちは約2ヶ月に改善し、従前の約4倍増の年間172件の検査をおこなえた。一方で機器を患者家族に貸し出しすることにより、修理が必要となることも時にあり、代替機の手配や予約の変更連絡に追われることとなった。

火曜金曜日は医師2人体制となったが、現在は耳鼻科診療ユニットが1台しかない。また木曜日午後に受付事務員の配置がない状態は依然改善されていない。2007年の外来患者数は4656名であり、医師1人の診療体制ではほぼ限界に近づきつつある。診察ユニットの増設を行なって2診体制として外来の待ち時間短縮を図る必要性がある。

懸案だった言語聴覚士の定数配置がなされたが、遊戯聴力検査・純音聴力検査等あわせて約2000件、言語療法600件などに加えて上述の補聴器適合検査等を一人で担当して、総計3000件以上の検査・リハビリテーションを行っている。そのため検査や言語指導の予約が入りにくく、また心理・発達検査は指導相談部に依頼せざるを得ない状況となって患者様にご迷惑をおかけしています。業務量に見合った言語聴覚士の増員と検査室の増設が是非とも必要である。

前年度に引き続いて兵庫難聴カンファレンスを当院で開催した。県内各聾学校、難聴児通園施設の教員、言語聴覚士と共同で、約6ヶ月に1度のペースで、医療機関と療育機関との相互理解を図りつつ患児の指導について検討を行っている。

長期にわたる治療や経過観察が必要になる滲出性中耳炎、アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎の症例を中心に、地域医療機関の先生方と連絡を取って患者紹介を行ない、病診連携を進めた。2008年度からの診療報酬制度改定で、小児滲出性中耳炎に対する耳鼻咽喉科特定疾患指導管理料が認められることとなる。限られた医療資源の活用のため、なお一層かかりつけ耳鼻科医との連携を深め、「日常診療はかかりつけ医で、検査・手術治療は当院で」という診療体制を推進してゆきたい。

診療実績：

手術

入院手術

口蓋扁桃摘出術	32
アデノイド切除術	26
鼓膜チューブ挿入術	16
鼓膜形成術	3
乳様突起炎	2
上顎洞性後鼻孔ポリープ摘出	2
蝶形骨洞嚢胞開放	2
鼻副鼻腔腫瘍生検	2
咽頭腫瘍摘出	1
舌根嚢胞摘出術	1
顎下腺腫瘍摘出術	1
耳下腺腫瘍摘出術	1
正中頸嚢胞摘出術	1
喉頭肉芽腫摘出術	1
鼻涙管チューブ挿入術	10 (眼科と共同)

日帰り手術

鼓膜チューブ挿入術	100
鼓膜チューブ摘出術	3
鼓膜穿孔閉鎖	1
耳介アテローム摘出	1
舌小帯形成術	3
舌腫瘍切除術	1
鼻涙管チューブ抜去術	10 (眼科と共同)

耳鼻科外来新患者数 紹介元別内訳

年	総数	院内	他院	健診	紹介なし
2002	439				
2003	555				
2004	523	254	218	29	22
2005	632	263	298	40	28
2006	748	295	380	36	37
2007	779	303	422	17	37

耳鼻科 聴力検査・言語聴覚療法 2007年

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	(計)
気導純音聴力検査	1	1		1			1	3					7
標準純音聴力検査	17	9	43	33	11	29	35	61	17	19	24	32	330
標準語音聴力検査	1	2		2	0	1	2	1		1	2	1	13
遊戯聴力検査	82	134	139	136	142	168	148	143	115	131	136	139	1613
聴性誘発反応	49	42	41	34	40	53	47	36	37	45	42	41	507
補聴器適合検査1回目	3		3	5	1	4	4	5	2	1	1	3	32
補聴器適合検査2回目以降	18	21	23	12	21	19	23	25	24	13	12	17	228
音声機能検査													0
発達及び知能検査 容易		4	2	3	1	2	3	2	1	2	2	1	23
発達及び知能検査 複雑													0
心理検査 極複雑													0
リハビリテーション料 (難聴)	10	12	15	14	14	11	11	25	14	9	6	7	148
リハビリテーション料 (言語)	28	46	44	54	28	46	33	40	65	34	27	30	475
総計	209	271	310	294	258	333	307	341	275	255	252	271	3376

20. 泌尿器科

2007年度の泌尿器科の診療体制は昨年度からの杉多、乃美、高木に、4月から久松が加わった。以降、当科では4名体制で診療を行っており、昨年度から閉鎖していた水曜日の外来を再開した。

手術件数は昨年度とほぼ同じであった。日帰り手術も昨年と同様に約200例であり、日帰り手術の待ち期間が現状では約3ヶ月となっている。停留精巣をはじめとする泌尿器科小手術を近隣の病院で施行せずに専門病院へ紹介される傾向は今後ますます強くなると思われる。入院手術では手術難易度が高いとされる尿道下裂修復術が施行できる病院として近畿圏以外に四国、中国地方からの紹介患者も多いことが特徴である。

尿路系手術においてカテーテル・ドレーンを非留置にする、あるいはそれらの留置期間を短縮する、尿道下裂修復術後のカテーテル抜去を外来で施行する、などの工夫で、早期退院が可能になっている。

引き続き当科では入院期間が短く、患児の負担が少なく、かつ安全な医療を提供していく方針である。

入院と日帰り手術
尿路系

うち日帰り手術は195例

膀胱尿管逆流症	逆流防止術	35
巨大尿管	尿管形成+膀胱尿管新吻合術	2
水腎症	腎盂形成術	9
	DJカテーテル挿入・抜去	17
	腎ろう造設術	3
異所性尿管瘤・重複腎盂尿管など	尿管瘤切除+膀胱尿管新吻合術	3
	回腸尿管	1
	逆行性尿路造影	1
無機能腎・異所開口尿管+低形成腎など	腎摘除術	5
神経因性膀胱	腸管利用膀胱拡大術	1
	膀胱皮膚ろう造設	1
尿道狭窄・尿道弁	内視鏡的切開術(レーザー含む)	10
	外尿道口形成	1
尿道外傷	カテーテル留置	1
膀胱タンポナーデ	凝血塊除去	1
膀胱腫瘍	膀胱部分切除	1
膀胱結石	内視鏡下膀胱碎石	1
腎不全	開放腎生検	2
痂皮性膀胱炎	内視鏡的切除術	1
尿道脱	尿道口形成	1
手術件数合計		97

性器系

尿道下裂	一期根治術	57
	下裂術後尿道口形成	2
	下裂術後尿道口切開・カテーテル留置	3
	下裂術後（初回他院手術例含む）ろう孔閉鎖術	15
屈曲陰茎・陰茎回旋	陰茎形成術	4
埋没陰茎	包皮形成術	8
二分陰のう・前置陰のう	陰のう形成術	7
精巣固定術	精巣固定術	139
	精巣摘出術（vanishing testis）	7
	腹腔鏡検査（性腺摘除含む）	5
	腹腔鏡下精巣固定術 F-S 一期	3
	腹腔鏡下精巣固定術 F-S 二期	3
精索捻転	精巣固定術	3
	精巣摘出術	3
精巣垂捻転	精巣垂切除	1
反復性精巣上体炎	精巣上体摘除	1
精索静脈瘤	顕微鏡下低位結紮術	6
陰のう水腫	陰のう水腫根治手術	47
	腹腔鏡併用陰のう水腫根治術	1
総排泄腔遺残及び外反症	外陰形成術・膣口形成術	4
	片側子宮摘除・子宮腔再吻合	1
	膀胱鏡	1
真性及び女性仮性半陰陽	外陰形成術・膣口形成術	4
男性仮性半陰陽	腹腔鏡下性腺摘除	1
包茎・かんとん包茎	包皮環状切除術など	11
精巣腫瘍	腫瘍切除術	3
尿道口のう腫・縫線のう胞	のう腫摘除	5
その他		4
手術件数合計		349

21. 小児歯科

診療内容として全身疾患を有する患児や心身障害児の齲蝕予防・治療を行うことが大きな柱となっていることに変化はない。それに加え形成外科と共同で取り組んでいる唇顎口蓋裂児のホッツ床、術前顎矯正治療の患児の成長により歯列矯正治療を受ける患者数が増加している。その結果、診療内容が齲蝕予防・治療、顎矯正、歯列矯正、口腔外科的処置、摂食嚥下指導と多様化している。

今年は人事面の異動があり10月末で石井信行が退職し、11月より曾根由美子が着任した。現在小児歯科は常勤歯科医師一名の体制をとっているが、一人医長体制では引継ぎが困難で問題が生じやすいため、複数医師体制が望ましい。また病院歯科として口腔外科分野に秀でた歯科医師との2人体制が望まれる。

歯科衛生士学校名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫歯科学院専門学校 歯科衛生学科	2回生 6名	H19年7月2日～7月31日 H19年9月3日～9月28日 H19年10月1日～10月31日	歯科外来・他
兵庫県立総合衛生学院 歯科衛生学科	2回生 4名	H19年11月6日～11月29日 H19年12月3日～12月21日	歯科外来・他

新患内訳		院内紹介	院外紹介		紹介なし	計
			歯科	医科		
小児歯科関連	口腔内検診希望	99	1	3	9	112
	齲蝕	15	27	3	6	51
	乳歯晚期残存	2	0	0	1	3
	先天性歯	0	0	4	0	4
	その他	2	0	0	0	2
矯正歯科関連	不正咬合	14	4	2	1	21
	術前顎矯正	14	0	0	0	14
	その他	5	0	0	0	5
口腔外科関連	外傷	5	5	0	2	12
	小帯異常	0	1	3	0	4
	埋伏歯・過剰歯	4	7	0	0	11
	その他	3	2	0	0	5
摂食嚥下障害		23	0	1	0	24
計		186	47	16	19	268

全身麻酔下処置	歯科単独	他科合同	計
入院手術	1	5	6
外来手術	54	0	54
計	55	5	60

22. 麻酔科

1、人事異動

常勤医では三浦医師が退職し、東京医科歯科大学麻酔科に就職した。専攻医では、吉村医師が熊本大学へ、岩淵医師が神戸大学へ、横井医師が香川大学へ戻った。香川大学からは後任として永井医師が7ヶ月、さらにその後任として武田医師に来ていただいている。また公募により、北海道勤医協中央病院から脇坂医師、愛知県の刈谷豊田総合病院から吉澤医師、愛知県の加茂病院から東医師、兵庫医大から野々村医師に来ていただくことができた。公募にも反応がある理由として、小児麻酔という特殊な領域を研修したいという医師が潜在的にいること、麻酔医が集まっているところには麻酔医が集まってくる可能性があること、そして病院には麻酔科医の人事にフレキシブルに対応していただいたこと、などの要素が関与していると考えられる。

2007年12月の時点では香川、鈴木、高辻、大西、池島、上嶋、脇坂、吉澤、東、野々村、武田、村田の12名で業務を行っている。

2、活動状況と反省

2007年の総麻酔件数は4538件となり、前年を上回り、件数は毎年増加している。これに対し、看護部や外科系各科からは様々な協力をいただいたことにこの場を借りて感謝を申し上げたい。

入院手術、日帰り手術、検査の麻酔、病棟麻酔サービス、術前麻酔科診察の各業務において、大きな事故もなく一年を過ごせたことに安堵している。

3、展望

多くの件数を抱える一方で、安全かつ快適に手術・麻酔を行うことは大命題である。麻酔科医の教育や知識技術の向上、麻酔業務の効率化、そして麻酔科医の確保により手術件数の増加に対応したい。とくに麻酔科医の確保は今後も重要な課題である。今後は公募による医師の確保が主となっていく可能性が高いと思われる、各大学との関係を保つとともに積極的に公募を行い、小児麻酔を志願するものに来ていただけるようにしたい。

麻酔科 診療統計

総麻酔件数 2007.1.1～12.31

4538件

入院区分および麻酔の場所による内訳

入院手術および検査室での麻酔	2891
日帰り手術の麻酔	1195
病棟麻酔サービス	452
計	4538

麻酔法による内訳

全身麻酔・吸入麻酔	3975
全身麻酔・静脈麻酔	105
全身麻酔・吸入麻酔+硬膜外麻酔	213
全身麻酔・静脈麻酔+硬膜外麻酔	11
硬膜外麻酔+脊椎麻酔	5
硬膜外麻酔	2
脊椎麻酔(脊髄くも膜下麻酔)	215
伝達麻酔	0
その他	12
全身麻酔 小計	4304
合計	4538

年齢別内訳

1ヶ月まで	105
12ヶ月まで	824
5歳まで	1895
18歳まで	1431
65歳まで	283
66歳以上	0
計	4538

手術部位による内訳

開頭術	79
開胸・縦隔手術	125
先天性心疾患根治術	147
先天性心疾患姑息術	61
その他の心臓手術	45
胸腹部手術	4
上腹部手術	116
下腹部手術	164
帝王切開	247
頭頸部・咽喉頭手術	1197
胸壁・腹壁・会陰手術	1414
脊椎手術	85
股関節・四肢手術	334
検査、手術室内	140
検査、手術室外	291
その他	89
計	4538

23. 新生児科

1. 医師の異動

本年も常勤医は7名の枠を満たすことが困難であった。坂井、吉形、溝淵、芳本、中尾は引き続き在任した。4月に豊岡病院より、上田 雅章医師が着任した。岡山大学より研修のため派遣されていた高橋 理子医師が6ヶ月の研修を終え帰局した。専攻医より秋田大輔医師が専任医として着任した。また、名古屋第一赤十字病院より吉田 加奈医師が新生児医療の研修のため着任した。多様な専攻医の往来があり、多くを学ぶことが出来た。専攻医に対する教育・研修の充実も当院にとっては重要であり、常勤医の確保は依然として最重要案件となっている。

2. 診療活動

1次分娩機関などの周産期医療機関の減少、出生前診断例の増加、地域の中核病院の新生児医療からの撤退という社会の流れもあり、新生児病棟は引き続き重症児、長期入院児が引き続き多く、業務は上限を超えつつある。引き続き、医療の安全には充分留意して、全員の意志疎通を計り、患児の最善の利益が尊重できる診療行為の遂行に勤めている。NICU・GCUの両看護長をはじめ、看護部門の全面的な理解と協力は年を経て洗練された新生児医療に反映している。入院患児の重症化を反映して、在宅患児を対象とする外来業務も重症児の管理が増加するため、担当医の負担はますます多岐にわたる。他の医療機関との連携、役割分担の相互理解も引き続き重要な案件である。本年も集学的治療を要する重症児の診療については、関連各科の御理解と御協力をいただき、厚く感謝するところである。

3. 学会活動

各科員の新生児医療における専門領域も明確になりつつあり、国内外に渡って主要な学会での活発な活動がなされており、目標とする診療と臨床研究の両立は確実に完成度を増してきていると実感できる。

2007年新生児科統計

・ 新生児病棟統計

1) 月別入院数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
47	57	48	44	60	57	56	69	53	54	58	54	657

2) 診療科別入院数

新生児科入院	657	新生児科からの転科	51
		循環器内科	30
		一般外科	15
		脳神経外科	5
		代謝内分泌科	1

3) 入院形態

	神戸	阪神	南阪	神北	東播	磨中	播磨西	播磨北	淡路	丹波	但馬	県外
院外出生	208	141	20	4	24	1	0	0	9	4	1	4
一次搬送	170	124	18	4	22	0	0	0	0	2	0	0
(14日以上)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二次搬送	38	17	2	0	2	1	0	0	9	2	1	4
院内出生	449	274	35	11	60	11	0	8	9	5	4	32
緊急母体	159	99	14	6	19	6	0	2	2	1	2	8
非緊急母体	284	169	21	5	41	5	0	6	7	4	2	24
院内出生	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日齢14未満一次搬送+院内出生	618	397	53	15	82	11	0	8	9	7	4	32

・ 新生児科統計

対象：新生児科入院（日齢14未満一次搬送入院及び院内出生症例、転科例を含む）

1) 院内出生と院外出生

出生体重	患者数	院内率	帰院	産科
500g未満	3	3 100.0%	0	0
500-749g	15	15 100.0%	0	0
750-999g	21	21 100.0%	0	0
1,000-1,499g	54	51 94.0%	0	0
1,500-1,999g	115	100 87.0%	2	1
2,000-2,499g	165	128 77.6%	9	44
2,500g以上	245	131 53.5%	28	85
計	618	449 72.7%	39	130

週数	患者数	院内率	帰院	産科
22, 23	7	7 100.0%	0	0
24, 25	9	9 100.0%	0	0
26, 27	12	11 92.0%	0	0
28, 29	30	30 100.0%	0	0
30, 31	35	35 100.0%	0	0
32, 33	67	63 94.0%	0	0
34 - 36	189	155 82.0%	7	37
37以上	269	139 51.7%	32	93
計	618	449 72.7%	39	130

2) 分娩方法

出生体重	患者数	帝切例率
500g未満	3	1 33.0%
500-749g	15	12 80.0%
750-999g	21	20 95.0%
1,000-1,499g	54	48 88.9%
1,500-1,999g	115	85 73.9%
2,000-2,499g	165	104 63.0%
2,500g以上	245	93 38.0%
計	618	363 58.7%

週数	患者数	帝切例率
22, 23	7	2 28.6%
24, 25	9	9 100.0%
26, 27	12	11 92.0%
28, 29	30	26 87.0%
30, 31	35	31 88.6%
32, 33	67	54 80.6%
34 - 36	189	129 68.3%
37以上	269	101 37.5%
計	618	363 58.7%

3) 生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500g未満	3	1	66.7%
500-749g	15	1	93.3%
750-999g	21	2	90.0%
1,000-1,499g	54	1	98.1%
1,500-1,999g	115	3	97.4%
2,000-2,499g	165	3	98.0%
2,500g以上	245	1	100.0%
計	618	12	98.1%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	7	2	71.4%
24, 25	9	0	100.0%
26, 27	12	1	91.7%
28, 29	30	3	90.0%
30, 31	35	1	97.0%
32, 33	67	2	97.0%
34 - 36	189	2	98.9%
37以上	269	1	99.6%
計	618	12	98.1%

4) 多胎割合 (品胎3組)

出生体重	患者数	多胎率	品胎	
500g未満	3	0	0.0%	0
500-749g	15	0	0.0%	0
750-999g	21	8	38.1%	1
1,000-1,499g	54	17	31.5%	3
1,500-1,999g	115	53	46.1%	5
2,000-2,499g	165	51	30.9%	0
2,500g以上	245	4	1.6%	0
計	618	133	21.5%	9

週数	患者数	多胎率	品胎	
22, 23	7	0	0.0%	0
24, 25	9	0	0.0%	0
26, 27	12	2	16.7%	0
28, 29	30	8	26.7%	0
30, 31	35	14	40.0%	6
32, 33	67	36	53.7%	3
34 - 36	189	67	35.4%	0
37以上	269	6	2.2%	0
計	618	133	21.5%	9

5) 人工呼吸管理の割合

出生体重	患者数	MV率	HFO	CPAP	
500g未満	3	3	100.0%	3	2
500-749g	15	15	100.0%	12	13
750-999g	21	17	81.0%	5	18
1,000-1,499g	54	34	63.0%	3	36
1,500-1,999g	115	34	29.6%	5	30
2,000-2,499g	165	29	17.6%	1	27
2,500g以上	245	31	12.7%	1	21
計	618	163	26.4%	30	147

週数	患者数	MV率	HFO	CPAP	
22, 23	7	7	100.0%	6	5
24, 25	9	9	100.0%	9	9
26, 27	12	12	100.0%	5	11
28, 29	30	27	90.0%	3	23
30, 31	35	24	68.6%	3	25
32, 33	67	24	35.8%	3	21
34 - 36	189	24	12.7%	1	35
37以上	269	36	13.4%	0	18
計	618	163	26.4%	30	147

6) 特殊治療

PDA閉鎖術	5例	生後ステロイド全身投与	20例
NO吸入療法	5例	ステロイド吸入	23例
ECMO	0例	ROPレーザー	3例

7) 新生児搬送出動回数

入院	70
転院	3

分娩立合い	1
時間外搬送	22

8) 双胎生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500g未満	0	0	
500-749g	0	0	
750-999g	7	2	71.0%
1,000-1,499g	14	0	100.0%
1,500-1,999g	48	0	100.0%
2,000-2,499g	51	0	100.0%
2,500g以上	4	0	100.0%
計	124	2	98.4%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	0	0	
24, 25	0	0	
26, 27	2	1	50.0%
28, 29	8	1	88.0%
30, 31	8	0	100.0%
32, 33	33	0	100.0%
34 - 36	67	0	100.0%
37以上	6	0	100.0%
計	124	2	98.4%

24. 産 科

平成18年に大学医局からの派遣予定医師が2名連続して赴任拒否というまさに大学医局の没落を象徴するような事態が発生した。その後補充の医師が確保できないままに、大橋センター長、船越部長、佐本医長、石原医長、喜吉医員、斎木専攻医、上田専攻医の7名体制で19年を迎えた。さらに斎木医師は育児中のため当直が出来ず、言うは易し行なうは難しの女医確保対策を身をもって体験した。近年は行政も女医確保対策に熱心になってきたが、女医優遇策の穴埋めを誰がどのようにするかについての具体的な方策がないままにスローガンだけが一人歩きをしている状況にある。

しかし、幸いなことに19年4月から上田敏子医師が島根県立中央病院より医長として入職した。また藁谷深美子医師が京都民医連中央病院より1年間の研修目的で専攻医として赴任した。全国いずれの病院においても産婦人科医師確保に難渋しているなかで、優秀な人材を2名も確保できたことは僥倖のほかない。神戸市医師会との間で産科当直医師派遣についての覚書を交わして当直医師の確保を図って、産科勤務医師の過酷な労働環境改善に努めてきたことの成果の表れと考えられ、また10数年以上にわたって地道に築き上げてきた我々なりの診療が他府県の医師にも認めてもらえるようになったことの証としてうれしく思うところもある。

ここ数年来は母体搬送の受け入れ不能事例がメディアに盛んに取り上げられるようになり、周産期医療とはまさしくマンパワーであると世の中に少しずつ認識されてきたが、時すでに遅しの感がある。当科においてはこれからもこの陣容を維持しなければならないが、今後さらなる発展を遂げられるかは一つに県民と県行政の理解にかかっているとんでもない。

(1) 平成19年産科診療状況

延べ入院患者数	649
うち母体搬送依頼電話によるもの	151
紹介元へ返送または他院紹介	237
分娩母体数 (22週以降)	395
正期産	140
早産	254
過期産児	1
多胎妊娠	61
うち双胎	58
うち品胎	3
うち要胎	0
経膈分娩	146
うち鉗子・吸引分娩	24
うち骨盤位牽出術	3
帝王切開術	249
出産児数 (22週以降)	459
正期産児	137
早産児	321
過期産児	1
低出生体重児 (2500g未満)	328
巨大児 (4000g以上)	1
その他	3
流産	2
子宮外妊娠	0
産後出血・DIC	15

(2) 依頼施設所在地別入院件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率	
阪神南	尼崎市	14	2%	中播磨	姫路市	16	2%	
	西宮市	33	5%		神崎郡	0	0%	
	芦屋市	6	1%		小計	16	2%	
	小計	53	8%	西播磨	相生市	0	0%	
阪神北	宝塚市	5	1%		龍野市	0	0%	
	三田市	1	0%		赤穂市	0	0%	
	川西市	3	0%		揖保郡	0	0%	
	伊丹市	1	0%		赤穂郡	0	0%	
	川辺郡	0	0%		佐用郡	0	0%	
	小計	10	2%		宍粟郡	0	0%	
神戸市	須磨区	101	16%	小計	0	0%		
	中央区	74	11%	但馬	豊岡市	7	1%	
	西区	83	13%		城崎郡	0	0%	
	垂水区	50	8%		出石郡	0	0%	
	灘区	25	4%		美方郡	0	0%	
	東灘区	27	4%		養父市	2	0%	
	北区	30	5%		朝来郡	0	0%	
	兵庫区	1	0%		小計	9	1%	
	長田区	6	1%	丹波	篠山市	0	0%	
	小計	397	61%		丹波市	3	0%	
	東播磨	明石市	77	12%	淡路	洲本市	3	0%
加古川市		12	2%	小本市		5	1%	
高砂市		9	1%	淡路市		4	1%	
加古郡		1	0%	南あわじ市	1	0%		
小計	99	15%	小計	10	2%			
北播磨	西脇市	3	0%	他府県	大阪府	13	2%	
	三木市	0	0%		京都府	5	1%	
	小野市	12	2%		奈良県	0	0%	
	加西市	1	0%		和歌山県	0	0%	
	美嚨郡	0	0%		滋賀県	1	0%	
	加東郡	0	0%		他	9	1%	
	多可郡	0	0%		小計	28	4%	
小計	16	2%	院内紹介	8	1%			
						計	649	100%

(3) 疾患別 (重複あり)

疾患名	件数	率
切迫早産	312	48%
他科合併症	32	5%
多胎	104	16%
うち双胎	100	15%
うち品胎	4	1%
羊水検査	71	11%
前期破水	92	14%
子宮内胎児発育遅延	119	18%
羊水過多・過少	88	14%
妊娠高血圧症候群	55	8%
胎位異常	60	9%
既往帝王切開	71	11%
胎児異常	108	17%
切迫流産	23	4%
胎児奇形	103	16%
胎児機能不全	72	11%
子宮筋腫合併	20	3%
他感染症	25	4%
子宮内胎児死亡	11	2%
糖尿病合併	11	2%
前置胎盤	21	3%
甲状腺疾患合併	6	1%
胎盤早期剥離	16	2%
心疾患合併	6	1%
産後出血・DIC	15	2%
ウイルス性肝炎	4	1%
自然流産	0	0%
T T T S	4	1%
胎児不整脈	10	2%
膠原病合併	9	1%
discordant twins	10	2%
胎盤機能不全	2	0%
子宮外妊娠	0	0%
子宮奇形	9	1%
その他	149	23%
計	1742	268%

入院母体 1 人あたり平均2.7件の疾患を有す。

(4) 入院時間帯

時間帯	件数	率
時間内	487	75%
平日日勤帯	487	75%
時間外	162	25%
休日日勤帯	42	6%
全日夜勤帯	120	18%
計	649	100%

(5) 分娩時間帯 (22週以降)

時間帯	件数	率
時間内	221	56%
平日日勤帯	221	56%
時間外	174	44%
休日日勤帯	24	6%
全日夜勤帯	150	38%
計	395	100%

(6) 帝王切開時間帯

時間帯	件数	率
時間内	175	70%
平日日勤帯	175	70%
時間外	74	30%
休日日勤帯	13	5%
全日夜勤帯	61	24%
計	249	100%

(7) 出生時体重(児)(22週以降)

児体重	件数	率	累積率
~ 499 g	7	2%	2%
~ 999 g	41	9%	10%
~ 1499 g	50	11%	21%
~ 1999 g	102	22%	44%
~ 2499 g	127	28%	71%
~ 2999 g	85	19%	90%
~ 3499 g	36	8%	98%
3500 g ~	11	2%	100%
計	459	100%	
平均	2067g		

(8) 入院時妊娠週数 (母)

週数	件数	率	累積率
~ 21週	125	19%	19%
22~ 24週	46	7%	26%
25~ 28週	107	16%	43%
29~ 32週	122	19%	62%
33~ 36週	136	21%	83%
37週~	110	17%	100%
産後	3	0%	100%
非妊娠	0	0%	100%
計	649	100%	

(9) 分娩時妊娠週数 (母)

週数	件数	率	累積率
~ 21週	2	1%	1%
22~ 24週	18	5%	5%
25~ 28週	30	8%	13%
29~ 32週	59	15%	28%
33~ 36週	146	37%	64%
37~ 41週	140	35%	100%
42週~	0	0%	100%
計	395	100%	

(10) 妊娠延長期間

(入院から22週以降の分娩まで)

延長期間	件数	率	累積率
当日	82	21%	21%
~ 1日	66	17%	37%
~ 1週間	75	19%	56%
~ 2週間	54	14%	70%
~ 4週間	46	12%	82%
~ 8週間	44	11%	93%
~ 12週間	20	5%	98%
12週間~	8	2%	100%
計	395	100%	
平均	14.1日間		

(11) バックトランスファー

(紹介元医へ戻す)

および他院紹介件数

	件数
外来患者	203
入院患者	34
計	237

(12) 緊急母体搬送依頼電話受信状況

月	依頼件数	受け入れ不可件数	受け入れ不可率
1	20	0	0%
2	24	8	33%
3	27	7	26%
4	22	8	36%
5	16	0	0%
6	17	1	6%
7	17	2	12%
8	30	13	43%
9	28	3	11%
10	24	11	46%
11	29	16	55%
12	28	21	75%
不明	3	1	33%
計	285	91	32%

(13) 年次別受け入れ不可状況

年	依頼件数	受け入れ不可件数	受け入れ不可率	備 考
平成6年	66	12	18%	10月開設 (22床)
平成7年	240	38	16%	阪神・淡路大震災
平成8年	312	76	24%	
平成9年	340	111	33%	
平成10年	324	105	32%	
平成11年	326	55	17%	フルオープン (32床)
平成12年	362	100	28%	総合周産期センターに指定
平成13年	328	60	18%	
平成14年	394	110	28%	
平成15年	367	140	38%	
平成16年	298	126	42%	
平成17年	285	120	42%	MFICU 6床整備
平成18年	316	124	39%	空床情報ネットワーク整備
平成19年	285	91	32%	

(14) 依頼施設所在地別受信件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率	
阪神南	尼崎市	11	4%	中播磨	姫路市	8	3%	
	西宮市	14	5%		神埼郡	0	0%	
	芦屋市	10	4%		小 計	8	3%	
	小 計	35	12%		相生市	0	0%	
阪神北	宝塚市	5	2%	西播磨	赤穂市	0	0%	
	三田市	0	0%		宍粟市	0	0%	
	川西市	2	1%		たつの市	0	0%	
	伊丹市	1	0%		揖保郡	0	0%	
	川辺郡	0	0%		赤穂郡	0	0%	
	小 計	8	3%		佐用郡	0	0%	
					小 計	0	0%	
神戸市	須磨区	51	18%	但馬	豊岡市	9	3%	
	中央区	16	6%		養父市	0	0%	
	西区	20	7%		朝来市	0	0%	
	垂水区	25	9%		美方郡	0	0%	
	灘区	4	1%		小 計	9	3%	
	東灘区	14	5%	丹波	篠山市	0	0%	
	北区	14	5%		丹波市	1	0%	
	兵庫区	2	1%		小 計	1	0%	
	長田区	7	2%		洲本市	3	1%	
	小 計	153	54%		南あわじ市	0	0%	
東播磨	明石市	34	12%	淡路	淡路市	0	0%	
	加古川市	6	2%		小 計	3	1%	
	高砂市	3	1%		他府県	大阪府	8	3%
	加古郡	0	0%			京都府	7	2%
	小 計	43	15%			奈良県	1	0%
北播磨	西脇市	0	0%	和歌山県		0	0%	
	三木市	0	0%	滋賀県		0	0%	
	小野市	4	1%	他	4	1%		
	加西市	1	0%	小 計	20	7%		
	加東市	0	0%	不 明		0	0%	
	多可郡	0	0%		計	285	100%	
小 計	5	2%						

(15) 搬送依頼元施設種類別

施設種類	件数	率
総合周産期医療センター	7	2%
地域周産期医療センター	20	7%
一 般 病 院	126	44%
診 療 所	118	41%
助 産 院	4	1%
消 防 隊	9	3%
他	1	0%
不 明	0	0%
計	285	100%

(16) 搬送依頼電話受信時刻

勤務帯	件数	率	
時間内	平日・日勤帯	142	50%
時間外	平日・夜勤帯	69	24%
	休日・日勤帯	40	14%
	休日・夜勤帯	29	10%
不 明	5	2%	
計	285	100%	

(17) 搬送電話依頼時理由

搬送理由	件数	率
切迫早産	117	41%
前期破水	49	17%
妊娠高血圧症候群	23	8%
胎児異常	10	4%
子宮内胎児発育遅延	6	2%
胎児機能不全	6	2%
胎盤早期剥離	5	2%
出血多量	5	2%
多胎	5	2%
他科合併症	5	2%
前置胎盤	4	1%
胎児死亡	3	1%
既往帝王切	3	1%
シヨック	1	0%
子宮外妊娠	1	0%
その他	41	14%
不 明	1	0%
計	285	100%

(18) 搬送電話依頼時妊娠週数

妊娠週数	件数	率
22週以前	17	6%
22～24週	43	15%
25～28週	60	21%
29～32週	59	21%
33～36週	63	22%
37～40週	27	9%
41週以降	2	1%
分娩後	2	1%
不明	12	4%
計	285	100%

(19) 受け入れ可否返事所要時間

所要時間	件数	累積率
～ 1 分	177	62%
～ 3 分	59	83%
～ 10 分	40	97%
～ 20 分	8	100%
～ 30 分	0	100%
30分を越える	0	100%
不明	1	100%
計	285	100%

(20) 受け入れ不可理由

理由	件数	率
N I C U 満床	4	4%
産科満床	69	76%
両方満床	1	1%
対象外	10	11%
その他	6	7%
不明	1	1%
計	91	100%

25. 検査・放射線部（放射線部門）

1. 人事異動

(転出者)	水谷 正弘	平成19年4月1日付	県立西宮病院へ
	清水 俊文	〃	県立尼崎病院へ
	三木貴久子	〃	県立塚口病院へ
(転入者)	原田 亮輔	〃	兵庫県災害医療センターより
	服部 真吾	〃	県立姫路循環器病センターより
	上霜 恵子	〃	県立淡路病院より

2. 活動状況

1) 放射線検査件数

- ・今年、放射線検査業務全般の検査人数においては、昨年累計40,090人に対して36,960人と92.2%の伸びにとどまり、3,130人の減となった。

しかし、小児救急医療センター（10月1日オープン）の開設により救急センター依頼の検査人数は全対前年比201.7%（10月）、370.4%（11月）、341.5%（12月）と驚異的な伸びを示した。

2) 機器の設置、更新

- ・小児救急医療センターの開設に伴って、センターではX線撮影後、速やかに画像が見られるようCR読みとり装置と初療室、各診察室、PICUの各画像モニターとを接続した。これによってフィルムの出来上がりを待たずして診断が可能となった。
- ・MRI装置の更新。フィリップス社製、Achieva nova dual 1.5T。日本では初めてと言われる「アメニティ」設備を備えたMR室が12月1日よりスタートとなった。

当院の柱の一つである周産期医療と相まって胎児MR、また、循環器領域の心臓MRなどの検査依頼が大いに期待される。

3) 医療事故防止の取り組み

- ・科内会議で月に一度行う「ヒヤリ・ハット」報告、事例の分析また、改善策の検討。これらはすぐに現場へフィードバックされる。

4) 資質向上と教育

- ・放射線部内勉強会の実施（本年は15回：15演題実施）
- ・県立病院各学術部会への参加（本年は9回）
- ・学会発表等：12題（県立病院学会：2題、学会：4題、研修会：5題、講演：1題）

3. 来年に向けて

- ・少子化が進む中での当院の取るべき医療体制、地域医療連携の充実を放射線部の立場として熟慮し、院全体へ反映させてゆく。
- ・オーダリングシステムの構築、早期実施。
- ・装置の更新に伴いMRI検査待ち日数の改善を行う。

平成19年 放射線検査業務状況

単位 人

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	増減	
単 純 撮 影	一般撮影	1,239	1,268	1,533	1,476	1,453	1,380	1,435	1,970	1,268	2,693	1,276	2,613	19,604	
	前年度	1,269	1,286	1,882	1,497	2,903	4,318	1,551	1,994	1,308	1,353	1,288	2,642	23,291	
	前年比 (%)	97.6	98.6	81.5	98.6	50.1	32.0	92.5	98.8	96.9	199.0	99.1	98.9	84.2	-3,687
	ポータブル	581	506	537	485	648	538	642	637	532	611	625	497	6,839	
	前年度	654	561	656	528	643	734	636	594	511	516	502	576	7,111	
	前年比 (%)	88.8	90.2	81.9	91.9	100.8	73.3	100.9	107.2	104.1	118.4	124.5	86.3	96.2	-272
	パノラマ・その他	28	19	27	15	23	17	28	35	13	18	16	37	276	
	前年度	17	25	35	26	13	27	31	37	13	19	20	21	284	
	前年比 (%)	164.7	76.0	77.1	57.7	176.9	63.0	90.3	94.6	100.0	94.7	80.0	176.2	97.2	-8
単純撮影合計	1,848	1,793	2,097	1,976	2,124	1,935	2,105	2,642	1,813	3,322	1,917	3,147	26,719		
前年度	1,940	1,872	2,573	2,051	3,559	5,079	2,218	2,625	1,832	1,888	1,810	3,239	30,686		
前年比 (%)	95.3	95.8	81.5	96.3	59.7	38.1	94.9	100.6	99.0	176.0	105.9	97.2	87.1	-3,967	
造 影 撮 影	消化器	22	30	29	28	36	29	32	39	28	26	34	33	366	
	前年度	33	30	39	28	23	36	25	33	43	38	33	30	391	
	前年比 (%)	66.7	100.0	74.4	100.0	156.5	80.6	128.0	118.2	65.1	68.4	103.0	110.0	93.6	-25
	脳血管	1	2	0	3	3	2	3	2	3	1	2	3	25	
	前年度	3	0	6	1	2	1	0	1	3	0	2	5	24	
	前年比 (%)	33.3	-	0.0	300.0	150.0	200.0	-	200.0	100.0	-	100.0	60.0	104.2	1
	心臓血管	23	23	23	21	21	18	27	34	26	26	19	10	271	
	前年度	29	29	31	25	33	27	28	31	17	18	26	26	320	
	前年比 (%)	79.3	79.3	74.2	84.0	63.6	66.7	96.4	109.7	152.9	144.4	73.1	38.5	84.7	-49
	その他の血管	0	0	0	2	0	0	2	1	0	0	1	3	9	
	前年度	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	前年比 (%)	-	0.0	-	200.0	-	-	-	-	-	-	-	-	300.0	6
	泌尿器系	30	30	48	38	39	32	40	59	38	42	51	45	492	
	前年度	27	30	43	38	44	38	34	60	37	46	39	44	480	
	前年比 (%)	111.1	100.0	111.6	100.0	88.6	84.2	117.6	98.3	102.7	91.3	130.8	102.3	102.5	12
その他の造影	2	2	2	3	3	2	3	2	0	5	5	5	34		
前年度	3	4	3	5	3	2	8	4	4	3	1	2	42		
前年比 (%)	66.7	50.0	66.7	60.0	100.0	100.0	37.5	50.0	0.0	166.7	500.0	250.0	81.0	-8	
造影撮影合計	78	87	102	95	102	83	107	137	95	100	112	99	1,197		
前年度	95	95	122	98	105	104	95	129	104	105	101	107	1,260		
前年比 (%)	82.1	91.6	83.6	96.9	97.1	79.8	112.6	106.2	91.3	95.2	110.9	92.5	95.0	-63	
C T 撮影	186	184	207	187	224	222	249	272	214	249	283	280	2,757		
前年度	139	163	199	201	194	237	183	205	185	218	198	229	2,351		
前年比 (%)	133.8	112.9	104.0	93.0	115.5	93.7	136.1	132.7	115.7	114.2	142.9	122.3	117.3	406	
M R I 検査	121	110	121	140	142	136	140	167	136	0	0	34	1,247		
前年度	118	116	149	119	122	136	125	140	126	122	120	129	1,522		
前年比 (%)	102.5	94.8	81.2	117.6	116.4	100.0	112.0	119.3	107.9	0.0	0.0	26.4	81.9	-275	
核医学検査	39	32	44	28	40	40	56	68	27	30	38	47	489		
前年度	27	19	50	24	41	34	44	80	31	31	42	31	454		
前年比 (%)	144.4	168.4	88.0	116.7	97.6	117.6	127.3	85.0	87.1	96.8	90.5	151.6	107.7	35	
放射線治療	30	83	42	20	1	39	53	15	6	67	42	96	494		
前年度	33	13	8	20	1	8	27	24	17	16	2	0	169		
前年比 (%)	90.9	638.5	525.0	100.0	100.0	487.5	196.3	62.5	35.3	418.8	2,100.0	-	292.3	325	
超音波検査	251	227	298	298	301	276	345	452	224	316	298	314	3,600		
前年度	245	218	332	251	229	235	292	362	263	264	282	270	3,243		
前年比 (%)	102.4	104.1	89.8	118.7	131.4	117.4	118.2	124.9	85.2	119.7	105.7	116.3	111.0	357	
D U P 処理	28	29	0	48	29	33	39	42	39	36	44	36	403		
前年度	25	24	24	36	18	30	36	30	28	23	41	26	341		
前年比 (%)	112.0	120.8	0.0	133.3	161.1	110.0	108.3	140.0	139.3	156.5	107.3	138.5	118.2	62	
骨塩定量	3	2	4	4	8	2	1	6	0	7	9	8	54		
前年度	6	5	8	4	5	4	6	9	6	5	2	4	64		
前年比 (%)	50.0	40.0	50.0	100.0	160.0	50.0	16.7	66.7	0.0	140.0	450.0	200.0	84.4	-10	
月合計	2,584	2,547	2,915	2,796	2,971	2,766	3,095	3,801	2,554	4,127	2,743	4,061	36,960		
前年度	2,628	2,525	3,465	2,804	4,274	5,867	3,026	3,604	2,592	2,672	2,598	4,035	40,090		
前年比 (%)	98.3	100.9	84.1	99.7	69.5	47.1	102.3	105.5	98.5	154.5	105.6	100.6	92.2	-3,130	

平成19年 時間外放射線検査人数 (診療科・病棟別)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
HCU	3	10	8	6	8	6	17	6	14	20	28	15	141
前年	3	23	10	12	12	22	26	8	33	12	11	18	190
前年比%	100.0	43.5	80.0	50.0	66.7	27.3	65.4	75.0	42.4	166.7	254.5	83.3	74.2
NICU	33	32	28	24	56	29	32	51	41	31	41	44	442
前年	36	27	22	45	52	47	31	36	25	25	32	36	414
前年比%	91.7	118.5	127.3	53.3	107.7	61.7	103.2	141.7	164.0	124.0	128.1	122.2	106.8
ICU	49	43	60	68	54	41	59	57	74	55	55	65	680
前年	58	47	61	70	67	63	77	39	52	46	52	55	687
前年比%	84.5	91.5	98.4	97.1	80.6	65.1	76.6	146.2	142.3	119.6	105.8	118.2	99.0
GCU	12	4	6	5	4	15	9	11	16	3	11	7	103
前年	8	5	13	8	14	6	7	12	3	7	11	16	110
前年比%	150.0	80.0	46.2	62.5	28.6	250.0	128.6	91.7	533.3	42.9	100.0	43.8	93.6
O P室	1	7	12	13	18	14	14	17	11	20	16	15	158
前年	7	15	14	11	9	19	18	14	14	6	2	15	144
前年比%	14.3	46.7	85.7	118.2	200.0	73.7	77.8	121.4	78.6	333.3	800.0	100.0	109.7
産科	9	6	7	8	6	11	11	5	15	10	10	4	102
前年	10	6	8	6	3	7	12	11	6	9	7	15	100
前年比%	90.0	100.0	87.5	133.3	200.0	157.1	91.7	45.5	250.0	111.1	142.9	26.7	102.0
脳外科	1												1
前年	2		2				2			1			7
前年比%	50.0		0.0				0.0			0.0			14.3
心臓外科													0
前年													0
前年比%													0.0
内科													0
前年													0
前年比%													0.0
外来	41	37	56	34	44	20	49	14	18			3	316
前年	48	27	36	52	58	52	52	23	48	40	55	37	528
前年比%	85.4	137.0	155.6	65.4	75.9	38.5	94.2	60.9	37.5	0.0	0.0	8.1	59.8
救急	36	40	41	55	57	58	44	46	58	117	100	140	792
前年	38	36	50	45	56	54	44	40	51	58	27	41	540
前年比%	94.7	111.1	82.0	122.2	101.8	107.4	100.0	115.0	113.7	201.7	370.4	341.5	146.7
救急4 A	59	25	21	50	33	39	50	17	48	37	69	48	496
前年	35	17	7	16	19	26	15	11	20	22	28	62	278
前年比%	168.6	147.1	300.0	312.5	173.7	150.0	333.3	154.5	240.0	168.2	246.4	77.4	178.4
一外4 B	13	5	6	12	11	8	5	3	8	6	6	5	88
前年	6	8	9	5	11	12	17	4	8	8	5	8	101
前年比%	216.7	62.5	66.7	240.0	100.0	66.7	29.4	75.0	100.0	75.0	120.0	62.5	87.1
循環器5 A	8	4	7	8	10	13	6	7	14	2	3	7	89
前年	21	8	7	15	23	31	24	11	13	8	9	11	181
前年比%	38.1	50.0	100.0	53.3	43.5	41.9	25.0	63.6	107.7	25.0	33.3	63.6	49.2
5 B	5	8	5	13	15	8	5	9	14	9	10	13	114
前年	8	8	20	8	16	13	10	9	7	7	4	3	113
前年比%	62.5	100.0	25.0	162.5	93.8	61.5	50.0	100.0	200.0	128.6	250.0	433.3	100.9
学童	5	6	2		5	1	11	3	3	2	3	5	46
前年	3		5	1	5	6	7	2	5		5	2	41
前年比%	166.7	-	40.0	0.0	100.0	16.7	157.1	150.0	60.0	-	60.0	250.0	112.2
混合	4	2	1		2	1	2		5		2	1	20
前年	6	6	5	1	7	5	6	3	3	3	1	4	50
前年比%	66.7	33.3	20.0	0.0	28.6	20.0	33.3	0.0	166.7	0.0	200.0	25.0	40.0
血液7 F	5	8		6	11	1	4	4	3	3	3	5	53
前年	7	2	6	12	12	11	6	5	2	2	1	4	70
前年比%	71.4	400.0	0.0	50.0	91.7	9.1	66.7	80.0	150.0	150.0	300.0	125.0	75.7
総計	284	237	260	302	334	265	318	250	342	315	357	377	3,641
前年	296	235	275	307	364	374	354	228	290	254	250	327	3,554
前年比%	95.9	100.9	94.5	98.4	91.8	70.9	89.8	109.6	117.9	124.0	142.8	115.3	102.4

平成19年 時間外放射線検査人数 (機器別)

単位 人

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	増減
ポータブル	185	137	157	176	191	151	175	176	226	183	210	196	2163	
前年度	184	150	157	187	207	226	210	149	146	145	144	221	2126	
前年度 (%)	100.5	91.3	100.0	94.1	92.3	66.8	83.3	118.1	154.8	126.2	145.8	88.7	101.7	37
一般撮影	67	70	67	85	92	74	84	42	67	80	78	105	911	
前年度	88	58	88	85	111	89	100	46	77	70	70	60	942	
前年度 (%)	76.1	120.7	76.1	100.0	82.9	83.1	84.0	91.3	87.0	114.3	111.4	175.0	96.7	-31
C T	32	29	33	44	40	33	51	51	36	52	63	67	531	
前年度	88	27	32	39	45	56	42	29	37	34	32	42	503	
前年度 (%)	36.4	107.4	103.1	112.8	88.9	58.9	121.4	175.9	97.3	152.9	196.9	159.5	105.6	28
T V	2	1	3	2	4	5	8	4	6	0	5	7	47	
前年度	2	5	3	2	3	7	4	3	3	5	4	6	47	
前年度 (%)	100.0	20.0	100.0	100.0	133.3	71.4	200.0	133.3	200.0	0.0	125.0	116.7	100.0	0
アンギオ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	3	
前年度	1	0	1	0	1	2	0	0	1	0	0	1	7	
前年度 (%)	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0	-	-	100.0	-	-	100.0	42.9	-4
M R I	5	4		0	0	0	0	0	1	0	0	1	11	
前年度	9	0	0	0	0	0	10	2	3	2	2	15	43	
前年度 (%)	55.6	-	-	-	-	-	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	6.7	25.6	-32
エコー	7	5	0	21	19	8	16	9	6	18	23	15	147	
前年度	6	0	10	9	4	5	11	10	10	7	13	14	99	
前年度 (%)	116.7	-	0.0	233.3	475.0	160.0	145.5	90.0	60.0	257.1	176.9	107.1	148.5	48
月合計	298	246	260	328	346	356	318	250	337	375	447	472	4033	
前年度	378	240	291	322	371	385	377	239	277	263	265	359	3767	
前年比 (%)	78.8	102.5	89.3	101.9	93.3	92.5	84.4	104.6	121.7	142.6	168.7	131.5	107.1	266

平成19年 月別時間帯別患者数・業務時間

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	稼働日数
日勤帯検査人数	158	102	123	162	167	120	184	126	191	135	150	190	1808	121日
業務時間(分)	2,480	1,560	1,825	2,415	3,415	1,810	2,515	1,715	2,440	2,015	2,295	2,795	27280	3h42m/d
準夜帯検査人数	92	107	109	107	122	109	118	99	115	130	165	143	1416	366日
業務時間(分)	2,115	2,250	2,480	2,710	2,710	2,365	2,645	2,335	2,890	2,520	3,270	3,185	31475	1h33m/d
当直帯検査人数	45	28	28	38	38	34	26	39	32	50	70	44	472	366日
業務時間(分)	1,290	750	765	1,185	1,185	980	780	835	865	1,355	1,670	1,285	12945	34m/d

平成19年 フィルム使用枚数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
胸部撮影室	767	807	1005	965	867	916	951	1243	809	889	782	784	10785
外科撮影室	826	846	1029	1006	1112	871	1010	1425	937	1113	984	1203	11662
ポータブル撮影	573	529	542	490	672	547	670	668	542	631	656	528	7039
パノラマ撮影室	38	37	36	25	33	31	44	49	18	21	26	43	376
D R X線 T V室	36	48	50	51	59	45	48	63	45	42	59	54	32287
泌尿器 X線 T V室	30	28	50	45	48	34	45	63	45	49	57	53	483
多目的 X線 T V室	9	5	6	13	12	10	15	10	0	26	28	28	177
X線 C T室	455	422	551	524	607	640	679	695	552	635	686	631	5938
M R I室	610	569	632	720	723	705	757	860	724	0	0	407	7740
核医学室	124	71	80	104	44	123	137	86	53	112	85	145	950
血管造影撮影室	86	89	73	91	97	73	121	127	113	106	93	67	1255
放射線治療室	13	11	8	2	2	23	5	9	15	8	4	23	60
超音波室	495	467	616	634	545	560	705	973	446	676	634	645	6680
D U P処理	79	111	0	205	135	114	89	205	128	113	140	111	1301
合計	4141	4040	4678	4875	4956	4692	5276	6476	4427	4421	4234	4722	87632

26. 検査・放射線部（検査部門）

1) 検査部門の人事異動

【転出者】検査技師長	重田 裕司	県立成人病センターへ	(平成19年4月1日付け)
主任検査技師	吉田 憲治	県立塚口病院へ	(平成19年4月1日付け)
担当課長補佐	佐々木茂生	県立塚口病院へ	(平成19年4月1日付け)
【転入者】検査技師長	竹田 富男	県立塚口病院から	(平成19年4月1日付け)
主任検査技師	林 隆雄	県立塚口病院から	(平成19年4月1日付け)
課長補佐	小寺 郁美	県立西宮病院から	(平成19年4月1日付け)
課長補佐	藤中 早代	県立加古川病院から	(平成19年4月1日付け)

2) 活動状況

本年度検査部門が実施した活動を以下に示す。

院内感染対策活動

- ・感染対策チーム（ICT）委員として病棟ラウンド時に問題となる検出菌の情報提供を行い、感染対策の実践を指導した。
- ・院内感染対策講習会では「一年間の菌検出状況」「届出対象となる感染症の改正」について講義した。
- ・院内細菌分離について、病棟別菌分離、病棟別 MRSA 検出状況、菌種別薬剤感受性率等、耐性菌情報を定期的に院内に発信した。
- ・安全な病棟管理を目指し、水痘など院内流行性感染情報を感染症通報にて院内に発信した。

安全な輸血医療

- ・輸血療法委員会事務局を検査部で担当
- ・緊急時の輸血マニュアルの作成

診療支援、患者サービスの向上

- ・小児救急医療センター支援（24時間緊急検査対応、血液ガス機器保守等）（平成19年10月）

医療事故防止の強化

- ・定例的に検査部内事故防止委員会を開催し、ニアミスの集計、原因分析、対応策を周知
- ・始業前の朝の会で準夜・深夜時間帯の検査実施状況の確認、ヒヤリハット情報の共有
- ・検体受付時の照合、確認を徹底し、検体取り違えの防止を強化する。

資質向上と教育

- ・検査部内勉強会の充実（本年は3回：3演題実施）
- ・口述発表：1題（学会：1題）
- ・感染対策の技術向上を目的として神戸市病院検査室定点観測へ参加
- ・検査技術科学専攻学生臨地実習の受け入れと指導
神戸大学医学部保健学科（選択臨地実習：2名）

常盤短期大学衛生技術科（臨地実習：1名）

岡山大学医学部保健学科（施設見学実習：1名）

3) 来年の展望と予定

- ・検査オーダリングシステムの実用化に向けて取り組む。
- ・輸血用血液製剤の効率的利用、赤血球製剤廃棄率の低減化をさらに進める。

(1) 平成19年臨床検査実施状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
一般	7,864	6,938	9,130	8,807	8,280	8,173	10,666	12,891	7,457	9,547	8,528	8,250	106,531
血液	17,171	15,652	17,853	17,512	19,434	18,874	20,076	21,554	16,174	18,538	18,365	18,176	219,379
細菌	2,870	2,928	3,251	2,731	2,661	2,879	3,198	3,146	2,641	3,041	3,069	3,018	35,433
血清	4,378	3,997	4,431	4,335	4,753	4,680	5,071	5,538	4,127	4,808	6,011	4,352	56,481
生化学	32,063	29,792	33,699	33,446	36,356	35,100	37,611	40,933	31,079	36,469	36,447	34,865	417,860
病理	194	133	162	136	196	196	195	278	142	216	226	267	2,341
生理	1,082	1,117	1,528	1,378	1,103	1,254	1,244	1,730	1,167	1,197	1,101	1,317	15,218
内分泌・ウイルス	2,942	2,732	2,549	3,006	3,118	2,843	2,869	3,452	2,526	3,028	2,932	2,875	34,872
職員検診	73	70	67	25	67	2,747	130	136	172	2,582	67	67	6,203
合計	68,637	63,359	72,670	71,376	75,968	76,746	81,060	89,658	65,485	79,426	76,746	73,187	894,318

(2) 平成19年時間外（日、当直）検査実施状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
項目数	1,635	1,258	1,321	1,564	1,783	1,536	1,831	1,590	1,662	1,723	1,835	2,085	19,823
対前年比	152.4%	100.6%	105.6%	116.7%	118.7%	104.3%	126.2%	106.2%	136.6%	134.5%	131.1%	119.8%	121.1%
患者数	755	591	633	799	895	675	800	693	682	741	767	951	8,982
対前年比	112.4%	114.3%	106.4%	130.1%	127.9%	101.4%	110.2%	102.4%	116.6%	125.8%	120.6%	118.0%	115.5%

(3) 細菌検査統計

材料別検査件数

	件数
膣分泌物	2,911
気管洗浄液	1,953
咽頭粘液	1,402
尿	560
血液培養	1,205
GBS 増菌培養	620
トリコモナス	283
インフルエンザウイルス抗原	507
ロタ・アデノウイルス抗原(便)	389
アデノウイルス抗原(咽頭)	149
RS ウイルス抗原	274
CD-1抗原	78
鼻腔粘液	993
喀痰	726
その他	796
便	991
IVH 先端	401
悪露	296
子宮内腔	252
ドレーン排液・チューブ	315
膿(開放・非開放)	198
臍帯血	22
羊水	9
髄液	190
耳漏	66
穿刺液	16
胸・腹水	30
合計	15,632

細菌分離菌内訳

	菌名	分離株数	分離頻度(%)
グラム陽性菌	腸球菌	294	11
	黄色ブドウ球菌(MRSA)	151	6
	B群溶血性連鎖球菌	174	7
	黄色ブドウ球菌(MSSA)	215	8
	表皮ブドウ球菌	663	25
	その他の連鎖球菌	24	1
	肺炎球菌	42	1
	その他のブドウ球菌	115	4
	A群溶血性連鎖球菌	7	0
	小計	1685	63
グラム陰性菌	緑膿菌	187	7
	大腸菌	140	5
	クレブシエラ	149	6
	ガードネレラ	99	4
	アシネトバクター	114	4
	エンテロバクター	135	5
	その他の非発酵菌	13	1
	ヘモフィルス	70	3
	マルトフィリア	8	0
	セラチア	15	1
	セパシア	5	0
	シトロバクター	9	0
	プロテウス	13	1
	モルガネラ	5	0
	ブランハメラ	5	0
	キャンピロバクター	0	0
	サルモネラ	9	0
小計	976	37	
その他の菌	8	0	
総計	2,669	100	

真菌分離内訳

菌名	分離株数	分離頻度(%)
アルピカンス	93	67
グラブラータ	42	30
パラブシローシス	3	2
トロピカーリス	1	1
総計	134	100

主要菌種の入外別薬剤感受性率 ***薬剤名

MPIPC	オキサシリン	MPIPC	オキサシリン	EM	エリスロマイシン	FMOX	フロモキシセフ	CTX	セフトキシム
ABPC	アンピシリン	ABPC	アンピシリン	CLDM	クリンダマイシン	ST	ST 合剤	AMK	アミカシン
PIPC	ピペラシリン	PIPC	ピペラシリン	ABK	アルベカシン	CAZ	セフトジチム	AZT	アザクタム
CEZ	セフトゾリン	CEZ	セフトゾリン	MINO	ミノサイクリン	CPZ	セフトペラゾン	TOB	トブラマイシン
CTM	セフトチアム	CTM	セフトチアム	VCM	バンコマイシン	CPR	セフトピロム	CAM	クラリスロマイシン
CMZ	セフトメタゾール	CMZ	セフトメタゾール	FOM	ホスホマイシン	SBT/CPZ	スルバクタム・セフトペラゾン		
MEPM	メロペネム	MEPM	メロペネム	CDTR	セフトジニール	A/C	アモキシリン・クラバン酸		
IPM	イミペネム	IPM	イミペネム	GM	ゲンタマイシン	LVFX	レボフロキサシン		

病棟別薬剤感受性率

グラム陰性菌

菌種	薬剤	株数	AMK	AZT	CAZ	CEZ	CFPN	CTX	CZOP	FMOX	FOM	GM	LVFX	ABPC	MEPM	PIPC	ST
E.coli		121	100	/	97	86	98	97	98	96	100	96	88	61	99	66	82
Kl.pneumoniae		132	100	/	99	97	99	99	99	96	/	100	99	2	99	64	98
Ent.cloacae		72	99	50	65	9	99	68	90	10	0	99	99	9	100	68	92
Ps.aeruginosa		187	97	89	96	/	95	0	98	0	7	86	97	/	96	98	0
Ac.bauman/hae		102	100	40	93	/	95	77	97	/	1	97	98	/	98	89	98

グラム陽性菌

菌種	薬剤	株数	ABPC	EM	MINO	VCM	LVFX	CDTR	ABK	CAM	CEZ	CLDM	GM	MEPM	TEIC
Ec.faecalis		129	96	3	32	100	90	/	/	/	/	/	/	77	99
S.aureus(MSSA)		169	99	84	98	100	84	99	100	88	1599	98	69	98	100
S.aureus(MRSA)		105	33	16	76	100	24	1	95	15	351	33	45	1	98
S.epidermidis(MRSE)		89	0	34	96	100	43	3	100	35	871	53	45	1	99
S.epidermidis		21	100	87	98	100	85	92	100	87	100	98	90	98	98

材料別分離菌

【腔分泌物 2911件】

		株	分離頻度%
第 1 位	Lactbacillus sp	1728	59.4
第 2 位	CNS	307	10.5
第 3 位	ガードネレラ菌	163	5.6
第 4 位	カンジダアルビカンス	109	3.7
第 5 位	腸球菌	96	3.3
	* GBS 陽性率	100/620	16.1

【気管洗浄液 1953件】

		株	分離頻度%
第 1 位	アシネトバクター	338	17.3
第 2 位	黄色ブドウ球菌	298	15.2
第 3 位	緑膿菌	231	9.9
第 4 位	メチシリン耐性表皮ブドウ球菌	229	9.7
第 5 位	正常細菌叢・細菌認めず	156	5.9

【血液培養 1205件】

		株	分離頻度%
第 1 位	細菌認めず	801	94.8
第 2 位	CNS	14	1.7
第 3 位	Bacillus sp	8	1
第 4 位	大腸菌	5	0.6
第 5 位	黄色ブドウ球菌	4	0.5

2007年における当院の耐性菌について

- ・VRE が 1 例検出菌された。(便より 保菌のみで発症なし)
- ・PRSP は 2 例検出され、耳鼻科耳漏よりの分離であった。
- ・多剤耐性緑膿菌は検出なし
- ・ESBL s が15例検出された。(尿13例、悪露 2 例)
- ・耐性ヘモフィルス菌 (BLNAR) が 7 例検出された。

27. 薬 剤 部

1 薬剤部員異動

(平成19年4月1日付)

【転出者】	部 長	郷地 啓子	県立加古川病院	(平成19年4月1日付)
	職 員	城古 晃	県立淡路病院	(平成19年4月1日付)
【転入者】	部 長	沖野 隆明	県立塚口病院	(平成19年4月1日付)
	主 任	汐谷 恵	県立姫路循環器病センター	(平成19年4月1日付)

2 平成19年活動報告

本年度の主な取組概要を下記に記す。

(1) 院外処方せん発行率向上への取組

院外処方せん発行当初に比べ発行率の低下（平成17年度74.6%、平成18年度70.8%）が見られる現状を鑑み、また薬剤業務を入院業務にシフトしていることから、これ以上の発行率の低下は薬剤部業務全般に多大な影響が生じてくると考え、次の取組を実施した。

外来患者さんへの院外処方に関する意識調査

に基づく院外処方に関する説明文書の作成・配布

院外処方せん専用ファックスの改善

兵庫県薬剤師会への当院院外処方せん調剤への適切な対応依頼

採用医薬品情報の薬剤師会への適切な提供 等々

(2) 薬剤部内での医薬品に係わるミス軽減への取組

調剤室・注射交付室等のレイアウトの見直し

鑑査・検品業務等への専念環境の確保

散薬分包器の改善・水薬鑑査システムの導入

情報共有への取組 等々

(3) 専門薬剤師の育成

治験コーディネーター業務、ICT、NST 活動への参加を実施するなかで、専門薬剤師の育成を図るため、部員の意欲向上に努めた。

(4) 治験環境の改善

薬剤部が治験事務局であることから、当院の各種標準業務手順書の見直し・治験依頼者の負担軽減等を図り治験依頼件数増への環境整備に努めた。

3 来年の展望と予定

DPC導入に向けた準備、治験体制の充実及びネット事業への参画等を積極的に実施していく予定である。

また部員の専門薬剤師等への取組を支援し、仕事への意欲向上に努めつつ今後とも医薬品に係わるミス軽減のために努めていく。

19年年報

(1) 調剤件数

区 分	処方箋枚数	合 計			内 用 薬			外 用 薬		
		処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数
入 院	33,042	53,330	60,520	297,980	40,694	47,884	252,075	12,636	12,636	45,905
外 来	7,140	14,662	40,131	298,479	9,841	35,310	237,252	4,821	4,821	61,227
計	40,182	67,992	100,651	596,459	50,535	83,194	489,327	17,457	17,457	107,132
一日平均	164.0	277.5	410.8	2,434.5	206.3	339.6	1,997.3	71.3	71.3	437.3

(2) 注射薬取扱件数

区 分	注 射 薬	
	処方箋枚数	延本数
入 院	82,732	441,177
外 来	4,706	6,478
計	87,438	447,655
一日平均	356.9	1,827.2

(3) 薬剤管理指導料 件数

診 療 科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産 科	111	123	115	117	119	115	106	140	92	133	117	126	1,414
心外・循内	2	3	3	2	2	3	4	3	0	1	0	3	26
血 内	1	4	3	4	7	11	8	4	1	2	6	2	53
計	114	130	121	123	128	129	118	147	93	136	123	131	1,493

(4) 退院指導料 件数

診 療 科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産 科	31	40	38	34	37	39	40	43	29	27	31	24	413
心外・循内	0	0	2	2	0	2	1	1	0	1	0	0	9
血 内	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
計	31	40	40	37	37	41	41	44	30	28	31	24	424

(5) 薬剤情報提供料 件数

診 療 科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全 科	432	359	432	397	425	424	461	441	347	413	393	441	4,965

(6) 無菌製剤調製業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
抗がん剤	123	114	106	107	115	129	111	136	81	135	100	87	1,344
高力ロリー	101	108	123	53	70	49	102	108	64	94	73	65	1,010
計	224	222	229	160	185	178	213	244	145	229	173	152	2,354

(7) 院内D I 業務

電子メールによる情報提供

送信日	件名
2007. 1. 5	医薬品・医療機器等安全性情報 No.231
2007. 1.26	医薬品・医療機器等安全性情報 No.232
2007. 2.22	医薬品・医療機器等安全性情報 No.233
2007. 4. 2	平成18年度第3回薬事委員会結果報告
2007. 4. 2	医薬品・医療機器等安全性情報 No.234
2007. 5. 8	医薬品・医療機器等安全性情報 No.235
2007. 6. 5	医薬品・医療機器等安全性情報 No.236
2007. 6.18	パンスポリン静注用製剤の自主回収について
2007. 7. 3	医薬品・医療機器等安全性情報 No.237
2007. 7.31	ドロレプタンの開封後の保存期間の延長について
2007. 8. 7	平成19年度第1回薬事委員会結果報告
2007. 8. 7	医薬品・医療機器等安全性情報 No.238
2007. 8.15	薬事委員会結果；ヴィーンF注からソリュージェンF注及び塩酸バンコマイシン散0.5gから塩酸バンコマイシン散0.5M E E Kへの切り替えについて
2007. 8.28	薬事委員会結果；ユナシンS静注用からスルバシリン静注用への切り替えについて
2007. 9. 4	パンスポリン静注用製剤の供給再開のお知らせ
2007. 9. 5	医薬品・医療機器等安全性情報 No.239
2007.10. 3	医薬品・医療機器等安全性情報 No.240
2007.11. 1	消毒薬の開栓後の使用期限について
2007.11.19	分注して払い出す医薬品の使用期限について
2007.11.27	平成19年度第2回薬事委員会結果報告
2007.12.18	医薬品・医療機器等安全性情報 No.241
2007.12.28	医薬品・医療機器等安全性情報 No.242

主な問い合わせ内容

問 い 合 わ せ 内 容	
・ 注射薬配合変化について	・ 注射薬溶解後の安定性について
・ 注射薬のフィルター透過性について	・ 食品と薬剤の相互作用について
・ 内服薬の飲み易い飲み方について	・ 冷所保存医薬品の常温での安定性について
・ 外用薬の開封後の安定性について	・ 抗がん剤の適切な投与方法について
・ 注射薬の副作用について	・ 血液製剤の投与方法について
・ 過量投与時の対処方法について	・ 経腸栄養剤の濃度別調製法について

(8) 薬物の血中濃度測定

	抗 て ん かん 薬			ジゴキシン	メソトレキセート	総検体数	
	フェニバル	カルバマゼピン	バルプロ酸				
19年	88	53	94	38	141	414	
平成19年の月別内訳	1月	2	7	11	5	8	33
	2月	5	14	23	1	13	56
	3月	8	8	9	1	7	33
	4月	3	2	8	6	15	34
	5月	11	1	6	6	19	43
	6月	5	0	4	9	13	31
	7月	4	2	8	4	13	31
	8月	12	4	8	2	12	38
	9月	4	3	3	2	3	15
	10月	7	3	3	2	18	33
	11月	15	4	4	0	2	25
	12月	12	5	7	0	18	42

(9) 院内製剤

内用液剤

製 剤 名	製剤量 (単位 / ml)
内服用ルゴール液	150

軟 膏

製 剤 名	製剤量 (単位 / g)
バリアー	160,000
10%テストステロン軟膏	800
0.4%エストラジオール軟膏	2,400

外用液剤

製 剤 名	製剤量 (単位 / ml)
アセモトール	20,000
1/2カプトドロップ	1,520
0.5%アトロピン点眼	190
25%グリセリン液	11,400
耳垢水	300
20%硝酸銀	120
30%硝酸銀	260
40%硝酸銀	40
10%ピオクタニン青液	200
0.2%ピオクタニン青液	200
30%アルコール	620
50%アルコール	620
ツェンテール液	100

予製剤

製 剤 名	製剤量 (単位 / g)	製 剤 名	製剤量 (単位 / g)
(倍散 倍散)		インデラル散 (×100)	1,500
0.01%ジゴシン散	3,000	ワーファリン (×500)	10,500
(錠 散)		ポラキス散 (×100)	900
ダイクロトライド (×10)	75	ドルナー散 (×50000)	15,000
コートリル散 (×20)	1,200	ロングス散 (×100)	3,600
デカドロン散 (×1000)	900	グリチロン散	660

28. 栄養指導課

1. 栄養指導課員の異動

[転出者]	主任調理員	大保 重章	(平成19年3月31日付)	(県立塚口病院へ)
	主任調理員	中村 浩崇	(平成19年3月31日付)	(県立淡路病院へ)
[退職者]	主任調理員	阪本 勝治	(平成19年8月31日付)	
[転入者]	主任調理員	白濱 秀幸	(平成19年4月1日付)	(県立のじぎく療育センターから)
	主任調理員	福本 彰一	(平成19年4月1日付)	(県立のじぎく療育センターから)

2. 平成19年の活動

平成19年の主な活動報告として以下の点が上げられる。

- ・NST（栄養サポートチーム）の稼働
- ・小児救急医療センターにおける対応（適温給食）
- ・医療事故防止対策の充実（医療事故防止標準マニュアルの活用）
- ・外来患者様を対象とした待ち時間を有効利用して「栄養知識の普及啓蒙」を図る為の「栄養と食生活の絵本展」の開催。計7回開催。
- ・妊産婦を対象とした「妊産婦のための食生活指針 食事バランスガイドってなあ～に？」集団栄養指導イベントの開催
- ・「おいしいおこめができるまで おむすびまんおこめしゅぎょうのたび」食育イベントの開催
- ・患者給食サービスの向上に向けて 産科病棟クリスマスイベント「クリスマスバイキング給食」の提供
- ・アレルギー児の両親対象の勉強会「両親教室」への参画
- ・第5回県立病院学会発表
「おいしいおこめができるまで おむすびまんおこめしゅぎょうのたび」
～こども病院における食の安全安心（地産地消）と食育への取り組みについて～

3. これからの展望

平成20年に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養指導課の基盤整備と患者サービスの向上を中心に業務を推し進める。

- ・NST（チーム医療）の円滑な稼働
- ・適時適温給食の実施に向けての取り組みを推進する。
- ・病院機能評価の受審に向けて改善等の取組を推進する。
- ・医療事故防止対策に関する取り組み。（ひやりはっと報告）
- ・患者給食のサービス向上を図るための給食イベントの開催
- ・褥瘡対策プロジェクト及びクリニカルパス委員会に積極的な参画を実施する。
- ・IT化の推進（栄養給食関係オーダーリングシステムの構築等）
- ・アレルギー児の両親対象の勉強会「両親教室」への参画
- ・「ひょうご食の健康大作戦」の中のひとつとしての「食育」の推進を図る。
「栄養と食生活の絵本展」の継続開催
「食べ物の育ちを感じる能力」を養うため地産地消に関する情報を提供する。
- ・知識や技能の資質を向上させるための課内研修会の充実。
- ・栄養管理業務に関する研究の成果として学会等への積極的な発表。

4. 給食

(1) 調製乳・食事月別延数

1) 患者

調製乳人員

(単位 人)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
調乳のみ人員		2,187	1,947	2,141	1,963	2,136	2,235	2,042	1,996	2,025	2,116	2,264	2,398	25,450	68.8
調乳・食事人員(調乳)		191	215	223	330	216	244	323	309	211	328	199	185	2,974	8.0
小計		2,378	2,162	2,364	2,293	2,352	2,479	2,365	2,305	2,236	2,444	2,463	2,583	28,424	76.8
調乳・食事人員(食事)		830	770	776	789	818	792	727	666	807	633	442	532	8,582	23.2
計		3,208	2,932	3,140	3,082	3,170	3,271	3,092	2,971	3,043	3,077	2,905	3,115	37,006	100.0

(注)調乳・食事人員.....調製乳と食事が重複するもの

調製乳種類及び本数

(単位 本)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
13%レーベンスミルク		11,869	10,848	10,492	10,841	11,710	10,983	10,878	10,853	10,407	10,622	11,488	12,500	133,491	47.1
15%LW		5,073	4,837	5,256	5,373	6,340	6,679	4,928	5,438	5,400	5,016	5,317	5,187	64,844	22.9
13%720														0	
14%721														0	
15%508														0	
8% S -23														0	
10% S -23														0	
15% S -23												30		30	
13%817-B (ケトンフォーミュラ)				16	19									35	
5%LF+7%フェニルアラニン除去ミルク														0	
6%LF+6%フェニルアラニン除去ミルク														0	
6%LF+8%フェニルアラニン除去ミルク			28											28	
7%LF+7%フェニルアラニン除去ミルク														0	
14%817-B+7%滋養糖														0	
15%817-B+2%滋養糖														0	
22%817-B+1%滋養糖														0	
13%817-B+1%ブドウ糖											4			4	
7%レーベンスミルク		88												88	
15%レーベンスミルク		265	171	549	477	279	288	558	450	90	242	510	611	4,490	
16%レーベンスミルク														0	
17%レーベンスミルク												27	54	81	
18%レーベンスミルク				192	87	54						198	279	810	
20%レーベンスミルク			27			225	252							504	
13%LW							9							9	
16%LW						27	270	279	271	210	350	150	80	1,637	
17%LW						269	350	279	279	242	184	162		1,765	
18%LW			45						108	270	279			702	
20%LW		189	332											521	
5%滋養糖								4						4	
10%滋養糖		483	424	513	485	477	470	505	490	467	481	464	494	5,753	
滋養糖(粉体)														0	
5%MA-1														0	
7%MA-1														0	
8%MA-1						16								16	
11%MA-1														0	
12%MA-1						44	296	240	120					700	
14%MA-1														0	
15%MA-1		700	748	768	1,001	1,073	1,386	1,569	883	1,002	962	477	236	10,805	
17%MA-1												81		81	
18%MA-1														0	
19%MA-1														0	
20%MA-1														0	
8%MA-1 6%E赤ちゃん						7								7	
7%E赤ちゃん														0	
10%E赤ちゃん														0	
13%E赤ちゃん		453	306	166	688	332	21	94	431	604	304	171	149	3,719	
16%E赤ちゃん				200										200	
17%E赤ちゃん														0	
7%ラクトレス							9							9	
14%ラクトレス					20	109	82	84	12					307	
13%GL(無乳糖粉乳)										219	90	151	279	739	
15%GL(無乳糖粉乳)														0	

種類	月別												計	%
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
13%MM-2 (低カリウムミルク)		30											30	
13%MM-5 (低リン乳)	240	220	238	195	240	216	224	144					1,717	
7%エレメンタルフォーミュラ	27												27	
11%エレメンタルフォーミュラ													0	
12%エレメンタルフォーミュラ													0	
13%エレメンタルフォーミュラ													0	
15%エレメンタルフォーミュラ	151	18											169	
17%エレメンタルフォーミュラ	27	44			14	93	9				46		233	
20%エレメンタルフォーミュラ													0	
12%110ガラクトース除去フォーミュラ													0	
12%S-1フェニルアラニン チロシン除去乳													0	
15%8806低K・中リンフォーミュラ	20												20	
ニュー NA-20													0	
14%ペプディエット													0	
10%MCTフォーミュラ													0	
12%MCTフォーミュラ							7						7	
13%MCTフォーミュラ													0	
14%MCTフォーミュラ	106	111	506	515	231	181	171	152	106	289	556	194	3,118	
15%MCTフォーミュラ													0	
15%605MCT (MCT アミノ酸フォーミュラ)													0	
14%必須脂肪酸強化MCTフォーミュラ													0	
6%エレンタール													0	
10%エレンタール								6					6	
12%エレンタール									68	6			74	
14%エレンタール													0	
15%エレンタール	20					10							30	
17%エレンタール													0	
18%エレンタール													0	
20%エレンタール	20				15								35	
22%エレンタール													0	
23%エレンタール			25	63									88	
25%エレンタール	218	221	10										449	
26%エレンタール													0	
27%エレンタール					5					104			109	
5%エレンタールP													0	
6%エレンタールP												22	22	
7%エレンタールP	24												24	
8%エレンタールP									15	21			36	
9%エレンタールP													0	
10%エレンタールP		48	27	45		12	3		20	5		18	178	
11%エレンタールP													0	
12%エレンタールP				54	165	526	100	196	28	12	12	22	1,115	
13%エレンタールP			14	15	30	188	299	279	144	85		91	1,145	
14%エレンタールP	922	614	882	826	689	623	420	433	396	314	180	229	6,528	
15%エレンタールP	25	58	149	150	155	306	77	5			39	108	1,072	
16%エレンタールP		224	248	218	112	87							889	
17%エレンタールP						84							84	
18%エレンタールP		18	54										72	
20%エレンタールP	291	257	269	205	160	16	125	165	60			198	1,746	
21%エレンタールP			171										171	
23%エレンタールP			21										21	
24%エレンタールP													0	
25%エレンタールP	12	162											174	
26%エレンタールP										80			80	
27%エレンタールP			45	152				12					209	
34%エレンタールP													0	
マクトンオイル	320	56		300	404	296	168	64	368	455	622	469	3,522	
小計	4,601	4,162	5,063	5,515	5,132	6,078	5,214	4,562	4,247	4,261	3,876	3,533	56,244	19.8
濃厚流動食														
サンエツトN 3	753	584	650	661	617	612	644	778	636	634	596	638	7,803	
アイソカル	707	717	528	440	472	744	903	1,109	1,099	953	865	805	9,342	
インパクト	114	146	78	130	15	130	272	215	385	486	73	413	2,457	
リーナレンpro1.0		30	155	35	35								255	
テルミール2.0										36		5	41	
小計	1,574	1,477	1,411	1,266	1,139	1,486	1,819	2,102	2,120	2,109	1,534	1,861	19,898	7.0
牛乳	432	345	402	339	376	326	445	373	421	334	171	248	4,212	1.5
滅菌水	135	128	124	120	196	372	596	595	882	672	567	640	5,027	1.8
計	23,684	21,797	22,748	23,454	24,893	25,924	23,880	23,923	23,477	23,014	22,953	23,969	283,716	100.1
空瓶 200cc	3,967	3,308	3,971	3,097	3,577	3,419	3,072	3,467	4,673	3,987	3,502	3,422	43,462	43.5
空瓶 100cc	5,020	5,136	4,776	4,224	4,704	5,073	4,128	4,824	5,682	4,344	4,176	4,440	56,527	56.5
計	8987	8444	8747	7321	8281	8492	7200	8291	10355	8331	7678	7862	99,989	100.0

食事数

(単位 食)

食 種	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
保・検査		374	338	373	361	374	361	374	373	362	374	361	373	4398	3.7
非 加 算 特 別 食	離乳食	933	915	758	681	834	577	629	598	693	550	394	610	8172	
	幼児食	494	315	314	425	446	612	495	530	488	613	565	678	5975	
	学童食	670	842	1028	724	893	828	1241	1768	971	976	875	1311	12127	
	粥	42	46	59	37	43	109	92	98	110	77	73	37	823	
	流動食	6	24	31	14	6	9	40	28	2	27	10	27	224	
	自由食	2920	3080	3038	2764	3278	3127	3499	3392	2686	2907	3242	3403	37336	
	口蓋裂食	13		31	17			63	43	22	13	16	79	297	
	アレルギー食	714	493	685	628	587	896	733	788	926	798	622	608	8478	
	ペースト食	108	184	154	229	256	259	277	164	194	177	101	34	2137	
	肥満食	58	40	19		30	105	69	136	117	13			587	
	歯科食														0
	検査食(非)		13	27				5	10	1			3		59
	妊産婦食	2023	1844	2197	2125	1816	1846	1938	2091	2038	2432	2076	2308	24734	
	妊産婦粥食	34	55	55	62	78	63	59	65	27	41	37	64	640	
妊産婦高血圧食										8	73		81		
妊産婦アレルギー食	25	44	129	105	95	28	26	177	119	98	247	260	1353		
妊産婦検査食(非)														0	
小計	8040	7895	8525	7811	8362	8464	9171	9879	8393	8730	8334	9419	103023	86.5	
加 算 特 別 食	腎臓食	65	75	116	84	167	93	163	56	82	172	166	24	1263	
	肝臓食		24	11	2	11	11	6	62	1		48		176	
	糖尿病食	102	81	126	57	47	83	58	38		62	29	30	713	
	乳糜食	5	72	96	27				46	48	55			349	
	心臓病食	304	349	466	295	545	451	663	647	294	274	366	246	4900	
	潰瘍食	44	14											58	
	検査食(加)						2							2	
	妊娠中毒症食	153	211	119	238	374	292	404	360	228	137	278	203	2997	
	妊産婦糖尿病食	140	80	162	133	137	180	163	107	26	71	22		1221	
妊産婦肝臓病食													0		
高尿酸血症食													0		
小計	813	906	1096	836	1281	1112	1457	1316	679	771	909	503	11679	9.8	
合計	9227	9139	9994	9008	10017	9937	11002	11568	9434	9875	9604	10295	119100	100	

おやつ数

(単位 食)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
おやつ数		4,320	4,255	4,362	4,011	4,657	4,710	5,262	5,389	4,424	4,936	5,047	5,155	56,528

2) 患者外

食事数

(単位 食)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
保育児食		191	206	237	146	140	165	164	195	143	237	212	194	2,230

(2) 栄養指導月別種類別件数 平成19年

(単位 件)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
糖尿病食		33	37	38	32	36	29	36	37	11	41	35	33	398
肥満食		12	8	12	6	14	13	13	21	32	16	13	8	168
腎性尿崩症食		1	7	6	1	5	5	2	5	4	2	4	1	43
フェニルケトン尿症食		7	10	4	4	7	2	6	10	4	8	6	8	76
高メチオニン血症食		2				1				2				5
高アンモニア血症食		1		1		1		1		1		1		6
ガラクトース血症食			1			1			4	1	2	2	2	13
高インスリン血症食			1				1	1				1	1	5
耐糖能異常		5	1	3	3	1	2	2	2	3	2	4	3	31
高脂血症食			1		1	1		1	2	1	1	1		9
高尿酸血症食		1			1	2	1		2	1	2	2	3	15
ブラダーウィリー症候群				1										1
アレルギー食		17	13	24	24	15	22	18	22	20	27	20	9	231
腎臓病食		3		2		4	2				5	1	1	18
心臓病食		1	3			2	2			1	1	1		11
肝臓食		1	2	2	1	4	6	1	2	2	2	1	2	26
シェーグレンラロソン症候群									1					1
貧血食					2				1					3
腸管切除後吸収不良			1		1	1		1		1		1		6
蛋白漏出性胃腸症						1								1
発育不良・食事摂取不良			1	1	1	1			1	4	2	3	2	16
低身長						1								1
特殊調乳食				1			3		3				1	8
特殊離乳食										1		2		3
くる病									2	2	3	1	1	9
ビタミンD欠乏症											1	1		2
摂食・嚥下困難							1							1
術後通過障害		1												1
ダンピング症候群									1					1
ヨード制限食						1								1
摂食障害									1	2				3
偏食									1		1			2
経管栄養						1				1	4	1	3	10
妊産婦食										1	1		1	3
妊娠高血圧症候群食		1		1	2		1	2	1			2	1	11
妊娠糖尿病食				2					1					3
糖尿病合併妊娠		2												2
高血圧合併妊娠						1								1
件数 外 来 (件)		66	75	69	58	81	60	69	94	79	97	89	63	900
人数 外 来 (人)		116	139	127	107	148	114	124	190	142	170	155	111	1643
件数 入 院 (件)		11	7	16	10	14	19	6	15	4	9	8	5	124
人数 入 院 (人)		22	15	30	19	28	34	13	30	7	16	15	8	237
件数 病棟訪問 (件)		11	4	13	11	6	11	9	11	12	15	6	12	121
人数 病棟訪問 (人)		28	7	27	24	16	29	19	25	26	27	11	23	262
合 計 (件)		88	86	98	79	101	90	84	120	95	121	103	80	1145
合 計 (人)		166	161	184	150	192	177	156	245	175	213	181	142	2142

集団指導 (アレルギー・リウマチ・産科)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
件数				9		8	12	4				4		37
人数				13		9	12	10				9		53

5. 教育研修活動

院内研修会

栄養指導課 教育研修活動

実施日	内 容	担 当
1月16日	平成18年度第10回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
2月16日	平成18年度第11回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
3月16日	平成18年度第12回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
4月11日	平成19年度第 1 回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
5月16日	平成19年度第 2 回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
6月15日	平成19年度第 3 回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
7月13日	職場フォーラム 衆議院議員選挙における職員の服務規律の確保について 平成19年度第 4 回医療事故防止研修会 平成19年度第 1 回食中毒防止研修会	下 浦 佳 之
8月16日	平成19年度第 5 回医療事故防止研修会 平成19年度第 2 回食中毒防止研修会	下 浦 佳 之
9月14日	平成19年度第 6 回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
10月16日	平成19年度第 7 回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
11月16日	平成19年度第 8 回医療事故防止研修会 「ノロウィルス食中毒・感染症対策」についての研修会	下 浦 佳 之
12月14日 12月17日	平成19年度第 9 回医療事故防止研修会職場フォーラム 執務姿勢の確立と綱紀肅正について (通知)	下 浦 佳 之

6. 実習生の受け入れ

栄養指導課 (管理栄養士・栄養士)

病院名及び学校名	区 分	期 間	人 数
同志社女子大学	実習	平成19年 2月13日～2月23日	3名
神戸女子大学	実習	平成19年 8月6日～8月17日	3名
		平成19年 8月20日～8月31日	3名
		平成19年 9月3日～9月14日	3名
神戸学院大学	実習	平成19年 9月18日～9月29日	3名
		平成19年 10月1日～10月12日	3名
武庫川女子大学	実習	4週間コース 平成19年 5月28日～6月22日	3名
		2週間コース 平成19年 5月7日～5月18日	3名
		平成19年 10月15日～10月26日	3名
		平成19年 11月5日～11月16日	3名
神戸松蔭女子学院大学	実習	平成19年 8月8日及び22日	4名

7. 研修生の受け入れ

畿央大学	平成19年7月20日～平成19年12月31日	2名
徳島文理大学	平成19年8月23日	1名
武庫川女子大学	平成19年8月27日～平成19年9月14日	1名
	平成19年9月1日～平成20年8月31日	1名

29. 指導相談・地域医療連携部

．組織

平成19年4月1日に、指導相談部門では、保健師 行祥子が川西健康福祉事務所に主任となって昇任転出し、かわって久布白歩主任が転入となった。

．平成19年活動状況

引き続き、患児、家族が安心して治療・療養に専念できるように様々な相談に応じ、個々のニーズに沿って問題解決に向け支援を行っている。今年は、小児医療救急センターが開設された。それとともに被虐待児症候群の事例が激増している。また、重症心身障害児やターミナル患児に対する在宅療養支援や長期在院児や養育困難児への施設入所支援が、一層、推進された1年間であった。

今年重点的に実施した活動

増え続けていく被虐待児症候群事例に対する、ソーシャルワーク等による支援。

長期在院児や養育困難児に対する施設入所支援のさらなる推進。

重症心身障害児、ターミナル患児に対する在宅療養支援のさらなる推進。

昨年に引き続き、厚生労働省委託研究「新生児期～小児期における心疾患侵襲治療の安全性向上に関する研究」における心理判定的貢献。

地域医療連携室における、新たな紹介病院、診療所の登録。

今年実施した新たな活動

「兵庫県立こども病院」「小児救急医療センター」の新しいパンフレット作成における、保健師、精神保健相談員の貢献。

．来年の展望

今後、さらに安定した地域の医療機関との連携が行えるよう、地域医療連携室の活動をさらに発展させていく必要がある。また、増え続けている虐待事例における取り組み等、これまで以上に地域との連携を密にするため、組織的なネットワークの構築も必要になってくるものと思われる。また、随分と増えてきている、在宅療養生活に向けた患児・家族への支援についても、より努力していく所存である。院内では、当部の各担当の役割をより明確にし、院内全体に支援を提供できるような体制作りがさらに必要と思われる。また、地域からのニーズに対し、当部が指導的な立場で活動を行うことも増えてくるものとする。現在、依頼数が増え続けている中、質の高い支援を維持していくためにも、個々の部員の資質向上・教育育成の推進、マンパワーの増大を図っていかねばならないと考えている。

・指導相談部門

1. 業務実績

(1) 職種別業務実績

業務実績	
医 師	123
心 理 判 定 員	2748
保 健 師	1230
精神保健福祉相談員	2990
医療ソーシャルワーカー	401
計 (総件数)	7492

(1)の職種別業務実績は、当部の活動の総件数を示す。(2)の依頼科経由のみの業務件数は、電話相談・メール相談・発達外来を除く、当部の活動件数を示す。(他機関経由による、直接患児に関連しない相談・調整業務が含まれているため)

(2) 依頼科別業務件数 (依頼科経由のみ)

依頼科別業務件数	
総 合 診 療 科	1274
新 生 児 科	353
脳 神 経 内 科	810
循 環 器 科	448
腎 臓 内 科	35
代 謝 内 科	338
血 液 腫 瘍 科	247
ア レ ル ギ ー 科	31
遺 伝 内 科	0
小 児 外 科	470
心 臓 血 管 外 科	38
脳 神 経 外 科	668
形 成 外 科	16
眼 科	22
精 神 神 経 科	1098
泌 尿 器 科	38
耳 鼻 咽 喉 科	272
整 形 外 科	81
産 科	59
歯 科	0
発 達 行 動 外 来	78
そ の 他	645
計 (総件数)	7021

2. 診療部門

(1) 発達外来

担当：山崎武美指導相談・地域医療連携部長、宅見晃子のじぎく療育センター小児科部長

受診患児の主な主訴：発達障害（言語発達遅滞、精神発達遅滞、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害等）

21trisomy における発達全般のフォロー 等

2007年新規患者（依頼科別）

依頼経路	患者数
総合診療科	9
循環器内科	3
腎臓内科	1
代謝内分泌科	1
脳神経外科	5
眼科	1
耳鼻科	5
整形外科	1
電話窓口相談	1
新規患者計	27

年齢別延べ受診者数

年齢	患者数(延)
新生児期	0
乳児前期	2
乳児後期	6
幼児前期	33
幼児後期	68
学童前期	13
学童後期	1
思春期	0
総件数	123

3. 治療関係部門

(1) 心理療法

心理療法対象者 依頼時の症状・状態：情緒障害、不登校、摂食障害、身体表現性障害、不安障害、
転換性障害、場面緘黙、強迫症状、神経症、ターミナルケア

心理療法・遊戯療法	
心理療法（精神神経科依頼）	103
心理療法（その他診療科依頼）	96
遊戯療法（精神神経科依頼）	123
遊戯療法（その他診療科依頼）	218
計（総回数）	540

(2) 心理検査

心 理 検 査		
発達検査	新版 K 式発達検査	276
	Bayley 乳幼児発達尺度	2
	津守式発達質問紙検査	228
	KIDS	5
	社会生活能力検査	6
	フロスティック視知覚検査	4
知能検査	WISC -	249
	田中ビネー知能検査	76
	WPPSI	2
	WAIS - R	9
性格検査	YG 性格検査	24
	幼児・児童性格診断検査	2
	HTP	0
	バウムテスト	47
	人物画（コピッツ法）検査	5
	SCT 文章完成法	22
	P-F スタディ	49
	MMPI	0
	ロールシャッハテスト	23
	CAT	0
その他の検査	絵画語彙発達検査	83
	TK 式幼児用親子関係検査	3
	TK 式診断的親子関係検査	1
	CARS	0
	CBCL・子ども総研式育児支援質問紙	0
	ベンダーゲシュタルトテスト	7
	K - ABC	2
計		1125

・発達追跡群

(人)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
9	12	14	12	8	10	4	5	5	11	8	9

代謝内分泌科のクレチン症、一過性甲状腺機能低下症の患児を中心に、年齢に応じた発達・知能検査を誕生日月に行い、12才になるまで発達のフォローを行う。

(3) 発達障害児の集団療育事業

対象：就学までの発達障害児

目的： 患児の家族に発達および障害についての理解を促す（障害の理解と受容）

患児の成長に保護者が喜びを見出し、患児に適した対応を図れるよう援助する（発達の促進）

幼稚園・保育所・通園施設等への集団参加に向けてステップをふませる（社会参加へのステップ）

発達障害児の集団療育(40回)	
のべ参加人数 (人)	141

3ヶ月に一度、カンファレンスを行い、状況と今後の方針を確認した。

場 所：指導相談部事務室兼カンファレンスルーム

参加者：当部部长・精神科医師・当部部員

実施日：3月13日、6月14日、9月20日、12月21日

4. 相談業務

相 談 業 務		
依頼科 経由相談	子どもの発達に関する相談・指導	868
	子どもの疾病・障害に関する相談	28
	在宅療養に関する支援	322
	医療費、障害者手帳等の福祉サービスに関する相談	480
	療育施設、児童福祉施設に関する相談・施設紹介	152
	被虐待児に関する支援・家族関係に関する相談	387
その他	家族、院内他部門、関連機関からの電話相談等	348
計（総件数）		2585

5. 連携業務

連 携 業 務		
家	庭	314
外	来	386
病	棟	1008
保	育 所	7
幼	稚 園	3
学	校	112
保	健 所	147
市町	保健センター	175
精	神保健センター	0
福	祉 事 務 所	106
児	童 相 談 所	302
児	童 福 祉 施 設	117
病	院 ・ 医 院	39
警	察	15
教	育 委 員 会	4
訪	問看護・ヘルパーステーション	117
そ	の 他	126
計（総件数）		2978

6. 神戸市立友生養護学校 病弱児訪問教育部 わらび学級

当院では、治療や疾病の児童を考慮し、神戸市立友生養護学校 病弱児訪問教育部 わらび学級による訪問教育を行っている。入級・主治医面談等、学校との連携を指導相談部が担っている。

わらび学級のべ入級依頼患児数	
血液腫瘍内科	26
整形外科	8
循環器科	3
脳神経内科	3
新生児科	2
小児外科	2
アレルギー科	1
脳神経外科	1
計	46

(2007年新規依頼患児26名)

7. 被虐待児症例等養育支援に関する業務

依頼診療科	救急	総診	脳外	血内	循	泌	整	腎	新生児	外	計
新規依頼数（人数）	17	10	7	2	2	2	1	1	1	1	44

今年、救急医療センターが開設し、虐待を疑う事例や不適切な養育事例が急激に増加した。また、社会的背景が複雑であるため、当院に入院となる事例も増加しており、新規依頼患児が44例、前年からは引き続き20例について支援を行った。

子ども虐待防止委員会（症例検討会）は、16例について開催し、患児の処遇について検討を行なった。そのうち、児童相談所への通告は8例、保健所連絡が7例、警察通報事例が1例であった。

一時保護委託については、1例を受理し、入院治療を行った。

短時間でリスクアセスメントを求められる場面が多く、今後の判断基準の整備が必要となっている。

8. ひょうごユースケアネット

日 時	議 題	場 所	内 容	出 席 者
1月27日	シンポジウム	明石市	ひきこもりを考えるシンポジウム開催と交流学習会	藤井美有
2月8日	平成18年度第2回専門研修	三田市	非行・犯罪少年の育ち	藤井美有
6月5日	平成19年度第1回対策研究会	神戸市	平成18年度事業実施報告および平成19年度の取り組みについて 青少年問題にかかる相談機関のパンフレット作成について	宮崎美知恵
7月10日	平成19年度第2回対策研究会	神戸市	青少年問題にかかる相談機関のパンフレット作成について（継続審議）	宮崎美知恵
9月7日	平成19年度第3回対策研究会	神戸市	青少年問題にかかる相談機関のパンフレット作成について（最終案の作成） 来年度の取り組みについて	宮崎美知恵
11月21日	平成19年度専門研修	神戸市	ひきこもりの方々を支援するNPO法人施設見学と支援者、当事者、保護者等との交流会	宮崎美知恵
11月28日	シンポジウム	神戸市	平成19年度「青少年相談機関に関する近畿ブロック連絡会議」「大人が変わろう全県決起大会」	宮崎美知恵

9. 教育研修活動

(1) 小児精神・神経ネットワーク勉強会主催

日時：原則毎月第2（火）

参加者：指導相談・地域医療連携部長、脳神経内科医師、精神神経科医師、外来看護師、指導相談・地域医療連携部員

実施日	内 容	担 当（敬称略）
2月13日	小児在宅ケアにおける医療と地域保健との連携 - 保健師の立場から -	指導相談・地域医療連携部 保健師 行祥子
3月13日	当院救急医療室における救命不可能な児への対応	小児科医師 澤田杏子
4月10日	PTSD に対する長時間集中暴露法	精神神経科医師 前田宏章
5月15日	性的虐待が疑われる15歳女児の心理療法過程	指導相談・地域医療連携部 心理判定員 宮崎美知恵
6月12日	特別児童扶養手当について	指導相談・地域医療連携部 精神保健福祉相談員 長岡美佐
9月11日	発達障害と診断	脳神経内科医師 永瀬裕朗
10月23日	統合失調症の症状と治療	精神神経科医師 前田宏章
11月13日	WISC- 知能検査 実際と評価	指導相談・地域医療連携部 心理判定員 藤井美有
12月11日	運動発達の評価	診療部 理学療法士 中田潔樹

(2) 講師

12月18日

こども病院看護部、平成18年度ジェネラリスト研修 『在宅支援に必要な社会資源について』

保健師 久布白歩

12月20日

こども病院看護部、外来勉強会 『在宅支援に必要な社会資源について』

保健師 久布白歩

(3) 講演および発表

5月9日、7月11日

こども思春期勉強会、神戸大学医学部 『性的虐待が疑われた15歳女児の症例』

精神神経科医師 前田宏章

心理判定員 宮崎美知恵

精神保健福祉相談員 長岡美佐

(4) 全国こども病院保健師連絡会

平成19年10月12日、北海道立子ども総合・療育センターにて、全国のこども病院・小児総合保健センターなど10施設が参集し、病院紹介・見学、保健活動に関する情報および意見交換を行った。

． 地域医療連携部門

1. 初診患者件数

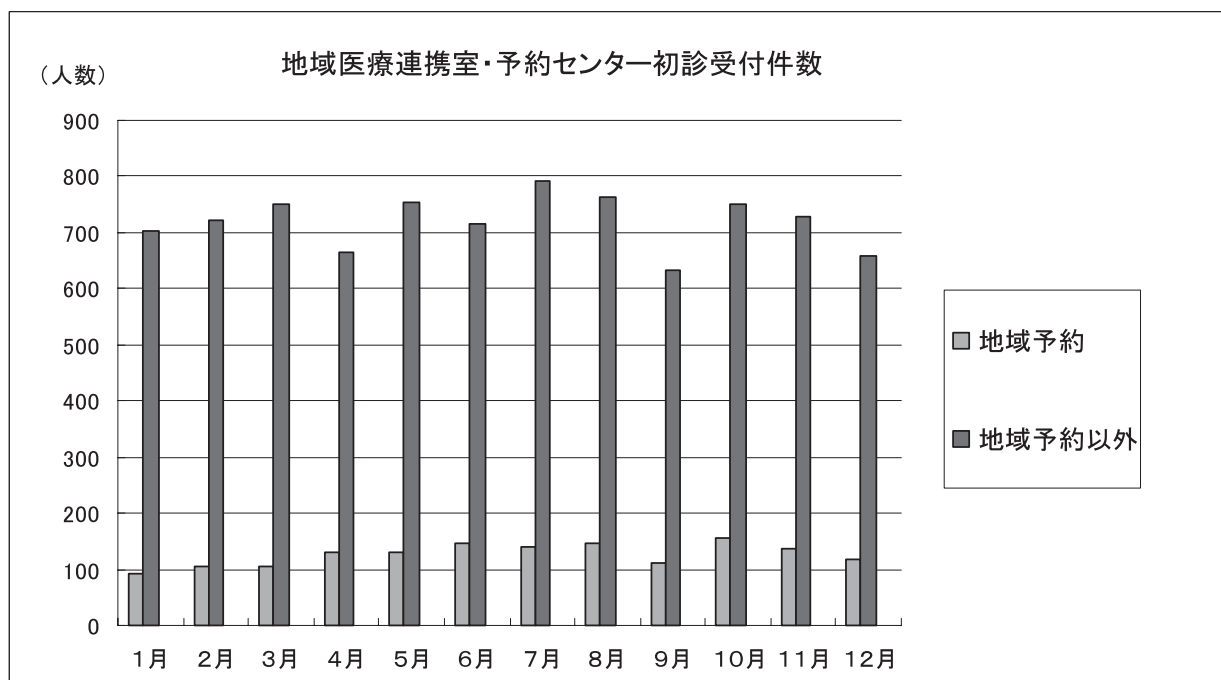
地域医療連携室・予約センター初診受付件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
地域予約	93	105	105	129	130	145	139	147	112	156	138	118	1,517
地域予約以外	702	723	750	665	754	715	792	763	633	750	728	659	8,634
計	795	828	855	794	884	860	931	910	745	906	866	777	10,151

地域予約・・・FAXによる病病・病診での予約

地域予約以外・・・電話予約・院内紹介・入院初診患者

2. 初診受付件数推移

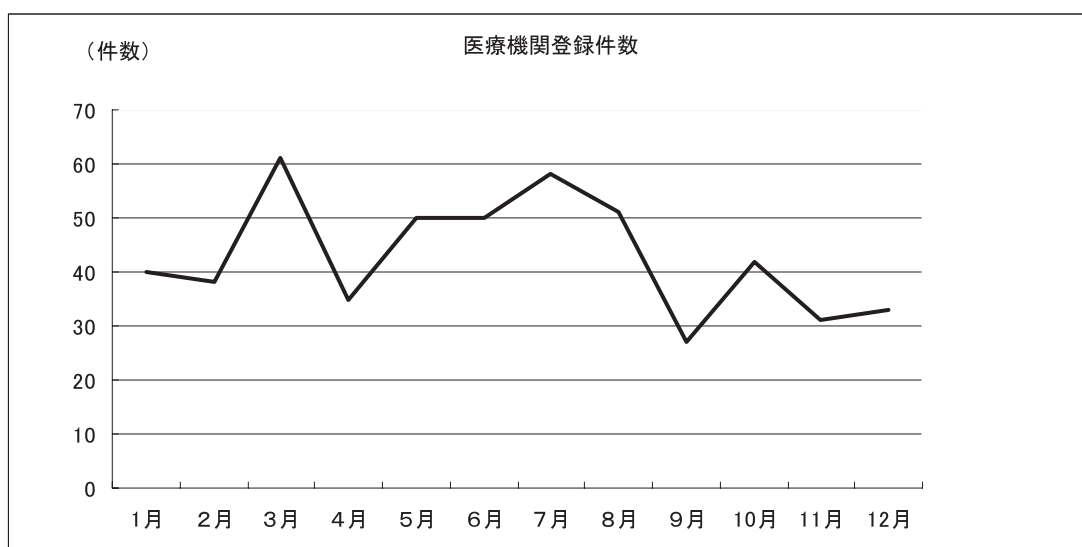


3. 平成19年新規登録件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
新規登録件数	40	38	61	35	50	50	58	51	27	42	31	33	2063

平成18年12月末現在 1,547件

4. 新規医療機関登録件数推移



ボランティア部門の動き

兵庫県立こども病院 ボランティア部 2007年度 活動報告

ボランティア部の主な活動は、こども病院の患者さまが関係する患者・家族会のいろいろな活動の際の「保育ボランティア」と院内で入院中の子供たちを楽しみを提供する「お楽しみ会」の開催です。

こども病院の患者・家族会は、胆道閉鎖症の「ひよこの会」、永久ストーマをもつ患児の「たんぼぼの会」、在宅中心静脈栄養管理を受けている患児の「かくれんぼの会」の3つが対象となっています。

院内の「お楽しみ会」では昨年同様に神戸大学、神戸女子大学の学生に来ていただき、人形劇の上演をおこないました。

今年も「ミプロキッズフェア」(障害をもつ児とそこご家族に必要な用具(車椅子や自動車、生活をサポートするいろいろなグッズ)を一堂に展示するイベントにも協力し、去年と同様学生たちとともに貴重な体験をしました。

病院主催のアレルギーの両親教室の保育ボランティアにも神戸女子大学の学生と連携をとり協力することができました。

月日	行事名	場所	主催
2月21日	お楽しみ会(神戸女子大 人形劇)	研修室A B	部
3月9日	アレルギー両親教室	研修室A B	病院
6月24日	花の植え替え	正面玄関	部
6月29日	フィーリングアーツ	研修室A B	病院
7月19日	院内夏祭り	研修室A B	病院(保育士)
9月8・9日	ミプロキッズフェア	ポートアイランド	財団法人対日貿易投資交流促進会
9月12日	お楽しみ会(神戸大人形劇)	研修室A B	部
12月12日	クリスマスコンサート	周産期センターホール	ハーバーライオンズクラブ
12月29日	花の植え替え	正面玄関	部

一年の歩み

1年のあゆみ (2007.1.1～12.31)

- 2007. 3. 2 病院運営懇話会の開催
- 7.23 県監査委員による平成18年度本監査の実施
- 8.29 神戸市保健所による平成19年度医療監視の実施
- 9.30 小児救急医療センター竣工式
- 12.15 第8回兵庫県周産期医療研修会開催